USCPA 2009年以前 合格体験記

CONTENTS

TAC を信じていれば。
沼本 利行 さん　FAR：2008年8月、BEC：2009年8月 REG：2009年4月、AUD：2009年11月 ‥ 1

TAC の講座では支払った金額以上の価値がある知識・語学力、そして合格力が身に付きます。
H.Y さん　FAR：2009年7月、BEC：2009年7月 REG：2009年11月、AUD：2009年7月 ‥ 2

英語の勉強もかねて U.S.CPA の学習を開始。公認会計士も U.S.CPA も TAC で合格しました！
高島 彰浩 さん　FAR：2009年5月、BEC：2009年5月 REG：2009年11月、AUD：2009年11月 ‥ 3

働きながら１科目ずつ受験し全科目初回受験で合格！将来の可能性が広がりました
髙林 奈緒子 さん　FAR：2009年7月、BEC：2009年2月 REG：2009年5月、AUD：2009年10月 ‥ 5

会計知識ゼロからの挑戦！U.S.CPAを取得して米国で就職
玉田 洋輔 さん　FAR：2009年7月、BEC：2009年7月 REG：2009年11月、AUD：2009年11月 ‥ 6

４打数４安打を目指して
匿名希望 さん　FAR：2009年11月、BEC：2008年10月 REG：2009年11月、AUD：2009年11月 ‥ 7

短期集中！
匿名希望 さん　FAR：2009年7月、BEC：2009年7月 REG：2009年7月、AUD：2009年10月 ‥ 8

世界で通用する会計士を目指して！
松元 泰 さん　FAR：2009年11月、BEC：2009年11月 REG：2009年11月、AUD：2009年11月 ‥ 9

段取りをする、そして諦めないことが大切
羽馬 慎哉 さん　FAR：2009年5月、BEC：2009年4月 REG：2009年4月、AUD：2009年4月 ‥ 10

合格と同時に、自然と英語力も養われていた
匿名希望 さん　FAR：2009年4月、BEC：2009年4月 REG：2009年8月、AUD：2009年10月 ‥ 11

仕事との両立に苦労しながら１科目ずつ合格しました
下村 裕美 さん　FAR：2009年5月、BEC：2008年10月 REG：2008年11月、AUD：2009年8月 ‥ 12

Becker 教材パックで不得意科目を克服！
花越 美雪 さん　FAR：2008年8月、BEC：2009年8月 REG：2008年11月、AUD：2008年11月 ‥ 13

私のような者でも、TAC の ROUTE99で学べば U.S.CPA は合格可能である
匿名希望 さん　2009年5月合格 ‥ 14

TACにしておいて本当に良かった！
匿名希望 さん　FAR：2008年11月、BEC：2009年2月 REG：2009年2月、AUD：2009年8月 ‥ 15

受験を通じて、多くの方へ感謝することを学びました。
田中 智代美 さん　FAR：2009年4月、BEC：2008年5月 REG：2008年2月、AUD：2009年5月 ‥ 16

40代サラリーマンの受験。
K.K さん　FAR：2009年4月、BEC：2008年10月 REG：2008年4月、AUD：2009年7月 ‥ 18

出産をはさんで合格！
NOVOSELTSEVA　EKATERINA さん　FAR：2008年7月 BEC：2007年10月、REG：2009年4月、AUD：2009年4月 ‥ 20

メイン州で早期合格。合格実績をグアムにトランスファーして Certificate を取得！
馬場 直樹 さん　FAR：2008年8月、BEC：2008年8月 REG：2008年11月、AUD：2009年2月 ‥ 21

大学在学中に2科目、社会人になってから2科目、全科目初回受験で合格！
泉 直樹 さん　FAR：2008年2月、BEC：2009年5月 REG：2008年2月、AUD：2009年5月 ‥ 23

突然のアメリカ生活。よし、U.S.CPA 試験で英語の勉強も一緒にしよう！
匿名希望 さん　FAR：2009年5月、BEC：2009年5月 REG：2009年2月、AUD：2009年4月 ‥ 25

５年間継続再受講制度のおかげで４年以上のブランクの後、短期で合格！
匿名希望 さん　FAR：2009年2月、BEC：2009年4月 REG：2008年7月、AUD：2009年2月 ‥ 26

大学在学中に全科目合格。就職した会社では希望どおりの部署に配属されました。
藤尾 浩幸 さん　FAR：2007年11月、BEC：2008年11月 REG：2008年11月、AUD：2009年2月 ‥ 27

ドタバタ U.S.CPA 受験の記録
A.K さん　FAR：2008年7月、BEC：2008年7月 REG：2009年2月、AUD：2009年2月 ‥ 28

公認会計士とのW資格を外資系企業でフルに活用しています。
伊東 賢治 さん　2009年2月合格 ‥ 29

子育てしながらチャレンジできる資格として U.S.CPA を選択
C.I さん　FAR：2008年10月、BEC：2008年8月 REG：2008年8月、AUD：2009年1月 ‥ 31

TAC の教材を繰り返すことが合格への近道
大橋 雄人 さん　FAR：2007年5月、BEC：2008年2月 REG：2008年8月、AUD：2008年5月 ‥ 33

全科目初回受験で同時合格！
谷 充史 さん　FAR：2008年11月、BEC：2008年11月 REG：2008年11月、AUD：2008年11月 ‥34

勉強したことを常に現実に落とし込みながらモチベーションをキープ
中山 雄司 さん　FAR：2008年8月、BEC：2008年8月 REG：2008年8月、AUD：2008年11月 ‥35

あと１点足りなくて落ちたこと２回、８度目の受験にして合格
匿名希望 さん　FAR：2007年5月、BEC：2007年11月 REG：2007年11月、AUD：2008年11月 ‥37

大学在学中に全科目初回受験で合格。TAC と Becker だけで合格できます！
K.O さん　FAR：2008年8月、BEC：2008年8月 REG：2008年11月、AUD：2008年11月 ‥38

仕事と両立しながら無理なく確実に短期合格！
Y.H さん　FAR：2008年5月、BEC：2008年8月 REG：2008年11月、AUD：2008年10月 ‥40

私のやる気に本気で応えてくれた TAC の先生方に感謝しています。
松山 哲大 さん　FAR：2007年8月、BEC：2008年2月 REG：2007年10月、AUD：2008年11月 ‥41

目的の明確化が合格への活力
鵜飼 成典 さん　2007年合格 ‥42

TACの講座でよかったところはなんと言っても講師陣
堀江 正純 さん　FAR：2006年2月、BEC：2006年2月 REG：2008年7月、AUD：2006年11月 ‥43

ニューヨーク駐在中に受講し帰国直前に合格。支えてくれた家族に感謝しています。
匿名希望 さん　FAR：2008年7月、BEC：2007年7月 REG：2008年2月、AUD：2008年5月 ‥44

２週間後、次の講義 DVD が届くまでに見終えるようにしました
匿名希望 さん　FAR：2008年7月、BEC：2008年8月 REG：2008年8月、AUD：2008年7月 ‥46

受講しながら受験を開始。一度受験したことで気持ちが楽になりました。
藤井 一夫 さん　FAR：2007年11月、BEC：2007年5月 REG：2008年8月、AUD：2008年2月 ‥48

Simulation の攻略が合格のカギ！
水澤 泰三 さん　FAR：2007年8月、BEC：2007年2月 REG：2007年8月、AUD：2008年4月 ‥50

必要なものは「必ず合格する」という気持ち
永井 健大 さん　2008年5月合格 ‥51

TAC の講義、Becker の CD だけを集中してやれば十分
F.K さん　FAR：2007年5月、BEC：2008年1月 REG：2008年1月、AUD：2008年5月 ‥52

まずは TAC の問題集をじっくり解くこと
匿名希望 さん　FAR：2008年2月、BEC：2008年5月 REG：2008年2月、AUD：2008年5月 ‥54

シングルマザーでもキャリアウーマンになってやる！その第一歩が U.S.CPA への挑戦でした。
河原 幸江 さん　FAR：2007年10月、BEC：2007年11月 REG：2008年2月、AUD：2008年5月 ‥55

人間的な魅力もある TAC の講師陣
S.I さん　2008年2月合格 ‥56

本当に諦めず続けてきて良かった！と実感
野田 愛紗 さん　2007年12月合格 ‥57

TAC のテキストで理解力をつけ、Becker を繰り返し解くだけで合格力は十分身に付きます！
C.K さん　2007年12月合格 ‥58

日本語で TAC の講義を受けることは、母語が中国語である私にとっては“一石二鳥”だと思いました
Yang Weiwei さん　FAR：2007年11月、BEC：2007年11月 REG：2007年11月、AUD：2007年10月 ‥59

就職が決まった大学４年生の４月から１年間でチャレンジできる資格として U.S.CPA を選択！
青木 孝晋 さん　FAR：2007年2月、BEC：2007年2月 REG：2007年2月、AUD：2007年8月 ‥60

ニューヨークとラスベガスで受験。受験後は現地での周遊を満喫！
金井 猛 さん　FAR：2006年10月、BEC：2006年10月 REG：2007年8月、AUD：2007年8月 ‥61

TAC の一番の魅力はなんと言っても講師陣
林 伸次 さん　2007年8月合格 ‥63

弱点を克服しつつ、丁寧に理解をしていけば暗記をしなくても十分通用します。
山口 誉 さん　FAR：2007年5月、BEC：2007年5月 REG：2007年8月、AUD：2007年8月 ‥64

独立を機にチャレンジ
匿名希望 さん　2007年8月合格 ‥66

マラソンのつもりで、４年かけて合格
M.N さん　FAR：2006年2月、BEC：2007年5月 REG：2007年5月、AUD：2007年8月 ‥67

直前対策講座と Becker で全科目初回受験で合格！
匿名希望 さん　FAR：2006年11月、BEC：2006年11月 REG：2007年7月、AUD：2007年5月 ‥68

教材は TAC のテキストと Becker だけで十分。
分部 真弓 さん　FAR：2007年1月、BEC：2007年7月 REG：2007年7月、AUD：2007年1月 ‥70

粘りと体力で勝負
河合 雅哉 さん
2007年2月合格 ‥71

50歳のチャレンジ
稲垣 耕一 さん
2007年3月合格 ‥72

講義で学習したことを Becker で復習し、知識を点に変えていけば必ず合格できます！
近藤 義裕 さん
2007年11月合格 ‥73

とにかく苦手なものから手を付けて、弱点克服！
古田 秀恭 さん
2006年4月合格 ‥74

過去問による問題演習が近道！
郡司 麻衣子 さん
2006年6月合格 ‥75

大学在学中に合格！就職にも転職にも大変有利でした！
大橋 慶子 さん
2006年8月合格 ‥76

通信で受講。週２回は早送りしながらでも講義ビデオを視聴。
光永 健彦 さん
2005年11月合格 ‥77

しつこく続けること
内海 治三郎 さん
2005年合格 ‥78

「絶対合格する」という強い気持ちが大切
豊田 純子 さん
2005年10月合格 ‥79

目指したのは、英語と会計が好きだったから。就職活動で勝ち抜ける資格を取りたかった！
愛川 智士 さん
2004年合格 ‥80

U.S.CPAは世界中で通用する資格、新しい世界への道が開かれる資格
木村 亜希子 さん
2004年合格 ‥81

受験勉強を通じて身に付けた会計、法律の知識を駆使し、管理職として「変化球」に対して回答を出す仕事をしています。
岡野 正典 さん
2003年11月合格 ‥82

今後の転職におけるキャリア・アップを一番に考えた選択
古舘 光平 さん
2003年8月合格 ‥83

U.S.CPAの資格と社会人としての実務経験を武器に監査法人に転職
相京 俊信 さん
2002年合格 ‥84

TACを信じて、焦らずマイペースで
T.O さん ‥86

合格のキーワードは『最後まで続けること』だと思う
鈴木 章世 さん ‥87

誰に教えてもらうかが一番のキーポイントだと思います
五十木　浩之 さん ‥88

自分のモチベーションを受験当日まで維持できたことが一発合格につながったと思う
今井 和幸 さん ‥89

U.S.CPAはあきらめなければ絶対に取れる資格
服部 里花 さん ‥90

U.S.GAAPの実務経験はなくても受験経験とやる気で合格。
但野 和博 さん ‥91

米国企業は内部統制の監査も必要。U.S.CPAの学習が役に立っています。
越智 公美子 さん ‥92

U.S.CPAの合格により高い経理知識と英語力を証明できたと思います。
志賀 則久 さん ‥93

米国公認会計士を活かしてキャリアアップ
風間 浩一 さん ‥94

TAC を信じていれば。

沼本 利行 さん

2009年11月　USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：81点（2008年8月）、BEC：76点（2009年8月）
REG：81点（2009年4月）、AUD：81点（2009年11月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

業務上US GAAPの知識は不可欠であり、また今後のキャリアの発展性には必須と考えたためです。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語そのものに対してはそれほど抵抗はなかったのですが、会計知識についてはUS GAAPは曖昧にしか理解していなかったです。

Q TACをお選びいただいた理由は？

講義が充実していてサポートもとてもしっかりしている印象を受けたからです。

Q TACの講座でよかったところは？

すべて素晴らしかったです。テキストは日英で丁寧に解説してありますし、説明も質問メールも含めていつもわかりやすく解説していただきました。講師の方々、AUD乾先生、BEC渡辺先生、鏡先生、杉浦先生、また事務局の方々ほんとうにありがとうございました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVDによる学習で、延べ3年くらい勉強しました。

Q 合格までの学習法は？

全般的な事としては、とにかくTACを信じてTACから与えられたテキスト、問題集、ベッカーさえやっていれば必ず合格できます。断言します。私は途中からTACにお世話になったということもあり、それ以外の教材などもやっていましたがやる必要はなかったと思いました。学習の手順としてはまずはDVDを見て全体を把握してからは問題集、ベッカーを順次やっていきました。みなそうだと思いますが、やるべきことはとてもシンプルです。ベッカーについてもう少し述べるとまず一回目を一通りやってできなかった問題にチェックマークを入れ、二回目はできなかったところだけやる。そこでもできなかったものは違う色でマークをしてそれを繰り返していくとできない問題はチェックマークが増えていきます。3回くらいやった後はパソコン上でCDを起動させてランダムにやる。一度できた問題でも正解がわかっていたとしても復習のつもりで理解の確認のつもりでしっかりと頭に叩き込むという感じでやりました。しかしせっかく覚えても古いものから忘れていきますので何度も何度も色々な角度からベッカーで練習し、記憶の厚塗りを意識しました。またノートに苦手なところ覚えにくい箇所などを自分の言葉で整理していきました。ベッカーのCDはシミュレーション問題、模擬試験形式なども充実しているので必ず全てやっておくほうがいいでしょう。計算問題は電卓を使わずに画面上での電卓を使うこともなれるという意味で重要だと思います。ここまでやっておけばかなり自信に繋がっているはずです。勉強する場所ですが、DVDを見た後は土日は基本的に図書館にこもり、平日も早く上げれるときは家でやり、あとは通勤途中も貴重な勉強時間として使いました。科目別については以下となります。

FAR：勉強範囲が非常に広く、計算問題が多く、わかりにくい公会計の比重も大きくなってきているので大変ですが、あまりひっかけ問題はなく素直な問題が多いと思います。とにかく反復して計算問題に慣れることが大事だと思います。またFARは4科目の中で一番の基本科目だと思うのでできれば他の科目より先に着手することをお勧めします。具体的に覚えている限りではinventory, Cost of Goods Sold、cash flowの計算は複数問出ていたと思います。必ず出題されると思っていいでしょう。

REG：TAXについては細かい点を惑わすように聞いてきます。またREGは最も時間が厳しい科目です。試験時間配分のペースとしてはマルチは各テストレットをそれぞれ30分で終わらせる、つまり26問を30分としてシミュレーション突入前には90分残しておきたいところです。Business Lawでは契約、セールスなど理解しにくいですが、できるだけ具体的な場面をイメージするようにすることがいいと思います。

BEC：もっとも苦労した科目です。とらえどころがなく、よくわからないような問題も出ていたと思いました。ポイントはまずは管理会計ですから原価計算、variance analysisなどをしっかり学習し、ITも多く出ますから必ず抑えるようにするとよいと思います。

AUD：試験時間がもっとも長く２回目での合格でしたが、当方にとってはもっとも学習しやすかった科目でした。ポイントはaudit reportの種類、attestationの種類、違いなどでしょうか。Internal controlも良く出ます。他の科目ほど暗記する量は少ないですが、その分、論理的に完璧に理解していないと苦しむ科目かもしれません。試験時間が長いと最初はどのように配分すればいいのかイメージしにくいと思いますが、当方はマルチプルチョイスはそれぞれのテストレットを50分のラップで刻み、シミュレーションに2時間かけるようにしました。AUDのシミュレーションは他の科目のシミュレーションよりもやっかいだと感じました。例えばinternal controlで各セクションでの業務で妥当なものは何かを問う問題など選択肢がとても多くあり、探すだけでもかなり時間がかかると思いました。テクニックとしてシミュレーションは何を問うているか問題からみるようにしたほうが絶対にいいでしょう。問題によっては前提となるsituationを読まなくても解ける問題が多いですから。situationを最初に見てしまうと文章の長さであせってしまうかもしれませんし。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

受験に際しては2科目ずつ、FAR&BEC, AUD&REGという組み合せが効率的とされているようですが、当方の場合は欲張ると両方落とすことになりかねないと思い、途中からはより確実なものにするために基本的には毎回一科目としました。1科目だけでも本番までピークまで持っていくのはとてもエネルギーを要しますから。（それでも何度も落ちましたけれど）

注意したほうがいいと思うのは一科目だけでも合格すると嬉しいですし勢いが付くとは思いますが、それに頼りすぎないことです。つまり科目合格の有効期限1年半はかなりプレッシャーになります。当方の場合、最初にFAR合格から少し休んでしまい、残り一年の間に3科目取らないといけないというのはかなりきつかったです。受験までの助走はなるべく十分に取ってまずは4科目満遍なく学習することでしょう。

グアムで受験される方へ。当方は基本的には週末でしたが、お勧めの時間帯は夕方5時とかです。理由はグアムまで3時間で行けるとはいえ現地に着くまでは疲れますし、明朝8時からのテストの場合時間的に余裕ができるからです。十分食事もとれますし。ただし、トイレ対策は万全を期してください。試験開始数時間前は水分をなるべく控えるのは言うまでもありません。試験中はトイレに行く余裕はまったくないと思っていたほうがいいでしょう。

またホテル選びも重要だと思います。当方はいつもMarriotでした。とても部屋がゆったりしていて良く眠れました。週末受験の場合、韓国のエージェントを通じて予約するようになっていて最近ではMarriotは選択肢にないかもしれませんが、しかし当方の場合は希望を伝えてMarriotを取ってもらいました。しかし難点なのがMarriotの場合レストランがホテル内にスキーキハウスしかないことです。夕食は向かいのホテルRoyal Orchid内にある韓国料理屋をいつも利用していました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

とにかくTACを信じてやっていれば絶対に合格を勝ち取ることができます。当方は途中からだったので今となっては最初からTACでやっていればもっと早くに合格していたのではと思います。ここからは余計な話になってしまうかもしれませんが、晴れて合格した後も述べさせていただきます。実は合格後もとても重要で、合格した開放感からそれで終わってしまう人も多いと思いますが、とてももったいないと思います。つまり、所詮試験勉強で終わってしまうと加速度的に覚えたことを忘れます。よってできればライセンスまで取得し継続教育を受けないといけない環境に身をおいて、知識を更に発展させるようにすることをお勧めします。当方はアラスカ出願でしたがクレジットをワシントンにトランスファーしてライセンスを取得するようにしました。また時代の流れでUS CPAの後は是非IFRSに取り組むのがいいでしょう。資格とは本来は取得した後それをさび付かないようにメンテし、それを本当に使えるものにしていくのが必要だと思います。そうでないと履歴書に書けるだけになってしまいますから。日本とアメリカの考え方の違いで日本は落とすための試験ですから合格さえすればとりあえず勝ちの風潮があり、アメリカは合格して初めて予選通過、ビジネスではそれからどうやって決勝までいくかが重要とされているようです。当方はアメリカ的な考え方に賛成です。

以上、受験を終えて思ったことを述べさせていただきました。何かご参考になれば幸いです。最後まで読んでいただきありがとうございました。

TACの講座では支払った金額以上の価値がある知識・語学力、そして合格力が身に付きます。

H.Y さん

1970年生まれ
公認会計士

2009年12月　USCPA試験合格（NH州）
FAR：93点（2009年7月／1回目）、BEC：85点（2009年7月／1回目）
REG：84点（2009年11月／1回目）、AUD：80点（2009年7月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

元々、日本の公認会計士試験に合格しており監査法人で働いておりましたが、会計を自身の主たる職種として生き残っていくためにはさらにスキルが必要だと思いU.S.CPAを受験することとしました。受講料や本試験を受ける費用は安くはないですが自身の労働市場での市場価値を高めるためには必要な投資であると判断しチャレンジすることとしました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日本公認会計士試験合格、日商簿記1級合格、
税理士試験；簿記論・財務諸表論合格
英語知識：TOEIC®TEST 915点

Q TACをお選びいただいた理由は？

資格の学校として確固たる信頼があること及びブラッドリー大学で追加単位の取得ができることが決め手でした。TACよりも安価な受講料で講座を提供している資格学校もありましたが、TACの信頼性を買えるのであれば資金を投下する価値があると判断しました。

Q TACの講座でよかったところ

特にREGの税法の内田先生の授業は資格を取る・取らないの問題を超えて払ったお金以上の価値のある素晴らしい内容の授業でした。教材も実務に応用できるものとなっており、実際に現職で参考にさせていただいております。またREGに限らずすべての科目について全体として広すぎず、浅すぎの的確な分量の教材となっており、もうこれ以上何も言うことはないです。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で学習しました。学習期間は8か月程度でした。

Q 合格までの学習法

FARについては日本の公認会計士試験に合格していたとしてもU.S.CPA用の試験対策をしなければ合格できない内容でしたので出題頻度の高いところを中心に問題演習は繰り返しました。U.S.CPAに限ったことではないですが問題演習を何度も繰り返すということが合格への最短ルートであると経験上感じています。また問題は悩んでいても時間の無駄ですので答えを見ながら解いていく学習スタイルの方が資格試験の合格対策としては賢明な方法であると思います。間違いだらけでも落ち込まず、勉強とはこのようなものだと割り切って問題演習を繰り返す心構えが重要であると思います。BEC・REG・AUDについても学習方法は変えませんでした。頻出項目を中心に繰り返し問題を解くことです。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

U.S.CPAは世間では割と簡単な試験であると言われており、元々日本の公認会計士試験に合格していたため余裕であると思っていましたが、全くそのようなことはなく、U.S.CPA試験対策の教材を使ってきっちりと勉強することが必要でした。ただ、逆に言うとTACの教材を使って勉強をすれば普通に合格できる試験であると思います。もともと会計の知識を持っていたかであるかや、英語ができるできないはそれ程気にするほどのものではないと思います。他の資格学校の受験生の方と試験場で初対面で出会ってお話する機会もよくあることなのですが、何度も不合格になっていると仰っていました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPAは安くはない受講料を払ってでも取る価値のある試験であると思います。実際に経理職をやっていて役だっております。つまりU.S.CPAを勉強すると英語での会計用語に強くなるためIFRS対応プロジェクトなどにも十分応用できます。また特に米国の税金・法律に関する知識を身に着けることができることは自身の労働市場での市場価値を高めることに貢献し、また視野が広がることにより多角的に仕事に取り組むことができるようになり仕事が楽しくなります。

英語の勉強もかねてU.S.CPAの学習を開始。公認会計士もU.S.CPAもTACで合格しました！

高島　彰浩 さん

勤務先：大手監査法人

2009年11月　USCPA試験合格（メイン州）
FAR：88点（2009年5月）、BEC：85点（2009年5月）
REG：83点（2009年11月）、AUD：88点（2009年11月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

昨今、監査法人では会計基準や各種制度の国際化やグローバルベースの仕事を扱う必要から、職員に英語力が要求される場面が増えつつあります。US.CPAを勉強する前から、将来的なことを考えて英語の勉強を始めていたのですが、語学系の資格の勉強ではなかなかしっくりと英語が身につかないんですね。やはり英語を使う世界にどっぷり浸からないと本物の英語力は身に付かないと思いました。もちろん仕事の現場で学ぶのがベストですが、きっかけとして、せっかく監査法人で働いているのでUS.CPAをとってみるのはどうだろうと考えたわけです。監査の現場で実際に使う英単語や、米国の会計基準がマスターできて、更に仕事の幅も拡がり、良いことづくめということで是非挑戦してみようと思いました。また、私の職場にはUS.CPAを持っている方が多数いたことも、チャレンジの動機となりました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

公認会計士ということで、会計知識自体については特に問題はありませんでした。

英語につきましては英検準1級を持っていましたが、この勉強を通してブラッシュアップしていきたいという気持ちはありました。

英検準1級をとったのには訳がありまして、当時私の部署には英語が堪能な方が多く、頻繁に英会話が飛び交うような職場環境でした。監査法人自体がグローバルネットワークで繋がっているところですので、重要な情報のやり取りが英語で行われることは頻繁にあります。自分としてもハイレベルな仕事に取り組んでみたいという意思がございましたので、ぜひ英語を勉強しようと考えていました。私と同じような考えで英語に取り組んでいる会計士も多いと思います。３次試験に合格してから英語の勉強を始め、約１年後に準１級に合格しました。US.CPAの学習を始めたのは、その約半年後ですね。

Q TACをお選びいただいた理由は？

日本の公認会計士試験の際にたいへんお世話になりましたので、他の学校の選択肢は考えられませんでした。また当時、公認会計士試験に合格していると受講料がお得になるというようなキャンペーンもありまして、これを機会にTACで受講しようと決心しました。

Q 実際に受講して良かったところを教えて下さい

教材の信頼性が一番ですね。TACの教材をこなしたら、ほぼ間違いなく受かるだろうと信じていました。実は、他の資格もTACで取得し、その経験からTACの教材には万全の信頼がありました。実際U.S.CPAもテキストはとても分かり易く作られていて、よくまとまっていますし、授業もポイントを押さえているので、効率よく学習を進めていくことができました。Beckerも問題が膨大で、こなすのに相当苦労しましたが、実際に本試験で同じような問題が出題されているのを見て、やっていて良かったと実感しました。U.S.CPAは細かい論点がたくさん出ますが、問題集を一通りやっていると、本試験の時に「似たような問題がどこかにあったな」と、記憶を呼び起こすことでなんとか答えられるんです。網羅的な出題に対応しようと思えば、幅広い分野の問題を解くことが有効ですので、その点Beckerの問題集は本試験を突破する上でかなり有用でした。直前対策は必ず押さえるべき論点がコンパクトにまとめられていて重宝しました。

Q 講師陣についていかがでしたか

内田先生、杉浦先生はとても熱心で、分かり易い講義でした。ポイントを押さえた授業でしたので理解が進みました。内田先生が作成された教材はかなりフォローが手厚いので学習上大変役に立ちました。

Q 通学・通信どちらで勉強なさいましたか

DVD通信で勉強しました。自分の都合の良い時間に授業を聞くことができますし、分からない箇所があった時に戻って聞くことができるのは本当に助かりましたね。また倍速で再生することによって、受講時間を短縮することができるのも大きなメリットでした。

Q 合格までの学習法について教えて下さい

まず全般的なところからお話ししますと、なるべく短期間で合格したいと思いまして、ガイダンスでTACのスタッフの方に相談したところ、2科目づつ2回に分けて受ける方法が一般的だとおっしゃっていたので、それに従って勉強のスケジュールを立てました。幸いにして、実質１年半くらいで、全科目を１回の受験で合格できましたので結果的にスムーズに合格できたのではないかと思います。

資格試験を勉強するときの基本戦略は、まずは一通り授業を聞いて全体像を把握してから徐々に細部の理解を深めていきます。授業を聞きながら試験上重要なポイントは徹底的にマスターします。次に、一通り問題集を解いて、本試験のレベルやどんな分野が頻出論点なのかを把握し、2回転目に解く時には苦手分野を意識し、テキストに立ち返って十分読み込むことによって理解を深めます。間違えた問題は理解不足か練習不足と考えて、何度も繰り返し解き直すことによって弱点をつぶしていくという方法をポリシーとしていました。基本的にはMultipleが重要と考えて優先して勉強しました。Simulationはある程度力がついてから対策をしたほうが効果的ですね。Simulationは、１ヶ月前から始めれば良いと言われましたが、私はちょっと心配なので２ヶ月前から始めました。Written Communicationは、TACの対策講義がとても役に立ちました。書き方のパターンをマスターすることができましたので、どのような問題が出てもスムーズに対応できるようになったと思います。

FARは、U.S.CPAならではの論点をマスターする事に努めました。日本の会計基準に慣れていると、「なぜこんな処理をするのか」疑問に思うことも多いのですが、問題を解くうちに徐々に慣れてきますので根気よく何度も問題を繰り返し解きました。

BECについては、MAや、BSは日本の会計士試験との重複部分も多く、問題の難易度も高くないので、全体的に学習量は相対的に少なかったと思います。予想外に解きづらいと感じたのはITでした。おそらく普通に問題を作成すると簡単になってしまうせいか、選択肢のうちどれが正解なのか、ぱっと見て判断し難いような問題が多くて苦労しました。ひたすら問題を練習することで、正解を選ぶ勘を身につけていきました。

REGは日本の会計士試験とほとんど重複の無い科目ですし、ボリュームも膨大ですから一から勉強するという感じで、心して取り組みました。出そうな論点はきっちり学習し、そうでないものは思い

切って捨てました。当時は法律関係の知識に興味がありましたので自分自身にとって有意義な学習だったと思います。

AUDはすでに日本の会計士試験で基礎理論を学んでいますし、監査法人で実務を積んだこともあって、学習開始時点でかなりアドバンテージのある状態でしたが、U.S.CPAは実施手続、報告手続、いずれも日本の会計士試験以上に細かい知識が数多く問われますのでトレーニングは欠かせませんでした。

日本の会計士試験で得た知識でU.S.CPAの学習をどの程度カバーできるか、といいますと、私の感覚だと半分くらいです。会計士試験や実務で得た知識がそのまま使えた分野も多少はありましたが･･･。むしろ、会計士としてのバックグラウンドがあるから、学習内容の理解が速かった、という側面の方が大きかったと思います。新たに覚えなければならない知識のボリュームはそれなりにありますので、やはり一生懸命勉強することは欠かせませんね。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

この試験は、「あとは試験の日が来るのを待つだけ」という状態までもっていくまでが本当に大変な資格ですね。学歴審査や出願などの各種手続きは学習初期の段階で早めに済ませることをお勧めします。手続を先延ばしにしてしまいますと、その分合格までの期間も長くなってしまいますので、さっさと進めた方が良いと思います。私も出願手続の煩雑さをためらって時間を過ごしてしまいましたが･･･。ある日、メイン州の条件が緩和されたことを知りまして、それをきっかけに出願手続に踏み切ることができました。最初はアラスカで考えていたのですが、メイン州ですと受験資格に会計やビジネスの単位が不要になったのです。単位取得に時間を取られず、早目に本試験を受けることができますので、メイン州に決めて手続きを進めていきました。書類の提出等もたいへんでしたね。学歴審査、出願、テストセンターの予約、渡航手続、いずれもぬかりなく行う必要がありましたのでかなり神経を使いました。

実際の受験についてですが、現地の地の利が分からなくて何かトラブルを起こし、試験に影響したら勿体ないと思って、あらかじめ下見をしておこうと考えました。受験地はハワイにしたのですが、ちょうど良いことに私はその時結婚して間もない時期でしたので、「新婚旅行はハワイにしよう！」と妻に持ちかけました。幸いにも妻からはOKをもらえました。ただ、妻は試験会場があるオアフ島に余り関心がなく、自然豊かなカウアイ島に行きたいと言ったので、両方行くことになりましたけどね･･･。で、新婚旅行で下見をして帰ってきて二週間後にまた、本試験を受けにハワイに行きました。そのお陰で実際に受験しに行くときは大きなトラブルはありませんでした。しかしあちらの交通機関はあまり信頼できないと聞いておりましたので、バスに乗っていながらはらはらしました。本試験を受けに行く時も、本試験会場の最寄りの停留所よりも少し手前の停留所で降ろされてそこから歩いたなんていうちょっとしたハプニングもありました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

とにかくボリュームがあり、覚えることが多くて大変ですが、合格したときの達成感は何にも換え難いと思いますので、是非頑張って挑戦して欲しいと思いますね。色々な問題集に手をつけている方もいらっしゃいますが、TACとBeckerの教材を徹底的にマスターすれば必ず合格できます。TACを信頼してがんばりましょう。

会計士の方でチャレンジしている方は、会計士試験に比べて簡単だと思って油断していると足をすくわれます。会計士受験生時代の頃のように全力で挑んだ方がよいと思います。

Q お仕事の内容について教えて下さい

U.S.CPAの勉強を始めた頃はリスクマネジメントに関する部署にいたのですが、勉強している期間にM&Aを担当する部署に移りまして、現在は企業価値評価の仕事をしています。自分から希望しての異動でしたが、今は前の職場以上に英語を使う職場です。ずっと英語を使って仕事をしたいと思っていましたが、希望が叶って、またタイミングとしてもU.S.CPAの勉強をして英語力がついた後に現在の部署に異動することができて本当に良かったと思っています。これからは日本と米国、両方の会計士として国際的に活躍できるように日々研鑽に努めていきたいと思います。

働きながら1科目ずつ受験し全科目初回受験で合格！将来の可能性が広がりました

髙林 奈緒子 さん

1978年3月生まれ（31歳）
国際基督教大学 教養学部 2000年3月卒業
勤務先：米系企業経理部アカウンタント

2009年10月　USCPA試験合格（メイン州）
FAR：80点（2009年7月／1回目）、BEC：77点（2009年2月／1回目）
REG：87点（2009年5月／1回目）、AUD：92点（2009年10月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

現在働いている米国系企業ではUS GAAPの知識がいろいろな業務で必要とされており、一度は体系的に勉強しようと思っていたことと、社内でもU.S.CPAの資格を持っている方や勉強中の方がかなりいらして、お話を伺っていると良い刺激になり、自分もやってみようかなという気持ちになりました。また、日本の公認会計士試験と違ってU.S.CPAは働きながらチャレンジしやすいところが魅力的で、自分の英語力と会計の知識を証明するものになると思ってチャレンジしました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計については簿記2級、英語についてはTOEIC®が950点ほどありました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

TACにはもともと簿記検定講座でお世話になり、テキストも使いやすいなと思っていましたし、実際にU.S.CPA講座を受講している人から有名な先生がいらっしゃるということで、内田先生の評判などを伺っていましたので、他校と比較せずにTACに決めました。

Q 受講形態は？

通学で1年間通いました。教室運営のアルバイトをさせていただいていましたので、「行かなければ」という気持ちが良い形でモチベーションとなり、非常に有り難かったです。

Q 実際に受講して良かった点は？

Beckerが非常に良かったです。本試験もBeckerとほとんど同じ問題が出題されましたし、他のテキストに比べてレベルが高いと聞いていたので、そのテキストにあわせて勉強できたことが合格に繋がったのではないかと思います。日本語のテキストも良くまとまっていて、これを読めばsummaryを理解することができました。

先生は、杉浦先生と内田先生の授業がたいへん丁寧で分かり易かったです。また、杉浦先生と帆足先生は実際に米国の監査法人に勤めた経験をお持ちで、実務の話も伺えたのが印象に残っています。

Q 学習方法について教えてください

まず日本語のテキストで概要をつかみ、次にBeckerのテキストを熟読しました。英語のままだとなかなか記憶が定着しないので、テキストの余白に日本語でメモを記入していきました。こうすると復習もしやすいですし覚えやすく便利です。後はひたすらMultiple Choiceの問題集を解きました。

私は業務が忙しかったので、一度に4科目受けることはとても無理でしたので、1科目づつ四半期ごとに受けて確実に合格するという戦略にしました。まずBECから受けたのですが、これはMultiple Choiceのみで、試験時間が2.5時間なので、最初に受けるには良いと思いました。ただ私はITが一番苦手で、しかも本試験のITではBecker 見たこともない問題が出てしまって、そこはあまり点が取れなかったのですが、管理会計については簿記検定でも勉強していましたし、Business Structureが得意でしたので、そこでカバーできたのかなと思います。

次にREGを受けました。これは早めに受けないと税制改正があったりして、そこでまた知識をブラッシュアップするのは手間かなと思って、なるべく早めに受けようと思いました。Business Lawについては日本の法律の知識がそこそこあったので、それを活かして比較的楽に学習することができました。杉浦先生の授業では、日本の法律と違うところをピックアップしてくださるので、とても分かり易く、そこだけ覚えればいいと思って気分的にも楽でした。Taxに関しましては、馴染みがありませんでしたし、特に個人の所得税は日本人にはあまり役に立たないかなと思ったのですが、ちょうどその頃、夫に米国赴任の話がありまして、結局それはリーマンショック後の影響で無くなってしまったのですが、自分もひょっとしてアメリカに行くかもしれないと思うとちょっと真剣になって、そこは勢いで勉強できたので良かったです。

次にFARを受けましたが、日本の簿記1級に比べたらずいぶん易しいという印象でした。U.S. CPA試験特有の論点がありますのでそこだけピンポイントで学習し、政府会計は内田先生のDVDでとにかく知識を詰め込んで試験に臨みました。

最後に受けたAUDで92点が取れたのは、先生が「ぎりぎりの点数（74点）で落ちる人が結構多い」と脅かしていらしたので、しっかりやらなきゃと思って、わりと気合いを入れて勉強しましたし、会社の業務でもSOX法対応でAudit的な視点を持つ必要がありまして、意識して勉強することができたのが良かったと思っています。

Q TACの教材はいかがでしたか？

BeckerのMultiple Choiceは9割取れるようにとにかく頑張りました。ただ業務がとても忙しかったので、Simulationはどんな感じなのか3、4問試しただけで時間切れになってしまい、必ず解くようにと言われていたFinal Examもやる時間が無かったのですが、それでも合格できたのでほっとしています。あと、ベダード先生のWritten Communication対策講義のDVDはすごく役に立ちました。DVDの中で、様式、フォームを押さえれば高得点をとることが可能だとおっしゃっていたので、そこを意識してとにかく自分の知っている知識を正しいフォームで型どおりに書くということに集中したので、点が取れたかなと思います。

Q 1日の学習時間はどれくらいでしたか？

平日は忙しくて帰りは11時くらいになるので、十分な学習時間をとることはできませんでしたが、この試験は範囲が広いので忘れないようにするために、とにかく毎日少しでも勉強しようと思いまして、夜11時に帰っても20分でも30分でも毎日勉強するよう心がけました。土曜日はTACに行って、日曜日は10時間くらい勉強していました。あと隙間時間を利用しようと思い、WileyのAudio Bookを買ってiPodで聞いていました。耳から覚えるというのは非常に効率的ですね。テキストを読んでばかりだと飽きてくるので気分転換にもなりますし、おすすめです。本試験の前はなかなか勉強の時間が取れなかったので、グアム行きの飛行機の中でBeckerのテキストを広げ、必死で知識を詰め込んでいました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

申込みは他の方が苦労しているのを見て不安だったのですが、私の場合は学歴審査・NTSとも運良くスムーズにいきました。ところが業務が忙しかったのでなかなか休みが取れなくて苦労しました。4科目とも全てグアムで受験しましたが、土日と合わせて有休を1日取り、深夜便で出て翌日受けて帰る、そんな感じでした。本試験では、試験時間が長いので他の方は途中でトイレ休憩などなさっていましたが、私はそれをやりたくなかったので、午後の試験でも終わるまで何も飲まず何も食べずに受験しました。AUDは試験時間が4.5時間ですのでちょっと辛かったのですが、なんとか乗り切りました。グアムの試験会場は日本人、韓国人、中国人が集まって面白い雰囲気ですね。現時で会った人たちと情報交換したり励まし合ったのも楽しい思い出です。

Q ところで、お仕事のなかで勉強した知識が活かされている部分はありますか？

会計基準は変わりますし、変わった時点ですぐに対応していかなければなりませんので、体系的に勉強した事はかなり役立っていると感じています。米国の税法についても以前は知識が無くて、米国本社へのレポート業務でも苦労していたのですが、Taxの勉強をしたことで全体像がつかめ、何を求められているのかが理解できるようになりました。また、Business LawやBusiness Structureなどで、米国のビジネス慣習を知ることができたのも良かったですし、Auditの勉強をしたことで監査人の視点に立って監査対応ができるようになったと思います。

Q 合格なさった事を会社に報告なさいましたか？

報告しました。実は会社の制度として報奨金が出ることになっているらしいのです。

現在の会社は財務会計・管理会計（コントローラー）で部署が分かれていて、コントローラーをやるとしたらマネジメントやビジネス全般の知識が必要となりますので、その時にはさらにU.S.CPAで身に付けた知識が活きてくるのかなと思います。将来についていろいろな道への可能性が開けてきて、とても有意義な資格を取得したことを実感しています。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

会計実務を含め、ある程度社会経験のある人の方が理解しやすく有利な資格だと思います。働きながら取れる資格ですので、会社を辞めないで勉強を続けてください。そして、とにかくTACの教材を信じて勉強すれば必ず受かる試験だと思いますので頑張って下さい。

会計知識ゼロからの挑戦！U.S.CPAを取得して米国で就職

玉田　洋輔 さん

1984年12月生まれ
上智大学 2007年卒業
2010年夏より Ernst & Young LLP（米国）にて勤務予定

2009年11月　USCPA試験合格（メイン州）
FAR：88点（2009年7月／1回目）、BEC：84点（2009年7月／1回目）
REG：87点（2009年11月／1回目）、AUD：78点（2009年11月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

大学卒業後、営業の仕事をしていました。その中で先輩方から「簿記は企業の健康診断のようなものなので、それを知ることから始めたらどうか」とアドバイスをもらい、簿記の勉強を始めました。そしてどうせ勉強するのなら、監査法人でいろいろな企業を実際に自分の目でしっかり見てみたいと思うようになり、そして私の場合幸い英語には自信がありましたので、U.S.CPAを選びました。

Q 学習を開始する時点での会計知識は？

会計の知識はゼロでしたね。大学で会計の基礎の授業を１回だけ受けたことがあるだけでした。

Q どのようなスケジュールで受験されましたか？

2009年1月に仕事を辞めまして、2ヶ月間ちょっと就職活動などをして、将来の自分を定めるための時間を作りました。実際就職活動をしてみて、監査法人に就職するには日本の公認会計士やU.S.CPAも持っていなければまったく問題外ということを知り、3月終わりからU.S.CPAの勉強を始めて、6月に簿記2級、7月にBATIC、FARとBECを受けて、今回2009年11月に残りの2科目REGとAUDを受けて、その時にアメリカで面接を受けて就職を決めて帰ってきたという感じですね。

Q TACをお選びいただいた理由は？

いろいろなスクールがありますが、簿記と公認会計士についてはTACの実績の高さをいろいろな方から聞いていましたので、U.S.CPAも同じ会計系の資格なので実績もあるのだろうと思い決めました。

TACは他校に比べ受講料がお手頃なのに、授業のコマ数が多く内容が充実していました。学習に充てることができる時間がありましたので、TACで基礎からみっちりやった方がよいと思ったことも決め手になりました。

Q ご受講いただいて良かったところは？

挙げたらきりがないほどですが、とくに先生が一番良かったですね。その中でも杉浦先生と内田先生はすごいですね。受講してみて、改めてTACに来て良かったと思いました。

杉浦先生と内田先生は、ご自身でテキストも監修していらっしゃるので、自分が作ったテキストで教えてくださるという強みを感じました。私がこういうテキストにしたのはこういう理由があってということを授業中に聞くと、だからこういう順番になっているのかとしっかりと腑に落ちました。

Q 受講形態は？

私はDVD通信講座で受講しました。私は3月にすでにスタートしていたコースに申し込みましたので初回にDVDが4ヵ月分送られてきました。そこでまずはFARをDVDで一気に受講して、それと同時にREGも後ろの方のTAX辺りから毎週土日に15ヵ月教室フリーパス制度を活用して、教室で授業を受けて、平日はDVDでキャッチアップするという方法で勉強を進めました。

Q 一日の学習時間はどのくらいでしたか？

仕事を辞めていたので、結構だらだらしながらですが、1日７～8時間くらいです。ご飯食べたり、コーヒー飲んだり、友達にメールしたりの時間も入れての時間です。DVDを1コマ見ると、3時間程かかりますので、そうするとあっという間に勉強時間は5～6時間になってしまうという感じでした。

Q 学習方法を教えて下さい

先生方に言われたとおりに学習しました。まずTACのテキストの問題を解いて、全部終わった頃にBeckerが届くので復習もかねてBeckerの問題を解く、それを繰り返しただけです。理解できないところはDVDの講義をもう一度見直したりしました。DVDは1.5倍速で見ることで、聞き逃さないように集中することもできましたし、もちろん時間の節約にもなりました。

清松先生、内田先生は講義の中で勉強方法についてもフォローアップしてくださったので、たいへん助かりました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続きについては、学歴審査機関からの通知が届くのが遅かったぐらいで特に困ったことはありませんでした。

試験場は最初の2科目はサンフランシスコの街中で、残り2科目はニューヨークでした。サンフランシスコはちょこちょこ前から行っていたので土地勘がありましたので、友達や先輩にも会えることも楽しみでした。ニューヨークは就職の面接もありましたし、その近辺でジョブフォーラムに参加するという目的もありました。

Q 受験しながらどの様に就職活動をされましたか？

ボストンキャリアフォーラムといって、留学中の日本人向けのキャリアフォーラムみたいなものがあって、一部上場会社等200社くらいが参加して行う大規模なキャリアフォーラムが毎年ボストンで開催されています。残念ながら全科目合格後に行くことはできなかったのですが、2科目合格した時点でそのフォーラムに参加しました。もちろん日本のビッグ4もアメリカのビッグ4も両方来ていました。そこで面接をしまして、運良く通ったというところです。採用の時期はことし2010年の夏、7月くらいの予定です。それまでにビザを取得して、夏まで何をして過ごそうか思案中です。

Q ご自身の描いていらっしゃる将来像を教えて下さい

将来的には日本に帰ってきたいと思っていますがまずは5年くらい向こうで頑張って、本当の意味でU.S.CPAのマネージャーになってUS GAAPをマスターして、「自分はプロのU.S.CPAです」と言えるまでになってから日本に帰って来られたらいいなと思っています。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

何のためにこの試験の勉強をしているのかを振り返りつつ自分のモチベーションを上げていくことが大切だと思います。U.S.CPAは、試験のスケジュールを自分で決められることが良い反面、いつでも受験できると思ってしまうとモチベーションの維持が難しくなりがちです。ぜひ皆さんも強い気持ちを持って合格を勝ち取っていただければと思います。

4打数4安打を目指して

匿名希望 さん

2009年11月　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：84点（2009年11月／2回目）、BEC：79点（2008年10月／1回目）
REG：90点（2009年11月／2回目）、AUD：83点（2009年11月／2回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

国際的な舞台でも社会に貢献できるスキルを身に付けたかった為。学生時代に野球をしていたこともあって、U.S.CPA試験を会計専門職でいうメジャーリーグへの第一関門とイメージしていました。「勉強」と考えるより、「自主トレ」と自分にとって慣れ親しんだスポーツの世界に置き換えてみることで、モチベーションを最後まで維持できたような気がします。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語検定2級・日商簿記検定1級レベル

Q TACをお選びいただいた理由は？

簿記検定や日本の公認会計士試験の指導で実績があったため。

Q TACの講座でよかったところは？

直前期の総まとめ講座や制度改正に伴う特別講座など、ピンポイントで大変便利でした。また、理解できない箇所をＥメールで丁寧に回答して下さり学習していて安心でした。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信による学習。4科目を一通り学習し、問題集が7割～8割解けるレベルになるまで3年、受験に2年を費やし、トータルで5年。

Q 合格までの学習法は？

仕事と勉強の両立は難しく、ほとんど勉強できない時期もありましたが、目標は会計専門職としてどこの職場（チーム）に行っても貢献できるプレーヤーになる事と設定していたので、問題が解けなければ、まだまだ実際の現場で活かせるレベルに到達していないのだと自分に言い聞かせ、実力を付けていく為のプロセスを重視するように心掛けていました。全般的なことで言えば、私は4科目を受験できるレベルまで平行して学習しました。1年半という科目合格の有効期間がありますし、はるばる海外に試験を受けに行くなら4科目合格（野球で例えるならば4打数4安打）というものを狙ってみたかったためです。4科目の平行学習は各科目を相互に関連付けて学習できるというメリットがあり、また勉強する科目を切り替えることで気分転換にもつながるのですが、一方で同じ取引でもFAR（財務会計）とREG（税法）では考え方や扱いが異なるケースも多く、混同して苦労する一面もありました。具体的な学習方法として私がやってみたのは、BeckerのCD-Rom問題集を解いた際に、誤った問題の解説部分をExcelシートにコピーアンドペーストして貼り付け、そこに自分なりの解釈を加えて復習ノートを作っていく方法でした。その際になるべく説明文を英語で入力すれば、Written Communication問題のトレーニングにも多少役立つのではないかと思います。CD-Romの解説には実際の問題を解く上でポイントとなるものが多く、誤解しやすい箇所の説明としても整理されているので、間違った解釈をするとそれを何度も繰り返してしまう傾向のあった私にとって、出来上がったノートは直前の復習に使えて便利でした。論点ごとにタイトルを付けてまとめて置けば、Excelの「編集」→「ワード検索」機能を使って確認したい箇所をすぐに探せるので、解法や考え方が分からなくなってしまった時には時間短縮に効果的かと思います。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

1回目の4科目受験はBECのみの合格（4打数1安打）でしたが、それでもヒット1本が出たことで前向きに次に向かうことができました。英語の力が不十分だった私にとって、試験時間に余裕が無くスピードアップが重要課題であること、またその中で科目ごとの時間配分や、休憩をどう入れたら良いかなど実際に体感する事ができたので、それが2回目の合格につながったと思います。野球の例えからズレますが、マラソンランナーでいうならコースを一度走ってみて掴める勝負勘みたいなものでしょうか。4時間を超える科目もあるので、この試験はまさにマラソンのような持久力勝負でもあると思います。（対戦ゲームでよくあるエナジーバーが減っていく感じが、自分自身で体感できます。）受験会場では何人か日本からの受験生をお見かけしましたが、偶然にも同じ受験日を選択した同士に親しみを感じながらも、とても声を掛けられる雰囲気ではありませんでした。と言っても、この試験会場に辿り着くまでの苦労と意気込みを考えると、競争相手とはとても考えられず、ここまで来たら残り数時間、共に頑張りましょう！という思いでした。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

どんな試験も同じだと思いますが、最初に目標としたレベルに達するまでモチベーションを維持できるかどうかが勝負の分かれ道なのだと思います。みんなが休んでいるときに頑張るのは大変なことなので、時に休んでいる人が羨ましく見えたりするものです。しかし、やりたくてもやれない状況の人もいる訳ですから、見方を変えると何かに打ち込めている人はとても贅沢な状況だともいえると思います。集中力や持久力にスランプを感じた時は、自分がその気になれるように客観的にその時の状況を眺めてみると良いと思います。私はU.S.CPA試験を一流対戦投手と見立て、どんな球（問題）が来てもヒットを打ってやる！と勉強もそのための素振り練習くらいに単純に捉えることで、本試験までの長い準備期間を乗り越えられたと思っています。これから学習をスタートする方も、一度決めたことは最後までやり抜くことを第一目標に頑張ってみて下さい。自分が馴染んできた世界観に置き換えて自分を励ますことも、良かったら取り入れてみて下さい。そうして継続さえできれば、イメージしていたゴールが待っています。皆様のご健闘をお祈りしています。

短期集中！

匿名希望 さん

2009年10月　USCPA試験合格（メイン州）
FAR：81点（2009年7月／1回目）、BEC：78点（2009年7月／1回目）
REG：79点（2009年7月／1回目）、AUD：81点（2009年10月／2回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

現在商社に勤務しており、将来的に米国事業会社への経営層としての駐在を目標とするなかで体系的な知識の獲得と社内選抜の差別化のために取得を目指しました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

基礎的な簿記・会計の知識はありました。英語力はTOEICで865点です。また証券アナリストの資格もあります。

Q TACをお選びいただいた理由は？

TACのU.S.CPAの実績はあまり知りませんでしたが、日本の公認会計士試験においては圧倒的な信用力があるため、TACであれば間違いはないだろうと思ったからです。

Q TACの講座でよかったところは？

BeckerのMC・Simulationは非常によかったと思います。特にCD-ROM(PC)は、実際の試験とほぼ同じ画面であり、また効率的に繰り返し勉強できる仕組みもあり、知識の定着という観点でとてもよくできていると思いました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信。08年10月開始（08年春夏入学コースに途中から参加）で09年7月に3科目合格（1科目不合格）、10月に残る1科目も合格しました。

Q 合格までの学習法は？

１年以内の全科目一発合格を目標としましたので、いかに効率的に勉強するかを考えました。平日夜は勉強する時間がなく、また家族もあるため、基本は平日の朝2時間と土曜日の4～6時間で約50～60時間／月、テスト前の2ヶ月は70～80時間／月、年間合計では750時間でした。なお、春夏入学コースに10月から入ったので最初に大量のDVDが送られてきましたが、全て1.5～2倍速ぐらいで見て3月末にちょうど追いつきました。Beckerの英文教科書は使わず、TACの教材・問題集とBeckerのCD-ROMのMC・Simulationだけをしました。ただ定着させるために、BeckerのMCは間違えた問題は5回ぐらい繰り返し暗記するほどに解きました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

7月に一度に4科目をグアムで受けましたが、最後のAUDの試験中にシステムトラブルが発生し、全受験生のPCがフリーズ、全受験生が試験場から退場させられ待合室で１時間ほど待機させられるということがありました。その後復旧し中断した箇所から再スタートされましたが、本当にデータが残されたのかどうか、正しく処理されたのかどうか不安でした。これが原因ではないとは思いますがこの科目だけ不合格でした。事務員によると初めてのことで、今後はもうないとは思いますが、なにがおこるかわからないなぁという感じでした。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

とにかく知識を定着させることが大事だと思いますので、そのためには繰り返し問題を解く必要があると思います。授業（DVD）や教科書では、多少わからないところがあっても軽く流して、まずはザーッと網羅することとして、問題を解きながら理解していくというほうが効率的だと思います。とにかく早く問題を解き始め、そして間違えたところを繰り返すことだと思います。私の感覚では、授業・教科書と問題の時間労力比率は1：4ぐらいです。

世界で通用する会計士を目指して！

松元　泰 さん

1988年3月生まれ（21歳）
早稲田大学政治経済学部4年在学中（2009年12月現在）
大手監査法人勤務（非常勤）
2007年公認会計士試験合格（2007年当時最年少で合格）

2009年11月　USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：84点（2009年11月／1回目）
BEC：84点（2009年11月／1回目）
REG：84点（2009年11月／1回目）
AUD：82点（2009年11月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

大学2年生の時に日本の公認会計士試験に合格しました。私が合格した年は2,700人の合格者が出ましたので、何かアドバンテージをとらなければと思いました。そんな中で自分には卒業まであと2年間という時間がありましたのでこの期間を有効に使おうと考えました。公認会計士は会計の専門家ですが、英語ができなければせっかくの知識も世界に通じない、そのためにはU.S.CPAに合格することが一番の近道だと思いチャレンジすることに決めました。

もう一つ会計士試験に合格後、最年少合格者（当時）ということで「AERA」に取り上げていただいた際に、勝間和代さんから、「これからは公認会計士試験に受かったということだけでなく、それプラスアルファーがある人にならなければいけない」というコメントをいただきました。このこともU.S.CPAにチャレンジするきっかけとなりました。

Q 学習を始めたときの英語のレベルはどのくらいでしたか？

U.S.CPAの勉強を始めた時点では、英語に関してはまったく実力が無かったですね。英語が苦手だったからU.S.CPAを受けたと言ってもよいくらい……。高校3年生でTOEIC®を受けたときは560点くらいで、これはちょっとまずいのではないかと思っていましたが、それ以後も英語は本気で勉強しなかったので、おそらく高校3年生の時よりは若干低下しているぐらいのレベルだったと思います。大学時代も英語は必修の授業をしぶしぶとって課題を出していた程度でしたので、あまり身にはなっていなかったのではないかと思います。本当にU.S.CPAの学習を始めた頃は英語に関しては自信ありませんでした。

Q TACをお選びいただいた理由は？

TAC以外の学校はまったく考慮しませんでした。公認会計士受験の際、TACで勉強して合格しましたので絶対的な信頼感がありましたし、かつ合格できた恩義みたいなものも感じていました。

Q 実際にU.S.CPA講座をご受講いただいて良かった点はどんなところでしょうか？

特にすごいなあと思ったのはBusiness Lawの杉浦先生とTaxの内田先生の授業でした。試験に出やすいポイントのまとめや、勉強方法のアドバイスなど、この試験に精通しているからこそできる匠の技のようなものを感じました。私も一時期、会計士講座で簿記の講師をさせていただく機会がありましたが、あんな風に講義ができたらいいなあと思いました。

Q 受講形態は？

基本的には通学でしたが、Business Lawが始まった辺りからさぼり気味になってしまいました。ただ受験手続きだけは進めており、今年2009年8月にテストセンターから受験票が届いたときは「このままだと間に合わない」と危機感を感じて、慌てて立川校に行ってカセットテープフォローをしたりしました。ただ、私の場合、会計の知識がありましたので、残りのAuditについては受講時間を節約して、テキストの中で日本と違うところに焦点を絞って勉強することで学習時間を節約することができました。

Q 学習方法は？

私の場合、満遍なく勉強したというよりは、日本の公認会計士試験とU.S.CPA試験とで違う点を中心に学習を進めました。最も時間をかけた科目はRegulationです。Tax とBusiness Lawは日本の会計士試験には全く無い部分でしたので、そこに全体の勉強時間の3分の1ぐらい、あるいはそれ以上に時間をかけました。

FARはFAR2の講義内容まではだいたい日本の会計士と同じような内容でしたので、日本と違うところだけテキストに付箋を付けてそこを集中的に勉強しました。ただFAR3の公会計は日本の会計士試験では全く扱われない分野でしたので、ここは必死にやりました。

Auditについては基本的にはテキストを中心に学習を進めました。監査証明のやり方等については、日本と違うところを意識しながらテキストをじっくり読み込みました。Beckerは択一問題とFinal Examを中心に解きましたが、時間が限られていましたので、ポイントを絞り、問題をピックアップして解きました。

BECについては管理会計の部分は日本の会計士試験とほとんど同じでしたが、ITについてはテキストを何回も読んで切り抜けることができました。

Q 受験地でのエピソードは？

全科目グアムで受験しましたが、実は困ったことが起こりました。男が一人でグアムに行くのは怪しいと疑いをかけられ入国審査にひっかかりまして、挙げ句の果てには別室に連れて行かれ、入国の目的や滞在期間、ホテルはどうやって探したのか等いろいろ聞かれました（笑）。ホテルが観光地周辺ではなく、テストセンターのすぐ近くのホテルを予約していたので、それが怪しまれたらしいのですが、最終的にはなんとか無事に入国できてホッとしました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

私自身の受験勉強を振り返ってみますと、もう少し計画性をもって学習を進めておけばよかったと反省しています。U.S.CPAの試験は受験時期を自分で決める事ができるので、自分の都合に合わせて受験できるというメリットがある一方、いつ受験するのかをきちんと決め、計画性を持って勉強しないとだらだらと時間が過ぎ、最後に焦ることになってしまいます。

あとは入国審査の際に疑惑の種となったホテルですが、テストセンターに近いホテルでしたので本当に便利でした。私が滞在したグアムのホテルはテストセンターから歩いて5分くらいのところでしたので、タクシーに乗らなくてすみましたし、食事も近所で調達できてとても楽でした。ただし日本の旅行会社では扱っていないホテルですので、お勧めするのもどうかとは思っています。私はそのホテルのHPに掲載されていたメールアドレス宛にメールを送り自分で予約しました。観光地から外れていたこともあり、Weeklyで400ドルでしたので、宿泊代としては安かったと思います。

段取りをする、そして諦めないことが大切

羽馬　慎哉 さん

1978年2月生まれ（31歳）
南山大学 外国語学部英米学科 2000年3月卒業
勤務先：（株）ヴォークス・トレーディング
プロダクトマネージャーとして食品の輸出入を担当

2009年5月　USCPA試験合格（メイン州）
FAR：92点（2009年5月／1回目）、BEC：83点（2009年4月／1回目）
REG：92点（2009年4月／1回目）、AUD：84点（2009年4月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

漠然としたキャリアアップをしたいという思いと、大学などでビジネスの勉強をしていなかったので、経営やビジネス全般のスキルを高めたいと思ったのがきっかけです。現在は食品の商社で働いているのですが、たまたま英語が得意で仕事でも英語を使いますし、将来的に海外に出る可能性もあるので、今のうちに力をつけ、何か形になるものを残したいと思って受験を決めました。

Q 商社でのお仕事の内容は？

商社での仕事は営業で、輸入と国内販売の仕事です。U.S.CPA試験の内容と直接的には関係はありませんが、仕事の上でも会計の知識が必要ですし、これはU.S.CPAの勉強をする魅力だと思うのですが、法律、税務、内部統制とビジネスに関する項目を全体的に広く勉強しますので間接的に現在の仕事にプラスになっていると感じています。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語のレベルはTOEICで確か870点くらいだったと思います。会計の知識は特に簿記等の資格は持っていませんが、日商簿記3級程度の内容は一通り理解していました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

他校とTACのセミナーに参加し、比較してみて、まずフィーリングで、あとは教材を見て決めました。Beckerについて当時私は全く知識が無かったのですが、教材の中身がしっかりしていると思いましたし、TACの教材を見ているうちに単に資格を取るだけではなくて勉強もしたいという気持ちが沸き上がってきたので、TACを選ばせていただきました。

Q TACで受講してよかったところは？

実際に試験を受けてみてBeckerがあるのは強かったと思いますね。あとは、内田先生の授業が非常にわかりやすく、授業中に勉強方法についても的確なアドバイスをしてくださったので、それを他の科目に展開していくこともでき、たいへん為になりました。

Q 受講形態は？

DVD通信でした。教室に出ることもできたので1回は雰囲気を味わいに出席したいと思っていたのですが、結局行けませんでした。

Q 学習方法は？

全般的にはDVDを見てひたすら問題集を解くという感じで進めていきました。なるべく毎日勉強の為の時間を確保するように心がけ、1日の学習時間、毎月の学習時間の目標を設定して勉強していました。講義の受講はカリキュラムどおりFAR、BEC、REG、AUDの順で進めました。去年（2008年）の1月から始めましたが、最初のFARは仕事が忙しく学習時間が取れない時期もあり、半年くらいかかってしまいました。その次のBECは8月～9月にかけて約1ヶ月半、REGは10月～11月初めくらいまでの1ヶ月半、最後AUDはその後1月の半ばくらいまで2ヶ月くらいかけて講義を受講しました。初回の受験は2009年4月と5月でした。受験の順序は覚えている科目から先に受けようとAUD、REG、BECの順で受けることにし、この順番で仕上げの試験勉強をしていきました。まずAUDは勉強したてで結構覚えていることが多かったので、ひたすら問題集を解きBeckerも何回転もしました。次のREGも思い出しながら直前対策講座を科目ごとにまとめ、ある程度のレベルになったところで次にいくという形で進めていきました。科目ごとにBeckerを一巡して直前対策もやって、その後Final Examも１回ずつやって、2009年の1月の半ばから3月一杯くらいまでの2ヶ月半その繰り返しでした。1科目3週間ずつという感じでした。そして直前の時はもうひたすら1週間単位で科目ごとにコンピュータでBeckerを解きまくりました。そうやって試験に臨みました。

Q 本試験受験のスケジュールは？

4月に3科目（AUD、REG、BEC）まとめて受験し5月にFARを受けました。 4月は8・9・10の3日間で1日1科目ずつ受けました。最初は渡航費用を抑えたいという理由もあり4科目一気に受けようと思ったのですが、やはりFARまで仕上げる時間がなかなか作れなかったことと、ハワイで受験したのですが4科目とも受けるとなると長期の休みを取らないといけないので、とりあえず4月は3科目受験することにしました。ですからFARは3科目（AUD,REG,BEC）の受験後また改めて勉強をし直しました。その時はFARのSimulation対策講座を見て一通り復習をし、あとはひたすらBeckerでした。それをFAR受験までの1ヶ月半続けました。

Q 通信でご受講されて、モチベーションを維持するために工夫されたこと、気持ちの持ちようは？

1日何時間とか平日で3時間、週末で6～8時間ずつ、合格までに必要な学習時間が1,000時間として1ヶ月100時間、1週間で25時間という細かく達成できるような目標を決めてそれを達成できると「ああやったぞ」という気持ちになれるように頑張りました。そう感じられるレベルまで計画をブレイクダウンしたこともモチベーションを高めることに役立ったと思います。

Q すべて1回で合格されていますね。

全科目はじめての受験でしたので不安はありましたが、不可能ではないなと思っていました。BeckerのFinal Examは75点までいっていませんでしたのでちょっと不安でしたが、Beckerの問題はちょっと難しい設定になっていると聞いていたので、直前でまた勉強すればいけるかなという感じでやっていました。ただ、正直本試験を受けてみてこの点数が出るとは思っていませんでした。どの科目もできなかったなと感じていたのですが、これは結構自分を追い込んだ結果だったのだと思います。

Q ハワイの会場で受験された際のエピソードは？

交通も特に問題ありませんでしたし、会場のスタッフも問題ありませんでした。ちょっと耳に当てる防音のヘッドホンがきつくて痛かったくらいです。

Q ハワイを選んだ理由は？

グアムはサーチャージがあるのでそれを含めて考えるとハワイとそんなに料金的に変らないということと、ハワイのほうが飛行機の席の予約がとりやすいというのが理由です。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

最後まで諦めないことだと思います。皆さん直前まで必死で勉強して試験に臨むと思いますが、私の場合も試験前日の朝ハワイに着いて夜中の1時くらいまでホテルでひたすらBeckerをやり続けました。それが無かったらここまでの点数はとれなかったと思います。実際、本番でBeckerで解いたことがある問題が結構出ました。ホテルまでパソコンを持ち込んでBeckerをひたすらやり続ける、間違えたところを繰り返し解いていく、そうしたぎりぎりの追い込みが大事だと思います。

それと、私の場合この点数をとれたのは、たぶんWritingで点数が取れたことも大きかったと思います。Writingは中身というよりも構成とか文法が問われると聞いていましたが、もともと日々英語を使っておりますので、その辺は私の得意なところでしたね。Writingを捨てて、マルチとかシミュレーションを必死でやってぎりぎり合格っていうのもありだと思いますが、Writingで落としてしまうのはもったいないと思います。特に日本人は文法は得意だと思いますのでWritingを捨てずに勉強した方が合格しやすいのではないかと思います。

後は段取りですね。学習時間をブレイクダウンし、全て期間を決めて直前の受験勉強をしました。期間を超えてしまったら予定通り次の科目にいくという段取りも非常に大事だと思います。段取りをして、そして諦めないことが大切だと思います。ご健闘をお祈りします。

合格と同時に、自然と英語力も養われていた

匿名希望 さん

2009年10月　USCPA試験合格（メイン州）
FAR：83点（2009年4月／2回目）、BEC：77点（2009年4月／2回目）
REG：85点（2009年8月／1回目）、AUD：84点（2009年10月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

以前勤務していた会社でCFOへ昇格する機会があったが、最終的にU.S. CPAホルダーでないことが理由で米国本社の承認がとれなかった。そのときの悔しさから勉強を始めました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

学習開始時には日商簿記２級と証券アナリスト資格は保有していたので、基本的な会計知識はあったと思います。英語力は決して高くない状況（U.S.CPA学習開始の4年前に受験したTOEICは530点）。2009年5月にTOEICを受験したら785点でした。知らず知らずのうちに英語力も養われていたようです。

Q TACをお選びいただいた理由は？

証券アナリスト、宅建主任者資格取得時にお世話になっていたので安心感があった。他の学校と比較して、TACのROUTE99(本科生)は授業時間数も多く、BeckerのテキストやCD演習が使用できるので、かなりお得な感じがし、最終的にTACに決めました。

Q TACの講座でよかったところは？

一番はBeckerの教材が使用できること。内田先生のレジュメは要点がコンパクトにまとまっていたし、内田先生と杉浦先生の授業はメリハリがあって理解しやすかった。受験手続等で疑問点が出たときに何度かメールで相談をさせていただいたことがありましたが、その際には迅速かつ丁寧なご対応をいただけたこと。受講生サイトでテストに関する最新情報は受験対策として役立ったし、「講師のぶっちゃけ話」では学習中の不安などが解消されたので、これからも続けてほしいと思います。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信。学習開始時はまだメイン州の受験要件緩和がなされていなかったため、アラスカ州への出願を念頭に不足単位の取得を先行していました。緩和されてからメイン州に変更したので、学習開始から合格までは２年間です。

Q 合格までの学習法は？

繰り返しBeckerの演習をし、正答率が上がらない論点や疑問点をBeckerとTACのテキストで復習し、更に重要であると思う論点、間違えやすい問題、なかなか覚えられないもの等を「まとめノート」にまとめて、最低でも１週間に１回は必ず見て覚えるようにしました。

FAR：１回目受験のときは各論点を理解することで精一杯だったが、実際に受験してみたら細かい論点を問われることもあるが、財務諸表でどう表記されるかという問題の方が多いと感じたので、2回目は各論点が財務諸表のpresentationにどう結びつくかまで理解するようにした。また1回目はsimulationよりもmultiple choiceに重点を置いて学習していたが、受験に失敗してsimulationも同じくらい重要だと感じ、2回目はsimulationも繰り返し何度も演習した。

BEC：受験者によって出題論点の配分が異なるため、やや運の部分もあると感じたが、確実に点数がとれるMA、ECO、BSを重点的に学習し、専門知識がないITはBeckerの演習問題が確実に解けるようにした。

REG：内田先生の直前まとめを中心に論点や数値を覚え、ひたすらBeckerの演習に取り組んだ。

AUD：日本人受験生が一番苦戦する科目と聞いていたので、自分で作成した「まとめノート」を毎日読み返し、report sampleのコンテンツを手で書いて覚え、Beckerの正答率が100%になるまで演習を繰り返した。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

学歴審査は通常1～1.5ヶ月のところ、混雑のため2ヶ月もかかった。NTSは実際には申請から2週間程で発行されていたのに、emailアドレスをNASBAが間違えて登録して届かずこちらからの問合せで初めて発覚した。そのため2ヶ月近くかかった。NASBAのミスでもNTSの有効期間は変更されないので、早目に問合せされることをお勧めします。

REG受験時は、グアム出発当日に予定していたフライトが欠航になった。運よく他の航空会社へ振り替えしてもらえたので難なく受験できたが、海外での受験は国内での受験と比べると色々大変だなと改めて認識した。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

私は元々一人旅の経験がなかったこともあり、初受験のときはかなり緊張してしまい結局2科目とも不合格でした。ただ、渡米費用は無駄になりましたが、実際のテストの雰囲気やBeckerだけではわからなかった出題傾向（類似したMCが各テストレットに出題されたりすることが多い、Beckerよりも問題文が短いなど）みたいなものを感じ取ることができ、その後のテストは全て１回で合格することができました。費用と時間の問題はありますが、できれば早い段階で一度受験されることをお勧めします。

Multiple choiceの点数配分は確かに大きく、合格者の方々のお話を聞くとmultiple choiceで満点とれるように重点的に学習したという方も多かったのですが、私個人は1回目の受験後に、合否を分けるのはsimulationだと感じました。REG受験時にはBeckerのsimulationとほぼ類似した問題が1題出題されましたし、Beckerには掲載されていない問題であってもsimulationを演習する際に、論点の再復習をすることで十分対応できると思いましたので、後回しになりがちなsimulationや模擬テストですが、こちらも早い段階から繰り返し演習することをお勧めします。受験直前でいいので、AICPAリリース問題も必ず解いたほうがいいと思います。類似問題がよく出ます。

また、不合格になると本当にBeckerだけでいいのだろうか、繰り返し解きすぎて答を暗記してしまっているだけではないだろうかと不安になることがありますが、あれもこれも手を出さず、Beckerだけを信じて繰り返し取り組めば必ず合格できると思います。

仕事との両立に苦労しながら1科目ずつ合格しました

下村 裕美 さん

2009年8月　USCPA試験合格（デラウエア州）
FAR：76点（2009年5月）、BEC：86点（2008年10月）
REG：87点（2008年11月）、AUD：83点（2009年8月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学卒業後コンピュータ関連の会社に就職しましたが、自分に付加価値をつけて、自分のレベルを上げるために何かを勉強しようと思うようになりました。そこで何を勉強するか考えた時に、会計の仕事はどこの企業にも必ずあるので、どこかで必ず役に立つだろうと思い、学生時代に存在を知ったU.S.CPA試験にチャレンジすることにしました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

昔知り合いだった学校の先生がどういうご関係かまでは聞かなかったのですがTACで教えている杉浦先生がとても良い先生だとおっしゃっていたことを覚えていて、他のスクールとは比較せずに申し込みました。杉浦先生の講義は受けてみたら本当に面白く楽しかったです。

Q 受講してみてよかったところは？

スタッフの皆さんに良くしていただいたと思っています。5年間継続再受講制度を5年間目一杯使いましたがその間に受付窓口のスタッフの方には頑張ってくださいと声をかけていただいたり、なかなか合格出来なかった時に講座の相談窓口に一度予約して個別相談を受けさせていただいた時には、勉強の仕方であるとか、考え方であるとか親身にアドバイスくださったりして、TACのスタッフの皆様がとてもよくてそれに支えられて合格できたのだと思っています。

Q 受講形態は？

最初は教室講座に申し込みましたが、申込んだ直後に会社で忙しいプロジェクトに入ってしまい、月曜日から金曜日まで毎日夜中まで仕事をしていましたので全然予習、復習など何も無くまた次の週に講義を聞くだけでしたので1年目は正直なところ理解が全然できなくてこういうエリアの勉強をしなくちゃいけないんだくらいのことが何となく分かった程度で終わってしまいました。2年目は八重洲校に通いDVDで受講しました。

Q 2年目も一通りの科目をもう一度八重洲でご覧になりましたか？

そうですね。1年目では講義内容をほとんど理解できなかったことと、私の場合、出願州の受験資格を満たすために提携大学の追加単位も取る必要がありましたので追加単位の取得スケジュールに合わせてよく理解できていない教科から受講しました。

Q 合格までの学習法は？

単位を取り終わった後に今度は本試験ということになってきたわけですが基本的には私は全科目を勉強してから受験というパターンはとてもできる状態ではなかったので、1科目ずつ勉強していく形を取りました。どの科目もまずはTACの講義を受講し、TACの問題集を解いて、次にBeckerの実践トレーニング集の問題を解いて、理解できなかった時はまたTACのテキストを読みました。TACの問題集とBeckerの実践トレーニング集に掲載されているMCの問題数だけで相当ありますのでそれを繰り返し解いていけばどこが分かっていないかが分かるようになりました。Beckerの英語のテキストは読みませんでした。このようにTACのテキストとBeckerの問題集を中心に学習し、受験に行って合格できなかった科目についてはまた次の年にまた分からない部分だけまたDVDで受講しました。

それで受験に行ったときのことをお話しますと、2科目ずつの受験が良いと聞いて2科目ずつ受けたのですが2科目ずつ受けたときにどちらの科目にも集中しきれなくて意識が分散してしまい、2科目それぞれ73点と74点で落ちてしまったことがありました。すごく悔しくて悲しくて、それからは、どんなに渡航費がもったいなくても1科目ずつ受験することにし、1科目ずつ合格しました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

手続についてはわからないことはTACで教えていただいたので特に問題はありませんでした。この試験は1つ目のテストレット（問題群）が終わった時にその出来具合で次のテストレットの難易度が変る試験なのですが、FARで合格した時、実は2つ目のテストレットで簡単な問題が出て来てしまい、その時わたしは「ああ1つ目のテストレットが出来なかったんだ。もう残りの試験時間頑張っても今回はダメなんじゃないか」と試験中暗い気持ちになってしまいました。そうして4時間暗い気持ちで受けたのですが76点ぎりぎりで合格しました。この経験を通じて受験中に絶対あきらめないことが重要だと実感しました。FARの4時間という試験時間は長いので途中で気分の起伏などあると思いますが途中のテストレットで今回はもうだめだと思ってもし投げやりで答えていたら合格できなかったと思います。試験時間中はメンタリティーを保ちつつ、最後まで丁寧に問題を解いていただくのがよいというのがこれから受験される方へのアドバイスです。

それと、受験地で会った人と励ましあうようになったことは意義深かったです。私の場合は合格まで長い期間がかかりましたので一緒に講義を受けた方とは途中からはぐれてしまったりして受験までのタイミングが合わなかったりしました。それと途中までご一緒だった方にメールを途中に出してみて「頑張ってますか？」と聞いてみることもありましたが女性の方は途中で諦めてしまう方が多いのか、「今は勉強していません」という返事が帰ってくる方が多くて途中から孤独な感じになってしまったこともありました。しかし受験に来られている方は勉強を続けている方なので受験会場で出会った他のスクールで勉強されている方ともお友達になって「あと何科目なんです」という形で、帰ってきてからもメールで励ましあっていくことが出来たので受験地で出会う受験生の方と話しをするというのもよいことだと思います。

Q 会場はすべてグアムで受験されましたか？

はい。グアムです。余計なことを考えたくなかったのですべてグアムで受験しました。

Q 受験前後の過ごし方は？

大体飛行機の中で例えばREGとかは最後の直前30問とか切り出してくださっていますが、ああいう教材を前日はやっていました。あとはホテルに着いてからテキストを読み直すくらいでリラックスして早く寝ようと思うのですがだいたい寝られませんでした。「あそこが出たらどうしよう。ここが出たらどうしよう」とか、どうしても考えてしまうので、もうリラックスするのは試験が終わってからだと諦めていました。どうせ眠れないのでテキストを眺めて過ごしました。仕事もありましたので受験時は大体前日に渡航するのですが渡航する時は直前何十問とテキストだけを持っていきました。しかし、出発前までに必ずBeckerの全問、Supplemental Questionもですし、あとCDについているSimulationの問題も全部、Simulation対策講座に入っている問題も全部、とにかく持っている教材を全部やりました。そして全部やった時は合格する、と実感しました。全部やらなくても合格できる方も大勢いらっしゃると思いますが、私の場合は、全部やっておくことで本番のときに落ち着いて受験することができました。全部やれば合格できるだけの問題数と教材をTACから与えられているので、心配な方は全部やりきっていただくと良いと思います。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

私のように仕事も忙しく、すぐに合格できない人もいらっしゃると思います。一方、すぐに合格できる方もいらっしゃってそういう話を聞くとあせる気持ちも沸いてきます。しかし、さきほどお話したように受験地やTACで出会った方に連絡を取ると苦労されている方もいることが分かったことも事実で、それはTACの授業が悪いとかではなくて個々人皆さん仕事があって忙しいとか事情はいっぱいあると思うんですね。大学の時に会計を勉強したことがないとかそれは人それぞれだと思いますので苦労される方がいて当然だと思いますので、あきらめないことが重要だと思います。仕事で勉強できない期間があったとしてもいつか合格するということだけを念頭において、もし勉強を中断せざるを得ない状況になってしまったとしても、また勉強できる時期が来たら必ず再開して受験に行くこと決めて、今途中までやってきた方にはぜひ最後までやっていただきたいと思います。

Q 今、U.SCPAの受験を通じて身に付けられた知識はお仕事で役だっていますか？

私達の会社のお客さまは企業で、その業務をシステム化することが私達の仕事です。U.S.CPAを勉強することで業務に係わるお話の内容がより理解できるようになったと感じています。今後は会計のエリアも含めてお客様に係わっていければと思っています。

Becker教材パックで不得意科目を克服！

花越 美雪 さん

1967年12月生まれ
勤務先：NY現地法人日系出版会社
TACでBecker対策パック（BEC）を米国で受講

2009年8月　USCPA試験合格（モンタナ州）
FAR：80点（2008年8月／1回目）、BEC：81点（2009年8月／4回目）
REG：76点（2008年11月／1回目）、AUD：78点（2008年11月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

渡米後、時代を問わずいつでも必要とされる職業なら経理だと、26歳で初めて英文会計を学び、それから現在に至るまで経理の仕事を続けてきたのですが、さらに上のスキルと知識を身につけ、それを資格という形で証明できるものが欲しかったからです。

Q TACをお選びいただいた理由は？

要領よく短期合格できるカリキュラムと教材を探していたことと、友人からの薦めもあったことでTACを選びました。

Q TACの講座でよかったところは？

Becker対策パックです。MCは厳選された質のよい問題で構成されていて、特にBeckerテキストと問題集の解説は、他のどの洋書よりも“丁寧で細かく、分かり易く”本当に優れた教材だと思いました。この対策パックで不得意分野の理解を深めることが、合格への近道になったのだと思います。また、実践問題集は綺麗に切り離すことができるので、持ち歩きにとても便利でしたし、Pass Masterでは試験直前に１問90秒以内で解くタイムマネジメントの練習や正解率の管理、進捗度管理、Beckerテキストの対応ページをPC画面上で瞬時に参照できるなど、オプション機能が非常に役に立ちました。

Q 勉強時間は？

2008年8月にFARとBEC、11月にAUDとREGの２科目ずつの受験でしたので、平日は朝出勤前の１時間、出勤後オフィスで始業時間前の30分間、お昼休み30分間、帰宅後2時間～3時間の合計平均4～5時間、残業で忙しい時でも最低一日2時間を目標に勉強時間を割いていました。週末は土日合わせて最低10時間～12時間、試験前の追い込み時期１、２ヶ月前は、土日の合計時間が16時間～20時間になることもありました。

Q 合格までの学習法は？

私は比較的合格しやすいといわれているBECに手こずりました。合格まで４度も受験をし、2度目と3度目は74点でやる気を失しそうになるほど悔しい思いをしましたが、その1点の差はとても大きいものでした。4度目で81点が取れたのは、単にMC問題を多く解いてその正解率に満足するのではなく、間違えた問題はもちろん、正解の問題でも英文解説を必ず読み、さらに不得意分野においてはBeckerテキストを熟読、またその分野に詳しい人に聞くなどして、確実に理解を高めたことが良かったのだと思います。特に管理会計では計算を解くことに重点を置いてしまいがちですが、基本的理論がきちんと理解できているということが、75点を突破する上でとても重要なポイントだと思いました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

試験会場はNYミッドタウン、初受験は8月だったのですが、冷房がガンガンに効きすぎていて、ガタガタ震えながらFARの問題を解いていました。今思い返すと、良くあの寒さを我慢できたなと思います。夏場に受験される方、特に女性で冷え性の方は当日の服装の準備に十分注意してください。また、試験中に気分転換としてトイレ休憩を取られる方もいますが、私は時間の無駄だと思ったので一度も休憩は取りませんでした。特にFARやAUDは長丁場ですので、当日は朝からコーヒー類などトイレが近くなるものは避けるようにしていました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

どんなに忙しくても疲れていても、MCを１問だけの日があってもいいから、必ず毎日勉強を続ける努力が合格への早道だと思います。働きながらでも、通勤時間やお昼休みなどの隙間時間を利用すれば、短い時間でも積み重ねれば結果は大きく変わってきます。また、時間配分を如何に制するかも合否の分かれ道です。Becker対策パックには模擬試験(Final Exam)が2回分ついていますので、本番で慌てないためにも必ず模試で時間配分の練習をしてください。そして、試験直前は新しい問題や難問には手をつけず、基礎の見直しの重視をお薦めします。本番では時間配分だけには十分気をつけて、見たことのない問題でも慌てずに、最後まで諦めずに一点でも多くもぎとるつもりで臨めば、必ず合格できる試験です。頑張ってください。

私のような者でも、TACのROUTE99で学べばU.S.CPAは合格可能である

匿名希望 さん

会社員

2009年5月　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：77点、BEC：75点、REG：75点、AUD：78点

「私のような」と書いたことには理由があります。

U.S.CPA合格を目指している（又は目指すか迷っている）皆様は、自身の英語力と経理/監査の実務経験の2点を気にする方が多いのではないでしょうか。私はこの2点について、それはもうひどい状況で勉強を開始しました。具体的には次の通りです。(英語力については1つの指標としてTOEICのSCOREを記します)

- 英語力　⇒ TOEIC465点
- 実務経験 ⇒ 会計/経理/監査などいずれの実務経験も一切無し

要するに素人です。恥を忍んで追記しますと、最終合格科目(AUD)を受験する2週間前にTOEICを受けました。その時のSCOREでさえ555点で、これが今でも自己最高です。

全科目合格時にこのSCORE水準の方は周囲にあまり見かけません。

【合格できた理由】

自身の合格の理由を考えたとき①TAC講師陣　②教材　③勉強仲間の3つが真っ先に浮かびます。

以下、其々詳述します。

（1）講師陣について

私が考える「プロの講師」の要件は次の通りです。

- 受講生にわかりやすく教えるスキルを持ち
- そのスキルを持って受講生が本当に理解するまで教える情熱を持っている

内田先生、乾先生、清松先生、杉浦先生がいることはTAC社の強みです。この先生方に質問をした時、理解が遅い私に対していつも最後まで丁寧に教えて下さいました。

幸せなことに、私の受験当時、本試験全4科目396点満点の内の350点程度の範囲はこの方々がTAC社の授業をお持ちでした。個人的な意見ですが、この先生方の言う通りに勉強をすれば本試験でも80%のSCOREは獲れると思います。(私は半端なく英語が不得意で、そこから－5%でしたが･･･)

（2）教材について

BECKERを繰り返し解き本試験に臨むと、どの科目でも数問は同じような問題に出くわしました。また、レベル感も本試験と大差ないと思います。時間的に余裕の無い方は、他の問題集に”浮気”をしないことをお奨めします。

（3）勉強仲間について

最後に、勉強仲間はとても大切です。理由は･･･受験手続の情報共有や、互いに励ましあうことでの精神的な安定、切磋琢磨し合うことでのモティベーションの維持etcこの場でとても書ききれません。

通信で学習されている方々も、TACのUS･CPAのサイトには受講生掲示板がありますので是非とも情報を共有できるご学友を見つけて下さい。

以上、率直に思ったことを書きました。私はU.S.CPAに関して他の専門学校で学んだことがありませんので、当然ながら「TACがベスト！」などと公言するつもりはありません。

ただ、私のように　■英語がだめ　■実務経験なし　■働きながら　という条件下であってもROUTE99で合格出来る者がいることをお伝えしたいと思います。

U.S.CPA試験は、経済的負担が軽くないことと、試験範囲が広いので容易く短期間で合格出来ないことから、途中であきらめてしまう方が多いと聞きます。

私の合格体験記には受験のテクニックなど皆様の即効薬になることを記すことが出来ません。

ただ、現在勉強中で多少の不安を感じている方の気持ちが少しでも楽になり、途中あきらめることなく合格まで辿り着くための一助になればこれ以上嬉しいことはありません。

勉強中の皆様、合格目指して頑張ってください！

【長々と申し訳ございませんが自身の反省をふまえ、以下余談です】

複数回に分けて本試験受験なさる方へ

出来れば初回受験時は2科目以上の合格を狙ってください！

ご存知の通りこの試験には合格科目のExpireがあります。私もこの制度にハラハラさせられました。

Expireを考えなくても良いように早め早めに攻めて下さい。

合格者は合格までの間に、受験手続きや宿泊地の手配など、この場では書ききれない様々な経験をしています。大したアドバイスは出来ないかも知れませんが、私でお力になれることがあればご協力させていただきますので、TAC米国公認会計士講座事務局までご連絡下さい。

TACにしておいて本当に良かった！

匿名希望 さん

2009年8月　USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：80点（2008年11月／1回目）、BEC：89点（2009年2月／1回目）
REG：81点（2009年2月／1回目）、AUD：81点（2009年8月／3回目）

お陰さまで、先週最後のAUDの合格通知が届き、これで全科目合格となりました。

これもTACの先生方のご指導の賜物と大変感謝いたしております。

私事で恐縮ですが、年齢的に、管理職としての仕事の忙しさに加え、育児・家事等々、受験勉強よりも優先しなければならない事項が多い身のため、自分の自由になる時間そのものが大変少なく、ろくに受験勉強をしなかったので、他の受験生の方々の参考にはならないのですが、勉強に使える時間が非常に少ない私にとって、TAC講座のお陰で、限られた時間内で効率的に試験に備えることができたのは、非常にありがたいことでした。

特にREGは、内田先生と杉浦先生の大変分かりやすい講義が無ければ、ただの無味乾燥な丸暗記科目ともなりかねないところでしたが、両先生のピンポイントで分かりやすいご解説のお陰で、効率的に学習を進めることができ、本当にありがたい限りでした。

また、受験のための手続関連が懇切丁寧に網羅されている受講生サイトも、時間の無い身にとっては自分自身で調べる時間の節約につながり、その分、貴重な時間を少しでも試験勉強に振り向けることができて、大変助かりました。

U.S.CPA受験を考えた際に、あまり深く考えず、他の予備校を検討することもなく最初からTACを選んだのですが、学習が進み、「TAC＋Becker」コンビの素晴らしさを肌身で知るにつれて、「TACにしておいて本当に良かった！」と実感しました。

これまでのサポートに心から御礼申し上げます。

どうもありがとうございました。

受験を通じて、多くの方へ感謝することを学びました。

田中　智代美 さん

勤務先：株式会社三菱東京UFJ銀行
監査部業務監査室

2009年5月　USCPA試験合格（グアム）
FAR：80点（2009年4月／2回目）、BEC：78点（2008年5月／2回目）
REG：76点（2008年2月／1回目）、AUD：87点（2009年5月／2回目）
2009年8月Certified Public Accountant Inactive Individual License取得

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

TACで証券アナリスト試験に合格した後、2005年7月からU.S.CPAの勉強を始めました。ただ漠然と内部統制に関する勉強をしたかったからです。サブプライム問題もなく、JSOXの施行前で、内部統制の仕組みでは米国基準が一番進んでいるという認識でした。銀行の内部監査部門所属のためCIA（公認内部監査人）受験も考え、CIA試験で科目免除の特典があるcertificate取得を目指しました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

最初はANJOインターナショナルに入学しました。しかし2006年4月末にANJO名古屋校が閉鎖され、その後ANJOが破産、学習環境が一転し一度は受験断念を考えました。しかしTACやモンタナ州立大の救済措置のおかげで、2006年の6月末にTACに入学し受験勉強を始めからやり直そうと決心できました。モンタナ大の救済措置は、アメリカの奨学・寄付の精神を身をもって知る機会となり、REGの勉強内容が身近になりました。ROUTE99（本科生）申し込み前に、名古屋校のDVD体験講座で、無理を言って、理解しにくい年金会計のコマを見せていただきました。TACのU.S.CPA講座は英語ができないと受講は難しいのではないかと思い込んでいましたが、大きな誤解で大変分かりやすい説明で驚きました。

Q TACの講座でよかったところは？

先生がたの熱意が伝わる講義で、DVD講座を受けるのが楽しかったです。どの科目の講義も、わかりやすく、重要な部分がおさえられていて無駄がありませんでした。テキストの重要個所に、線や丸をつけることを指示してもらえることが多く、自然にポイントが絞られていきました。対象のアメリカの基準や法は、日本の制度や考え方と違う点があります。アメリカの考え方・慣習に根ざした成立理由や発想といった背景がわかる説明で、イメージしやすく理解しやすかったです。

5年間継続再受講制度はフルに活用しました。ROUTE99（本科生）を終了後は、通常講座や直前対策講義を利用しました。テキストは6カ月ごとに更新され、新たに採用された基準・数値などがしっかりアップデイトされており、とても助かりました。内田先生のTAX・NPA では、わかりやすい「直前対策まとめ」が毎回さらなる進化をしていました。「つながり作戦」、「イメージ作戦」の詰まった直前対策まとめのおかげでTAX・NPAは、得意分野にできました。REGを初回受験で合格できたのは、まとめで論点とtax returnの構成が整理・理解できたおかげです。

Beckerは起動用CDの使用期限1年を気にして使わずにいたのですが、本当にもったいないことをしました。過去問を解いて試験の傾向をつかむには、早い時期から使用するべきでした。Beckerを使用して、初めてMC1問あたりにかかる回答時間を意識しました。本試験のSIMでは計算機や画面遷移のちょっとしたことが、想定とは違う動きをするのでストレスになりますが、Beckerはこうした使い勝手の部分も再現されているように感じます。受験前に試しておくといいと思います。Beckerのよさがわかると、試験直前でもホテルでBeckerを使えるようにしたくなり、小型ノートパソコンを用意しました。

勉強にはTACの自習室をよく利用しました。帰宅経路なので、貸しロッカーにテキストや問題集を置き、時間が取れればDVD講義を受け、会社帰りにいつでも寄って自習できるようにしました。集中して勉強できる環境があるのはありがたいことです。夜の自習室で社会人の方を多く見かけると、目指す資格は違っていても皆頑張っている、自分も頑張ろう、と励まされました。

Becker の問題や通信講座のDVD視聴は自宅でやりました。家に帰ると、勉強を始めるまでに無駄に時間を過ごし着手できないので、早起きをして出社前に勉強しました。ずっと勉強は自習室でするものと決めていたので家では集中しづらかったのですが、真剣に合格することを意識して、Beckerを解くことそのものが習慣になると、苦にならなくなりました。

TEL(通話無料)の相談窓口でも、本当にお世話になりました。受験間際で焦っているのにBeckerのインストールがうまくいかないという相談にも、ご親切に対応してくださいました。自分を応援してくれるところがあることを知り、嬉しく、ありがたいと感謝しました。

FARは講座受講から本試験まで1年以上期間が空いたので、改定部分のキャッチアップにどこを再受講したらよいか、といった相談もしました。2回目のAUD受験１週間前に、Beckerテキストの改定部分の扱いについて確認したときは、AICPAの2009年リリース問題も必ず解くようにとアドバイスを頂きました。準備時間不足で省くつもりでしたが、解いてみると問題の傾向や雰囲気をつかむことができ、おかげで合格につながりました。一人で受験していると、ちょっとしたことで困ったり悩んだりするのですが、電話相談でアドバイスを頂戴し、助けて頂くことができて本当にありがたかったです。

USCPA試験は、受験要件が急に大きく変わる、申込方法や結果発表が州ごとに異なる、会計基準の変更分野が6ヶ月後には出題されるなど日本の資格試験とは全く違いました。最新の情報を入手することが大切なので、情報源や尋ねられる場所があることが受験を続けるうえでとても重要だと思います。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

名古屋校の通学ビデオ講座で、おもに夜や土日に受講しました。ビデオ(DVD)ルーム＝学習の場に行くと、そのコマは必ず終われます。また、講座の視聴期限があるので、必ず期限までに視聴しようというインセンティブが働き、通学ビデオ(DVD)教室のコマはすべて視聴できました(当時は通信講座だったBECのコマは、結局後回しになってしまいました)。

合格までは学習開始から丸4年、TACに移ってからは3年です。この間、銀行の合併準備業務で忙しい期間が続いたことや、母が入退院を繰り返した時期もあり、勉強を中断せざるを得ないことも何度かありました。一度中断すると、受講ペースをつかみ直すまでに苦労しました。しかし、これだけ期間がかかった最大の原因は、自分に確たる計画や動機がなかったからです。いつ頃受けるか、いつまでに合格するか、そのために･･･という発想に切り替えることが出来たのは、expireが迫ってきて1windowで2科目を受験することに決めてからでした。

また、この4年間で各州の受験要件やcertificateの要件が大きく変わり、私は学習を開始して1年弱の間に出願希望州を2回変更しました。現在のメイン州のような州がなく、一方でcertificateに拘ったため、変更のたびに必要単位数が増加しました。法学部出身で会計単位は4単位しかなく、ほぼすべての科目にわたり、23単位を取得しました。ANJO時代の取得は3単位で、TACに移ってROUTE99の受講をしながらモンタナ大の救済措置で受験し、1年強かけて20単位を取得しました。単位を揃え、出願するとひと段落ですが、受験から解放されたと錯覚し気が抜けてしまいました。その後NTSのトラブルで本試験受験までの期間をさらに開けてしまったせいもありますが、モンタナ大単位試験のための学習と本試験準備の学習とでは、かなり違うものになりました。TAXの数値は2回覚え直しが必要でした。

合格後は何がしたいか、そのためには、いつまでに合格したいかを決め、必要単位の取得計画を立てるようにしたほうがよいです。

Q 合格までの学習法は？

MCは先生方が勧めるように、厳選問題集・Beckerとも、全科目、一問一答式で、正誤を問わず、解説はすべて読んでから次の問題に進むようにしました。1問に10分も20分もかかり、思うように進まず焦りましたが、どれだけ時間がかかっても、ずっと続けました。

2回目のFAR、AUD準備では、「直前対策講座」のDVDを見て単元ごとに復習をし、対応するBeckerのMCを解きました。一問一答でBeckerのMC解説を音読しました。居眠り防止目的でしたが、頭に入りやすくなり、知識の定着に役立ちました。NPAは内田先生の直対まとめに、FAR・AUDは直前対策講座のテキストに、間違えたところや解説のよい表現、関連トピックのページなどをメモし、サブノートにしました。理解しにくいところは、Beckerテキストも見ました。ポイントを突いた図やまとめがあって、整理に役立ちました。

Beckerの回転数は少ないです。厳選問題集を終えてからBeckerを解きましたが、AUD・FARとも1回転目の正答率は50%未満で、その後は間違えた問題だけを正答するまで解きました。単元の累積正答率が90%に達しないところも残りました。サプル問題は手が回りませんでした。そのため本試験MC問題ではテストレットの難易度が掴めず、出来たかどうか不安でした。ぜひ早い時期から着手してください。

英語に関しては学習開始時から、あえて辞書を使わず、講義の解説や問題の日本語説明文から意味を理解するように努めました。学習開始3カ

月後の05年9月でTOEICは515。語彙が少なく、専門用語・一般的な単語の区別なく、わからない単語ばかりで辞書を使うと効率が悪いのです。特に専門用語は、特有の使い方もあり、講義で理解するほうが意味も正しくわかりました。ECOやFAは、すでに証券アナリストで日本語の用語や考え方を学んでいたことが大きかったです。

次第に、MCの計算問題で出題パターンがあるものは、わからない単語があっても題意がつかめるようになりましたが、文章題では簡単な単語の意味がわからず、YES・NOを反対に読み違えることもありました。

MCもSIMも、特に本試験では、問題の英文が長いだけで難しく感じました。受験生活最後の問題となったAUDのWCは、問題文の意味がわからず受験終了後も1週間くらい考えました。また、日本語なら分からないなりにも書けそうな関連トピックも英文では思うように書けず、悔しい思いをしました。

● AUDについて

AUDの直前対策講座テキストにはAudit reportが多数掲載されており、通勤時間などに音読し、書いてある順番などを覚えるようにしました。Audit Reportの細かい暗記事項には苦手意識がありましたが、何度も読むうちに、reportが非常に美しいことに感動しました。opinionはシンプルであること、シンプルだからこそunqualifiedから外れたときには約束ごとがいる、修正場所は読者への警告度合い、というように、自分なりに理屈が見えてきて覚えやすくなりました。

traceとvouchも何度問題を解いても正答できず苦労しました。ある時、自社のフローや用語に当てはめて、ソースドキュメントを「現物」、帳簿を「伝票」に読み換えたら、すんなり理解できるようになりました。

assertionもずっと苦手でしたが、BeckerのMCの一問一答・解説音読をするうちに、条件反射できるようになりました。解答時間が短くなり答えを暗記したのかと不安になるほどでした。「問題をみると答えがみえる」、この感覚を持てたことで、本試験でも解答スピードが上がりました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

● 受験手続について

グアムに出願しました。トラブルがあり、初回のNTS入手に3ヶ月半以上かかりました。2回目以降は、EMS発送後1週間～10日くらいでNTSが発行されました。先方から書類受取と不備の有無を知らせるメールが来て、その翌日位にNTSが発行され、とても早かったです。

今思えば、めどとされる期間経過時点でNTSが来なければ、自分からボードに確認のメールを送るべきでした。ほかの案件で、簡単な英文でボードに照会したところ、ちゃんとシンプルで分かりやすい文章で返答を頂きました。

● 結果発表について～～受験月順に来なかった

09年4月末のFARの受験結果が、5月中旬に受けたAUDよりも遅く、7月初めに来ました。受験の翌月に結果が来ないこともあるようです。

● 渡航と宿泊

すべてグアムで受験しました。初めての渡航の前日、大雪が降り積もり欠航を危ぶみましたが、朝方には止み、無事運行されて受験ができました。

5回目の渡航では、空港に到着した時点でフライトキャンセルを告げられました。2時間後に出発する他社便に振り替えてくれたので渡航できました。「ついてない、また不合格するのでは」という思いがよぎったものの、この一件をプラス方向に考えようとしたことで、精神的に大きく鍛えられました。

宿泊は、いつもオンワードビーチリゾートでお世話になりました。試験会場まで車で10分くらい、ロケーションも含め試験に集中できる環境でした。試験日の送迎でスタッフの方たちに「頑張って」、「次はバカンスでおいで」などと笑顔で話しかけられ、緊張がほぐれました。毎回、応援していただきました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

受験を通じて、物事への対応力を鍛えられるとともに、多くの方へ感謝することを学びました。プロセスから学べたことが大きな財産です。特にFAR・AUDの受験で、合格と不合格では、自分の気構えの差によるところが大きかったことがわかりました。

自分自身がいただいたアドバイスや、限られた期間内で2科目受験をして実感したことをお伝えしたいと思います。

いつまでに必ず合格するかを、自分で決めること。

合格科目は18ヶ月でexpireするものの、受験時期は任意で、いつまでも受験ができる気になっていました。私はいつまでに全科目合格するかを明確に意識しておらず、受験は1科目ずつで間隔も空けてしまいましたが、科目は異なっても学習内容につながりがあることや英文読解スピードを考えると、連続して受験するほうが効率的でした。

1回目のAUD・FARが続けて不合格で、expireまで残り2windowになると、合格発表時期が不確定なこと、再受験の申請書類送付にかかる期間、混雑するグアムテストセンターでの座席確保と、やるべきことの割に残された時間が少ないとわかり、大変なプレッシャーになりました。困難な事柄ばかりと悩んでいたところ「expireを考えると、2科目それぞれに2回のチャンスがある。とにかく2科目とも次の1windowで受けてチャンスを生かす。ダメなら次のwindowで受験すれば2回チャンスがある」と自分の常識を覆すアドバイスを頂きました。職場でも休暇取得を快く了承いただき、5月に受験予約済みのAUDに加え、4月末にFARを受験する計画を立てることができました。

受験すると決めたら、不合格したら次回があると逃げ道を作らず、最後の受験にするという気持ちで計画を立て、挑むようにしたほうがいいです。自分自身の気迫が違います。2回目のAUDは、合格でも不合格でも今回で受験は終わりにしようと、最後の戦いに挑む戦国武将のような気構えで臨みました。おかげで、次があるという後ろ倒し気分は無くなり、集中して受験勉強ができました。Beckerをやりきれたのもこの気構えがあったからです。(受験後は不合格ならまた受験しよう、と当然のように思いましたが)。

● 失敗に捉われないこと

08年10月、1回目のAUDが不合格となり、半年以上この失敗にずっと捉われ続けました。次の09年2月のFARに向けても、「合格するぞ」ではなく「また落ちるかもしれない」という不安な気持ちが抜けず、同じMC問題をいつも間違え、SIM演習もさっぱり頭に入りませんでした。本試験受験中ですら集中力に欠け、解けない問題があると、他ごとを考えてしまいました。何とか合格に持っていこうというより、また受けるしかないな･･･といった逃げの思考になっていました。不安、逃げ腰の姿勢がそのまま結果に出て不合格になりました。

2科目連続不合格で、「もう一生合格できないかも」、「やめても誰にも迷惑はかけない。もう受験をやめよう」と鬱々と考え、勉強にも身が入りませんでした。初めての科目合格から1年経ちexpireが近づき焦る中、いろいろな方から「ここまできて、途中であきらめたらもったいない」、「一発合格したREGとの準備の違いは何か考えよ」と励まされました。MCを再開すると、簡単なことが理解できていない、合格した時は意外と多く問題を解いていたなどと、原因がわかり自信がつきました。失敗したときこそ、ただ悩むよりも早く問題に戻るほうがいいです。

● モチベーションを上げる工夫をすること

私は銀行の内部監査部門に所属しており、幸運なことに部内の「内部監査の高度化」や「COSO-ERMフレームワーク」といったセミナーで、第一線で活躍する公認会計士の方々の話を聞く機会に恵まれました。自分が学んだことと比較して考えたり、「有効な内部統制」に夢を感じられて嬉しかったです。漠然としていた受験動機と意欲を再構築でき、やる気が出ました。受験勉強をしていると目の前の問題を正解することに捉われだしますが、勉強を続ける原点として、自分なりの「夢」や「動機」を思い出す機会を作り、合格後の自分を描くのも大切です。

社内に、他の資格試験であっても試験勉強をしている方が身近にいるというだけで、とても励まされます。そんな「勉強友達」を見つけてほしいです。

勉強に関しては、MCを解いた時間帯とその数を毎日手帳に書きました。「昨日は頑張れた自分がいた」ことが数字で見えるので、気分が乗らない場合でも我慢して続ける原動力となり、問題数を更新したこともありました。

● 自分を励ます言葉を大切にする

初めての受験では、準備ができず、試験から逃げることばかり考えていました。何気なく読んだTAC NEWSの学院長の「悩み相談室135回」でみた次の言葉で、試験に向かうことができました。

「努力をドブに捨てない」、「当初の約束は現実を知らずに作るので甘い」、「受験勉強を続けられるのは、『続ける才能』と『強い心』と覚悟があるからです。忘れてならないもう一つは『いろいろな人のおかげの心』です」

快く送り出してくれる家族、会社の人たち、応援してくれる人たちのおかげで試験に行けるチャンスを頂いているのだと、改めて感謝の気持ちが沸いてきて、読みながら涙が出ました。次につながる受験にしようと強く思い直し、この記事を切り取って、グアムに持って行き、何度か読み返しました。

私は学習期間が長くなってしまったので、現実を知ったら約束を変える、つまり試験の難易度が分かったら受験勉強期間を見合ったものに延ばす、という言葉に勇気づけられ、しつこく止めずに勉強している自分を励ましました。そうして受験したREGはおかげさまで初回合格でき、皆にも喜んでいただきました。

学院長の連載を始め、他にも受験のノウハウ本などを読んだり、人に相談をしました。勉強の仕方というよりも、気構えの大切さを学びました。以前教わった「合格のコツは、とにかく会場に行くこと」、「試験は逃げない」。海外に行かねばならない試験なので、この言葉は大きかったです。いろいろと理由をつけて試験から逃げようとしているのは自分であって、「試験は逃げない」のです。逃げずに受験を考えると、道は拓けると感じました。

家族、友人、職場の上司・同僚、TACの皆さま、毎回お世話になったホテルのスタッフの方々、モンタナ大学等々、本当にたくさんの方から応援していただけたことが何よりありがたく、感謝しています。

最後になりましたが、これから受験をされる皆様に、私の経験が少しでもお役にたてば嬉しいです。ピンチだと思うときこそが、チャンスをつかむ手前なのだと実感しました。どうぞ、あきらめず、必ず合格するという意志を強く持って受験に向かい、合格されることを心よりお祈り申し上げます。どうもありがとうございました。

40代サラリーマンの受験。

K.K さん

勤務先：生命保険会社
日本証券アナリスト協会検定会員・
公認情報システム監査人(CISA)

2009年8月　USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：87点（2009年4月／2回目）、BEC：86点（2008年10月／1回目）
REG：78点（2008年4月／1回目）、AUD：77点（2009年7月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

他の金融機関で内部監査、特に、システム監査に従事していましたが、現在勤務する会社では業務監査部門には所属していないため、過去の経験を風化させず、形として残しておくために、3年前に、U.S.CPAへの再挑戦を開始しました。

実は（他社に勤めていた）10年前（1999－2000年）に、U.S.CPAを目指しましたが、西暦2000年問題対応以降、早朝から深夜にわたる勤務が恒常化し、十分な勉強時間が確保できない状態でした。このため、一旦、受験を断念しました。

現在の勤務する会社では、会社創業期の多忙な日々が終わり、人員拡充もなされたため、3年前に、勉強し直すなら今しかないと判断したころでした。しかしながら、10年前に学んだANJOインターナショナルの破綻時に重なり、どうしたものかと思案していたところ、TACで、ANJOの元受講生を救済する措置をとることを知り、再挑戦がはじまりました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

当初から、受験が長丁場になることが予想されたので、5年間継続教育制度があることが最大の魅力でした。（10年前には、TACにはこの制度が無かったと思います。）

実際に、受講開始から10ヶ月後、AUDを除く3科目の学習が一通り終わりかかった時点で、利き腕の右肩を骨折し、4ヵ月ほど使い物にならなくなりました。この期間は勉強をストップしたのですが、まだ、残された時間は十分あると自分に言い聞かせ、治療に専念しました。今思い返せば、いい意味で開き直ることができたと考えています。

また、過去の経験では、証券アナリスト2次試験を受験したとき、要点を絞ったテキストや強力な講師陣による授業が提供されていたことにより、システム・プログラマーだった自分でも、内容を理解できたことも選択した理由のひとつです。

U.S.CPA講座でも、テキストについては、各課目とも合格することに焦点を当てて執筆されていたと感じています。

Q TACの講座でよかったところは？

やはり、杉浦先生と内田先生は、印象深かったです。

まず、穏やかな口ぶりの杉浦先生の授業は、時に“芸術”の粋に入っているように感じられ、うっとりと授業に“聞惚れる”ことが何度かありました。授業中の杉浦先生は、“受講生が高得点で合格することを節に願う。”と何度も繰り返しておられましたので、BECについては、少しだけですが期待に答えられたと思います。

内田先生については、決してお言葉には出しませんが、“私の授業を受講したからには、何が何でも合格してもらいます。”という気迫が感じられました。

特に、内田先生が監修されたと思われる、“FEDERAL TAXATION直前対策まとめ”は、TAXのエッセンスが全て凝縮された合格へのバイブルではないかと感じています。コンパクトで、見やすいこのテキストを、試験前日に見直せたことで、なんとか合格ラインを突破できたと考えています。まさに、“最強・最良のテキスト”となりました。

また、他のテキストについては、日常生活で雑用に追われ、まとまった勉強時間を確保することができない状況でしたので、オプションで購入した“フラッシュ・カード”を多用し、細切れの時間を最大限に利用しました。BEC・FAR・AUDの3科目については、合格点の40%は、このカードがたたき出したと思っています。（最初に合格したREG受験時は、未購入でした）。フラッシュ・カードは、ひとつの科目が、最大9個の単元に分かれており、各単元に、平均20～50枚程度が割り振られています。単元毎に、つづり紐でまとめると、ズボンの後ろポケットに丁度はいる厚さです。空き時間があると、2枚・3枚と記憶していきました（通勤電車のなか、子供の塾の送り迎えの待ち時間、など）。また、TACのテキストでどのような関連事項が記載されていたかを頭の中で反芻するのにも役立ちました。最初は、単に、マルティプルチョイス（MC）対策としてカードを利用しようと考えていたのですが、結果としては、Written Communication（WC）で、文中に挿入すべき用語・概念がスムーズに頭のなかに浮かんでくることを助けてもくれました。

また、受験直前の最後の仕上げとして、自宅から空港までの電車と、受験地であるグアムまでの飛行機で、すべてのカードに目を通し、重要事項が頭に入っているかを再確認しました。

BECを受験したときは、航空会社のミスで、テキスト等が入ったボストン・バックがサイパンに配送されてしまい、受験時間の２時間前まで、手元に戻りませんでした。このときは、機内持ち込みのショルダーバックにはいっていた、フラッシュ・カードを何度も見直し、なんとか乗り切ることができました。

今から思い返すと、受験直前（1～2日）の勉強については、シミュレーション対策（旧FINAL 16）で、英語表記で重要事項の再確認をすると、本番試験での読解スピードを高めに設定するのに効果的だと考えています。

番外としては、ベッカー・テキストの巻末にある“用語集：Glossary”が、なぜ皆さんの話題にならないのか不思議です。この用語集は、TACの日本語テキストで学習した内容が、英語でどのように表記されるのか？もし、Written Communication（作文）で、このトピックが出題されたら、何をキイ・ワードとして、どのように英語でまとめるか？を頭のなかで組み立てるのに有用な情報を提供してくれました。特に、FARとAUDでは、ベッカー・テキストから切り離して、常時持ち歩いて言い回しの確認をしていました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

Web通信講座を選択しました。自宅が狭いので、DVD等の保管スペース不要なので助かりました。（反面、視聴期間は限られるので、あとで解らなかったところを再受講することができないリスクは考慮しておく必要があります。）

合格までの期間は、2006年の7月からスタートし、2009年の7月に最後の試験が終わりましたので、ちょうど3年かかりました。まとまった勉強時間が取れないため、集中力が欠けてしまい、他の皆様に比べると、長い時間が掛かったのではないかと思います。細切れの時間を足し上げると1,400時間程度と推測します。

Q 合格までの学習法は？

基本的なことですが、ベッカーのＭＣを何度も繰り返して学習すること（含む、答えをじっくり読むこと）で、合格率はどんどん高くなると思います。これは、①MCの正解率が上がること、②MCに費やされる時間が短くなるので、シミュレーション問題をじっくり解答することができるようになること、③MCのサプリメンタル問題には、シミュレーションで問われる細かな違いを、ＭＣ形式で整理した大問が末尾にあることが多いので、全体を理解する上での手助けを与えてくれることによります。これから受験される皆様には、もし、シミュレーションに多くの時間を割きたいなら、時間を確保するために、まず、サプリメンタル問題を含んで、答えをじっくり読みながらＭＣを何度も解くことをお勧めします。

全４科目のうち、日本人受験者は、AUDにもっとも弱いそうですが、自分もAUDには手を焼きました。TACのテキストは2冊で、他の

科目に比べると分量は少ないのですが、学習が進むにつれて、この科目が“総合格闘技”であることを痛感しました。

まず、シミュレーションについては、FARが十分に理解できていないと戦えません。また、監査は、上場企業を対象とする場合もあるため、SOX法関連の問題がREGから横滑りしてくることもあります。監査報告書やその他の関連帳票の雛形を理解していないと、解けなかった問題も出題されました。

AUDのMCも、他の科目とは異なり、短い問題文から状況を“推測”し、ベストの答えを選択しなければなりません。BECやFARでは、機械的に記憶したものを、そのまま吐き出すことで対応することも或る程度可能でしたが、AUDでは、“もし、あなたがＣＰＡなら、どのように考えるか？”を常に問われていました。

AUDの成績が合格ラインすれすれだったのは、シミュレーションのWCにおいて、問題のニュアンスを取り違えてしまい、CPAとして顧客に回答する場面で、専門家としての大局的な意見を述べていなかった点にあると考えています。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

＜出願州の選択は慎重に＞

最終的に、Certificateの取得を考えていたので、当初はモンタナ州での受験を前提に、学歴審査等を行い、受験に必要な税法の単位取得にむけ、本来の税法の受講が始まる6ヵ月まえに、テキストだけで勉強し、2006年8月のUNR試験でなんとか単位を取得しました。ホッとしていたのも、つかの間、同年10月にモンタナ州の制度が変更され、Certificateの取得には米国の社会保障番号が必要となってしまい、実質的に、Certificateの取得は不可能になってしまいました。このときは、FARの勉強を進めながら、税法の勉強も同時並行で進めており、負担が大きかった分、落胆も大きかったです。その後の学習スピードがダウンしてしまいました。出願する州の選定は慎重に行なうことが肝要だと思います。また、今後、受験される方は、まず、U.S.CPA試験の合格を確実にしてから、単位取得については、合格後のトランスファーを上手に利用することも出来ることを、考慮しても良いと思います。

＜学歴審査の内容チェック＞

モンタナ州での受験をあきらめたため、ライセンス取得を目指して、ワシントン州で受験することにしました。大学時代の単位を認定してもらうため、WESに申請をおこなったところ、比較的早く、3週間ほどで審査結果が届きました。しかしながら、ワシントン州では、会計単位のうち、どの課目が専門分野（Upper科目）かを明示することが求められています。WESの審査結果には、総単位数の認定がなされているにすぎなかったため、審査結果を受け取った週末に、偶然開催されていたTACでの説明会に飛び込み参加し、アンソニー先生に受験に必要な要件を確認した上で、すぐに、WESに、更新版の再送を依頼しました。

審査結果については、要件に合致しているかを見直す必要があると思います。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

会社勤めのサラリーマンの方が、業務の合間を縫って受験するには、様々な制約が伴います。また、合格までには、長い準備期間が必要となることを覚悟しておくことが必要です。絶対合格すると信じて、例え、１日１ページテキストを読むだけでもよいので、一歩一歩着実に基礎を固めていってください。以下、私の経験談を紹介させていただきます。

＜家族サービスは、メリハリをつけて＞

受験を乗り切るためには、家族のサポートがどうしても必要です。私は、ささやかな見返りとして、土日の食料品の買出し、娘の塾の送り迎え、簡単な掃除等は、出来る限りこなすことにしました。

ただし、家族へのサービスも程ほどにしないと、家族に、サービスがあって当たり前という誤解が生じてしまい、差し障りがでる場合があります。

私の初回受験（REG）は2008年4月でしたが、家族を説得することが出来ず、“家族同伴”でのグアム訪問となりました。予想通り、ホテル到着後から受験までの間、通訳、食事の手配、プール施設への同行、ご近所・お友達へのお土産の選定など、受験勉強に集中することは困難でした。

グアムやハワイで受験する場合には、ご家族のかたが、“南の島へ旅行すること”を単純にうらやましがるかもしれません。しかし、受験する人間は、ホテルにこもりっきりになり、時間の節約のためにコンビニで購入したジャンクフードで食事を済ませることもあることを、本来の“受験のための渡米”という目的と一緒にきちっと説明し、理解を得ておくべきだと思います。

＜会社の業務と受験時期の選定＞

会社勤めをしながらの受験で、もっとも頭を悩ませるのは、受験の時期をどこに設定できるかです。残念ながら、ベストの日が選べるとは限りません。

例えば、FARの第１回目については、74点で不合格になりましたが、敗因のひとつは、受験日の前倒しにあったと思います。このときは、当初、受験日を2月末に設定していたのですが、業務との関係で、2009年2月の建国記念の日（祝日）を利用してのグアム行きに変更となりました。日程が前倒しとなることで、シミュレーションの過去問を全て見直すことができず、一度、授業で取り上げられた問題が解けずに、後一歩での敗退となりました。

また、AUDの受験時期についても、2009年8月中旬のお盆休みを利用して予約を取っていたのですが、3週間も早い7月末での休暇取得となりました。2月にFARを取りこぼしたため、2回目のFAR試験が終わったのは、4月末のみどりの日でしたので、そこからの3ヵ月弱は、まさに、“寸暇を惜しんで”の勉強を余儀なくされました。

（ついでに言うと、BECの受験時期も、部下が退職したため、休みがとれず、予定から2ヵ月遅れになりました。）

わたしは、FARの1回目を受験するまで、U.S.CPA試験を受けていることを上司に内緒にしていたのですが、これから受験される方は、早めにカム・アウトしておくことも得策かもしれません。

＜１受験１科目もアリ。＞

大学生や20代の方が受験する場合には、記憶力に任せて2科目以上を1回の渡米でこなしてしまうことも可能だと思います。但し、30代後半からは、（記憶力ではなく、）全体の記憶容量が減少してしまうように思います。私は、受験に当たっては、長期戦になるが、1科目ずつ確実に押さえていくことにしました。

幸い、昨今は、円高や旅行会社の競争激化などで、渡米するコストが下がっています。例えば、グアム受験についていえば、大手旅行代理店（例：H社）のキャンペーン期間を利用すると国内旅行より安くすむ場合もあります。

短期では割高であっても、自分の能力と相談しながら、最も確実な方法を選ぶことが肝心と思います。旅行代金を確保するために、飲みにいく回数を減らす、普段着は、量販店（UNIQLO）で買う、通勤電車では週刊誌の代わりにTACのテキストを読むなど、いろいろ方法はあると思います。

＜グアムで受験するなら＞

2008年4月の初回受験では、グアムのテストセンターで、日本人と韓国人の受験者は半々程度と感じました。2009年は、韓国の受験者が多くなり、それに比例して、受験枠の確保が難しくなっているように思えます。

テストセンターの空き時間が限られ、もし、グアムの午前8時30分からのスタートで受験すると、日本時間では、遅くとも午前5時に起床して、午前７時15分くらいから試験が始まることになります。

このような場合、日本からグアムへは午前便を使うことをお勧めします。空港に行くために早朝に起きなければならなくなり、結果として時差をそれ程感じなくなります。私は2回経験しましたが、運行乗務員の服務規程（米国連邦航空法）等の関係で、出発時間の遅延が頻繁に発生する可能性がありますので、午前便とは逆に、グアムに深夜に到着する便をつかうと、折角、時差が少ないのに、早朝の3時・4時のホテル・チェックインで、グアムで受験するメリットを享受できない場合があります。

また、私のように、受験回数を多くし、都度、渡米する方法を取る場合、試験終了後の帰国便は、深夜にグアムを立ち、早朝に成田に着く便を利用すると、そのまま、職場に直行して執務ができますので、年次休暇の減少を抑制することが可能です。（深夜便は、料金も割引になりますし。。。。）

出産をはさんで合格！

NOVOSELTSEVA　EKATERINA さん
（ノヴォセーリツェワ　エカテリナ）

1977年2月生まれ（32歳）
モスクワ大学卒業後、龍谷大学に留学
2000年より大手商社にて国際業務担当

2009年4月　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：89点（2008年7月）、BEC：82点（2007年10月）
REG：97点（2009年4月）、AUD：99点（2009年4月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

私はモスクワ大学で、国際経済と日本学科を専攻し、卒業後、1998年に留学生としてはじめて日本に来ました。その後2000年に日本の大手商社に就職しロシアにおけるビジネスの推進戦略などを担当してきました。数年後、アナリスト的な仕事にも実務でも活かせる資格が欲しいと思うようになりました。そこでインターネットで調べてみると、U.S.CPAの資格は結構人気があり、ビジネスの世界で必要とされている資格であることがわかりました。私はロシア出身で、当時ロシアの会計も国際基準に近づきつつある状況でしたので、母国ロシアでも日本でもアメリカでも活かせる資格はU.S.CPAだと思い、U.S.CPA試験にチャレンジすることにしました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

私の場合、通学は難しかったので、自分のペースで学習できる通信講座があり、バックアップが充実しているスクールを探しました。それでTACのホームページや他のスクールのサイトを見て、その中でTACが一番気に入りました。ホームページもわかりやすく、渋谷校で行われた講座説明会にも参加しました。説明会の内容もわかりやすくて、学習内容がよく理解できましたので、TACで学習することに決めました。

Q TACの講座でよかったところは？

講義もテキストも全部良かったです。教材のアップデート情報は受講生専用のホームページにきめ細かく掲載されていましたし、質問事項があればメールで問合せることができましたので、欲しい情報はほとんど全部入手できました。私は結構仕事が忙しかったのでTACの充実したサポート体制はとても頼りになりました。あとはTACの講座には定評のあるBeckerのソフトが付いていて、このBeckerが使えたこともすごく良かったと思います。

Q 受講形態は？

通信講座で受講しました。しかし出張が入ったりしまして、思いどおりのスケジュールで勉強することはできませんでした。とりあえず全部教材を受けとって自分のペースで学習を進めました。

Q 合格までの学習方法は？

どの科目も日本語の講義を全部聞いて、それが終わって、先生から言われていた問題を解いて、あとはもうBeckerの教材をメインにし、どうしてもわからないポイントがあればもう1回TACのテキストで確認していました。私の母国語はロシア語ですので日本語と英語両方で勉強していると、混乱しそうでしたので、まずTACのテキストを使った日本語による基本講義を受講した後はできるだけBeckerだけを使って英語で学習を進めました。Beckerのソフトは試験に合格するためにすごくいい教材だったと思います。

Q 受験の手続きについてはいかがでしたか？

受験の手続きについてはTACの受講生サイトがすごくよく書かれていましたので全く問題ありませんでした。私はニューハンプシャー州に出願しました。理由は受験手続きが比較的簡単な州だったからです。実際の出願手続きは受講生情報サイトのインストラクションに従って問題なく進めることができました。

Q 実際の受験について

初回は2007年の10月にハワイで受験しました。このときは４日間程滞在し、試験プラスちょっと観光というパターンでした。2回目の2008年7月はグアムで受験しましたが、グアムの試験場はすごく混んでいました。ですからグアムで受験する場合はできるだけ早めに予約を取ることをお薦めします。実はグアムで受験した時は妊娠6ヶ月目に入っていまして、当初2008年中に全科目合格したかったのですが、妊娠していることがわかった時点で最初のBECを受験してから1年半以内（※）に分散して受験するプランに変更し、最後の３回目はREGとAUDは出産後の2009年の4月にハワイで受験しました。再びハワイで受験した理由は子供を連れていくためでした。子供がまだ小さかったので日本に残して受験しに行くことができる状況ではありませんでしたがハワイなら子供を連れていっても大丈夫そうな環境でした。ただ子供の体調のことも考えてハワイに2ヶ月ほど長期滞在をしました。2009年3月半ばぐらいハワイに到着して4/6に1科目目、4/22に2科目目を受験しました。小さい子供を連れて行くと滞在先でどんなことが起こるかわからないので、到着した直後の受験日に試験を予約してしまうと万が一時差の問題とかで子供が体調をくずしたら、とかその他いろんな可能性があるので余裕を持ったスケジュールで受験してよかったと思っています。

私はハワイとグアムで受験したわけですが、テストセンターについてはハワイのほうがグアムよりも広いし、比較的空いていますし、場所も便利なところにあるのでお勧めです。

Q REGは97点,AUDは99点で、高得点で合格されたわけですが、どのように学習されましたか？

特にAUDは満点でしたので驚きました。

REGはBeckerのMC問題とTACのテキストの問題も何回も解きましたし、Simulation問題も結構解いて臨み、本試験ではBeckerのSimulationとほとんど同じ問題が1問でたところまでは良かったのですが、もう１問のSimulation問題は全く見たことがない問題が出ましたので正直なところ自信がありませんでした。AUDは他の科目と同様にBeckerの問題を繰り返し解きました。特にAUDの場合は、専門用語に慣れることと、暗記が重要だと感じました。あとは両科目ともできるだけWCを自分なりにトレーニングしましたこともよかったと思います。寝る前に疲れた状態でもちょっとだけも書いてみるようにしましたことで結構いい点数が取れたのではないかと思います。

Q 勉強時間は？

大体土日は勉強しました。もし土曜日に出かける用事があり、勉強があまり出来なかった時は日曜日は丸一日勉強しました。しかし妊娠中も子供が生まれてからも勉強が思ったように進まなくて結構大変でした。子供を出産して1ヶ月程して私の母が来てくれてからは、昼間は母に子供を預けて散歩連れていってもらい、その間に集中して勉強しました。母乳を飲ませるために戻ってきて、母乳をあげたらまた散歩に連れて行ってもらい、再び集中して勉強という時もありました。ただ昼間はこのパターンができましたが、夜は子供がずっとそばにいるので大変でした。2009年4月に受験する直前は1日に少なくて8時間くらい勉強していました。それと軽いノートPCを買い、出かける際には持っていくようにし、外出中に少しでも時間があればBeckerを解くようにしていました。

Q 現在の状況は？

今は育児休暇中ですが、子どもを保育園に入ることができるなら10月から仕事に戻るかどうか考えようと思っています。育児休暇は、例えば保育園に10月から預けることができないようなら2010年４月まで伸ばすことができますので保育園の状況に応じて復帰の時期を決めようかと思っています。これから仕事で持っている知識をいかせたいです。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験はしっかり勉強すれば合格できる試験だと思います。

私は、1回目にBECを受験し、合格しましたが、1科目合格すると、この科目を受験してから18ヵ月以内にのこり3科目を受験して合格する必要がある試験（※）ですので4科目をどのようなスケジュールで受験するかの計画を立てることが重要だと思います。

また、私のように妊娠、出産が重なったり、仕事が忙しかったり、勉強だけに集中できない環境にいらっしゃる方が多いと思います。しかし、1科目合格したら残りの科目全て合格するぞ！と決めてがんばった方がいいと思います。そうしないと、せっかく合格した1科目目の良い結果結果も失効してしまいますので、すごくそれはもったいないことだと思います。あと、TACのU.S.CPA講座の受講生サイト役だつ情報やアドバイスがたくさん載っているので、こまめにチェックしておくことをお薦めします。

※科目合格制度：４科目を18ヵ月以内に合格すればよく、この期間内に1科目ずつ合格を積み上げていくことができます。ただしこの期間内に全科目合格できていない場合には受験してから18ヵ月以上が経過した合格科目の合格が失効します。合格が失効した場合は再度受験が必要になります。

メイン州で早期合格。合格実績をグアムにトランスファーしてCertificateを取得！

馬場　直樹 さん

1987年、神戸大(法)卒、住友銀行(当時)入社
1994－2005年中国勤務。
現在は三井住友銀行のグローバル・アドバイザリー部に所属し、企業のグローバル展開をサポート(専門は中国)。

2009年2月　USCPA試験合格（メイン州）
FAR：84点（2008年8月／1回目）、BEC：81点（2008年8月／1回目）
REG：88点（2008年11月／1回目）、AUD：77点（2009年2月／2回目）
2009年6月 メイン州の合格実績をグアムにTransferしグアムのCertificateおよびInactive Licenseを取得

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

もともと10年中国に勤務しており、専門は「中国ビジネス」ですが、中国会計や税務も結構米国制度を参考にしていると感じていました。そんな中、帰国後に週末を有効に活用しようと思い、折角なので何か社会的に通用する資格を取ろうと考えた時に、中国会計のことを思い出し、それならば米国公認会計士にチャレンジし理解を深めたいなと思ったことがきっかけです。事前に書店で調べてみると、簿記検定があり、英文会計の試験としてはBATIC（国際会計検定）があり、その上位資格としてU.S.CPAがあることを知り、いきなりチャレンジするには難しい試験ではないかとも思ったのですが、実際にどんなものかを知るためにTACの無料講座説明会を2回聴きに行きました。私の中では当初「U.S.CPAはマニアックな資格」というイメージがありましたので説明会に2、3人しかいなかったらどうしよう？と思いましたが、そんな心配をよそに10人以上説明会を聴きに来る人がおられ驚きました。説明会に参加してU.S.CPAは自分にも十分手が届く資格だと実感することができましたし、それ以上に、TACでたくさんの方が熱心に勉強されているのを目の当たりにして、とても刺激を受けました。また中国出身の方がTACで学習しU.S.CPAにチャレンジしていることを知ったことも励みになりました。私自身も中国で勤務しましたが、同じように自分が中国語で学習できるかということを考えると、本当に頭の下がる思いでした。彼ら彼女らに負けないように頑張ろうという気持ちになりました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

U.S.CPA講座を開講しているスクールの中でTACは、上場会社でもあり、もともと会計系のスクールでもあるのでTACを選びました。無料講座説明会でも、丁寧に説明していただき、受講受験の不安も解消できたことも理由の一つです。

Q TACの講座でよかったところは？

何よりもBeckerとのコラボレーションによるテキスト、問題集があったことです。また実際の講義も、杉浦先生、内田先生、帆足先生はじめ先生方が熱心に教えてくださり、非常によかったと思います。TACのテキストは年2回更新されており、常に最新の情報にアップデートされており、安心できました。基本講義が99回で通学コースなら48万円ということは基本講義99回の講義回数だけで割っても１講義あたり約5千円で、これに加えてBeckerの教材も直前対策もついていることを考えますと、これでいいのかと思うくらいの「お買い得講座」だと思います。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

2008年1月開講の2007年冬入学コース通学ビデオ（DVD）講座で申し込んだのですが、このコースのDVDは同じテキストを使って3ヵ月前に開講している2007年10月開講の2007年秋入学コースのもので、私の場合仕事柄財務諸表は慣れていましたのでFARは短期集中で学習できると思い、2008年１－3月の土日に集中してFAR、BECをDVD受講し、秋入学コースの教室講座の進度に追いついて3月末のREG講義から15ヵ月教室フリーパス制度を利用して教室講義にも参加しました。教室で講義を聞いた後でDVDを視聴するとさらに理解が深まりました。最終合格は2009年2月受験ですので、受講開始から14ヵ月で全科目合格することができました。

Q 学習時間は？

平日は仕事が終わって家に帰って食事が終わってマルチプルチョイス(択一式)の問題をBeckerで解いたりテキストを読んだりして１時間前後勉強していました。土曜日は教室講座に出て日曜日もTACの自習室を使ったりして5～6時間勉強していましたので1週間あたり最低でも15時間、４週間で60時間～70時間勉強していました。

Q お仕事以外はすべてU.S.CPAの勉強という感じでしたか？

ほとんどそうですね。土日にちょっと家族と買い物にいったりしたことはありましたが基本的に遠出することは無かったですしゴルフに行くこともありませんでした。

Q 学習開始から14ヶ月で合格されたわけですが順調でしたか？

そうですね。U.S.CPAだけに絞って短期勝負と思ってやっていましたので。本当は2008年11月AUDに合格していれば1年未満の11ヵ月で合格できたのですが2点差で落ちてしまいこの点が少し残念でしたが、2009年2月の2回目の受験で合格できましたのでほぼ順調だったと言って良いと思います。

Q 合格までの学習法は？

まずはTACのテキストを何度も読み返しました。本試験の時には「これはテキストの右（左）の上に説明が書いてあった」と思い出せるくらいに読み込みました。またBeckerの問題も概ね２回転はこなしました。FARの計算問題は、基本的な計算方法が問われるので、何度も繰り返し自分で計算しました。BECは、MAの考え方、計算問題と、BSの理解に主眼を置きました。REGはBeckerをやったのも当然ですが、TAXは、内田先生特製の厳選問題集と直前まとめ対策をやりました。BLは杉浦先生のオリジナル問題集を解きました。この問題集は１問の中にいろいろな論点が含まれるので非常に効果的に学習できました。AUDは一度失敗しましたので（73点）2回目は万全を期しました。Beckerは、結局6回転こなしました。AUDは文章題（回答文も文章）が多いので、間違いの選択肢はどこがなぜ間違いなのか、徹底的に分析しました。おかげで何とか3ヶ月後にリベンジできました。

Q グアムへ合格実績をトランスファーするためにどのようなスケジュールで追加単位を取得されましたか？

私はどうせ勉強するなら合格実績だけではなくLicenseまで取りたいと思っていました。ただ監査法人や会計事務所に転職することは考えていませんでしたので実務経験が不要なグアムのCertificateを狙うことにしました。私が学習を始めた時点ではニューハンプシャー州で若干追加単位を取れば受験資格を満たせるという状況だったのですが受講開始直後にメイン州で日本の4年制大学を卒業しているだけで受験資格を満たすことができるようになりましたのでそれならメイン州に出願し早く受けて合格し、合格実績をグアムにトラン

スファーするつもりでグアムで必要な追加単位を取得することにしました。もともとの予定では2008年11月に4科目合格するつもりでしたので、2008年1月から受講をはじめ、2008年3月、6月、9月、12月の4回の単位認定試験でグアムで必要な単位を取り終えました。

単位認定試験はTACの講義内容ともリンクしており、本試験で受験した科目と近い時期に受験しましたので、力試し的に受験することができた点が良かったと思います。

2008年3月が最初の単位認定試験の受験でこの時は初級財務会計の単位認定試験　（ATG157）を受けて、次の6月に受けたのがFARとMA関連の科目でしたがこれらは8月の本試験前でしたのでそれに向けたちょっとした力試しみたいな感覚で受けることができました。単位認定試験を受験し終えて、当然できた問題、できなかった問題がありますから問題自体は持ち帰ることはできませんがなんとなくこのあたりができなかったなということはわかりますからそうした箇所を帰ってから復習しました。そして9月の単位認定試験は8月の本試験直後に若干MA関連で残していた科目とREG関連の科目を受けました。そして12月の単位認定試験は11月の本試験が一段落した後BLとAUD関連の科目を本試験の余力で受けることができほぼ予定どおり単位を取得することができました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

当初から短期勝負のつもりで臨みました。U.S.CPA試験は1年の内で受験できるチャンスが4回もあり受験のチャンスが多くて良い試験ともいえますが、裏返せば、いつでも受験できるとおもって受験を先延ばしにしているといつまで経っても終わらないリスクがある試験であるとも言えると思います。折しも私が受講を開始した直後にメイン州の受験資格が緩和され、4年制大学卒業の学位があれば会計単位やビジネス単位が無くても受験できるようになりましたので、予定より早く2008年3月にはFACSに学歴審査を依頼し、４月にOKが来ると同時に出願しました。しかしNTS（受験票）がなかなか来なくて、催促してようやく入手したのが2008年6月末（年内での４科目受験合格を目指しましたので、最初から４科目とも申し込みました）。すぐに2科目はグアムの週末受験を予約し2008年8月に受験しました。そしてNTSの有効期限ぎりぎりの11月に受験した残り２科目は、試験終了後の「自分へのご褒美」も兼ねてサンフランシスコで受験しました。2008年8月、グアムでFAR、BECを受験した時は、直前に「準備不足かも？」と不安になり延期も考えましたが、「ここで逃げてはいつまで経っても合格できない」と奮い立ち、予定通り受験に行きました。「いよいよU.S.CPAへの第一歩」と意気込んで受験しましたが、初日はホテルに戻ってから、FARでできなかった問題がずっと気になり、その夜うなされて寝付けず、何度も「72点で不合格」となった夢を見てとても不安でした。結果的には翌日のBECの２科目とも順調に合格でき、これで自信とつきはずみがつきました。AUDは9月に受講終了後２カ月余りの準備で、懸念していた通り準備不足で不合格でしたが、受験戦略もまずかったと反省しました。4時間半の試験ですが、休憩時間を惜しんだため、2つ目のSimulation問題で集中力が欠けたのがわかりました。２回目の時（グアム）はその経験を活かし、全てのテストレット（問題群）毎に休憩をとり、チョコボールを食べお茶を飲み、リラックスさせました。おかげで却って時間が余るくらいで終了できました。REGでの思い出ですが、とにかくMCを飛ばしてやろうと思い、第一テストレットを22分で終えたところ、成績が良かったのか、第二テストレットが急に難しくなり、泣きそうになりましたが、内田先生の「第二テストレットが難しくなったら合格」との言葉を信じ、突っ走りました。今となってはいい思い出です。

本試験ではこまめに休憩の取ることをお勧めしたいですね。最も試験時間が短い科目（BEC）でも2時間半、長くてAUDの4時間半ですから休憩を取らずに進めてしまうと、絶対途中で集中力が途切れると思います。必ず休憩を取ってトイレに行く、顔を洗う、飲みものを取る、チョコレートで栄養補給をするといったことをやっておけば最後まで十分気力が持つと思います。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

この資格はもちろん全世界に通用するものです。若いうちにチャレンジされるのもいいのですが、実務に直結した内容が多いので、ある程度社会人経験がある方ほうが、理解しやすく、有利な面もあると思います。私はメイン州で合格後、合格実績をグアムにトランスファーし、Inactive Licenseを取得、名刺にも記載していますが、仕事で名刺交換をすると意外と多くの方がそれを見て「どの州で受験しましたか？」と聞いてこられます。よく聞くと「私も昔やっていたのですが諦めました」とおっしゃる方が多いんですねぇ。先輩諸氏もコメントされていますが、諦めなければ合格できる可能性が高い資格だと思います。そのためには、何よりも早く受験に行き、１科目でも合格し弾みをつけることだと思います。

大学在学中に2科目、社会人になってから2科目、全科目初回受験で合格！

泉　直樹 さん

1986年2月生まれ（23歳）
甲南大学 経営学部 2008年3月卒業
勤務先：日本アイ・ビー・エム株式会社
計画管理担当

2009年5月　USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：89点（2008年2月／1回目）、BEC：85点（2009年5月／1回目）
REG：87点（2008年2月／1回目）、AUD：92点（2009年5月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学時代に経営学部で会計や経営について学んでいて、先生からBATIC（国際会計検定）®を受けたらと薦められたことがアメリカの会計基準だとか国際会計基準というものに興味を持ち始めるきっかけとなり、U.S.CPA試験を意識するようになりました。日本の公認会計士試験のことも知っていましたが、私は3年生の夏から1年間アメリカの大学に留学していて、アメリカで会計専攻の学生の多くはアカウンティングファーム（監査法人）に就職後、働きながらU.S.CPAを目指すというのが主流だということを知りました。そこで自分も就職して早く仕事をバリバリやりながらU.S.CPAを目指したいと思うようになりました。

実は、私の場合、4年生の6月に就職が決まりそれからその次の年に就職するまでに時間がありましたので当初は就職する前に全科目合格しようという意気込みだったのですが、学生時代最後の年ということで様々な誘惑があり、結局就職するまでに2科目（FARとREG）は合格できましたが残り2科目（BECとAUD）は就職してから合格しました。

Q 就職活動をされる時にU.S.CPA試験を勉強していることをアピールされましたか？

はい。私は財務とか会計の仕事をしたいと考えていましたので、ほとんど部門別採用のある企業にエントリーしたのですが、どの企業でもU.S.CPAについてかなり聞いてもらえましたので大きなアピールポイントになったのではないかと思います。

Q TACをお選びいただいた理由は？

まずは複数のスクールからパンフレットを取り寄せ、説明会にも参加してみたのですが、TACのカリキュラムが充実していたこと、スタッフの方の対応が良かったこと、そしてBeckerが付いていたことが決め手になりました。Beckerについてはアメリカに留学していたときに現地の学生や実際に監査法人で働いている人達と交流する機会がありましたが、彼等の間でもかなり有名で、Beckerで勉強している人が多かったので、やっぱりTACがいいなという結論に至り入学させていただきました。

Q ご受講いただいてよかったところは？

私は通学のビデオ（DVD）講座で受講しましたが実は少し不安がありました。それはビデオ(DVD)講座での受講だと、わからないところがあった時にすぐに直接講師に質問することが出来ないのでストレスがたまるのではないかと思ったことなのですが、これに関しては、さすがTACと思わせるほどの先生方のおかげで正直わからないところが全然なかったんです。細部まで頭に入りやすいテキストと講義内容で、ビデオ（DVD）講座で受講してもここまで自分の中にすっきりと落としこめるカリキュラムになっていたことに大変満足しました。

Q 合格までの学習法は？

まず入社する前に2科目（FARとREG）を受けましたが、私の勉強時間の配分は7割方をインプットにかけました。インプットというのは講義で使ったTACのオリジナル教材を中心に使い、少し日本語でニュアンス的に難しいと感じたところはBeckerの教材を使うという程度でほぼTACのオリジナル教材を使いました。それとどの科目も暗記というよりは理解するように心がけていました。ただREGについては暗記も結構しないといけないところがありましたが、FARに関しては暗記は極力避けて理解するようにしました。

FARとREGの2科目の勉強を2007年の8月頃から始めて2008年の2月に受験したのですが、年末近くまでインプット中心でした。しかしさすがに年末ともなるとそろそろアウトプットもしないとやばいのではないかと思い始めアウトプットを始めました。アウトプットはBeckerを繰り返し解きました。TACのオリジナル教材のおかげでしっかりとしてベースが出来ていたので、Beckerを解く時は1問1問丁寧に、なぜこの解答になるかというのをかなり意識しながら解いていました。そして実際2科目の本試験問題を見た瞬間、Beckerの問題よりも本試験が易しいことを実感し、少し拍子抜けしてしまったほどでした。

やっぱりBeckerとTACの教材を使って勉強して間違いなかったとその時確信しました。

学生時代は誘惑に負けて試験に集中できない時もありましたが毎日触れるようにしていました。しかし朝から晩まで勉強したことはなかったですね。講義1コマが3時間、復習については1コマの講義につき2時間くらいやって確実に消化する、このパターンを繰り返していました。学習時間は1日2時間、多くて3時間位かけて、これをコンスタントにやっていたという感じでした。

就職してから受験した残り2科目については、基本的に勉強の仕方は学生時代の時と変わらなかったのですが、実は入社して半年間は仕事がきつく、しかも関西から東京に来ての新生活にも慣れなくて勉強に手がつけられませんでした。つまり2008年の4月に入社して11月くらいまでは全然勉強できなかったのですが、2008年の2月にFARとREGに受かっていたので2009年の8月までに受けて受からないと合格の有効期限がexpire（※1）してしまいますので、2008年の11月頃から結構あせりはじめて残りのBECとAUDの学習を再開しました。2009年の1月の中旬くらいまでに2科目ともインプットを終えました。その際の勉強方法は基本的にはFARとREGでやっていた方法と同じく講義を1コマ聞いて2時間くらい復習してという感じですすめ、アウトプットについては2009年2月頃からBeckerを解き始めました。しかし今度は仕事をしながらですので、基本的にはあまり学生の時みたいに時間を取ることが容易ではなく、それでも1日の内のどこかで時間を作らないといけないということで平日は1時間半ほどの通勤時間を使い、週末は土日で3時間ずつアウトプットしていたという感じでした。

講義の受講については、学生時代は神戸校で受講しました。ただ、AUDは神戸校でも受講していましたが途中で挫折してしまいましたので、社会人になって5年間継続再受講制度(※2)を利用して今度は八重洲校で再受講しました。

Q 学生時代にFARとREG、社会人になられてからBECとAUDを受験されたわけですがこの組み合わせにされた理由は？

FARとREGは学習量のボリュームがありそうでしたのでボリュームがある科目は学生時代に受けてしまい、BECとAUDについてはBECは大学で学んだ分野が多かったので少しプラスアルファで勉強したら合格できるのではないか、AUDはFARやREGに比べればボリ

ュームが多くないなというイメージでしたので社会人になってから働きながら合格を目指すことにしました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続きについてはスムーズで特にストレスがたまるということはありませんでした。受験については、私はすべてグアムで受験しましたが、グアムは結構日本語が通じますし、受験会場の場所も知っている人も多く、タクシーを利用する時も「U.S.CPAを受験しに来た」と言えば、会場まで連れてってもらえました。英会語にあまり自信がない方でもグアムなら安心ですのでおすすめの受験地です。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

私は社会人になってまだ間もなく、これから何をしたいのかを探している途中なので、あまりかっこいいことを申し上げられる立場ではないのですが、ビジネスパーソンとしては、自分がいざ何かをやりたいと思ったときにそれができるようなしっかりした知識のベースが必要だと思います。

その意味で語学や会計の知識はビジネスのベースになるものだと思いますので、英語と会計両方に関わるU.S.CPA試験は履歴書に書ける資格であるだけでなく、試験内容も実務に直結していてビジネスで使える知識を身に付けられる資格だと思います。あとは私が勤務している社内での評価もかなり高いのでステップアップするにはすごくいい資格だと思います。

実際に受験してみて、よく言われていることではありますが、決して受からない資格ではないと実感しました。私の場合、結果を見たら思った以上に点数が取れていました。皆さんもTACを信じて合格を勝ち取っていただきたいと思います。

Q 現在どのようなお仕事を担当されていますか？

経理とか財務とかではないのですがブランドの中のブランドファイナンスという、ブランドの中の予算を立てたり、売上の予測を立てたり、後は経費のコントロール等を行う部署で、事業部と一体となってビジネスを動かしているかなり現場に近いファイナンスの仕事を担当しています。

Q 2科目合格された状態で入社されて、今回残り2科目合格されたことを会社には報告されましたか？

はい、マネージャーに報告したら非常に喜んでくれました。こういう勉強をして資格を取れば社内での見方というのも変ってくるし、良いアピールになると言ってもらえました。U.S.CPA試験を通じて身に付けた知識を活かしてこれから益々頑張っていきたいと思っています。

（※1）科目合格制度

U.S.CPA試験は全4科目を18ヵ月以内に受験して合格すればよく、この期間内に1科目ずつ合格を積み上げていくことができます。この期間内に全科目合格できていない場合は受験してから18ヵ月以上が経過した合格科目の合格が失効します。合格が失効した科目は再度受験が必要になります。

（※2）5年間継続再受講制度

ROUTE99(本科生)受講の方が、ROUTE99(本科生)受講期間内（入学コースの教室講座開講月から15ヵ月）終了時から最長5年の間にTACで開講されるROUTE99(本科生)の講義を、安価な受講料で再受講いただける制度です（一部のコースを除きます）。

突然のアメリカ生活。よし、U.S.CPA試験で英語の勉強も一緒にしよう！

匿名希望 さん

一橋大学（大学院）修士
（日本の）公認会計士資格保有
現在、夫の海外赴任に伴い、アメリカ合衆国に在住

2009年5月　USCPA試験合格（Maine州）
FAR：94点（2009年5月／1回目）、BEC：85点（2009年5月／1回目）
REG：88点（2009年2月／1回目）、AUD：94点（2009年4月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

突然の夫のアメリカ赴任に伴い、私も職場（金融機関）を休職し、アメリカに住むことになりました。せっかく英語圏にいるのだから、英語で、かつ、自分の職業に関連する勉強をしようと思い、U.S.CPA試験にチャレンジをしました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

私がTACを選んだ理由は、以前『公認会計士講座』を受講したことがあり、TACへの信頼があったからです。

Q TACの講座でよかったところは？

よかったと思うところは、先生方の分かりやすい説明と、何が重要なポイントであるのかを明確に指摘してくださるところです。特に、先生方が、「なぜそのような考え方をするのか。」ということを分かりやすく説明してくださったので、単なる暗記になることなく、理解することができました。実際の試験では、見たことのない問題に何度も直面しましたが、考え方を理解していたので、すぐに対応することができました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

私は2008年5月下旬より、DVD通信講座を受講しました（実際に視聴を始めたのは2008年8月）。学習期間は約10ヶ月です。

Q 合格までの学習法は？

科目別での学習法の違いはありませんので、全般的な学習法です。

● DVD通信講座の学習環境～周囲の人に協力してもらう

DVD通信講座では、１人で学習することになるかと思います。自分のペースで勉強できるなど、DVD講座の利点はたくさんあります。しかし逆に、「勉強を続けるぞ！」と、強い意志を持ち続けなければ、気が付くと数日、数ヶ月、勉強から遠ざかるという危険性もあります。

実際に私は、５月下旬に教材が届いたものの、教材が届いたことに意味もなく満足してしまい、さっそく約２ヶ月も勉強から遠ざかってしまいました。２ヶ月経って、友達がUSCPAの勉強を始めたことや、私の姿に呆れた夫が「きちんと、勉強したら？勉強しないことの言い訳ばかりでだらしない。」と発破を掛け続けてくれたこともあり、その空白の２ヶ月の後は、勉強に専念しました。私のように、自分の意志を強く持ち続けることが苦手な方は、勉強仲間を作ったり、家族や友人に自分の目標を話し、時々背中を押してもらったりするとよいと思います。

● TAC & Beckerを信じる

私の知っている限りでも、「この○○出版の本（問題集）は、U.S.CPA試験にいいそうだ。」と、TACとBeckerの教材以外に手を広げる方が結構います。勉強熱心ですばらしいとは思うのですが、試験の結果に関していえば、残念ながらあまりよい結果を聞いたことがありません。特に「○○出版問題集のこの問題はみたことない！」と焦って、手を広げる方もいるようです。しかし実際は、かなりマニアックな問題で試験にはほとんど関係なかったりするので、TACとBeckerの教材で十分だと思います。

● 学習の順番

FARの知識や計算方法が他の受験科目の基礎になっています。FARをきちんと習得してから、他の科目を勉強されることをお薦めします。もし、「ＦFARがずっと続いて、何か気分転換に他の科目も同時に勉強したい」と思われたら、法律系の科目（最初にBusiness structure、次にBusiness law）がよいかもしれません。個人的な感想ですが、法律系科目は直接FARの知識が関係ない上に、学習時間が多く必要と思ったからです。

勉強の流れとしては、
１講義聴き終わったら、TAC問題集の該当問題を解き始める
↓
章立て単位で講義を聴き終わったら、TAC問題集を見直して、実践トレーニング集の該当問題を解き始める
＊私が申し上げている『章立て単位』とは、例えばFARの２回の講義でテキストの第１章を網羅している、と言うように、講義ではなくテキストの章ごとの意味です。
↓
試験１か月前にシミュレーションとWritten Communication対応を始める
↓
試験１週間前にBeckerのFinal Examと最終確認をする。

《すでに基礎知識をお持ちの方へ》

私も同じなのですが、すでに会計（あるいは米国の税務など）の基礎知識をお持ちの方は、まず問題を解かれてみて、わからない部分の授業のDVDを視聴されるとよいかもしれません。わからないところだけ重点的に聞くことで、時間を効率的に使うことができます。問題を解いてみると、自分の予想以上に、「あれ？」と思う部分が出てきたりします。

① １講義を聴き終わったら、TAC問題集の該当問題を解き始める

問題を解くことで、自分の理解できていない部分を特定できたり、理解できないと思っていた部分が理解できたりします（特に計算科目）。また、問題を解くことで、知識も頭の中で定着します。

② 章立て単位で講義を聴き終わったら、TAC問題集を見直して、実践トレーニング集（あるいはPass master）の該当問題を解き始める

個人的な勝手な意見ですが、TAC問題集は理解の基礎を固めるための問題集であり、実践トレーニング集(Pass master)は、内容及び問題の言い回しの点で、本番の試験対応の問題集だと思います。このため、基礎を固めた後は、実践トレーニング（Pass master）で、問題慣れすることが有効です。私は、Pass master（パソコン画面）を使わず、実践トレーニング集（紙）のみを利用していました。理由は、単なる私の好みなのですが、紙の方が直接メモを書き込むことができたからです。試験慣れ（画面慣れ）を心配される方もいるかと思いますが、その点は、Final examの択一問題を試験前に解くことで解決していました。

③ 試験１か月前にシミュレーションとWritten Communication対応を始める

試験１ヵ月前になると、私はSimulation対策講義及びWritten Communication対策講義を視聴していました（それまでは、ひたすら択一問題を解いていました。）。シミュレーションとWritten Communicationの対策を始めることで、もう一度『全体像』を確認することができます。

Simulation対策の学習法としては、対策テキストに載っている問題を何度も解きました。Becker course CDのシミュレーション問題は、時間内に解答できるように、軽く解いてみる程度でした。

Written Communication対策の学習法としては、もともと私は英語が苦手ということもあり、Simulation対策テキスト及びBecker course CDのシミュレーション問題内のWritten Communication問題を、実際に書いて解きました。目的は、文章全体の最初と最後の書き方、文章の言い回し（クライアント宛に固い文章にしたいのか、部下宛の簡単な文章にしたいのか）、及びキーワードになる単語を覚えるためです。

④ 試験１週間前にBecker Final Examと最終確認をする

Final Examは、私にとってはとても難しく、「Final examでこれだけ正答率が低くて、合格できるのかしら。」と不安になりました。しかし、本番の方が易しいので、Final Examで悲惨な点数を取られた方もがっかりしないでください。ここでは、時間配分に慣れることもさることながら、間違った問題を確認することが目的です。実は、私が本試験を受けた際、Final examで出題された問題に類似している問題に何度もあたりました。

Final examを解く以外は、今までの問題集の中でずっと間違え続けている問題のみもう１度解くことと、先生方から「これだけは、問答無用で覚えてください。」といわれた項目の確認をしました（例えばTAXの数字など）。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

幸運にも、私は受験手続に手間取ることはありませんでした。

受験時のエピソードとしては、試験会場の室温に関することです。会場は、暑かったり、寒かったりします。私は調整のために、カーディガンを羽織って試験会場に入室しようとしました。その時、試験官に呼び止められ、「試験時間中に試験会場で（カーディガンを）脱いだり着たりしてはいけませんよ。脱ぐのなら今脱いでロッカーに仕舞うか、羽織るならそのまま試験が終わるまで羽織り続けてください。私（試験官）と一緒に一度入室して、室温確認してみますか？」といわれました。試験官が親切な方で助かりました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

勉強中は嫌気が差すこともたくさんあると思いますが（私は差しました）、試験に合格してすべてが終わったときに、新たな知識を見につけた喜びと、「自分はがんばった！」という達成感が何とも言えません。合格目指してがんばってください！

5年間継続再受講制度のおかげで4年以上のブランクの後、短期で合格！

匿名希望 さん

勤務先：外資系Finance部門
MBA

2009年2月　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：80点（2009年2月／2回目）、BEC：80点（2009年4月／1回目）
REG：83点（2008年7月／1回目）、AUD：89点（2009年2月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

税理士試験等日本の会計系の難関国家資格に比べれば簡単だと聞いていたのと、試験内容が実際の仕事上でも役に立つと思ったためです。

Q TACをお選びいただいた理由は？

他のU.S.CPA専門の学校とは違い、TACは歴史も知名度もあり、信頼感がもてたことと、開講校舎数が多いことが決め手でした。

Q TACの講座でよかったところは？

5年間継続再受講制度と、受講生情報サイトです。実は私は5年前に入学したのですが、仕事の都合などで最初の1時間講義に出ただけで4年以上休んでいました。しかし5年間継続再受講制度のお陰で改めて勉強を始めることが出来ました。受講生情報サイトは情報が網羅されており、講義に出ておらず、全く試験や手続きに関しての知識がなかった私でも、全てWebの情報で手続きを済ませ、受験を終えることができました。受験手続きについて全て１から自分で調べるとなると大変な労力だと思いますので、非常に時間の短縮になったと思います。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学ビデオ（DVD）講座です。1科目ずつ受験しましたが、およそ1科目につき1ヶ月勉強したと思います。

Q 合格までの学習法は？

何講義かTACのビデオブースで講義を視聴しましたが、大部分の講義はテキストを読み、Beckerの問題を解いてテストを受けました。特にAuditやTaxは特に自分で勉強し、まとめをする時間を重点的に取ると効率的なのではないかと思います。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

Guamで受験するためにGuam Surchargeを払おうとしたのですが、Webでどうしてもエラーが出て通らず、NASBAに連絡したりしましたが分からず、GUAMに連絡して結局Mother's Maiden Nameが間違って登録されていることが分かりました。予約がぎりぎりになってしまったので、やはり余裕をもってApplyすることが大事ですね。それにしても、NASBAの対応はいまひとつでした。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

私はGuamで3科目受験し、最後はNYで受験しましたが、NYで受験した時は、時差ぼけで悩まされました。集中力が必要な試験だけに、試験だけのことを考えればGuamでの受験が一番良いのではと思った次第です。あとは、受験勉強の期間が長引くと特に初めのころに学習した科目の内容を忘れてしまいがちですので、できるだけ短期集中型で学習されることをお勧めします。

大学在学中に全科目合格。就職した会社では希望どおりの部署に配属されました。

藤尾　浩幸 さん

1985年5月生まれ
慶應義塾大学 経済学部 2009年3月月卒業
2009年4月より 大手IT企業にてUS GAAP(米国会計基準)に基づく経理業務を担当

2009年2月　USCPA試験合格（バーモント州）（大学在学中合格）
FAR：81点（2007年11月／2回目）、BEC：76点（2008年11月／4回目）
REG：82点（2008年11月／4回目）、AUD：78点（2009年2月／5回目）

Q U.S.CPAを目指されたきっかけは？

私は大学の付属高校出身で、大学受験をする必要がなかったこともあり、高校3年の時にはすでに周りの同級生の中には日本の公認会計士を目指すことを考えている人もいました。私も日本の公認会計士を目指そうかと考えたこともありましたが、高校3年のときに1年間アメリカに留学をしましたので、英語を生かした仕事につきたいと思っていました。帰国後、TACのパンフレットを見て大学在学中に米国公認会計士試験に合格した方の合格体験記が載っていて、それを見てU.S.CPAという資格があることを知りました。実際に学習を始めたのは大学生になってからのことですが、やはり高校3年生の時にこの資格の存在を知ったことが大きなきっかけになったと思います。あと、大学では研究会に所属したいと思っていましたので、日本の会計士試験合格を目指すなら研究会との両立は難しいそうだけど米国公認会計士試験なら大丈夫かなと思ったことも理由です。実際、学習を開始してみてそんなには甘くなかったと気づきましたが、それでも何とか研究会と両立して、卒業前に合格することができましたのでU.S.CPAを選択してよかったと思っています。

Q 学習を開始されたのは何年生の時からですか？

受講を開始したのは、2年生の夏からなのですが、当時、学生団体のイベントの運営委員をやっていたので、提携大学の単位認定試験対策まではできましたが、本試験に合格するレベルまでの学習はできませんでした。その意味では本腰を入れて学習を始めたのは3年生の5月ぐらいからでした。

Q TACをお選びいただいた理由は？

大学生のとき、周りに日本の公認会計士を目指す人が多く、TACの知名度は大学生の中では非常に高かったことと、私が受講した当時TACのU.S.CPA講座には大学生向けに単位認定試験の受験費用が割安になる「大学生支援パック（※）」がありましたのでTACを選びました。

Q 実際に受講をしてみていかがでしたか？

基本的に全部よかったと思っているんですが、まず先生方については、特に税法の内田先生と監査の帆足先生が印象に残っています。帆足先生の実際にアメリカでの監査実務の話はとても興味深く、また、監査は最後まで残ってしまった科目ということもあり帆足先生にはお世話になりました。

また、教材ももちろんよかったです。TACのROUTE99（本科生）には世界的に定評のあるBeckerの教材がついていることもそうですが、Beckerに入る前に、TACの教材でこなしてからBeckerに進むことができるという順番もよかったです。Beckerの問題を解くために必要なベースをTACの教材を使った講義を受講することでしっかりと作ることができました。

Q 受講形態は？

通学スタイルのビデオ（DVD）講座で受講しました。

Q 15ヵ月教室フリーパス制度を使って教室にも参加されましたか？

大学2年生のときは学生イベントの運営がありましたし、2年から3年の間は研究会に入るための試験があり、その試験勉強のほうに力を入れなければゼミに入れなかったので、教室講座には参加しませんでした。

ROUTE99（本科生）の特典である制度で私が利用したのは「5年間継続再受講制度」です。私の場合、最後まで残してしまったAUDについてこの制度を使って最新の講義を再受講しました。U.S.CPA試験は基準の変更が多い試験ですので、既に学んだ科目でもう一度最新の基準を反映した講義を受講できるこの制度はすごくよかったと思います。

Q 合格までの受験スケジュールは？

1）初回は2007年8月、高校時代に留学した際にお世話になったホストファミリー（イリノイ州ピオリア近郊の町）のところに滞在しながらピオリアで受験しました。あまり準備ができなかった中でとりあえず4科目受験したのですが、70点台の科目もありましたが50点台の科目もあり、散々な結果でした。この試験は落とすための試験ではなく、受からせるための試験だと言われていますが、決して易しい試験というわけではなく、しっかり学習しないと合格は難しい試験だというということをこの時実感しました。

2）2回目は2007年11月にオレゴン州のポートランドでFARを受験し、合格しました。しかしその後、就職活動が本格化し、受験勉強と就職活動を両立させることが難しくなりましたので、就職活動をメインにし、受験勉強は一時中断することにしました。

3）2008年4月下旬に就職が決まり、5月に3回目の受験をしたのですが、あまり準備ができず、あと一歩（BEC 72点、REG 73点）で合格することができませんでした。

4）2008年11月、4回目の受験で、3科目（BEC、REG、AUD）受験し、BECとREGは合格できましたが、AUDは不合格となってしまい、この時は正直落ち込みました。

5）最後5回目、2009年の2月に、AUDを受験しました。当初学生としての最後の長期休みだったので、卒業旅行を兼ねてハワイで受験しようかと思ったのですが、初回受験の際にもお世話になった高校時代に留学していたときのホストファミリーが、「最後の受験は私たちが試験会場まで送っていくから」と言ってくれて、再びイリノイ州のピオリアで受験しました。ホストファミリーのおかげで、精神的にもすごく落ち着いて受験することができ、合格することができました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

4科目中3科目はオレゴン州のポートランドで受かったのですが、ポートランドでは、現地のホテルに宿泊してホテルからタクシーに乗ってテストセンターまで行きましたが、帰りのタクシーを手配しておらず、困ったのですが、テストセンターの方に言ったらちゃんとタクシーを呼んでくださって、それがすごくありがたかったですね。日本人の名前でタクシーを呼ぶのも大変そうでしたが、きちんとテストセンターの前までタクシーが来てくれて、助かりました。

あと、学生でしたので、受験時には一週間程度休めましたので、観光とまではいきませんでしたが、試験後周りを散策できて、ポートランドという地を知ることができてよかったと思っています。

Q FARの科目合格してから就職活動をされたと思いますが振り返ってみていかがですか？

今の職場で配属まで希望のところに行けたというのはやはりU.S.CPAの科目合格があったからだと思います。他の企業にも応募しましたが、どの会社も、U.S.CPA試験に科目合格していることを評価してもらえたと思います。面接まで進んだ企業では、必ず面接でU.S.CPA試験について聞かれました。就職活動中に一科目でも合格していたということが大きなプラス材料になったと実感しています。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験は一歩一歩やっていけば受かる試験だと思います。また特に学生の方の場合、就職活動と重なると勉強との両立が厳しくなると思いますので、就職活動が本格化する前にできる限り早く学習を開始していただくと良いと思います。

ただ、今はバーモント州の受験資格が私の時とは変わり総取得単位120単位（私が出願した当時は60単位でしたので大学3年次での受験が比較的容易でした）になりましたので、今は在学中に受験すると言っても、4年生になってからの受験になる方が多いと思いますが、4年生になってからでも遅くないと思うので、諦めずに勉強していくことが重要だと思います。

※「大学生支援パック」･･･2007年までは大学在学中に受験が可能な州がほぼバーモント州、アラスカ州の2州に限られていたため、これらの州に必要な単位取得費用を受講料とパッケージしたコースとしてご用意しておりましたが、2007年12月、バーモント州の受験資格の変更に伴い、大学在学中の方の出願州の選択の幅が社会人の方と同様に広がったことから、「大学生支援パック」を廃止し、現在は大学生、大学院生の方を対象とした「単位認定試験学割受験料」を設定させていただき、引続き在学中に合格を目指す大学生の方を応援しています。

ドタバタU.S.CPA受験の記録

A.K さん

1983年8月生まれ（25歳）
法学部 2008年3月卒業
監査法人にて内部監査など、リスクアドバイザリー業務を担当

2009年3月　USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：83点（2008年7月／1回目）、BEC：86点（2008年7月／1回目）
REG：81点（2009年2月／2回目）、AUD：77点（2009年2月／2回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

学生時代のインターンを通じ、内部監査業務に関心を抱き、U.S.CPAをいつかとりたいと考えるようになりました。実は本格的な学習を開始していない段階で、監査法人の面接を受け、U.S.CPAの勉強をしていると言って内定をもらいました。そこで、内定をもらった、2007年12月に受験を決意し、何とか入所するまでに受験しようと決めました。それから受験手続きを開始して受験が可能になるのは、早くて2008年7月ということだったので、それまで集中して勉強し受験してから入所するという約束にしました。結果的に、さらに半年間合格までに時間を要しましたが、半年以内にU.S.CPA試験に合格になくてはいけないというプレッシャーの中で受験勉強をすすめました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

知人からのすすめがあったことと、いくつかの予備校で担当者から話を聞いた結果、TACの担当者が試験内容・傾向等について詳しかったこと、的確にアドバイスをくれ、信頼が持てたからです。

Q TACの講座でよかったところは？

特にTAXとNPA(Non Profit Accounting)を担当されている内田先生の授業・オリジナルテキストは要点がうまくまとまっていてかなり良かったです。また、Beckerの問題集は評判どおり信頼できるものでした。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信講座で受講しました。
学習期間については
2008年1月～2008年7月上旬：FAR/BEC/AUDを学習
2008年9月～11月：REGを学習
2009年1月後半から2週間：REG&AUDの学習
というスケジュールですすめました。

Q 合格までの学習法は？

全科目ともTACの問題集、Becker問題集を繰り返し解きました。
TACの問題集の問題を解き、間違えなくなったらBeckerの問題をやってみて間違えたところ、十分わかっていない所をTACの教材で再度確認し、さらにBeckerで最終確認しました。

（1）まずはTACのテキストと問題集で
私の場合、簿記の学習経験もなく、ゼロからのスタートだったので、Beckerのテキストは使わず、まずはTACのテキスト・問題集を徹底的に理解するようにしました。テキストを理解するために、テキストの内容を、ノートにまとめ、繰り返し読みました。そして問題を解き、つまずいたところは、何度も確認しました。

（2）単位認定試験の受験をペースメーカーに
また、特に大学卒業前はまとまった時間があったので10日ごとに、Bradley大学の単位認定試験の受験申込をして、単位認定試験受験日までにテストの範囲を終わらせるようにしました。この単位認定試験の受験をプレッシャーにして、受験日まで一気に試験範囲の勉強を終わらせる方法は、単位認定試験を利用する方に取って結構使える手だと思います。

（3）そして仕上げはBeckerで
そしてBeckerも何度も解き、わからないところは基礎問題に立ち返って何度も解きなおしました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

（1）受験手続について
初めはニューハンプシャー州に出願する予定でしたが、出願直前になって、ニューハンプシャー州は、NTS（受験票）の発行までに何カ月も比較的時間がかかっているという話を聞き、急遽アラスカ州に出願することにしました。幸い、学部時代に取得していた科目が、会計単位と認められたため、会計単位が15単位必要なアラスカ州（ニューハンプシャー州の要求する会計単位数は12単位）でも出願することができました。もし学部で取っていた会計単位が認められなかったらアラスカ州には出願することができなかったので、私のように事情があって受験を急ぎたいという方は、不測の事態に備え、出来るなら追加単位は多めに取っておいてもいいと思います。
私はとにかく出願を急いでいたので、卒業式当日、英文卒業証明書を受け取ると、袴姿のまま、郵便局へ行き、学歴審査の書類を送付してから謝恩会に出席しました。

（2）受験時のエピソード
＜1度目＞2008年7月（FAR、BEC、AUDを受験）
昔留学していたワシントンDCまで、現地にいる友人に会うという目的も兼ねて受験しに行きましたが、1科目のAUDの受験日に時差ボケに襲われ、受験中に頭が動かなくなりました。その結果、74点の不合格通知が来ました。時差ボケ以外にSimulationが難しかったことも原因だったと思います。テキストでは見たこともない、難しいトピックが出ました。FARとBECは合格することができました。
＜2度目＞2008年11月（REGを受験）
アメリカ大統領選直後に、シカゴまで行きました。シカゴ大学留学中の友人のところに身を寄せ、オバマゆかりの地も見て、楽しい時間も過ごせたものの、再び時差ボケにやられ、僅かながらREGが合格点に足りず、再度落ちてしまいました。（不合格通知を受け取ったのは2009年1月1日でした。）　時差ボケに加え、受験前日は非常に体調が悪く、食事もできないくらいだったことも、響いたのかもしれません。
＜3度目＞2009年2月（REGとAUDを受験）
今度は時差のないところに行こうと、グアムへ渡航しました。しかし、いきなりの暑さにやられて体調を崩し、受験直前まで動けず、ホテルで休んでいました。それでも、短期集中型で行った直前の対策が功を奏し、これまで時差ボケで涙をのんだ科目に合格することができました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

体調は万全にして挑んでいただきたいと思います。せっかくお金をかけて渡米するのですから、グアム以外に行く場合は、思考能力を停止させる、時差ボケにも気をつけていただきたいと思います。
AUDとREGは合格しにくい科目だと思いますが、諦めずにチャレンジし続けてください。AUDとREGは、アメリカ人にとっては比較的取り組みやすい科目だそうなので、高得点を狙うくらいのつもりで勉強すると良いと思います。
最後に、U.S.CPAは、膨大な出題範囲をいかに忘れず、間違えずに解答できるかが勝負の試験だと思いますので、（もちろん論理的に理解した上で）TACとBeckerの教材に収録されているたくさんの問題を解いて慣れることが、合格への近道なのではないかと思います。皆様のご健闘をお祈りしています。

公認会計士とのW資格を外資系企業でフルに活用しています。

伊東　賢治 さん

1964年3月生まれ（45歳）
東京大学 法学部 1987年3月卒業
勤務先：外資系企業
公認会計士・税理士・米国公認会計士（ワシントン州）

2009年2月　USCPA試験合格（ワシントン州）
2009年5月　License取得（ワシントン州）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

私は日本の公認会計士試験に合格後、1990年代は大手監査法人国際部に勤務していました。その後金融機関や外資系製薬会社で企業内専門家として国際税務を経験した後、独立開業し現在は外資系企業に戻り経理部門に勤務しております。

監査法人国際部では当時からビッグ4（当時はビッグ8とかビッグ6でしたが）のグローバルな、といいますかアメリカ流の監査手法で監査をやっていました。外資系企業のクライアントでは監査計画書、監査手続書、監査調書は英語で作成していました。監査業務以外にもアニュアルレポートや英文財務諸表に関連する業務も数多く経験してきました。このような国際業務の経験を独立開業してからも何とか活かせないかと兼ねがね思っていましたところ、幸い米国会計基準（U.S.GAAP）プロジェクトや米国SOX法プロジェクトなどに参加する機会があり、やはり米国会計基準、米国監査基準、米国SOX法、内部統制といった知識つまりU.S.CPA試験で問われる知識は公認会計士として国際業務を継続していく上で中核のスキルとして必要であるということを再認識しました。

そこで、日本の公認会計士になってからかなり時間が経った私にとって、国際業務に必要とされるスキルを維持して、米国会計基準等の知識をアップデイトするためにはU.S.CPA試験合格を目標にして勉強するのが良いのではないかではないか、と思ったことがきっかけです。

Q TACをお選びいただいた理由は？

TACさんには当時の公認会計士2次試験、それから3次試験の両方の受験でお世話になりましたので、U.S.CPAの学習を思い立った時も迷わずTACの講座説明会を聞きに行きました。TACのU.S.CPA講座の教材には定評のあるBeckerの教材を使っていた ことも大きな魅力でした。事前にTACのU.S.CPA講座を受講していた同僚の持っていたBeckerのテキストを見る機会がたまたまありましたが、非常にコンパクトに米国会計基準や監査基準の最新知識をまとめてあり、おそらくこれだけの幅広い内容をこれだけコンパクトにまとめた教材というのは他にはなかなか無いだろうと思いました。実際に実務の現場でもBeckerのテキストを参考にして、非常に役立ったこともあり、Beckerの教材の良さを実感していました。それから何よりTACは私のような仕事に追われる忙しい社会人でもフレキシブルに受講でき、効率的に短期合格するための仕組みが確立していましたのでU.S.CPA講座もTACで受講することにしました。

Q 受講形態は？

DVD通信講座を受講しました。

Q 15ヵ月教室フリーパス制度を利用して教室講座へも参加されましたか？

FARとBECについては、得意分野ではないBECのITだけは教室講座に参加しましたが、それ以外はDVDの視聴かテキストだけで済ませました。REGとAUDの2科目については、５年間継続受講制度を活用して、TAC渋谷校の教室講座に参加しました。

Q 学習開始から合格までの期間は？

U.S.CPA講座に申込んだ当初は仕事が忙しくて、全く学習時間が取れませんでした。DVD通信講座を申込んだので、すでにスタートしていたコースのDVDを最初に1年分ドサッと送ってもらいました。全く手がつけられずにいたときは、本当に仕事を継続しながらこれを全部こなせるのかなと不安に思いましたが、せっかく受講料を払ったのだからやらざるを得ないと決心して学習を開始しました。仕事を継続しながら少しずつ各科目の勉強を開始したのが2007年の夏頃からで、ブラッドリー大学の単位認定試験を目標に１科目ずつ学習を進めていきました。2008年10月中旬に初めてREGとBECを受験しました。その後2009年2月にFARとAUDを受験し、全科目合格しましたので、合格までにかかった期間は約1年半です。

Q 合格までの道のりを振り返ってみていかがですか？

（1）単位取得について

監査法人を退職してからかなりの年数が経過し、独立開業している私が合格後のLicenseの取得を視野に入れた場合、ワシントン州がよいとTACのスタッフの方にアドバイスを頂いたので、ワシントン州に出願することにしましたが、ワシントン州の受験資格を満たすためには会計単位がかなり不足していました。そこでまずはブラッドリー大学の単位認定試験を目標として会計科目の単位取得のための学習を開始しました。単位認定試験は3ヶ月に1回のTAC水道橋校での会場試験の他に、随時受験できるプロメトリックのテストセンターでのコンピュータ形式の試験も利用でき、自分のスケジュールに合わせて非常にフレキシブルに受験できましたので、効率よく必要な会計単位を取得することができました。

（2）科目別には

日本の公認会計士の方でもREGのFederal Taxation（米国連邦税法以下TAX）とBusiness Law（米国ビジネス法　以下BL）は全く授業を受けずにテキストだけで学習するというのは難しい科目だと思います。まずTAXは個人所得税の割合が非常に高いですし、非常に細かい知識が問われます。個人所得税申告書のシミュレーション問題も出題されます。米国に在住経験がある方であれば米国の個人所得税にある程度なじみがあるのではないかと思いますが、私のように米国に在住した経験がない者にとっては、日本国内では米国の個人所得税には実務で全く触れる機会はないので、なじみにくいのではないかと思います。TACのテキストではわかりやすい図解や要点ノートなども交えて非常に細かいところまでフォローアップされており、TAXを担当された内田先生の懇切丁寧な講義およびテキストとBeckerの組み合わせで、米国個人所得税の実務経験がない私でも無理なく合格レベルの知識を身に付けることができました。次にBLも勉強してみると最近の日本のビジネス法は米国のビジネス法の影響をかなり受けており、意外と共通部分といいますか、なじみやすい部分が多いことに気づきました。とはいっても外国の法律ですので日本の公認会計士の方でも難しいと感じられる科目だと思います。BL担当の杉浦先生の懇切丁寧な講義のおかげで克服することができました。TACのテキストに加えて杉浦先生の書かれた名著「米国ビジネス法」もフルに活用させて頂きました。

残りの3科目（FAR, BEC, AUD）は、ある程度日本の公認会計士として会計実務や監査実務をやってきている方、監査法人国際部で米国会計基準での会計実務や監査実務を経験された方であれば、なじみ深い内容も多いと思いますし、私にとっても比較的取り組みやすい科目でした。

（3）教材について

私の場合、まずはTACの講義とテキストを充分に理解してからブラッドリー大学の単位認定試験を受験し、本試験の直前期に集中してBeckerを使いました。Beckerに代わる教材はないのではないかと思います。本番の試験の操作性をほぼ忠実に反映したコンピュータ画面上で数多くのMultiple Choice (MC)問題の演習ができ

ました。間違えた問題はプリントアウトして直前期にもう一度見直しました。

Final Exam（模擬試験）が各科目２回分ついている点も良かったと思います。特に試験時間が４時間のFARと３時間のREGは時間管理を厳しくやらないと万遍なく得点して合格点を取りにくい科目だと思いますが、受験上重要な時間管理の対策もBeckerを使うことで十分に練習できました。本試験も平常心で臨むことができました。

(4) 受験の順序について

私の場合、何回かに分けて受験する計画であったため、科目合格が無効にならないように、最後に残したくない科目であるREGと管理会計、ファイナンス、ITなどカバーすべき範囲が広く高得点を取りにくい科目だと聞いていたBECの2科目を最初に受験しました。第１回グアム受験ではBECの勉強に充分時間が取れなかったため、REG１科目の合格を狙いにいきましたが、幸先よく２科目とも初回の受験で合格できました。残りの2科目（FAR、AUD）は、当初は１科目ずつ受験する予定でしたが、昨年度後半以降の未曾有の経済危機の中で、あまり時間をかけてゆっくり勉強している余裕がなく、グアムに行く回数も減らしたいと考えたので、第２回グアム受験で残りの２科目を同時に受験することにしました。したがってFARとAUDは高得点を狙いにいくという戦略はとらずに、限られた時間の中で広く浅く全範囲をカバーして、大きなミスをせずに着実に合格点を取りにいくという戦略で学習を進めました。結果的には基本的事項を確実にカバーしたことが良かったためか、思った以上に高得点を取ることができました。特に良かったと思うのはTACおよびBeckerのテキストと直前対策です。オプションで購入したBeckerのフラッシュカードも良かったと思います。フラッシュカードを活用することで各章の基本的事項を短い時間で繰り返し学習して、暗記することができました。また日本の公認会計士としての実務経験があったとしても、U.S.CPA試験を甘く見ることなく、受験のための勉強に徹してしっかりやる、確実に受かるためには、実務で経験してきたこととU.S.CPAの受験で勉強する内容はまったく別物であると考え、さらに危機感を持って何としても１回目で合格する、という気持で取り組んだことが好結果につながったと思います。

とにかくTACを信じてTACの講義とテキストで基本的事項を全範囲にわたり充分に理解する。そしてBeckerのコースCDでMultiple Choice（MC)問題やSimulation(SIM)問題を自分の頭で考えて解く。Final Exam で本試験での時間配分を事前に経験する。直前対策とフラッシュカードで基本的事項を確実に暗記する。時間的にそれ以上のことはできませんでしたが、合格するためには、そのようなオーソドックスな勉強方法で充分で、それ以上やる必要もないと思います。

Q 受験手続き、実際の受験についてお困りになったことはありましたか？

手続きや実際の受験に関してはTACの受講生情報サイトやフォローアップセミナーのおかげで特に困ったことはありませんでした。「持ち物チェックリストとグアム会場の様子」は１回目の受験の時に特に役立ちました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

(1) 日本の公認会計士の方へ

公認会計士試験に合格して間もない若手の公認会計士の方は苦労して公認会計士試験に合格したわけですから、まずは日本の公認会計士として実務経験を積むことが重要だと思います。また監査法人に入社しますと、１年目から仕事が忙しく、さらに実務補修所もありますので、勉強する時間が取れないという方が多いかと思います。私の経験から申し上げますと、ある程度年数が経ってくると、もう１度しっかりと勉強し直してみたいと思う時期が来ると思います。U.S.CPA試験はそのタイミングで受験すれば充分であると思います。私自身も今回U.S.CPA試験に合格したことで、米国会計基準の知識や米国SOX法以降の監査基準や内部統制の知識がアップデイトできたと思います。公会計(NPA: Not-for-Profit Accounting)、連邦税法、米国ビジネス法など、U.S.CPA試験では出題されますが日本の実務ではあまりお目にかからない分野については、充分に時間を取って学習する必要があると思います。

(2) 学生、一般事業会社にお勤めの方へ

学生の方や一般事業会社にお勤めの方で国際会計や内部統制を英語で学びたいという方にとって、キャリアアップのために必要なスキルを勉強できる試験としてお薦めできるものは、今のところはU.S.CPA試験がベストではないかと思います。実際私が知っている外資系企業のコントローラーの方などでU.S.CPA試験に合格してキャリアアップをされている方を何名も知っています。外資系企業では外国の親会社の承認が必要な重要案件などでは英語でのコミュニケーション能力やライティング能力が極めて重要なので、U.S.CPA試験で身につけた英語力や英文会計知識は絶対に役立ちます。

(3) 試験の魅力について

それとU.S.CPA試験はコンピュータ試験で、自分のスケジュールに合わせてフレキシブルに受験ができる点も魅力です。私が監査法人に勤めていたころはコンピュータ試験ではなく、年２回のペーパー試験でしたので、ビジーシーズンとかち合うと日程的に受けにいけなくなったり、充分に準備ができなくなったりとかする恐れがあり、当時の上司からU.S.CPA受験を勧められてはいたのですが、受験しようという決心がつきませんでした。U.S.CPA試験は会計プロフェショナルとして国際的なビジネスに関わる人にとってどれが欠けても足りないそういうミニマムな部分を充分にカバーしている試験だと思います。監査業務をやっている方はU.S.CPA試験を通じて身に付けた知識は全ての業務に活きてくると思います。企業にお勤めの方にとっても例えば、監査を受ける立場になって監査法人がどういう手法で監査をすすめてくるのかということを理解するために役立つと思いますし、内部監査や社内の内部統制プロジェクトに関わるといった時などにもAUDの知識が役立つと思います。そして会計や監査の専門用語を英語で使いこなせるようになることも大きなメリットだと思いますね。ですから監査法人にお勤めの公認会計士の方だけでなく、一般事業会社で経理、財務部門にいらっしゃる方にとっても必ず役に立つと思いますので、U.S.CPA試験は大いにお薦めしたい資格ですね。

(4) 現在の仕事とU.S.CPA試験との関係

私は公認会計士としていろいろな企業のアドバイザリー業務を中心に活動していますが、あらゆる場面でU.S.CPA試験で勉強したことが活きてくるということを日々実感しています。例えばミーティングなどでいろいろとコメントしたり、CFOやコントローラーにアドバイスをしたり、英文でレポートを作成したりする時などは、TACのU.S.CPA講座で勉強した内容をフルに活用しています。

実務家は自分の専門分野を持つ必要があると思いますが、クライアントのニーズは必ずしも自分の専門分野の範囲内であるとは限りません。クライアントの様々な質問や依頼に応えられる「引き出し」を1つでも多く持つために、自分の専門分野以外の分野を広範囲にわたり勉強をすることも大切だと思います。U.S.CPA試験を通じて身に付けられる実務知識でムダになるものは何一つないと思います。

日本人U.S.CPAの人数は益々増大するニーズに比べてまだまだ少ないので、今後もさらに日本人U.S.CPAの仲間が増えてほしいと思います。

皆さんの御健闘をお祈りしています。

子育てしながらチャレンジできる資格としてU.S.CPAを選択

C.I さん

1982年生まれ
東京外国語大学外国語学部英語学科 2004年卒業
元英語教師。現在は１歳の子供の子育て中。

2009年1月　USCPA試験合格（Maine州）
FAR：87点（2008年10月／1回目）、BEC：76点（2008年8月／1回目）
REG：93点（2008年8月／1回目）、AUD：97点（2009年1月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

主人の海外駐在や私自身のハイリスク妊娠等で専業主婦にならざるを得なかったのですが、子供を産んである程度育てたら働きたいと思っていたので、子育てしながら何か勉強したいと思っていました。会計に興味がありましたので、日本の公認会計士、税理士にしようかと迷った時期もありましたが、元々得意な英語を活かすという点と、当時０歳の子供昼寝中等の空き時間しか勉強に割けないという時間的制約もあり、USCPAの勉強をしようと決意しました。

Q TACの講座でよかったところは？

講師の中では特に内田先生が印象に残っています。
教材で特に良かったと思うものは
・内田先生の直前対策まとめ及び内田先生のTAC問題集
・TACのオリジナルテキスト(特にBS、BL、IT)
・Simulation対策のテキスト(BL、AUD)
・Becker教材　です。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

ＤＶＤ通信講座で受講しました。
2007年11月から勉強を開始し、途中2008年３月は全く勉強できなかったので、実質１年１ヶ月で合格することができました。

Q 合格までの学習法は？

全体的なこと
・DVDを見てから、該当部分のTACテキストの問題や、TAC問題集を解くことを繰り返しました。一科目全部見終わったら、TACの問題集をもう一回転した後、Beckerの Multiple Choiceの問題を解きました。適宜該当範囲のSimulation（以下SIM）問題も解きました。
・やって良かったこと：SIM用間違いノートを作ること
SIMやるときに、間違えたタブ・間違えた問題番号及び必要に応じて暗記すべき事柄や理解不足事項をメモしておきました。
（SIMの解答履歴はＭＣのように保存されないので、メモしておくと、試験直前に総復習する際役に立ちます）

FAR
①ＤＶＤ視聴していた頃（約２ヶ月）
・テキスト、付属問題集を２回転しました。
・こんがらがってしまう論点は、それぞれ仕訳や注意事項をカードに書いておくようにしました。
（treasury stockの処理方法２つや、partnershipの新規加入者計算方法２つなど…）
→DVD視聴の時点で難しいと思う論点は、直前期になっても苦労することが多いので、予めまとめておくと、後が楽だと思います。

②直前期（9/1～10/9）
・公会計の部分のDVDをもう一度視聴→問題集３回転しました。
まじめにDVD見て問題を解けば、本番ではほぼ満点がとれると思います。
実際、私の本番でも、NPOは２問聞いたことない問題が出ましたが、それ以外は全部できました。
・問題を解きながら、DVD見ている段階で作っておいたカードに適宜書き込み・暗記
→それを見るだけで、自分の苦手論点が全てカバーされるようにしておくようにしました。
・Beckerテキストの付属問題１回転
・問題集の問題：テキストの問題やベッカーで得点率が低かった部分を２回転しました。
（私はFAR２のVol.1後半と、Vol.2全部と、FAR３のConsolidationでした）
・Becker　MC（基本のみ）１回転
なお、分からない問題は、Wordにコピペし、分からない部分や注意すべき部分をコメントに残して印刷し、１冊のファイルにどんどん閉じておき、細切れの時間で眺めていました。
使っていたファイルのポケットには全40枚しか入らなかったので、ファイルが一杯になってしまうと、覚えた部分からどんどん捨てて入れ替えていくようにしました。
・Final　Exam２つ分×２回
それぞれ、３時間20分以内で解くようにしていました。
私としては、試験において理解不足や知識不足で落ちるなら仕方がないけれど、時間不足で自分の力を出し切れずに落ちるのはごめんだ！と思っているので、FARのみならず、他の科目でも、Final Examは制限時間マイナス30分を目安に解く練習をしていました。
そうすると、本番では、SIMに十分時間をかけられ、精神的余裕をもてるので、おすすめです。

REG
TAX
・内田先生のビデオをしっかり見てから問題集をつぶしていけば、その後のベッカーでは一回目から８～９割取れました。
ベッカーは一回しか回しませんでしたが、問題集の方は４回転しました。
・情報は全て直前対策まとめに書き込みました。数字部分は全部丸暗記しました。
・問題集の後ろについていたSIM基本問題集は５回転以上しました。
・Written Communication(以下WC)：試験１ヶ月ほど前から、毎日1問はパソコンでやりました。（タイピング練習もかねて）
問題集の後ろにWC問題が12問ついていたので、3回転ほどやったと思います。

BL
・実はまとめノートを作ろうとしていたのですが、試験1ヶ月前ほどに挫折しました…。
この時点では、TACの付属問題集はちゃんと出来ても、ベッカーでは6，7割しかとれないレベルでした。（しかも、解説を読んでもイマイチちゃんと分かっていませんでした）
その後、直前対策テキストのBL部分を切り取って、それに書き込んで使ったら、飛躍的に正答率があがりました。
直前期はその直前対策テキストを読み込みまくりました。

BEC
MA・FIN
・簿記2級を持っているので、その部分は大丈夫なのですが、それ以外は本当に苦手でした（特にFIN）。

ベッカーのサプリをやろうとしても、さっぱり分からないので、サプリをやらず、代わりにTACのテキストと問題集を3回転はしたと思います。

BS

・テキストのAランク語彙＋MCで出来なかった部分を中心に丸暗記しました。
ベッカーサプリもしっかり解きました。問題集は、量も少ないので5回転しました。
本番でもBSは全部正解したと思います。

ECO

・ベッカーのサプリはよく分からなかったので、テキストと問題集中心にやりました。
が、配点も少ないので、複雑な概念のものはやりませんでした。
ベッカーのテキストの各章の終わりについている基本問題が役に立ちました。

IT

・ハードウェアとソフトウェアの違いすら分からないレベルからのスタートだったので、問題集を解きまくって丸暗記しました。ベッカーのサプリもやりました。
Beckerのテキストの基本問題（各章の終わりについている）がとても役に立ちました。
基本の良問だけが載っているので、おすすめです。

AUD

①AUD試験本番３～２ヶ月前

・DVD視聴
・その際、「直前対策テキスト　Simulation対策AUD」（TACから送られて来たもの）をまとめノートとして使用→適宜書き込みしました。
・テキスト２回じっくり読む→テキスト・問題集を２回転しました。
この際、問題集（特に１冊目）がよく分からず、　数ページに一問は分からない問題に出くわし、質問していました。
（なお、質問の回答は、大きめのポストイットに要点を書き込んで貼っておくと、　後で見直しやすかったです。）

②DVD視聴後　試験まで（２ヶ月弱）

・Becker MC基本一回転　適宜対応する部分のSIM→
SIM対策講義DVD→SIM２回目→公表問題2006, 2007→MCサプリ
→final exam２つ　→公表問題2008→TACテキスト・問題集１冊目のみもう一度
→Becker MC基本　初回で間違った部分のみもう一度
→Final　exam2回目

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

受験は、家族旅行もかねていたので、受験後の旅行がとても楽しかったです。

2008年８月のLA受験では、試験後ディズニーランドやラスベガス、グランドキャニオンに行ったり、10月のハワイ受験では、ハワイ島に行ってのんびりしたり、2009年１月デトロイト受験では、試験後タンパに飛んで、ビーチドライブ、ディズニーワールド、ケネディ宇宙センターに行ったりしました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

英語でこれまで知らなかったことを学ぶのはとても楽しいことです。

頑張って下さいね。

TACの教材を繰り返すことが合格への近道

大橋　雄人 さん

1981年12月生まれ（28歳）
早稲田大学大学院商学研究科 2007年3月修了
勤務先：新日本有限責任監査法人
公認会計士

2008年8月　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：78点（2007年5月）、BEC：85点（2008年2月）
REG：90点（2008年8月）、AUD：84点（2008年5月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

私は大学時代に、日本の公認会計士の勉強をしておりまして、4年生の時に幸い合格したのですが、以前から大学卒業後は大学院で会計学の勉強をしたいと思っておりました。大学の先生に会計士試験合格の報告に行った際、せっかく大学時代に公認会計士試験に合格したのだから、大学院に進んで少し落ち着いて勉強してみるのも良いのではないかというアドバイスをいただいて、やはり大学院に進むことしました。大学院では当然のように最新の会計資料を原文で読む機会が多くなりました。そこで英語の基礎力が必要となりましたが、何を勉強するにしても目標を設定することが大切だと思い、U.S.CPAの勉強を始めました。大学４年生の冬頃から勉強を始めました。その頃ちょうどTACのステップアップキャンペーンという合格したら次の資格を割引くというキャンペーンの期間中で、TACで公認会計士の合格を果たしたところでしたので、これはチャンスと思ってTACでU.S.CPAの勉強を始めました。

Q 学習を開始されたときの英語の実力はどのくらいでしたか。

英語の勉強は、大学受験以来ちょっと離れてしまっていました。英語の必要性、重要性は十分承知していたのですが、大学時代は公認会計士試験の勉強が中心となっていたのでどうしても英語までは手が回っていませんでした。会計士の勉強は大学2年生の時に本格的に始めましたので、それ以後はほとんど英語は見ていないという状況でした。

Q 合格までのスケジュールを教えて下さい。

本来の目標としては大学院の間に４科目を1度に合格したかったのですが、自分が考えていたよりだいぶ長くかかってしまいました。2004年の12月に始めて、翌年2005年の11月くらいには受けに行きたいと考えていたのですが、学歴審査、願書送付のスケジュールの流れをきちんと認識していなかったために、上手く波に乗れなかったということも大きな要因だったような気がします。結局11月は無理だと思い諦めました。もちろん学習の方も全然進んでいませんでした。会計士の試験に合格した後も、租税法及び監査論の試験があったり、修了試験等が後に控えていたりして、なかなか本格的にU.S.CPAの試験を受けるための勉強を始めることができませんでした。

私は大学4年生の12月から通学ビデオという受講形態で始めたのですが、まず、講義は受けられる時に受けておこうと思い、DVDをどんどん見て消化していく方法でスケジュールをこなしていきました。4月から大学院がはじまると、大学院の勉強もあるし、先行して12月から監査法人で学生の非常勤という形で働いていましたので、仕事と大学院の勉強、さらにU.S.CPAの勉強という生活がだんだんタイトになってきまして、当初の目標であった11月受験がだんだん厳しくなってきましたので、合格ということはひとまず置いておいて、とにかくDVDだけ見て、とりあえず受講して英語に慣れていこうと思いました。英語の勉強がメインだったのでTaxとBusiness Law以外は一通りDVDを見ました。復習はまったくできなかったのですが、DVDを見て単語を書き込んだり、TACのテキストには巻末に用語集がついているので、それを見たりしながらテキストを読み進めていきました。最初は苦労しましたが、単語を覚えだしてからは、後は英語を読むだけですから慣れてきて、だんだん英語を読むスピードもあがってきました。とにかく単語を覚えることをメインに勉強を進めていきました。

Q TACの講座を受講していただいて良かったところは？

2007年12月に公認会計士の3次試験が終わって、そこから本格的にU.S.CPA勉強を始めましたが、私は結局、最初から最後までTACのテキストと問題集しか使いませんでした。TACのテキストは非常にわかりやすく、FARとBECの2つについてはテキストを中心に、昔受講したDVDの記憶と、その当時のメモなどを見て思い出しながら勉強を進めました。AUDについては、私が受験する頃には、学習を始めた頃と内容が激変していました。エンロン事件があり、SOX法ができてアメリカの監査基準がまったく変わっていたので、受験前に再度集中して勉強しました。そういう意味でTACの５年間継続再受講制度には本当に助けられました。

TACの教材は非常に良かったと思います。他の教材は一切使わず、Beckerの教材もついていましたけれど、これも全然使わないですみました。

Q 印象に残っている講師は？

Taxの内田先生とBusiness Lawの杉浦先生が非常に印象に残っています。

Q 公認会計士試験と、U.S.CPA試験で、内容的にかぶっている部分はどの様に対応しましたか？

BECとFARの内容、これは基本的におおむねかぶっていると思います。範囲としては若干日本のものを狭めてそれを英語版にした感じの印象だと思います。ただTaxとBusiness Lawはまったく別なのかなと思います。

英語を読み進めていくにあたって、自分の理解していることを読むのは非常に学習しやすかった、ということがまず1点で、後に勉強したAuditとTaxについては、会計士の受験勉強のときには監査についてはよく知らないまま勉強していましたので、実際仕事に就いて監査をしながら、もっとこういうところを勉強しておけば良かったなというようなところをこのAuditで勉強できて、日本の会計士受験時の勉強よりも実践的だったというところが私にとっては大変良かった思います。Auditを勉強しながら、この科目だけなぜこんなに重いのだろうと思うほど、日本の監査論と比較しても、むしろこちらの方が重いくらいに深みがあるというか、実践的でした。

FARは日本の簿記の知識があればある程度対応できますので、ほとんどテキストを読んだだけで、とくに問題を解くということもしませんでした。BEC、Audit、Business LawについてはTACのテキストと問題集を繰り返しました。いただいたBecker COURSE CDも結局使わずに、最後までTACの問題集を繰り返しました。テキストでインプットして最後はTACの問題集というのが基本形でした。U.S.CPAを勉強するためのツール自体そんなに売っていないと思うのですが、私の場合TACの教材だけに絞って集中して学習すればおつりがくるくらいの点数がとれましたので、そういう意味でTACの教材だけで十分だと思います。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続きについては何度かTACに電話をして確認しながら進めました。学歴審査機関への審査依頼とか、最初はたいへんでした。受験資格を州に郵送をするのがとくに面倒くさかったです。外国為替送金などしたことがありませんでしたから、郵便局でいちいち教えてもらいながらやりました。

フォーム自体も英語なのでよく分からなくて、TACで頂いた記載例を見ながら苦労して埋めた覚えがあるのですが、あの記載例がなかったら出願も難しかったかもしれません。

Q グアムの試験会場でお困りになったことなどございましたか？

グアムではそれほど困るということは無かったですね。ただ試験場の予約をする時に、Auditなどの受験時間の長い科目になると、予約が取りづらいのかなと思いました。試験場のブースの数が決まっていますから仕方ないのかもしれませんね。グアムは試験場がホテルから比較的近いので環境としては良いと思います。最初受けた時はPCがボロボロだったのですが、最後に受験した時は新しくなっていました。

Q U.Sに合格したことがお仕事のうえで活きているなと思うことはありますか。

私の場合、現在は国内監査部に勤務していますので、今のところ海外の仕事をするということは直接にはありません。U.S.CPAの知識を直接使うというよりかは、英語が読めるということが、自分にとっての最大のスキルとなったと感じています。IFRSに関するものにしても海外の論文を、辞書をひかずに苦無く読めるというのは、かなりストレスが軽減されます。役にたっているというよりも、今現在自然にできていることが、よく考えると実はU.S.CPAを勉強したからできていると感じます。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

基本的にはTACの教材を繰り返すことが近道だと思います。そして大切なことは試験を難しく考えすぎないということです。私は試験を難しく考えすぎて、しりごみしてしまい、なかなか1回目の試験を受けに行けませんでした。実際に初めて受験しに行ったときは、手応えが無くて、全然できなかったと思ったのですけれど、意外と簡単に受かりました。自分で思っているよりかは良い点数がついてきますから、あまり構えすぎないで飛行機に乗って受験会場に飛び立ってほしいと思います。暗記という作業はあまり必要無くて、要は問題を解けるように理解をすればよいのです。日本の会計士試験は論文式でしたから、文章を暗記してそれを書き出すという感覚でしたが、U.S.CPAの受験では文章の暗記は必要ありません。四択ないし五択ができれば問題ありません。まず、TACのテキストをしっかりと理解すれば必ず合格に結びつくと思います。

全科目初回受験で同時合格！

谷　充史 さん

1952年1月生まれ
一橋大学商学部 1975年3月卒業
勤務先：東証一部上場企業
経営企画室および経理部担当専務執行役員

2008年11月　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：76点（2008年11月／1回目）、BEC：75点（2008年11月／1回目）
REG：77点（2008年11月／1回目）、AUD：75点（2008年11月／1回目）
（合格時の年齢56歳）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

私は現在東証一部上場企業の役員をしていますが、ちょうど3年前までニューヨークの駐在員をしていました。帰国して今のポストについたのですが、振り返ってみますと大きなきっかけが3つあったと思います。

まず１つ目は、3年前、平成18年の5月1日に今の会社法が施行になりました。会社法の362条の中に取締役会の内部統制整備責任というのがあり、内部統制ですから全般に関わる話なのですが、その中に財務報告の信頼性というものが日本の会社法でも新しくできたわけです。そして平成18年の6月7日に今の金融商品取引法が国会で可決しました。その平成18年6月7日以降の時期は、「平成20年の4月1日からこの金融商品取引法（日本版SOX法、J-SOX）が始まると、大変ですよ、大変ですよ」とみんなが言っていたときでした。この時から日本でも経理に対する経営者責任が一段と重くなったと思います。そして日本の会社でもこれまでも上司は部下を信頼することが基本かつ美徳だったと思いますが、部下を信頼していて、上司は部下のしている仕事のことは全然わからなくていいということは言ってはいられなくり、すべて上の責任ですよ、ということになったわけです。私が１から勉強したいという強い動機付けはそこにありました。

それから2つ目は会計系の勉強をするとか、あるいは会計士の資格を取ろうと思った時、選択肢は日本の会計士かU.S.CPA、主にこの２つですよね。私は社会人になってからキャリアの半分は海外勤務ですので、U.S.CPAを選択したということもありますが、アメリカがすべていいとは言いませんが、少なくとも会計に関しては、日本の会計基準とか財務報告の内部統制とかということに関して、日本はアメリカを追いかけているということに間違いはないんですよね。その意味からも私としては、先に「追いかけていくほう＝U.S.CPA」を勉強することにしたわけです。

それから3つ目は、日本も遅ればせながらIFRS（国際財務報告基準）のアドプション（採用）が議論になっているわけです。IFRSはよく言われているように、プリンシパル（原理原則）ベースの会計基準で、米国会計基準（US GAAP）に比べるとですねいろいろな解釈指針などが10分の１くらいなんです。そういう意味からすると仮に日本が原理原則ベースのIFRS会計基準に移行するにしても、まずは、歴史もあって、いままで大変高品質な会計基準として全世界から認められていたアメリカの会計基準を学びたいなということもU.S.CPAを選択した強い動機だったですね。

Q TACをお選びいただいた理由は？

ニューヨークで勤務していた時は、当然のことながらアメリカ人のスタッフがたくさんいて、その中にU.S.CPAの資格を持っている人が10人以上いました。それでU.S.CPAの存在もよく知っていました。それからアメリカで働いている日本人もいますよね。私は日本の本社から派遣されましたが、向こうで留学をしているとか、様々な動機があってアメリカに来て、アメリカで働こうとしている日本人も多くいます。そういう人たちにとっても、U.S.CPA試験は取りたい資格の代表格だということも知りました。そこで私は日本に戻ってきてまずU.S.CPA試験対策の講座を開講しているスクールのパンフレットを全部取り寄せました。そして付き合いのあるアメリカ人にも聞いてみたんです。アメリカ人が異口同音に言っていたのは、U.S.CPA対策の定番は「かつてはWiley(ワイリー)だったが今勉強している人達はWileyじゃないんですよ」と。でなぜWileyじゃなくなったかというと「2004年からU.S.CPA試験がコンピュータ試験になり、今はU.S.CPA試験対策といえばBecker（ベッカー）だ」と。そして「Beckerの教材を取り入れて講座をやっているのは日本ではTACだけだ」と聞いたわけです。そして日本の会社のスタッフなどにTACの評判はどうかと聞いてみましたら、「TACはいいとみんな言っています。ただTACの単位認定試験はそれなりに手ごたえがあるらしい。他のスクールでは単位認定試験が簡単なところもあるようです。単位は簡単に取れるほうがいいという考え方もありそうですが、本試験はTACの単位認定試験よりさらに難易度が高い問題をもっと短時間で解けないといけないわけで、どうせ勉強しないといけないならば最初からTACのプログラムでやったほうがいいんじゃないですか？」と言ってくれる方が何人かいてそれで私はTACを選択したというわけです。「TACのプログラムとBeckerのパッケージがベストチョイス」私はそれに尽きると思いますね。

偶然なんですが、私はアメリカでWileyが入っていたビルと同じビルで仕事をしていました。そういうこともあり、同じ会社のスタッフの中にもWileyのぶ厚い本を持っている人もいました。しかしコンピュータ試験になってからはBeckerだともうほとんどのスタッフが言っていましたね。私のネットワークを通じていろんな方に聞いてみましたがWileyも後からCD-ROMを作っているらしいですけど、それでもBeckerのほうがいいという評判がアメリカの中でもう確立されている感じでしたね。

Q TACでの講義はいかがでしたか？

先生方はすべて良かったと思います。財務会計を担当された3名の先生方はすべてよかったと思いますね。そして管理会計の渡辺先生、REGの内田先生、杉浦先生、監査の帆足先生も良かったですね。

私は渋谷校に通っていました。教室には１つの目的をもった皆さんが本当に一生懸命勉強していて、目的意識を持っている人たちが集まっているところというのは刺激があってよかったですね。

Q 受験勉強を振り返ってみていかがですか？

私は会計税務の既習知識もない、普通のいち勤め人で、かつ会社の大きなプロジェクト責任者でもありましたので、月～金はまず勉強時間は確保できないと思い、如何に効率的に取り組むかを考えて、まずはTACのROUTE99（本科生）のプログラムで1年間きちっとやろうと、それしか考えていなかったんです。そしてこの最初の1年間できちんと単位を取って受験資格を満たし、実際に本試験が受けられるよう準備をしました。そして2年目に入ってBeckerのCD-ROMを使った演習に加え、Beckerのテキストもほとんど読みました。Beckerのテキストは最初、わからないところだけを読んでいたのですが、だんだん面白くなって結果的にほとんど全部読んでしまいました。2年目の1年間はBeckerしか見ませんでした。私は最初から2年計画でやろうとしていたのですけが、振り返ってみて非常によくできたプログラムだなと、私みたいに会計も何もわからない人でもわかりやすく１からきちっと学習することができました。

TACのテキスト＋問題集をしっかりやれば、私の場合、単位試験対策も充分であり、Beckerの問題を進めてゆく際にも、全く問題ありませんでした、そして、実際に本試験を受けて見ると、個々の本試験問題そのものは、Beckerをやっていれば左程見たことも無いような難問はありませんでした。本試験で限られた時間内に全問回答して合格ラインまで到達するには、Beckerを使ったTime-managementが何よりも重要だと思います。本試験のPC化以降、他社も種々似たようなCD-ROMを出していますが、Beckerに優るものはありません。Beckerを通して初めて、100問を150分で解くペースが体得でき、また、Simulationを40分で解くコツがつかめるのではないでしょうか。

Q 本試験はいかがでしたか？

試験はマンハッタンで受けました。そしてテストセンターから歩いて3分くらいのところに泊まりました。受験したのは11月の末なのですが、この時期雪が降ったりしますし、アメリカは日本よりも交通機関のトラブルがよく起こるので、自分で歩いて行けるところに泊まっておくほうがいいなというのが私の考えでした。

私は、4科目を2008年11月24日～26日にかけて受験しました。24日にBECとREG2科目受けて、FARとAUDは大変そうだなと思ったので1日1科目ずつの受験しました。受験上のトラブルは全くありませんでした。3日続けてプロメトリックに行きましたので、プロメトリックのスタッフの方も頑張ってくれ頑張ってくれと励ましてくれましたし、いいコーナーに座らせてもらえましたしね。すごく快適に受験できました。

私は、高スコアは狙わず、与えられた時間の中でベストを尽くすということしか考えていませんでした。後から知った話なのですが、本試験では採点の対象にならない問題も入っているようで、もし本試験で見たことがないような問題が出ても、いらいらする必要はないと思います。もともとそういう仕組みの試験なんだということさえわかっていれば、後は自分自身合格に必要なことをやっておけばどうにかなるんじゃないかなと思いますね。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

とにかくTACのプログラムはいい。杉浦先生が時々おっしゃっていましたが、TACは大学とは違い、受験予備校に徹したプログラムが出来あがっています。研究者になりたいとか会計学を趣味として極めたいというのであれば違う勉強の仕方があるのかもしれませんが、U.S.CPAと試験に合格するために必要な知識とトレーニングをするための最適なプログラムが用意されていて、しかも毎年改訂されているので、私達生徒の側としてはTACを選択したらそのTACを信じてプログラムに沿ってきっちり勉強していただければ結果はおのずとついてくると思います。御健闘をお祈りしています。

勉強したことを常に現実に落とし込みながらモチベーションをキープ

中山 雄司 さん

青山学院大学卒業
2009年5月より国際会計事務所に就職

2008年11月　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：78点（2008年8月）、BEC：79点（2008年8月）
REG：75点（2008年8月）、AUD：75点（2008年11月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学3年の時に東京都学生起業家選手権に出場しました。3人1チームで、当時私は簿記2級を持っていたということで、チームの中で財務を担当しました。大会では本選までは行きましたが、最後で落選してしまいました。大会後もベンチャーキャピタルの方や銀行の方にプレゼンテーションをしたのですが財務面のプレゼンが今ひとつだったなという印象が残り、将来財務のスペシャリストになりたいという気持ちを強くしました。また、私は高校の頃から海外志向があり、大学の学部も国際経済学部でしたので、会計の道に進むにしても、広く海外で通用する会計知識を身に付けたいと思っていましたのでU.S.CPAの選択は私にとっては自然な流れでした。

Q 大学3年の時に東京都学生起業家選手権に出場されたということですが、学習を開始されたのはいつ頃からですか？

大学3年の終わりに受講を開始しましたが、当時はモチベーションがあまり高くなく、受講開始の半年後にアメリカ留学に行くことが決まっていたので、とりあえず留学に行く前に受講してみたのですが、まったく歯がたちませんでした。そのまま学習を中断していましたがアメリカから帰ってきて、大学に戻り、就職活動をするか、再度アメリカに戻るかというので迷っているうちに、結局ビザの関係や費用の面でアメリカに戻ることができず、大学も卒業してしまった状況で、就職活動を始めたところ、新卒ではないことが想像以上にマイナス要因となり大半の会社に電話しても、既卒というだけで受付てもらえず、という負の連鎖が続きました。そんな状況を打破すべく、「自分に武器を！」と思い、留学先のアメリカでもアカウンティング専攻でしたので、そこを貫こうと思い、2007年の秋からU.S.CPAの合格に向けての学習を本格的に再開しました。

Q TACの講座でよかったところは？

本当に先生方に尽きます。お名前を出すと、内田先生、杉浦先生、帆足先生、清松先生、乾先生です。先生方には講義だけでなく質問でもすごく助けられました。私の場合2007年の秋に本格的な学習を再開し半年で受かる予定でやっていましたので、かなりの巻きで勉強をしていて、受けられるときには教室講座が開講されている渋谷校や新宿校で講義を受けるようにし、時間的に厳しい時は、一週間の学習の内で出てきた疑問を土日の教室講座の終了時間までには教室に到着して、質問するということもしていました。TACの先生方はとてもフレンドリーに対応していただき、私の顔も覚えていただき、「どんどん質問に来てよ」という感じでおっっしゃっていただきました。自分で問題を解いているときは、つじつまが合わなかった部分も先生方のおかげですっきり解決できましたし、さらに自分の考えをぶつけると、その考えは面白いね、とほめていただくこともあり、それがモチベーションの維持にもつながりました。

あと、Becker、これは、TACの完全なる強みだと思います。留学中もCPAのことは常に意識していましたので留学先の大学の教授陣にもCPAってどうなの？という話をしていたりしている中などで、Beckerのことはよく名前を聞く機会がありました。そういえば、TACの講座にもBeckerの教材が含まれていたなということを思い出しながら向こうで過ごしていました。帰国後は、米国でかなりの数の受講生をかかえているBeckerということで、信頼してBeckerの問題を解き続けることができました。ところでBeckerの教材は積み重ねると、かなりの厚さになるので、最初は圧倒されましたが、今考えると、あのBeckerが無ければ合格できなかったと思います。どの先生方も必ず授業の中でBeckerを解きなさいとおっしゃっていましたので、やはりBeckerはKEYになる教材でした。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学教室と通学ビデオを併用し、本格的に学習を再開して合格までの学習期間は1年2ヶ月でした。

Q 合格までの学習法は？

まずは、みなさんやられていると思うんですが、Becker解くということですね。色々な人の話を聞くと、４回転、5回転解いたという人がいたりするのですが、問題総数でいくと１科目あたり約1000～1,500問ぐらいですから４科目あわせて約4,500問を私は2回転しかしませんでした。それ以上やらなかった理由は、問題と解答が記憶に残ってしまうのを避けるためです。

杉浦先生が、マルチプルチョイスの問題に関しては正解の選択肢が判るのはもちろん必要だけれども、それ以外の選択肢がなぜ不正解かということを考えなさいということをよくおっしゃっていまして、これをやると結構時間がかかってしまい、普通、マルチプルチョイスの問題なら1問あたりで30秒から１分ぐらいで解いて正解だとそのまま次の問題にいくところをそれにプラス10分くらいとって、正解以外の選択肢を確認しながら学習を進めました。結果的にこの作業は、シミュレーション対策にも有効で理解を深めることができました。

あと私は幸い学習に専念できる環境でしたので、システムアドミニストレータや、粉飾会計にまつわる本を読んだり、USCPAでインプットした多岐にわたる知識をこれらの本や新聞や他のメディアで報じられている事象に対して応用し自らの見解を考えたりするようにしたりしました。具体的にはリーマンブラザーズの経営破たん後の処分方法に関する報道や、会社のIR情報を閲覧し財務分析なども見ていました。それから朝まで生テレビなどのああいう小難しい番組、討論会の経済系の話題なども、よく見ました。専門用語が飛び交うんですけど、USCPAの知識があると結構理解できました。あと、契約法とかで、タクシーはどの時点で契約が発生するのか、タクシーをとめた時に契約が発生するのか、行き先を告げたときなのか、タクシーを止めてすいませんやっぱりいいですと言ったときは契約違反、Breach of Contractって言うんですかね、となってお金を払わなければいけなくなるのかなど、そういうことを考える癖がついてしまって、このような疑問を杉浦先生にお話してみると、そういうのは面白いねとおっしゃっていただきました。また銀行の口座を作るときに、たまたま、その銀行のAnnual Reportが置いてあって、全て英語で書かれていたんですけど、これば僕しか読めないんじゃないかと思い、相当長く、解読するのにも時間がかかり、完全解読はできませんでしたがそういうものも見るように心がけていました。

このように勉強したことを常に現実に落とし込むように意識してみるのも有効だと思います。

Q 不得意科目はありましたか？

AUD一回落ちたこともあり、苦手意識がありました。２回目で合格できましたが７５点でぎりぎりの点数でした。

１回目受けたときはわからないというのが強かったんですけど、２回目はそれを補填するように勉強すると、意外や意外掘れば掘るほど面白い科目なのかな？とは思いましたので、努力が必要なのはAUDだと思いました。

これから勉強される方も、カリキュラムでもAUDが一番最後にあるくらいなので、集大成じゃないですけど凝縮されている部分があると思います。私は、よく書店に行ったり、毎週毎週先生に聞いたりですとか、日本の会計士試験のテキストも読みました。論文試験の参考書も買ってみましたがさすがに色が違いすぎて、あれは本から抜粋したようなものしか載っていなくてU.S.CPA試験の場合は日本の公認会計士試験とは違って、クライアントに対して意見を言いなさいというまさに実務的なことを問われ、CPAとしての書き方とかも見られてしまうのでちょっと違いました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

これは、ちょっと本当に一番強調したいのですが、皆さんも気をつけていただきたいことが、と言いましても皆さんがこういう事になると言うわけではないのでしょうが、私の場合NTS（受験票）の発行に本当に手間取り、当初2008年4月に受験するつもりで、NASBAにNTSの申請をしました。TACのHPでは出願してNTSが到着するまで２ヶ月ぐらいかかると書いてありましたし、私もアメリカにいたので良くわかるのですが米国の方はクリスマス休暇をがっつ

り取る人たちなので、まぁ、そのあたりはしょうがないのかなと思っていたのですが年が明けて2008年１月になっても一向にNTSが届かず、1月半ばにNASBAへ電話をしたのですが、どうしても現地時間の昼から夕方の時間帯は混みあい、つながらないことが多く、それならばと、現地時間の朝10時(NASBAがあるテネシー州と日本との時差は-15時間、向こうの朝10時は日本の夜中の1時になります)（サマータイムの時は夜12時）頃を狙って電話をしました。最初はメールもしていたのですが、何せレスポンスが非常に悪く、NH州は比較的トラブルが発生するようでして、電話して、NTSが来てない、名前はなんだ、データがないぞ、お金は払ったのか、じゃ証明書を送れと言われて、郵便局でもらった証明書をスキャンしてプリントアウトして送ってもなんのレスもなく、かなりたらいまわしにされ、食らいついてスーパーバイザーはいないのかと毎回聞いて、じゃ、つなぐわと言われて電話を回してもらうんですけれど、大抵スーパーバイザーは留守なんですね。一応、留守電には残すんですけど、そこで何とかなるという希望も持てず、案の定向こうのスーパーバイザーからの連絡がくるわけでもなく、そんな感じで一ヶ月以上かかった、ある日またしつこく電話をしてたら、女性の方が電話に出て、名前など情報を言うと、自分のデータらしきものが見つかったけど、名前が “Makayama” になっているということで、たしかにキーボードでは “N” と “M” は隣だけど、こんなことで受験時期もずらされたのか、と思いましたね。それで、送られてきたNTSを見ると発行の日付が12月になっていて、NTS受領したのが3月でしたので、NTSは6ヶ月の有効期限ですから、4月5月Termに受験しなければいけないということになり、気持ち的にもそれまでNTSが来ていないので、自分の準備等もできていなかったので、また電話して、少なくとも3日前に発行されたNTSの有効期限が6月までとはどういうことだということを伝えると、ごめんということで、再度NTSを発行してもらったんですが、そのNTSの中でFARとREGだけが9月まで期限が延長されていて、なぜか他の二科目は普通に6月で期限が切れてしまうものでした。そこで、いいかげんにしてくれということで、また電話して2科目分しか変わってないぞということで、再発行をお願いしてようやく完全なNTSとして入手できたのが3月の終わりか、4月あたりでした。このことがあったんで、もうNTS申請したくないと思い一発で受かってやろうという気持ちが強くなりましたね。あと、エピソードとしては、グアムのホテルからテストセンターまでタクシーでいったんですが、だいたい20分ぐらいの道のりで、グアムの人は気さくな方が多いので、タクシーの中で運転手さんと会話しながら向かっていたときに、AUDのテストの日になぜかタクシーのおばちゃんに「おまえは必ず戻ってくる」って言われて、いや、NOだねって確実にその答えはNOだよって言って、Pick Upだけよろしくねといってタクシーを降りてテストを受けたんですが、結局その科目だけ落ちてしまって…テスト3日前にも内田先生に「その理解力だったら、4科目一発合格いけるかもね。いや、すくなくとも3科目はいけるんじゃない」ということを言われ、なぜみんなこの結果を見抜けるんだって不思議に思いました。エピソードとしてはその2つぐらいですかね。

ただNTS発行の問題に関しては、USCPAならでは！っていう問題で、日本では滅多に起きないことだと思います。（もちろん受験生全員が遭遇するとは限らないと思いますが）だからこそ、国際的なライセンスを目指すのは面白いって思います。もちろん、こういう事態を自分なりに解決することで、成長できるとも思いますが、日本にいながら、日本ではできないことも体験できるっていうところが今となっては、U.S.CPAの魅力のひとつだと思います。

（補足説明：TACの受講生の例では、大抵の方の場合NTSは問題なく発行されます。しかし、今回の中山さんのように時として米国側の事情でトラブルが発生し、当初イメージしていたスケジュールで受験できない場合もございます。これから受験をお考えの方はあらかじめご了承ください。）

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

私は、アウトプットをしっかりする、そして、実務経験がない部分は本や新聞を読むなどしてできるだけ補い、想像力をつけるように意識しました。そしてCPAとしての視点を身に付けようと努力してみました、そうすると、モチベーションが続くと思います。また、試験合格がゴールではなく、CPAになるということにゴールを置くと効果的だと思いますWritten Communicationでも、CPAとして書け、IndependentなCPAとして書けという問題多いので、自分がCPAになったつもりで毎日を過ごすこともモチベーションの維持に有効だと思います。そして、知識も重要なのですが、その知識を使って一体何ができるのかというのを考えるということも重要だとおもいます。そういったことを通して、モチベーションを保ちつづけるということが、一番近道なのかなと思います。あと、勉強面に関しては、Beckerをひたすらやること以外に、私がやったことは、教科書のTermをジャンルごとに分けることです。みなさん、FARはFARで勉強されると思うのですが、例えば、棚卸資産だったらFARもTAXの関係も出てきますし、内部統制でも関連しますし、科目で分けるというか、ジャンルで分けて勉強しました。社会人の方は2科目×2回に分けられて受験する人が多いと思いますが、私は4科目一度に受けた方がいいと思います。それはUSCPA試験の科目は科目の壁を超えて連動していることも多いですし、財務会計論と税法って同じ話をしているのに、法律が違って、数字が違ってくるということもあるので、そこはこんがらがらないよう、常に比較できるようにする必要があると思います。ですので、私は常に「リンク」ということを意識して勉強していました。先ほど言ったアウトプットも、学習した内容を外のこととリンクさせるということですし、4科目をつなげることで頭を整理するようにしていました。それから、クラスで質問をするということ、先生と話すということはかなりいいことだと私は思います。一人で勉強していると、どうしても視野が狭まりますし、入ってくる情報も少なくなりますし。いろんな方と話をするのがお奨めです。こういうことで、メンタル面をケアできますし、勉強が面白くなってくると思います。先生方の中でも、特に内田先生、杉浦先生は味方にすべき存在だと思います。杉浦先生がよくおっしゃられていた言葉が、「やっぱUSCPAだよ、自信を持てよ。」って。先生とお話しないとこういったことも聞けませんので、杉浦先生もどっちかって言うと、淡々と説明される方なので。実は、話してみるとかなり気さくな方だということがわかりました。TACの中では、当然日本の資格（公認会計士・税理士）の講座・生徒さんが大半で、USCPAはそれらにくらべると、マイノリティであり、そういった環境の中でストレスを感じることがあったのですが、なんでUSCPAなのかということも聞けば杉浦先生も答えてくれますし、JSOXなんて結局はSOX法なんだし、U.S.CPAを勉強した方がいいんじゃないかとか、結構バシッと言って下さり、その一言一言が私の支えになっていたというのも事実です。だからこそ、先生と話す口実を作るために次々に質問を考えていました。この「なんで」を繰り返すことがシミュレーション対策にも役立ちました。試験ではシミュレーション問題が最重要なので、シミュレーションを勉強する際に、問題を解いて、さらに、仮にこういうシチュエーションだったらと、自分で問題を作って、考え、答えを確認するために先生に質問すると、ちゃんと答えが返ってきますし、そこから話を広げることもできました。Webの方もDVDの方も渋谷や新宿に来られる方は週に1回の授業は出て、できる限り質問をしたほうがいいと思います。高だか30分ぐらいの時間かと思いますが、されど30分だと思います。

受験時のアドバイスとしては、皆さんトイレに行ってくださいということですね、トイレの休憩はテストレットごとに取ることがベストですね。

私の場合１回だけあったのですが、私はけっこうゲン担ぎで試験前にリゲインとか飲むのですが、これを大学受験の時からやっているのですけど、そういう栄養ドリンク飲むとトイレが近くなる現象が起きるんです。このことは初日から分かってたのでテストレットごとにトイレに行っていてそれが功を奏していたんですけど、最後のAUDで、BeckerのFinal ExamでもAUDは時間配分で苦しんでいた所があったのでシミュレーションを解く時間を2時間以上取りたいというのがあったので、かなり巻きでマルチプルチョイスを終わらせてトイレにいけるタイミングがあったのですが、もう30問くらい持ちこたえられるだろうと思っていかなかったんですよ。そうしたらラスト25問あたりでトイレの近さが半端じゃなくてですね、必死で我慢してたんですけど、早く終わらせてブレイクオプション出したかったので、最後の5問がどんな問題だったか全然覚えてないくらいでした。それで結局その問題ができなかった分くらい得点が足らず落ちてしまいまして、やっぱりトイレ行って5分くらいリフレッシュするというのは大事だと思いました。

あと、最初指紋とか取る時に、スタッフとやりとりがあるんですが、それも明るくしゃべったほうが良いですね。そうすると意外と緊張が解けました。内田先生がおっしゃってたんですが、「USCPAを目指す方ってもともとコミュニケーション能力が高いかたばっかりなんですよ！」って。こういう場でも、その能力を発揮するのもいいと思います。

ところで私のTACの友人は、試験会場に行ったら、他校の受講生の人に会ったそうです。

私は結局会わなかったんですけど、聞くところによると他校の方は受講した講座の教材以外にWileyなどの洋書の教材などを別途買って補っているかたもいるようです。私はTACの受講生の方なら他の教材はいろいろ見ない方がいいと申し上げたいですね。TACとBeckerの教材だけで十分です。補填するのは良いと思いますが、チラミは良くないと思います。注意散漫になって悪い結果になってしまいますので。

サポートも含めTACを信じれば良いと思います。そしてなにより自分を信じてください。U.S.CPAは国境を越えた他国のライセンスです。試験もすべて日本人の母国語ではない言語で出題される。それを日本人が日本で勉強して合格を目指し挑戦する。それってやっぱり単純にすごいと思います。TACというすばらしい環境を使って、みなさん強気に頑張ってください。

あと1点足りなくて落ちたこと2回、8度目の受験にして合格

匿名希望 さん

昭和57年2月生まれ（26歳）
2004年大学卒業

2008年11月　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：82点（2007年5月）、BEC：76点（2007年11月）
REG：76点（2007年11月）、AUD：86点（2008年11月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学卒業前に就職活動をしましたが、納得できる結果が得られず大学卒業後、就職浪人することにしました。私は中学、高校と父の仕事の関係で家族とともにアメリカにおりましたので、日本以外にアメリカで就職する可能性も探りたいと思いたったこと、そして大学時代に経済学と簿記を勉強していたので、U.S.CPAならば、英語と会計ということでこれまで身に付けた知識も活かせると思いチャレンジすることにしました。

Q TACの講座でよかったところは？

U.S.CPAは英語の資格ですから英語をまじえなければいけないところを、テキストも講師の先生方も日本人の私たちにわかりやすいように日本語をまじえて単語だけを英語で学習を開始することができましたので、私自身は帰国子女ですが、純日本人の方に取っても抵抗感が和らぎ、わかりやすい講義だったと思います。

先生方は皆さんエキスパートの方達ばかりで頼もしかったです。その中で特に印象に残っている先生はBusiness Lawを担当された杉浦先生とTAXの内田先生です。杉浦先生は海外での実務経験もお持ちであるということTAXの内田先生はオーストラリアの大学を卒業されたということで、経歴だけでも尊敬に値する先生方ですが、私のどんな質問にも丁寧に答えていただき、知識も人柄もすばらしい先生方だと思います。

Q 74点が2回続いた時のお気持ちは？

それまで２点、3点足らなくて落ちるということはあったのですが、たった1点となると、もはや自分は合格できない運命にあるのではないかとか、NASBAの方から嫌われているのはないか、本当は合格していたのに意図的に2～3点意図的に引かれたのではないかと、今から考えますと本当に被害妄想だったと思います。あと1点で落ちた2度目の時に、FARの合格の有効期限を考えますと最後1回しかチャンスがないというギリギリのタイミングでしたので、3回目でも受からなかったら自分はもう目指すべきではないという神様のお告げなのかなどと本当に様々なことを考えましたが、気持ちを切り替えて最後の1回にすべてをかけたという感じでした。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

自分がいくら勉強して知識を積み上げていっても、それ以上に問題が難しくなっているという印象をもちました。根性との戦いになるでしょう。私も科目合格の有効期限が迫り、「これで最後、駄目なら諦める」つもりで受験し、運よく合格することができました。特に科目合格されている方は、有効期限内に合格できるか分からないといった不安との戦いで大変かもしれませんが、私でも8度目の受験で合格することができましたので、頑張っていただきたいと思います。

大学在学中に全科目初回受験で合格。TACとBeckerだけで合格できます！

K.O さん

2008年11月　USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：91点（2008年8月／1回目）、BEC：88点（2008年8月／1回目）
REG：86点（2008年11月／1回目）、AUD：90点（2008年11月／1回目）

Q 英語と会計に興味を持たれたきっかけは？

大学ではビジネスとは程遠い専攻でしたので、会計の分野についても勉強してみたいなと思い、まず日商簿記3級を取得しました。

その後、カナダに留学しました。そのカナダでKPMGに1ヵ月半インターンシップに行き、その職場での経験を通して、英語と会計両方を活かした仕事ができたらいいなと思うようになりました。KPMGに行ったのは本当に偶然でした。留学当初通っていた語学学校でインターンシップを提供していることを知り、面白そうだなと思い応募してみました。すると、たまたまその時、KPMGがファイナンス部門でインターンシップの参加者を募集しているという連絡が入り、語学学校のスタッフの方からも簿記の資格を持っているのだからあなた行ってみたらいいんじゃないと言われたのです。自分ではそれまで特にファイナンス部門の仕事をしてみたいと思ったことは全然なかったですし、KPMGの存在もその時始めて知りました。しかし、参加してみて、すごく良かったと思っています。

KPMGでは私の周りは全員カナダ人の方で英語を使って仕事をしていました。その中でわたしはTax returnに関する仕事をさせてもらいました。具体的にはReceivableとPayableのリストが送られてきてこの中から税金はいくらいくらでその他州税と連邦税を計算してどれがRefundableとして返ってくるのかを計算して、それをまとめて社内にいる会計士の方にチェックしてもらい、サインをもらって提出するといった感じの仕事でした。

Q 米国公認会計士試験の存在を知ったきっかけは？

KPMGの中で私がいた部門は、監査部門ではありませんでしたので、私の周りにいた方の中にはカナダの会計士の方はいたのですが米国公認会計士の方はいなくて、米国公認会計士については、帰国してからその存在を知りました。帰国当初は、次は簿記2級、1級と勉強して、就職して、と考えていたのですが、簿記に関するパンレットなどを見ている中で、米国公認会計士のパンフレットを見つけ、「この資格面白そうだな」と思って、気軽な気持ちで学習を始めました。

Q TACを選ばれた理由は？

新宿校に通学できる点が私にとって便利が良かったことと、親がTACのことを知っていて、「TACで勉強するなら受講料を出してあげるよ」ということで金銭的な援助が得られたのでTACで学習することに決めました。

Q 就職活動も並行されていましたか？

はい、就職活動をしながら勉強をしていました。就職活動中はどこに行っても、U.S.CPAを勉強中であることを、やる気をアピールするためにも言っていました。私は銀行から内定をいただいたのですが、特に銀行ですと会計の勉強をしていることを話すと好印象を持たれました。就職活動中は、U.S.CPA試験に合格できるかどうかわかりませんでしたが、面接では「絶対に受かります！」と言っていました。

Q TACの講座でよかったところは？

講師の方々が良かったと思います。その中でも特に印象に残っているのが内田先生です。内田先生の熱意がよかったのと、直前対策まとめをかなり活用させていただきました。Beckerの教材もとても良く、かなり活用しました。

Q TACでは通学・通信どちらで受講されましたか？

私にとってはやる気が続き、直接質問ができるメリットもある通学スタイルを選びました。主に教室講座に参加しましたが、就職活動が忙しくなった間、教室講座に参加できなかった時がありましたのでその時はビデオブースで講義を受講しました。

Q 学習開始から合格までの期間は？

学習開始から合格までの期間は1年半です。

Q 受験開始はいつからでしたか？

2008年7月にすべての講義を受講し終えてから受験を開始しました。初回受験は2008年8月中旬でFARとBECの2科目を受験しました。そして2回目の受験は2008年11月で、REGとAUDを受験しました。

Q 合格までの学習法は？

講義の復習として、TACの問題集を解いて、わからないところはTACのテキストを見直して、TACの教材を一通りこなしてから、Beckerに移りました。

Beckerの問題は全部やりました。ただできたところより、できなかった問題がたくさんあったのですが細かい論点はあまり気にせず基礎のところをしっかりやるようにしました。

直前期になるとBeckerの100問ランダムに出てくる問題をほぼ毎日解きました。Simulationも毎日最低1問は解くようにしていました。TAXは内田先生の直前対策まとめに書き込みをしたり、その他の科目は自分なりに問題を解いて出来なかったところなどをノートにまとめたりしました。また重要なことを紙に書いて、壁に貼っていきました。そうすると毎日強制的に見るので自然といつの間にか覚えられました。この方法は暗記科目には特に有効だったと思います。

Q 教室での講義の受講以外に学習されていた場所は？

講義を受講していた時は図書館とかでしていましたが、Beckerをやりはじめたらパソコンが必要でしたので、家にこもりっきりでした。

Q 初回受験前の仕上がり具合の感触はどうでしたか？

特に、行けそうだといったことは感じませんでした。直前にBeckerの模擬試験問題を解きましたが、あまりできなくて、これでは合格できないなと思っていたのですが、本試験の問題はBeckerの問題よりも易しく感じ、合格してしまったという感じです。

Q 単位認定試験は受験されましたか？

はい、アラスカ州の受験資格を満たすために会計科目5科目15単位を単位認定試験プログラムで取得しました。全科目順調に取得できました。ただ私はMA(Managerial Accounting)が苦手だったんですけど、やっているうちに、問題は解けるんですけど、理解はしていないという感じになってしまい、１からTACのテキストを読み返して、Beckerのテキストも理解できていなかった箇所の部分を読んだりして、私にとっては一番てこずった科目でした。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

1回目はグアムで受験しました。宿泊先はPlumeria Hotelです。TACの受講生情報サイトの掲示板に載っていて、自分でもホームページを見てみましたら、試験会場から比較的近く、試験会場や空港までの送迎サービスがあったので決めました。そのホテルにはU.S.CPA試験を受けに来ていた日本人がほかにも5人ほどいて、受験経験のある方たちだったので、アドバイスをもらうことができました。２回目はサンフランシスコで受験し、試験後に観光して帰ってきました。サンフランシスコは行ったことが無かったので、観光を兼ねていきたいなと思ったことが理由です、サンフランシスコは会場が2つあり、私は100 Californiaで受験しました。街中で場所もわかりやすいところにありましたし、周りにカフェとかもありましたので試験前にカフェで気分をリラックスさせることができました。気候も温暖なのでかなりよかったと思います。

テストセンターでの出来事としては、私が米国の人の感覚からすると幼く見えたようで、「本当に君がCPAを受けるのか?」という目でじろじろ見られて、IDを見せるように何度も要求されるということがありました。結果的には受験できましたのでよかったです。

またAUDの試験時間がかなり長く、途中で疲れて集中力が落ちてきてしまいましたので、試験時間が4時間半もあれば10分くらい休憩しても大丈夫と思い、途中で休憩を入れて、外に出ておやつを食べたりお茶を飲んだりして気持ちを再び集中させました。一方REGは時間の割には問題数があり時間が短いと感じましたので休憩は取らず我慢して解き続けました。

Q 科目別得意、不得意とかはありましたか？

特になかったのですが強いて言えば、REGのTAXは良かったのですがBusiness Lawがあまり好きではなく私の中で細かい論点がごちゃごちゃになってしまったのでもういいやと気にしないことにし、Contract、SalesとSecurities Actなど主な論点を重点的に学習しました。

また、AUDは全く経験がない分野で、はじめは日本語でもよくわからなかったくらいでしたが、Beckerの問題を解いているうちによく出るところがわかってきて、本試験でもBeckerで解いた問題と同じような問題が何問もでて、それに助けられた感じでした。

この試験は本当にTACとBecker教材だけを繰り返しやれば、できるということを実感しました。

Q 受験勉強を振り返ってみていかがですか？

1年半で合格できたのは、私が学生で比較的勉強時間が確保しやすかったことも理由だと思います。ただ学習時間は合格された方の中では私は少ないほうだと思います。はじめ、講義を受講していた時期は講義を受ける以外は週に１～2日くらい1日1時間程度の勉強しかせず、「もうわからない！」と何度も叫びそうになりました。それでも単位認定試験の受験前になると、このままではやばいと思って、そこから集中してやりはじめるという感じでした。そんな日々が1年近く続き、やはり学生で時間があるうちに受験しようと思い、2008年8月に初回受験をするてはずが整ったのが6月の初旬でしたが、そこからBeckerをインストールしてやっと本格的にBeckerをやりはじめたという感じでしたので、かなり遅いスタートだったと思います。しかしそれからは1日2～3時間くらいはほぼ毎日勉強しました。ただ大学4年生でしたのであまり大学には行っていませんでしたが、就職活動は普通にしましたし、友達とも遊んでいましたし、アルバイトもしていましたので、普段の生活をさほど犠牲にすることなく勉強していたという感じでした。

振り返ってみると、最初はできなくても、少しずつ問題が解けるようになってくると、勉強も楽しんでできるようになりました。そして初回受験を8月にすると決まったところから私の中で気持ちが切り替わったので、試験日程を決めてしまうと集中感が増していいと思います。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

私は、高校や大学受験と比べて、落ちても後があるという気持ちで学習していました。あまり緊張しすぎずリラックスして学習されるとよいと思います。

そして勉強を始めたら自分との戦いなのだと思います。私も、講義を受講している頃は教室講座で一緒に勉強している人たちと情報交換も兼ねて昼食にいったりしていましたが、周りの方の話を聞いていると自分は遅れているんじゃないかと思ったことがよくありました。でも周りにまどわされず、自分のペースでやることが一番重要じゃないかと思います。そして毎日少しずつでも、諦めずにやることが大切だと思います。私はU.S.CPAの勉強をするまでは、簿記の知識もあまりなく、追加単位の取得にも不安があったほどだったのですが、それでもやればできます！TACとBeckerだけ集中してやっていれば絶対に合格できますので、がんばってください！！私の体験談が皆様のお役に立てれば幸いです。

仕事と両立しながら無理なく確実に短期合格！

Y.H さん

東海大学大学院 理学研究科物理学専攻 2000年卒業

職歴：(1) 国内の監査法人にて、IT監査（財務諸表監査、内部統制監査）を担当…1年半（※日本の会計士の資格は保有していません。）

(2) 国内コンサルティングファームでITコンサルタント（SAP一会計）…1年

(3) 国内SIベンダーでSE…6年

2008年11月　USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：79点（2008年5月）、BEC：78点（2008年8月）

REG：79点（2008年11月）、AUD：85点（2008年10月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

1）自分の専門である、IT関係のスキルだけでなく、会計方面についてもより深い知識をつけたい。

2）IT監査に従事しているため、監査の全体像をより深く理解したい。と考えたため。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級

英語知識：TOEIC 870 / TOEFL(CBT) 253

Q TACの講座でよかったところは？

こちらの講座を受講開始前に、いくつかのスクールで説明を受けて比較検討したうえで、TACに決めました。講師、教材、カリキュラムについては、説明を受けた内容からは、決定的なほどの大きな違いは感じられませんでした。

最も大きな違いは、受講形式（時間・場所）の自由度でした。通信教材等では教材だけ溜まってしまうと思ったので、極力通学したいと考えていたのですが、仕事のスケジュールとの兼ね合いで、無理なく確実に学習を進められるところがよかった点です。

実際に講座を受講してみると、TAC独自の教材、Beckerの教材以外にも、各講師の方が講義の内容にあわせてレジュメをまとめたものを配布されていたり、本試験対策用に要点をまとめた資料があったり(REG等)と、学習に役立つ教材が予想以上にあったため、本試験の準備には役立ちました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

2007年夏入学のDVD通信コースを、コース開始時期からやや遅れて、9月から受講開始しました。

・2007年9月～2008年6月　DVDコースの受講

・2007年11月、12月 Bradley 単位取得試験受験

・本試験向け学習　<FAR>　2008年4～5月

・本試験向け学習　<BEC、REG>　2008年6～8月

・本試験向け学習　<AUD>　2008年9～10月

・本試験向け学習　<REG　2回目>　2008年10～11月

Q 合格までの学習法は？

■共通した進め方

・講義受講期間；DVD講義受講後、Excelで論点を一覧表(1)にまとめる。関連するテキストのExercise、問題集の問題を解いて理解を深める。

・本試験準備期間（１－2ヶ月）；(1)Beckerのテキストの重要論点をチェックしつつ、論点の一覧表に不足事項を追加し、ノート形式(2)にまとめる。(2)Beckerのテストを解いて、わからなかった/誤解していた論点をノート(2)に追記する。

・本試験直前期（１－２週間）；BeckerのSimulations･Final Examを解く。わからなかった/誤解していた論点をノート(2)に追記する。※ここでは本試験と同じ時間で解き、時間内に解き終わるか、チェックする。

・本試験前日；ノート(2)を読み直す。特に、テストを解いていて追記した箇所（色分けしてある）を中心的に。慣らしを兼ねて、残しておいたFinal ExamのMCを１テストレット分解く。

■FAR

簿記２級を取得しており、（公会計・NPAを除けば）目新しい論点はそれほど多くはなかったので、不慣れな論点を重点的に学習しました。

■BEC

Simulationがないので、比較的楽でした。人によってはITが難しいらしいのですが、自分はITの専門知識があったので苦になりませんでした。ただしほとんど出題されてなかったような･･･。他は、TACで習った出題可能性に応じて濃淡をつけて学習しました。

■REG

最も苦戦した科目で、実際に一度74点のぎりぎりの得点でFAILEDになった苦い思い出があります。FAILED時は、Performance Reportが送られてくるのですが、特にTAXが弱かったので、各種FORMの作成法を重点的に学習しました。

■AUD

すでに仕事でIT監査（財務諸表・内部統制）に従事していたので、基本的な監査の考え方についてはあまり問題になりませんでした。Simulations対策で各パターン別の監査報告書を書けるように注意しました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

出願手続きの際、受験費用をクレジットカード払いにしたら、約2週間後「処理できなかった」との返信がありました。カード会社に該当のログを照会してもらったところ、期限の情報に誤りがあったとの回答がありました。年と月を誤って入力したようだったので、その旨英文で手紙を書いて送りました。そんな些細なミスでもやり取りで時間が浪費されるので、余裕を持って出願手続きをしたほうが良いと思います。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

科目合格制度や、（Prometricの席に空き余裕があれば）いつでも試験を受けられるなど、比較的受験の自由度が高いため、受験しやすいという面がありますが、一方で、そのためにずるずると合格までに時間がかかってしまうリスクが高いものだと思います。グアムの本試験で一緒に受験した人に話を聞いたところ、2年目、3年目の人も少なくありませんでした。

人それぞれの都合で受験すれば良いものではありますが、科目合格にも有効期限があるので、再受験や、また法制度や会計基準、監査基準が変わってしまったために再度学習することになる可能性を考えると、短期間で合格したほうが、効率が良いと思います。

自由度は高いので、自分が合格してどうしたいのか、いつ頃までに合格したいのかをある程度イメージしつつ、学習や、各種の手続き（学歴審査、出願）をスケジュール管理しておくと、ずるずると行かなくて済むのではないかと思います。あまり長引くとモチベーションにも影響するので、メリハリをつけて学習しましょう。

私のやる気に本気で応えてくれたTACの先生方に感謝しています。

松山　哲大 さん

1983年1月生まれ（25歳）
慶応義塾大学 経済学部 2007年3月卒業

2008年11月　USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：86点（2007年8月）、BEC：82点（2008年2月）
REG：85点（2007年10月）、AUD：81点（2008年11月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

昔から日本の外で活躍できる人間になりたいという漠然とした思いがありました。しかし、大学時代にはそれを実現できるスキルもありませんでしたし、自分は自己アピールもうまくなかったため、希望の職につくことができませんでした。そこで、まず、ある程度自分の能力を無言でアピールできる資格が欲しいと感じました。この動機と、海外で活躍したいという思いをかけ合せた結果、たどり着いた資格がU.S.CPAでした。

Q TACの講座でよかったところは？

講師の先生方が非常に親切に疑問点に対して回答をして下さったことです。疑問点が生じた時、自分なりの解答をもって先生にぶつけると、先生方も私のやる気に本気で応えていただけたということが、知識レベルの向上だけでなく、モチベーションの面でも支えられました。TACの先生方には、非常に感謝をしています。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVDで自宅学習でした。合格までの期間は、受験を始めてから1年半です。

Q 合格までの学習法は？

AUDには苦労をしました。他の科目と同様にマルチプルチョイスを解いて、解説を読んだだけでは本試験に対応しきれなかったという感覚が初回受験時にありました。今考えると、Beckerの問題を覚えてしまっていたりしていたのかなと思います。そこで、2回目の受験時にはTACのAUDの問題集全問題、正解選択肢がなぜ正解かという理由を調べるだけでなく、残り三つの選択肢全てなぜ間違いなのかをTACテキスト、Beckerテキストを使って徹底的に調べました。すると、2回目の受験では73点と点数が伸びました。その後、2回目のテストデータから、自分は内部統制、Transaction Cycleの分野が弱いということがScore Reportからわかったので、Beckerの3章4章について、全問題間違い選択肢の理由を調べる作業をしました。そして、合格にたどり着くことができました。この選択肢が間違いになる理由を調べる作業を通じて、本試験で問題を解く際に、自信をもって選択肢をきることができました。AUDは一発で選択肢をコレだ！と選ぶことができないことが非常に多いので、自信をもって選択肢を切れるということは、重要だったなと思います。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

3ヶ月に1回グアムへ渡航する生活を繰り返していたため、5回目の渡航時に麻薬の密売人と間違われたのか、グアムの空港で僕の持ち物検査だけやたら厳しかったです(笑)。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPA試験に合格したことで、可能性の幅が大きく広がったと感じています。皆さんもTACを信じて合格を勝ち取ってください。

目的の明確化が合格への活力

鵜飼 成典 さん

1971年9月生まれ
MBA, Goizueta Business School, Emory University, Strategy/Finance専攻（2001）
ABeam Consulting USA Ltd　勤務

TAC U.S. CPA講座 ROUTE99(本科生)を米国にて受講
2007年U.S. CPA試験合格（試験会場は全てニューヨーク）
2008年ワシントン州ライセンス登録完了

2007年U.S. CPA試験合格

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

業務の一環として米国の会計基準や会計関連法規の調査をする中で、米国の財務会計、税務、及び関連法規について網羅的な理解の必要性を感じました。また、Business Valuation業務のため、米国で発行されているCertificate (ABV: Accredited in Business Valuation等) 取得の計画を始めたときにU.S. CPAライセンスを保有していることが必須条件であることを知り、U.S. CPAライセンス取得が本来の目標の前提条件になったことが最も大きな理由です。

Q TACの講座でよかったところは？

TACの講座を受講した理由は主に3つあります。まず受験準備当初、受験州の選択や受験要件などが不明確な際に、煩雑な確認事項の問い合わせができたこと。次に、母国語で講師に質問ができること。端的に聞きたいことを確認するには母国語でのコミュニケーションが最適だと考えました。最後に、当初よりライセンス取得後の他州へのトランスファーを想定していましたので、学歴要件を満たすための単位取得が授業を受けながら可能であることは、効率的時間配分の観点より有益でした。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？

DVD通信を選択しました。

Q 合格までの学習法は？

私の受験準備方法は恐らく他の受験生とはかなり異なると思われますので、どの程度参考になるか自信がありませんが、以下の情報が多少なりとも参考になれば幸いです。

U.S.CPA試験を受験するに当たって、既にCMA（(社)日本証券アナリスト協会検定会員）、米国のCMA（Certified Management Accountant)、CFM (Certified Financial Manager)を取得済/取得中でした。また、実務上、コーポレートファイナンス、財務会計(U.S. GAAP)、TAX、ビジネスローなどU.S. CPAの試験内容に関わる機会が多くありました。更に、監査人とも業務上ディスカッションすることもありました。よって、U.S. CPA試験で求められる学習範囲のうち、大半の内容については知識がある、若しくはほぼ理解した状態でU.S. CPAの受験準備を始められたという前提で実際の学習法を以下に記載します。

全体として、学習期間はおおよそのべ18～20週間程度（BEC：のべ3～4週間、REG：のべ6週間、FAR：のべ2～3週間、AUD：のべ7週間）でした。受験準備途中、突発的な長期出張などで何度も試験直前に日程変更を余儀なくされ、試験準備はするものの、実際の試験がなかなか受けられず、その度に再度試験に向けた準備が必要となり、当初計画していたより全科目合格するのに長い期間を要しました。

（BEC）BECについては、理論を全体的に学習したというよりは、部分的に講義を聴いたりテキストを読むことで試験範囲を確認し、Beckerの問題を大量に解くことで対応しました。この科目は元来最も知識のある領域でしたので、準備は至って順調でした。不正解若しくは理解度が不足していた問題については問題を印刷し、試験日当日までに解法を全部把握してウィークポイントを補いました。また、確認が必要なテーマと認識した点については論点整理のノートを作って、重要論点のレビューを行いました。唯一あまり得意分野ではないITの分野とCMAと若干異なる試験傾向だと認識したManagement Accounting以外のテーマについてはスムーズに準備ができました。苦労した点を挙げるとすると、試験がなかなか受けられなかったことです。BECだけで試験日程を3回変更しましたので、試験当日にピークを持っていくことに非常に苦労しました。

（REG）REGについては、TAXとBusiness Lawで全く異なるアプローチをとりました。TAXは、暗記をするというよりは、論点の解釈が重要な科目であると認識したため、まず一通り論点をレビューした後、少しずつ問題を解きながら頭の中に全体像を描けるように重要項目を押さえつつ準備を進めました。日米の税法には考え方がかなり異なる点があり、反って戸惑った部分はあったように思います。Beckerの問題を解くことで、理解の定着度を高めながら、試験直前は税率やCarry back/forwardの期間の暗記、課税額算出までのステップと収益・費用項目の分類とそれぞれの条件（控除上限額や控除要件など）の確認を繰り返しました。仕事的にもU.S.の税務はかなり重要項目でしたので、試験の範囲に限らず実務に適用できるように丁寧に学習をしようと考え、敢えて時間を費やしました。残念ながらU.S. CPAのTAXの試験範囲は想定以上に偏りがあったため、仕事の場面で学んだ知識を活用しようとすると不足事項が多々あるという状況に直面しました。今でも仕事の傍ら、レビューを継続的に行っています。

一方、Business Lawは、かなりの部分は暗記中心の準備を行いました。これは試験範囲のテーマがそれぞれある程度独立したテーマが多かったことが要因であると考えます。テキストの全体をレビューし、重要性の高い項目を把握し、Beckerの頻出パターンの問題を少量解きながら傾向を理解した上で、頻出事項や注意事項等をサマリーノート上に抽出して知識を蓄積しました。試験前日及び当日の朝はこのサマリーノートを何度も読み込んでから試験に臨みました。Business Lawについては、前述のようにそれぞれの学習項目が独立したテーマとなっているという特性があり、個人的には試験科目として流れの掴みづらい科目でした。

（FAR）FARについては、CMA (Certified Management Accountant)の試験準備の段階で網羅的に財務会計(U.S. GAAP)の学習内容の確認を行っていましたので、細かい仕訳・計算処理のレビュー、年金関連テーマの概念のレビューと計算処理、Business Combinationsの処理方法など特定の分野に絞って準備を行いました。一方で、政府会計についてはほぼ知識が皆無であったため、テキスト全体をレビューし、全体構造を把握した上で、Beckerを解きながら論点を確実に押さえました。講師が準備してくれた別冊のまとめノートが、政府会計の概念を理解する上で大変役立ちました。試験直前は、暗記が必要な領域（減価償却の計算公式やリース、社債、年金費用の計算手順など）を再確認しました。既存の知識が最も活用できた領域でしたので、試験準備期間が短く効率的に試験準備を完了することができました。

(AUD)このパートは、試験内容を理解する上で最も時間と労力を要しました。期間的にはREGとさほど変わらない期間でしたが、相当集中した準備をすることが必要でした。他の科目と同様、テキストとBeckerの問題を中心に準備を進めたものの、ある時理解が定着していないことに気づき、準備のアプローチを途中で変更することが必要となりました。今振り返ると、その時点で監査業務の全体像が不明確であったことがその要因だと思われます。Beckerの問題を大量に解くことを一旦中止し、テキストを熟読して、Auditのそれぞれのステージでどのような作業が必要なのか、注意すべき点は何か、サマリーノートに書きながら一つ一つの確認事項に時間を費やしました。また、AuditとAttestation業務の相違点に注意を払い、それぞれを混同しないように努めました。結局、全体像の把握ができるまではBeckerの正解率は安定しませんでしたが、全体像を把握し、一通り必要な暗記作業を終えた後は解答の際の迷いがなくなり、正答率が安定し合格レベルまで向上しました。他のパートで苦労をしなかった分、AUDを突破するのは大変だったという印象が今でも残っています。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

目標を明確にしてトライすることが必要な資格試験だと思います。一体何のためにU.S.CPAの試験を受けるのか、どのようにU.S. CPA試験合格という事実を活用するのかこの点を明確にしてから具体的な受験プロセスに進んでいただきたいと思います。どんなにTACにて質の高い講義が提供され、講師の方の熱心な指導があるにせよ、合格までには相当の努力と我慢が受験者本人はもちろんのこと、周りの人（家族など）にも要求されます。日本で受験準備をする方にとっては、受験のための渡航準備も含めて、負担が軽いとは言い難い資格試験でもあります。従って、本人だけでなく周りの方々も含め、納得できる明確な目的の設定が必要だと思います。合格までの努力と我慢を正当化する目的が設定できるのなら是非チャレンジして欲しいです。試験に合格しただけで会計や税務のエキスパートになれる訳ではありませんが、少なくともエキスパートになるための出発点には立てると思います。基礎知識がないと、タフな資格試験であると思われますが、“合格”という事実に対する達成感は苦労に相応した大きさとなるでしょう。皆様のご健闘をお祈りします。

TAC の講座でよかったところはなんと言っても講師陣

堀江　正純 さん

会社（製造業）勤務

2008年7月　USCPA試験合格（デラウエア州）
FAR：82点（2006年2月）、BEC：86点（2006年2月）
REG：91点（2008年7月）、AUD：75点（2006年11月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

日本の公認会計士試験は、会社勤めをし「ながら」の勉強では非常に厳しいと言われていますが、U.S.CPAなら「ながら」でも何とかなると聞いていたことと、将来的に会計基準が統一される方向に進むのは間違いないので、職業・職種によってはU.S.CPAでも十分通用するのではないかと考えたことが理由です。

Q TACの講座でよかったところは？

なんといっても講師陣でしょう。内田講師のパワフルな講義、杉浦講師の含蓄ある講義、いずれも「さすがTACさん」と思いました。特に、内田講師オリジナルの「直対」は、試験本番直前まで本当に役に立ちました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で受講しました。REGだけの科目受講だったので、実質学習期間は６ヶ月程度です。

Q 合格までの学習法は？

平日は会社勤めで帰りも遅いので、学習できたのは実質土日祝だけですが、何とかなりました。DVDを視聴→教科書を復習→問題練習の繰り返しです。それ以外に特に「秘策」的なことは何もしていません。強いて言えば、問題練習で２度間違えたところを「弱点」として別ノートを作って整理しておいた（それを本番直前に見た）程度です。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

受験州にもよりますが、初めて受験願書を提出するときは、公証が必要でした。私の場合は、米国大使館に行って公証を取得したのですが、このときが一番緊張しました。・受験地はグアムでしたが、韓国人受験生の数の多さに驚きました（ホテルでは、韓国の受験ツアー団が会議室の一室を借り切って、受験生用自習室に仕立てる熱の入れようでした）。見た限りでは、夕食なども専用バンを仕立てて食べに行っていたような･･･）。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

(1)とにかく本番では、時間配分を考えることだと思います。選択問題では、難しい／悩ましい問題は飛ばして次に進むことが大事です（変に拘って時間を使いすぎると、焦りで他の問題にまで悪影響を与えます）。(2)テキストと問題集は、TACの教材だけで必要十分と思います。むしろ、間違った問題を確実に理解することが大事と考えます。

ニューヨーク駐在中に受講し帰国直前に合格。支えてくれた家族に感謝しています。

匿名希望 さん

（40歳）

2008年5月　USCPA試験合格（（ニューハンプシャー州）
FAR：89点（2007年8月）、BEC：77点（2007年7月）
REG：82点（2008年2月）、AUD：84点（2008年5月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

まず、私は2003年からニューヨークに経理および事務担当として駐在しておりました。最初は3年程駐在の予定だったのですが、それが5年に延長になり、4年目を終了した時に時間の余裕ができたこと。次に、2006年の12月に、自分の英語能力がどれくらいあるか確かめてみようと思いTOEICテストを受けてみましたら940点取れたのです。それで英語能力は結構ついたと思い、それでは何か他に残り1年でできるものがないかなということで考えたということ。そして、私は趣味でスキーをやっていたのですが、ちょうどその頃スキーで腰を痛めてしまい、それならば、勉強でもしてみるかと、思い立ったこと。これらの理由が重なり、何を勉強するか考えた結果、私は入社以来経理を担当し、経理の基礎知識がありましたので、U.S.CPAが最適な試験だと思い、チャレンジすることにしました。

Q 受講形態は？

Web通信講座で受講しました。

Q モチベーションを維持するための工夫は何かされましたか？

受講することを決断したのが2007年2月でしたが、実はその時に、受講するかどうか、相当悩みました。駐在5年目を迎えて、残りあと1年くらいで帰国することになるという時期でしたし、TAC North Americaに問合せたところ、合格するまでの期間としては、最短でも1年、普通は1年半から2年とうかがっていましたので、相当効率よく勉強しないと1年では合格できないと思い、申込む前の晩は一睡もできない程悩みました。しかし、家族が「結果はどうであれ、とりあえずやってみたら」と後押ししてくれましたので、もうやるしかないという気持ちになることができました。そういう意味では、モチベーションははじめに出来上がっていたという感じでした。

Q TACの講座をご受講されてみてよかったところは？

ご経験や知識がある先生方が効率的に教えてくださったというのが一番良かったと思います。質問などにも親身になって答えてくださいました。

Q 印象に残った先生は？

FARの清松先生、歯切れがよく、非常にわかりやすい講義でした。そしてTAXの内田先生も良かったですし、Business Lawの杉浦先生も質問に懇切丁寧に答えていただきました。実は杉浦先生から回答をいただいた時は、自分にも迷いがあった時期だったのですが、回答を読んで非常に助かりました。後はAUDの帆足先生も良かったですね。

Q 合格に向けての学習法は？

私はニューハンプシャー州に出願したのですが、同州の受験資格を満たすために会計単位を取らなければなりませんでしたので、まず、できるだけ早いうちに単位を取ろうと思いました。私2007年2月から受講を始めまして、2月から3月まではずっと単位認定試験のための勉強をし、取得が必要だった4科目のうち、はじめの2科目は3月にニューヨークで行われた会場試験を受けました。残り2科目については会場試験が3ヵ月後の6月になるため、早く受験したいと思い、一時帰国して日本のプロメトリックセンターで行われているコンピュータ試験を4月に受験しました。

その後3月終わりからWebで講義の受講をはじめました。前年の秋入学コースの講義を視聴しましたので、3月終わりの時点で視聴できる講義がすでに多くあり、私の場合は、1日で1回3時間の講義を2コマ視聴するくらいのペースでどんどん受講しました。またWebでの講義は1回しか見ないようにしようと思い、集中して画面に食い入るように授業を聞いて、片っ端から先生がおっしゃったことをメモしました。その後はTACの問題集やBeckerの問題にチャレンジしました。先生方のお話を聞いて要はBeckerの問題がこなせるようになることが一番だと思いましたので、Beckerが解けるようになるために授業を聞くという感じでした。

Q 科目別ではいかがでしたか？

BECとFARは2007年7月の終わりから8月上旬にかけて受験しました。欲を言えばもっと早く受験したかったのですが、受験手続にトラブルがあって、中々NTS（受験票）が届かなかったのです。BECとFARは私にとっては今までの仕事の延長線上で受験できる科目でした。テキストも比較的理解しやすかったですし、個別論で言えば例えばFARの年金やBECのITとかBusiness Structureとかはなじみがあまりない分野でしたがそれ以外の分野でカバーできた科目だったと思います。ところが8月にFARの受験が終わったあと、すぐREGに入ったところ、まずBusiness Lawでつまずきました。私は法学部出身なのですが記憶が勝負になるところもあり、非常に苦労しました。Business Lawをきちっと理解するまでに2ヶ月くらいかかりました。TAXも日本では税法と財務会計となるべく思想を統一しようという感じがあると思いますが、アメリカの場合はTAXと財務会計が全く違う分野というくらい異なり、TAXの考え方を理解するのにも時間がかかりました。REGは1回目を11月に受けましたが、結果は66点で不合格でした。AUDも苦労しました。11月のREGの試験が終わって、まだ結果は出ていませんでしたが、合格していると思いAUDに取り掛かりました。4科目まとめて出願していましたので、4科目とも6ヶ月間のNTSの有効期限内に受けなければならず、2008年の1月の終わりにNTSがEXPIREしてしまうという状態でしたのでAUDを11月から2ヵ月半くらいで仕上げなければならなかったわけで、ちょっとムリがあったと思います。今から考えますと、AUDは講義でわからないところがあってもメモを取りまくっただけで、問題をやってみても、どの選択肢も正解に見え、できませんでした。FARは計算ができれば正解にたどり着くのですが、AUDは微妙な英文をきちんと理解しなければならない科目だと感じました。FARとBECで半分終わったと思っていたのですが、実は3割から4割くらいしか終わっていなかったんだと感じました。

Q ニューヨークにいらっしゃったということは、試験はお近くのテストセンターで受けられましたか？

その点が良かったと思います。日本の受講生の方よりも有利だったのはテストセンターが近く、時差がないということです。私の場合は3箇所のテストセンターで受験したのですが、一番多く利用したところは車で20分くらいのところにありました。何度も受験しましたので、そこの試験官とも顔なじみになり、毎回リラックスして受験することができました。

Q 受験勉強を振り返ってみていかかがでしたか？

ニューヨークに駐在して最初の3年程はU.S.CPAの受験勉強ができるような状況ではなく、仕事で時間を取られていましたが4年目くらいからはかなり仕事が整理されて自分の時間ができましたので、大体夜7時くらいまでには仕事を終えることができるようになりました。通勤時間が1時間くらいだったのですが、朝と帰りの電車の中ではひたすらBeckerやTACの問題集をやり、家に帰ってからも夕食を済ませたら、9時くらいになるわけですが、9時～夜中の2時か3時くらいまで平日は毎日、それから土日も朝8時くらいに起きて、朝9時頃から1日中勉強していました。お酒もこの1年間腰が悪いせいもあってずっと禁酒していましたし、ゴルフも近くにゴルフ場があったのですが行かず、そうした誘惑をすべて断ち切りました。TACの方からは短期合格ですねと言われたのですが、私にとっては非常に長い1年でした。顔なじみになったテストセンターの試験官は「CPA試験はアメリカ人でも落ちている。だからあんまりがっかりするな。何度も受験に来ればいいじゃないか。」と励ましてくれました。あとは家族ですね、この1年間、子供が1人いるのですが一切遊ばずにひたすらテーブルの上で勉強して、子供も影響されて一緒に勉強したりして、そういう意味では子供にもいい影響だったかもしれませんが1年間犠牲になってくれた家族に感謝しています。

実は当初2008年の2月に帰国するようにという指示を受けていました。2月の時点で合格していたのがFARとBECだけで、丁度2回目のREGを受けた時でした。その後、帰国が7月に延長となり、3月の終わりにREGの結果が出て82点で合格できました。82点で合格できたのは、内田先生がここが出るとおっしゃっていたSimulationの問題が出たからなんです。これには本当に感謝しています。3科目合格していてあとは1月に受けて不合格だったAUD 1科目だけになりました。これをいつ再受験するかと考えまして、7月に帰国、6月は引継ぎで大変になるので、5月に受験することにしました。REGの結果が出た3月末時点でAUDについてもう一度TACのテキストやBeckerをやってみようかとも思ったのですが思い切って違った観点でやってみようと思いWileyを買いました。WileyのSimulation問題はちょっと的外れな感じでしたので、選択問題だけを電車の中や家で徹底して2回ほどやってみました。それで5月の試験にある程度自信を持って臨みました。AUDは4時間半も試験時間がある試験ですので、じっくり問題を解いたのですが、4時間でほぼ出来た感じでした。しかし最後のSimulationを解いたところでコンピュータがフリーズしてしまったのです。その時は本当にあせりまして、解答結果がきちんと送られたのかが非常に心配で、顔なじみになった試験官を呼んで、本当に大丈夫かと文句を言ったんです。そうしましたら試験官が親身になって30分くらい調べてくれたのです。そしてきちんと送信されているはずだから大丈夫だと言ってくれました。その日はそれで帰りましたが、それでも不安が消えず、翌日ニューハンプシャー州のコーディネータに「PCがフリーズして、今回の試験は非常に心配だ。もし今回落ちたらやっぱり最後フリーズしたところが納得がいかない」と文句のメールを出したんです。そうしましたらニューハンプシャー州のコーディネータから「あなたの解答をちゃんと一字一句みたけれど、中身が正しいかどうかは別として、どうやらきちんと送られているようだ」とすぐに回答が来たのです。それでようやく安心して1ヶ月間結果を待つことができました。インターネットで6月終わりに合格したことが確認できて、その時はもう後任への引継ぎもほぼ終わり、7/11に帰国しましたのでまさにギリギリのタイミングでした。

Q 今後の抱負は

今いる部署は管理会計が中心の部署です、うちの会社はアメリカのみならずアジア圏（中国、タイ）などにも進出しているのでそういったところにある会社などを財務的に見る機会も多いのでこうした場面で身に付けた知識を活かしたいと思っています。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPA試験は勉強すれば受かる試験だとは基本的には思います、特に経理の実務経験をお持ちの方は、有利だと思いますが、同時にいろいろな誘惑をすべて断ち切って勉強に集中するくらいの気持ちで臨まなければ、合格できない試験でもあると思います。御健闘をお祈りします。

2週間後、次の講義DVDが届くまでに見終えるようにしました

匿名希望 さん

1967年6月生まれ
横浜国立大学 経済学部 1991年卒業
Macquarie University, Master of Applied Finance 修了

2008年8月　USCPA試験合格（グアム）
FAR：85点（2008年7月）、BEC：80点（2008年8月）
REG：84点（2008年8月）、AUD：83点（2008年7月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

大学を出まして6年ほど日本の大手メーカーにて働いておりました。その後で外資系に転職をして最初はアシスタントファイナンスマネージャーからスタートし、現在はコントローラーをやっております。コントローラーはU.S.CPA試験で問われているような内容の知識は持っていなければならないポジションで私自身はこうした知識は持っているつもりでしたが、世間で会計の話題がよく出るようになり初めてお会いする方などに私が「外資系企業でコントローラーをやっています」と言いますと、「それではU.S.CPAはお持ちなのですか？」とよく聞かれるようになってきたのです。資格は持っていなくても恥ずかしいことは何もないと思っていましたが、特に私のポジションですと何かU.S.CPAの資格があることが前提条件になっているように感じられるようになってきました。そこでそれで一念発起して勉強を始めたというのがきっかけです。

Q そうしますと、お仕事の内容と学習内容は直結しているという印象は受けられましたか？

そうですね。仕事とは直接関係ない分野もありますが、こちらがU.S.CPAの知識を持っておくとアメリカ本社が何を考えているかとかがわかりやすく話が伝わりやすいと感じています。そういう意味では試験の内容と現在の仕事と重なる部分が100%とまでは言いませんが、6～7割はあると思います。

Q 今の仕事に就かれるまでの経緯について教えていただけますか？

まずは日本の会社で企画管理、工場の原価計算、工場経理をトータルで6年くらいやっていましたが、この経験がどれくらい通用するのか外資系、日本の会社を問わずに転職活動をしてみました。当時はあまり転職はさかんではありませんでしたが、新聞の求人広告などをみたりして何社かに応募してみました。日本の会社は勤めていた会社とあまりイメージが変らないという印象を受けました。一方外資系の会社は、当時私は英語がまったくできなかったのですが、外資系の企業はその当時、英語はできるが、経理の知識があまりないという経理部門の方が担当していたりして、当時のマネージャーの話によれば、しっかりとした経理の基礎を持っている人を入れて、そして英語をトレーニングさせようということで、私に興味を持ってくださり、外資系の会社に入社することになりました。仕事面では英語に関してはハンディが相当ありましたが、日本の会社でしっかり経理をやってきたこともあり、外資系企業で英語ができるという経理の方よりもレベルが高かったのではないかと思います。そんな中で頑張って評価をいただき経理のマネージャーそして今はコントローラーとして重要な仕事を任されるようになりました。

Q TACの講座を受講されてみての感想は？

まずは最初に驚いたのが教材のボリュームです。後から考えますとこれは英語でいただいたものと日本語に噛み砕いたものとがあり決して無駄なものはないのですが、最初に見た時は果たしてこれが全部できるんだろうかという驚きがありました。他社とも比べたりしたのですが、テキストが数冊と問題はこれだけでいいというような作り方をしているスクールもありそちらのほうが効率がいいのかなという思いもありました。ただ私の目的は資格を取ることとともに知識を蓄えることでしたので、しっかり勉強を教えていただけるスタイルのTACを選びました。

TACの講座の良いところは教材、講義回数のボリュームの多さが実は丁寧さにつながっているところだと思います。このような問題が出たらこう解きなさいということ以前に考え方の部分をしっかりと教えていただけたと思います。中にはこんなことはもう十分知っている、と思う箇所もあったのですが、真摯に若い頃の気持ちに戻って講義を受けてみると、なるほどな、と納得させられることもありまして講座を受講したことは、私の社会人人生の復習も兼ねて非常に役だったと思います。

Q 印象に残った講師は？

TACの先生方は、パートパートに分かれてプロの方が担当されていてどの先生も非常に良かったと思います。中でも私が個人的に良かったと思うのはFARの清松先生です。清松先生は、まずは枝葉を落としてコアの部分を説明していただいてそれから枝葉を足していくようなスタイルで非常に明快かつわかりやすい講義だったと思います。後はAUDの帆足先生ですね。御自身の海外での監査実務経験が豊富な先生で、私は事業会社で監査をされる側ですが、逆の立場から実務経験を踏まえた説明をしていただいたことと、帆足先生が「受かるための勉強だけだと受からないよ。その先にあなたたちが何をやるかということが大事だよ」という話を何回もしていただいたことが大変印象に残っています。

Q 受講形態は？

DVD通信講座です。当初はDVD通信で受講しながら時間がある時は「15ヵ月教室フリーパス制度」を使って教室に参加しようと思っていたのですが、結局1度も教室講座には参加しませんでした。

Q モチベーションを維持するために工夫されたことは？

受講中ほぼ2週間おきに講義DVDが届きましたが、DVDをためてしまわないように、2週間後次のDVDが来る時までに届いているDVDをすべて見て、復習をして、あと関連の問題をやっておくことを心がけました。そのためになるべくDVDを見えるところに置いて減らなければ自分で「さぼっているな」というような感じでプレッシャーをかけました。また、私の場合は単位認定試験の受験もしましたので何ヵ月後にこの単位を取ろうという具合に細かく、短期的な目標で学習をすすめました。このような感じで当初私は、1年後に受験しようといった受験スケジュールは決めていなかったのですが、結果的に昨年（2007年）6月から学習をはじめて2008年7月と8月受験、つまり1年2ヶ月で合格する事ができました。

Q 追加単位は何単位取られましたか？

30単位取りました。ビジネス単位はすべて足りていたのですが、会計単位は1単位もありませんでしたので、グアムで必要な会計単位をすべて単位認定試験プログラムで取りました。

Q 単位取得と講義の受講はどのようなスケジュールで進められましたか？

単位認定試験の出題範囲の講義を受講し終えたところであまり間を空けずに単位認定試験を受験するようにしました。3ヶ月に1回の会場試験を待たずに随時受験ができるプロメトリックでのコンピュ

ータ試験を多く利用しました。全体の7割くらいはプロメトリックの単位認定試験で取ったと思います。

Q 合格までの学習法は？

まずはTACの日本語と英語併記のテキストと問題集、これを一通り覚えなくてもいいから1回は理解するというスタンスでやりました。先生によってはBeckerのMultiple ChoiceやSimulations問題を早く解き始めることをお薦めいただいた方もいらっしゃいましたが、私自身はあいまいなままでBeckerに入るのは不安を感じたものですから、なるべくTACのテキスト、問題集を中心にやり、講義DVDを見終わった時にはTACの教材は一通り終えている状態にし、その後はTACの教材に戻らずBeckerのMultiple Choiceと Simulationしかやらないような区切りをつけて学習しました。Beckerに入りましたら、あとは1日何問できるかということになりますので、どこに何問あるかを全部紙に書き出し、何月何日にどこをやったかを書いて、2回転目も書いて、という具合に管理しました。そうするとさぼった日が見えてくるんですよね。このように自分でなるべく自分を追い込むようにしました。紙にはBecker以外にもテキストや問題集、直前対策講義でできなかったところなども書いてそれをつぶしていく、そんな手順ですすめました。

科目ごとにはFARとAUDを2008年7月に受けようと思い、この2科目だけに当初は集中しました。通常受験手続には時間がかかるという話でしたので早めに出願しましたら、予想以上に早く受験票が届きました。本当はREGとBECについては2008年10月に受けようと思っていたのですが、届いたNTSの6が月の有効期限内に受けようと思うと8月末までに4科目とも受けざるをえなくなりました。結果的には4科目とも早く受かったので、良かったのですが、NTSが届いてからも4科目に力を分散してしまうと全部落ちてしまうと思い、予定通りFARとAUDに特化しました。FARとBECの試験が終わってからREGとBECに取りかかったのですが、BECはMultiple Choiceだけですのでどうしても落としたくないということで恐らくこれは7割くらいの時間配分でやりました。逆にREGは落ちてもいいかと思っていたのですが、ここで役に立ったのが内田先生の直前のまとめシリーズでした。講義DVDはちゃんと見ましたが、それ以外はしていなくて、BECが終わったその日の夜から次の日の朝にかけて直前まとめと厳選問題集、それだけで受かったような感じです。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

まず日本の簿記などと比べるとイメージ的にはU.S.CPAはかっこいいから選ぶという方も中にはいらっしゃると思いますが、実際に試験としてはかっこいい、かっこわるいというのはないと思います。勉強というものは地味なものですからU.S.CPAを目指すにしても、いわゆる簿記とか経理の勉強にもしっかり取り組んでいただきたいなと思います。日本の簿記をやるのはいやだけどU.S.CPAの勉強はやりたいというのは考え方としてはどうかなと思います。私は最低でも日商簿記の3級とか2級を取ってからU.S.CPA試験の学習を始めるか、あるいはU.S.CPAの学習と並行的にでもよいので、経理的な知識をしっかりと根付かせていただくことをお薦めしたいと思います。実際U.S.CPA試験には合格しているけれども、仕訳は弱いですといった知人などもいるのですが、合格してこの資格を使っていくということを考えますとしっかりとした経理の基礎を一緒に勉強しないと後から恥ずかしい思いをすると思います。あとは受かるためだけに勉強するのではなく、その後を見据えて勉強していけば勉強に対する熱意とか態度とかも変ってくると思いますし、それに伴い持続力も付くと思います。また学習期間中には、風邪を引いたりとか、二日酔いだったりとか、そういう時もあると思うのですが、私の場合は、どんなに調子が悪い時でも、最低でも１問、問題を見よう、本を開くだけでもいいからということで本当に１問だけしか見ない日もありました。このように気持ちだけでも途切れさせないことが大切だと思います。それとこの試験は出題範囲が非常に広いので、途中で本当に自分が今どこにいるのだろうかとわからなくなり、めげそうになることがあると思います。これは多くの方が経験された気持ちではないかと思いますが、恐らく自分がどこにいるのか見えない時というのは、一番進んでいる時、山を上りきる前の何も見えない時のような状況だと思いますので、あきらめずにやっていけば、日々の蓄積で必ず取れる資格だと思っています。がんばってください。

受講しながら受験を開始。一度受験したことで気持ちが楽になりました。

藤井　一夫 さん

1976年11月生まれ
明治大学商学部 2000年3月卒業
勤務先：（株）電通国際情報サービス
ビジネスソリューション事業部にて
シニアコンサルタントとして連結会計システムの導入業務を担当

2008年8月　USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：84点（2007年11月）、BEC：83点（2007年5月）
REG：80点（2008年8月）、AUD：76点（2008年2月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

就職してから20代のうちは何か勉強してみようかなと思い立って、本だけ買ってみては勉強しないといったことを繰り返していました。30代を目前にして、このままでいいのかと思い、１つ何か自分で決めて、最後までコンプリートしたいなと思いました。会計システムの導入に関わる仕事を担当していましたので、会計がらみの資格として、日の公認会計士試験も考えたのですが、合格までに時間もかかりそうでしたし、仕事との両立も難しいかと思いました。そんな中、U.S.CPAを知り、U.S.CPAならば、仕事との両立もでき、英語の勉強もでき、会計システムのコンサルタントとしても使える知識が身に付けられるのではないかと思ったことがきっかけです。

Q 実際に学習を開始されてみてお仕事との両立はいかがでしたか？

そうですね。正直厳しかったですね。平日は家に帰って、大体午後9時か10時くらいから勉強をはじめて夜中の午前2時か3時までやり、翌朝はへとへとのまま出勤することもありました。土日は最初の1年間はTACの講義に土曜日に出席していまして、日曜は家などで勉強していました。一通り講義が終わった後は、土日のうちどちらかは横浜校の自習室で勉強しました。土日両方とも自宅で勉強していますと、かなり煮詰ってきそうでしたので、自習室で、他の受講生もいる中で勉強するほうがはかどりました。

Q 4科目をどのようなスケジュールで受験されましたか？

1科目ずつつぶしていく方法を取りました。2006年の10月に受講を始めて、翌月の11月には学歴審査を出しました。私は大学で会計を専攻していましたので、TACで相談したら、これならワシントン州でいけるんじゃないかということで学歴審査を出しました。しかし、学歴審査結果では総単位数が足らないと判定されてしまいました（日本の単位では162単位保持していましたが、World Education Servicesの評価では、日本の4単位が3.5単位に換算され、結果、146単位と評価されたことで、ワシントン州の150単位の出願要件を満たさなくなってしまいました）ので、同州の見込み受験制度を使い、2007年の5月、つまり、受講を始めて7ヶ月目から受験を開始しました。1回、1科目の受験の度に大体1回3日か4日ずつ会社を休んでいましたので、ほとんど年次休暇がなくなってしまい、公休日以外は休めず、土日と平日の夜に集中して勉強しました。

Q 1科目ずつ受験されたということですと、別の科目の講義も受講されながらの受験になったと思いますが、いかがでしたか？

FARを受験したときはREGの講義を受講していました。正直ついていけなくなりました。そこでどうしたかといいますと、FARの受験は2007年11月に終わったのですが、ちょうどその時にREGとAUDの講義が終わっていて、この2科目は全く頭に入っていなかったので、5年間継続再受講制度を使い、同じ講義をDVD通信で受講することで、追いつくようにしました。

Q 1科目ずつ受験する方法は科目合格制度の有効期限のことを考えるとリスクもあったと思いますがいかがでしたか？

そうですね。それもあって私の場合、各科目とも受講後、期間をあまりあけずに受験しました。各科目ともTACの講義を受けて、Beckerを解いて、すぐ受験という感じでした。私の場合ははじめから受験資格がほぼ満たされていてすぐに出願が可能だったこともあり、せっかく受験できるのだから1年間4科目の講義が終わるまで我慢できなかったということもあります。

Q Beckerはどれくらい解かれましたか？

科目によってですが5～7周しました。最初に受験したBECの時は3周しかできなかったのですが、だんだん科目を重ねるにつれ、リーディングのスピードが上がっていって短期間でまわせるようになりました。

Q TACの講座でよかったところは

講師は皆さん熱心で、すごく励みになりました。その中でも内田先生、清松先生など非常に良くご存知だなあ、と感銘を受け、見なくても良かったのですがDVDを2回見たりしたこともありました。TAXは内田先生の直前対策まとめを中心に勉強しました。直前対策まとめがないと出題範囲を自分では押さえられなかったと思います。直前期は、FAR、BEC、AUDはBeckerのテキストを読んでいましたが、REGに関しては、TAXは内田先生の直前対策まとめ、Business Lawは英語で読んでもニュアンスがなかなか頭に入ってこなかったので、TACのテキストを読んでいました。基本的なスタンスとしては、英語のBeckerテキスト、問題集を中心に勉強し、どうしても理解できない所はTACの日本語テキストを参照するようにしました。Beckerなしには合格できなかったと思います。

Q 科目ごとに得意不得意はありましたか？

FARは自分の仕事とも関連するので面白かったですね。一方苦手だったのはBusiness Lawでした。範囲が広く、不動産の法律など、出るかどうかもわからない分野の、それも細かい箇所まで勉強するというのがどうしても納得できなくて、苦手というか勉強したくないと思いながらやっていました。

AUDは点数が低かったのでたぶん苦手だったのだと思います。一番Simulationができなかったと思ったのがAUDでした。AUDなのに仕訳を切らされて、その仕訳はFARでは出てこなかったものだったり、どうやって解けばよいのか把握できない問題などがありました、ぎりぎりの点数で受かることが出来たのは、Auditor1s reportの丸暗記等で稼いだと思われるMCの出来かと思います。AUDの暗記には帆足先生のレジュメが役立ちました。

Q 各科目何回目の受験で合格されましたか？

REGのみ2回目の受験で、他は初回受験で合格しました。もしREGが１回で受かっていれば、2008年5月でしたので、受講開始から1年半で受かったことになったのですが、足踏みしてしまいました。実

は、REGの初回受験の結果は74点でした。あと1点でしたので、正直泣きそうになり、脱力感を覚えた記憶があります。しかし、もちろんこのままで終わるわけには行きませんので、気合を入れなおして、8月は満点を取るつもりで臨みました。結果は80点でしたが･･･。

Q はじめて受験されたとき戸惑われたこととかは？

私はすべてグアムで受けました。テストセンターはBANK OF HAWAIIの中にあるのですが本当にここかという感じでした。4Fの奥の一室なので捜し出すのに少し戸惑いました。4Fまでのエレベーターの中でBANK OF HAWAIIの従業員の方に、「がんばってね！」と声を掛けられたときは、大変、勇気をもらいました。

あとは受験開始時間があまりあてにならないということです。遅刻すると当然ダメなんですけど、初めての受験の時BECを12：30開始で予約を入れていたのですが、かなり早く着いて11時くらいに到着したところ、「いまから受けますか？」ということで11時から受けて1時過ぎに終わってしまい、予約していた迎えのタクシーが来るまで別のところでしばらく待つことになりました。2回目以降はタクシーを使わずに、バスを利用しました。バスは1時間に1本くらいしかありませんでしたが、私が泊まったホテルからは片道2ドルくらいで、タクシーでいくと往復60ドルくらいかかっていましたから、バスは計4回使いましたので、タクシーを利用するよりも3万円くらいお得になった計算になります。

Q 宿泊されたホテルは？

ホリデーリゾートです。当時、一緒に仕事をしていた方が既に合格していて、その方がミクロネシアファイブと言う小さなツアー会社を使っていたので私もそこを利用しました。非常に良かったです。大手の旅行代理店だと空港から大きな送迎バスに乗せられて、車内はワイワイキャーキャーという感じなのですが、ミクロネシアファイブは小さい旅行会社なので空港について、４、５人乗りのバンで何人か乗ったらすぐに出してくれました。またホリデーリゾートはほかのホテルに比べて日本人が若干少なめで、外国人が多かったので、日本人の私が一人でいてもあまり視線を感じずに過ごすことができました。部屋の設備はさほど上等ではないのですが1泊8,000円～10,000円とお手ごろな価格でした。タモンの少し外れでPICから坂があってその付け根に「富士一番」というラーメン屋があり、その近くのホテルです。夕食は「富士一番」で取ったりしていました。また試験が終わった日の夕方はホリデーリゾートのルームサービスでステーキを食べるのが楽しみで、そこでバドワイザーを飲みながら一人で祝杯をあげていました。5回の受験のうち4回がホリデーリゾートでしたが、1回だけ予約が取れなくて、ヒルトンに泊まったら落ちたんです。最後はホリデーリゾートにしたら受かったので、ここに泊まってステーキを食べないと落ちるのかなと思ったりしました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

私の場合は、早期受験をして楽になりました。例えば試験会場で指紋を取られること、トイレは「45」を押したらカギが開くとか（受付の横に男女のお手洗いの暗証番号が記載されています）、一度経験することで気持ちが楽になりました。また最初BECに受かった時点で、これくらいやれば合格できるのだという感触がつかめましたので、その後の講義の受講や自分での勉強が楽になりました。お金と時間が許せば、早い段階で受験して、自分の目で本物の試験を一度見て感触がつかめれば、やらなければいけないことが明確になってよいのではと思います。

あと、私はTACの教材以外に洋書のWileyとかBiskにも手をつけてみたのですが、結論から言いますとBeckerが一番いいなと思いました。Beckerはテキストと問題集が完全に分離していて、問題集にテキストの参照ページが書いてあり、それを見ればすぐにBeckerの英語テキストを参照でき、問題の質も良かったと思います。WileyやBiskは該当箇所を探しているうちに時間が過ぎてしまうことがたびたびあり、時間がもったいないなと思って途中でやめてしまいました。TACとTACの講座に含まれているBeckerの教材だけで十分合格できると思いますね。頑張ってください。

Simulation の攻略が合格のカギ！

水澤　泰三 さん

1949年11月生まれ
慶応大学法学部政治学科　1972年3月卒業
慶応大学大学院修士課程　1974年3月修了
勤務先：大手商社

2008年4月　USCPA試験合格（イリノイ州）
FAR：75点（2007年8月）、BEC：75点（2007年2月）
REG：76点（2007年8月）、AUD：75点（2008年4月）
2008年7月Certificate取得（イリノイ州）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

会社勤めが長くなってきまして、資格を何か持っていたほうが現役生活を長く送れるのではないかと思ったことが一番の理由です。そこで、どの資格にチャレンジするかを考えた時、商社に勤めていますので、英語はまずまずできるということと、商社では、会計の知識は必須の知識とも言えますから、英語と会計を両方学べる米国公認会計士試験が、最もふさわしいのではないかと思ったわけです。また財務会計や管理会計については、個別のテーマについては会社でも勉強したことがあるのですが体系的な勉強はしてこなかったので一度全体を勉強したいと思ったことも理由です。

Q TACをお選びいただいた理由は？

勤務先の会社でTACの先生方による研修が実施されており、私も参加したことがありますが、内容が良く、私の中では、TACしかないと思っていました。

Q 学習とお仕事との両立は？

特に負担は感じませんでした。私は通学スタイルで学習しましたが、通学することで拘束力が出て、勉強を続けるにはいいと思いました。

Q 講師、教材でよかったところは？

TACのテキストもBeckerの教材も試験の内容に絞り込んでコンパクトにまとめてあったと思います。講師は皆さん優秀な方々だったと思います。

Q どこのテストセンターで受験されましたか？

すべてグアムで受験しました。エピソードとしては、PC上で計算機を表示して計算をする時にキーボードで数字を押しても計算できず、慌ててしまいました。クリックすると大丈夫なんですけど、ちょっとびっくりしましたね。あとグアムの会場は韓国の方が多いですね。グアムに到着したその日に受験される方もいて、たくましいと思いました。私は前日に着いてゆっくりしてから、受験しました。1日に2科目受けたこともあります。

Q 受験されてみての印象はいかがでしたか？

Simulation問題は結構出題範囲が広いと思います。できるだけSimulation対策をしっかりやったほうがいいと思います。

私が落ちた時の試験を振り返ってみますとSimulationで何か致命傷を負った問題が少なくとも1問あったように思います。例えばBeckerテキストの付録のところに載っていたのと同様の問題が出たりしていました。付録のところの問題までは見なくても大丈夫だろうと思っていたのですが、やはりテキストは見ていない箇所がないようにすることが大切ですね。後で気づいたことですが、確かにBeckerのテキストでは付録の箇所に載っていた問題でも、Simulation対策のテキストでは取り上げてありました。BeckerもTACのSimulation対策もわからないところがあると放っておかず内容については全部理解しておくことが必要だと思います。そして、試験ではMultiple ChoiceもSimulationもバランスよく点数を取れるようになっておくことが合格するためには必要だと思います。

Q 合格したことを今後どう活かしていこうとお考えですか？

会社には報告しました。会計の知識は大事です。会計の知識がないと本当の意味での仕事はできないんじゃないかと思いますね。これからますます国際化して行くと、米国会計基準は必須の知識になってくると思います。日本はまだまだ外資系企業の投資残高比率が他の先進国と比べて低く数%程度ですのでピンと来ない方も多いと思いますが、他の先進国ですと2割とか3割とかという投資残高比率になっています。日本もこれから他の先進国並の比率に高まってくると思うのですが、それにつれて、日本国内でもUSCPA試験で身に付けられる知識の重要性がますます高まってくると思います。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

必ず受かるという信念と情熱を持ち、あきらめないことが大切だと思います。U.S.CPA試験はTACのテキストをしっかりやれば必ず受かる試験だと思います。受験に際してのアドバイスとしては、個人差があると思いますが、試験の時間配分をあらかじめ自分で決めておくとよいと思います。この試験は、全問解答できないと合格は難しいと思います。私の場合はSimulationに1時間くらいで取れるようにしていました。

必要なものは「必ず合格する」という気持ち

永井 健大 さん

1983年生まれ
専修大学経営学部経営学科 2006年卒業
2008年8月大手監査法人に就職

2008年5月　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

米国公認会計士は国内外問わず様々なフィールドで活躍することができる資格なので是非取りたいと思い勉強をはじめました。

Q TACの講座でよかったところは？

わからないところがあったらメール・授業後の講師・質問コーナーで質問をしていました。1つ1つ丁寧に答えてもらい講師の方々には感謝しています。また、米国公認会計士講座の受講生情報サイトには、受験までの手続きが細かく載っていたのでスムーズに出願することができ勉強に集中することができました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

渋谷・新宿校の個別ブースで視聴する通学DVD講座を受講しており勉強開始から約1年半で合格することができました。

Q 合格までの学習法は？

講義録・Becker問題集の間違えた問題をテキストに集約してオリジナルのテキストを作っていました。一冊にまとめることで電車や飛行機での勉強がとてもやりやすかったです。・Becker問題集は印刷物ではなくパソコンで解いていました。本番はパソコンなのでパソコン画面上の表示やパソコン操作に慣れることも重要であると考えていたからです。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

合格に必要なものは「必ず合格する」という気持ちであると思います。受験の時は誰もが「勉強つらい、やめたい」と感じる時があると思います。それでも諦めずに頑張って壁を乗り越えることができれば必ず合格できると思います。TAC・Beckerの教材、講師を信じて頑張ってください。

TAC の講義、Becker の CD だけを集中してやれば十分

F.K さん

1971年9月生まれ
早稲田大学理工学部工業経営学科 1995年3月卒業

2008年5月　USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：91点（2007年5月／1回目）、BEC：86点（2008年1月／1回目）
REG：93点（2008年1月／1回目）、AUD：96点（2008年5月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

コンピュータの海外販売を担当として、コンピュータの海外へのビジネス企画、推進の両方の仕事を担当しています。ハードウエアを作っている会社なのですが、ハードだけですとコンピュータは動きませんので、ソフトウエア、周辺機器などを製造している、現地のいろいろな強い会社と組む形でのビジネスの展開を企画して実際に推進するところまでを行っています。私自身、メーカーの立場で仕事をしていますので、製品知識とか技術的な知識は、会社での業務を通じて吸収していますし、また理工学部出身ですのできちんとしたバックグランドを含めて持っているのですが、企画、推進といった仕事をやる上でこの分野の体系的な知識や資格を持っておらず、見よう見まねで、教えてもらってきたことをベースに仕事をしていく中で、その辺のバックグランドが欲しいと思うようになりました。はじめは、資格にこだわらず探してみたのですが、最終的にはどうせやるなら資格も取れて、ビジネスにも直結するほうがよいだろう、それならば、公認会計士の資格を取りたいと思うようになりました。そこで日本の公認会計士試験と海外の公認会計士試験を比較して調べてみたところ、日本の公認会計士試験はちょっと仕事を続けながらだと厳しいなと、ここはちょっと消去法なところもありましたが、海外向けの仕事をやっているし、ビジネスの中心はアメリカなので、米国公認会計士がいいなというのが思ったことがきっかけです。

また、私は、以前米国に赴任していた経験もあるのですが、アメリカに赴任していた当時の経理のCFOもCPAホルダーでした。また、アメリカの場合は自分で納税しないといけませんので、当時、KPMGのCPAの方にもお世話になったりして、そういったCPAという存在を知りました。ただ、赴任当時、USCPA資格の存在を知ったのですが、TACのことも知りませんでしたし、日本で学習できることも知りませんでしたので、単なる会話の中だけで知ったにすぎませんでした。

Q TACでの受講形態は？

通信講座を受講しました。

Q 学習時間の確保の仕方は？

平日、電車の通勤時間が往復2時間ありますので、これをすべて勉強時間にあて、1週間で10時間、これに加えて10時間分を休日などで確保して、合計で週20時間を目標にしてきましたが、実際には平均すると１週間あたり15時間くらいだったと思います。つまり、電車内での勉強が大半で、あとは休日で5時間くらいとっていたと思います。

Q 学習の進め方は？

(1) ビデオで講義を見ている時期は、ビデオの内容をテキストで復習する。
(2) ビデオを見終わったら、問題集をやること、これ各科目とも繰り返していました。

私の場合、全科目の問題集を2回やりました。その後で、受験スケジュールを立て、そこからBeckerを2回転解きました。そしてやった科目とやらなかった科目がありますが、2回とも間違った問題だけを、もう1回解くようにしました。

Q 科目ごとに得意、苦手はありましたか？

特に得意不得意はありませんでした。すべて先ほど言ったやり方で、ビデオを見て、教えてもらったところを中心にそこだけを覚えて、あとはBeckerの基本問題をやって、基本的にそこは教えてもらったところですから、あとはプラスアルファ、その他のサプリメントのところは問題を通しながら学習をすすめ、わからないときは質問メール等を利用して教えていただきました。このやり方はすべての科目一緒です。

Q 印象の強かった講師は

まずは、TAXの内田先生です。ポイントを押さえた、わかりやすい講義で、私自身も内田先生に教えてもらったところだけで十分合格点の75点は取れるな、という印象を持ちました。プラスアルファで解いたBeckerで伸ばせた部分は正直10点くらいじゃなかったかなと思います。初めはビデオで講義を視聴するスタイルは退屈するのではと思っていましたが、内田先生の講義は聞いているだけで自然に入ってくる感じでした。

あとはビジネスローの杉浦先生です・非常にロジカルに、体系的に教えていただき、ロジカルに問題が解けるように教えていただいたのが良かったです。杉浦先生の質問への回答もロジカルでわかりやすくて非常に助かりました。特にこの2人の講師が印象に残っています。

Q 本試験は？

全てグアムで受験しました。初回受験の時にはTACの受講生サイトとフォローアップセミナーで教えてもらった情報だけで臨んだのでちょっと心配でした。しかし、いざ行ってみると、必要な情報は確かにあのTACの受講生サイトに載っているとおりで、問題はありませんでした。

実は、最後のAUDだけは「グアム週末受験制度」を使って受けに行きました。最初の2007年5月のFAR受験時はまだ現在の週末受験制度はなく、TACの「週末受験枠予約サービス」（当該サービスについて、現在は2007年10月以降グアム週末受験制度開始にともない休止中）を使いました。2回目の2科目は自分ですべて予約し、3連休を使って普通に受験、そして最後がグアム週末試験制度を使いました。この週末受験制度はホテル込みなのですが、私自身は、正直あんまりよろしくない、という印象を受けました。2回目に行ったときは試験会場に近いが質的にはあまりよくないDAY'S INNという1泊＄70くらいのホテルを取りましたが、最後の週末受験でセットされていたホテルもそこの近くのホテルだったのですが、DAY'S INNよりもっと質は落ちるホテルにも関わらず2泊で260とか280ドルでした。あとは送迎サービスがありましたが、担当の方が時間にルーズでした。私の場合、空港について1時間以上待たされました。おそらく到着する飛行機を何便かまとめてホテルに連れて行こうとしていたのだと思います。また試験当日は、試験1時間前に集合と指示がありながらもその約束の時間に会場までの送迎を担当するスタッフが30分くらい遅れてきました。この週末試験制度はいろいろとストレスがたまると思いますので、このような事態は起こり得ると事前に覚悟しておくほうがよいと思います。私自身は3度目の受験でしたのでよかったのですが、初めての受験の方がいきなりこの週末受験制度を利用されるとならちょっと戸惑ってしまうのではと思いました。

Q 各試験科目ごとに、試験時間の使い方は？

Simulationについてですが、私は日々英語を使って仕事をしていますが、文章量が多いのでSimulationがある科目は、時間が厳しかったですね。そういう意味でBECだけは試験を受けたときに間違いなく大丈夫だという自身がありましたが、Simulationについてはラフに書いてその後肉付けして解答しようと思っていたのですがどの科目も思い通りにはできませんでした。私の場合、Simulation　1題に1時間かけるために、MCを早く解くようにしました。例えばFARのMCは１問、1分半、REGは1分以内、そういう時間配分で、本音を言えばMCにもう少し時間をかけたいところではありましたが、そうするとSIMの時間がなくなりますのでそういう意味ではMCを含めすべて時間との勝負でした。

Q WCはどうでしたか

実ははじめのFARを受けたとき全く分からない法律､仕組みの内容が出ました。しかしTACのWritten Communication対策の講義ビデオの中で担当の外国人講師が、とにかく文法だと説明されていたことを思い出し、自分で答えを決めて、文章を組み立てて書きました。あとから送られてきた点数を見たらそれなりの点数が返ってきましたので、これで「SIMってこんなもんなんだ」とわかりましたので、それから先は、WCの回答にさほどこだわらなかったですね。WCの中で聞かれているパターンはいろいろとありますが、せいぜい４から５パターンだと思います。クライアントからの質問、ジェネラルに説明しなさい、などこうした問題に対して自分で４パターンほどの解答パターンを覚えて、あまり時間かけずに解くようにしました。SIMのForm の問題は上で間違うと下まで間違うと怖いので、WC以外のSIMは時間一杯かけて解きました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

TACの授業の内容、BeckerのCDはすばらしいと思いますので、これだけを集中してやれば十分だと思います。

後は、これを自分が納得するところまでされるとよいと思います。私は2004年の６月から学習を開始しました。5年間継続再受講制度も使い、初めて受験したのが2007年5月でした。この間、初めの子供が生まれて１年弱ブランクがありましたが、ちょっと時間をかけすぎたなという感じです。これは私自身の反省点でもありますが、この試験は、点数よりも受かることが大事だと思います。満点を取るテストではないので、早めに受けに行くのもよいのではと思います。私も１回受けてしまうと、そこからこんな試験だとわかりましたので、あとは早かったように思います。

私の場合、会計士になるためでなく、自分のビジネスに直結させるためにやってきましたが、やってきたことが仕事面で非常に役立っています。受験生の皆さんは、もちろん試験に受かることが目的だと思いますが、この試験を通じて勉強している内容は仕事面でプラスになることも多いと申し上げたいと思います。

現在の私の仕事内容で見てみますと、特に、管理会計などBECで学んだ内容が一番使えますね。あとはFARで学んだローンとか、ビジネスローもたまに使いますね。

Q 今後の抱負は？

U.S.CPA試験に合格できましたので、今自分が担当しているビジネスのP/Lをきちんと見るとか、長期的な視点から、過去の推移をきちんと分析するだと、時間の制約もありますが、やってみたいですね。あと今、提携している海外のパートナーである会社の評価もしてみたいです。私自身は、技術が専門なので技術的な観点からだけで見てしまい、あまり安定していない会社でも、技術が良いほうを選びがちなのですが、今後は財務面からもきちんと見てみたいというのはあります。あとは夢になってしまいますが、せっかく勉強したので監査をやってみたいですね。

まずは TAC の問題集をじっくり解くこと

匿名希望 さん

2008年5月　USCPA試験合格（グアム）
FAR：85点（2008年2月）、BEC：80点（2008年5月）
REG：89点（2008年2月）、AUD：84点（2008年5月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学院時代の専攻が会計学であったのでなにか形にしたいと思ったのがきっかけでした。プラス、米国基準は国際基準にもっとも近いもので影響力があるという点も理由でした。

Q TACの講座でよかったところは？

TACの教材は重要なポイントが試験のためだけではなく試験後の復習にも役立つようにまとめられていると思いました。プラス、試験には出ない論点であってもわかりやすく説明しているところもとてもよいと思いました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

前半は講義に通いました。後半はビデオルームに通っておりました。合格までは1年5ヶ月かかりました。

Q 合格までの学習法は？

全般的には講義があるときはその講義の内容を復習しその後TACの問題集を解くというのが基本でした。それプラス、テスト受験半年ぐらい前からはBeckerをその講義が終わった後にやっておりましたのでたとえばFARが終わりREGの講義が始まるとREGの講義の復習および問題集での演習をしながらBeckerのFARを同時に始めると言った感じです。TACの演習問題は部分によってはBeckerより難しかった（連結等）ので逆にBeckerに入る時はさほど苦戦せずに入れた感がありました。大体TACの演習問題をしっかりといておくとBecker 1周目であっても65%ぐらいはできるようになっていると思います。つまり、まず理解を深めるためにTACの問題集をじっくり解くことがその後の試験対策のキーポイントだと感じました。そしてBeckerが1周終わった後に（ペーパーベースで）コンピューターで演習を始めました。CBT一回目は全部解くことをおすすめします。これは問題ができる、できないよりこの型式に慣れるために必要だと思いました。そしてCBTをこなすと同時に少しずつシミュレーション対策とライティング対策をすることも重要だと思います。シミュレーションではBeckerの問題以上にTACの問題集は難しいのでそちらが理解できればおそらく試験は問題ないのではないと思います。またBeckerのMC問題はペーパーベースとコンピュータベース合わせて大体5周（3周目以降は間違ったところを解くだけ）しました。その後はPass Masterのプログラムでランダムに試験日まで解いて実践に慣らすようにしました。ライティングに関してですが私が採用した勉強方向はとにかく毎日書くこと。たとえばその日に勉強した項目を寝る前に書いてみる（時間を計って）とか会社の昼休み等を利用して食事した後眠気覚ましに書いてみるとか。何より毎日書くことでどんなトピックでも書ける自信がついてくると思います。もちろん内容も大切ですがエッセイ独特の表現になれることに重点を置きました。そのほかにエッセイを書く以外に心がけたのは仕事上外国人へメールを送るときは意識してよりフォーマルな形で送るよう心がけました。トピックうんぬんよりとにかくフォーマルなエッセイが書けるようになれば高得点がとれると思います。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験はテストを受けるまでの手続きがとても大変です。プラス、テストを受けに行くのもかなりのエネルギーが必要です。しかし、受かったときはその人にしか感じえない感動があるはずです。そして、ここで得た知識は必ずこの先必要になってくるはずです。米国会計基準はこれからも米国だけにとどまらずここ日本でも影響力が強いですし今後もさらに強まると思います。仕事をしながら受験勉強は想像以上に辛いときはありますがそれだけ自分のみになりますのでがんばってください。

シングルマザーでもキャリアウーマンになってやる！ その第一歩がU.S.CPAへの挑戦でした。

河原 幸江 さん

1974年生まれ
1993年3月 神戸大学国際文化学部地域文化学科卒業
卒業後、航空事業関連会社の社長秘書として約4年半勤務。
長男出産後、専業主婦に（約5年）
離婚を機に社会復帰し、某中堅商社の経営企画室財務担当、JASDAQ上場企業経理課管理職を経て現在、東証一部上場企業財務部主計G管理職として勤務。

2008年5月　USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：92点（2007年10月／1回目）
BEC：81点（2007年11月／1回目）
REG：91点（2008年2月／1回目）
AUD：89点（2008年5月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

かなり特異な事情になりますが、離婚がきっかけです。息子を出産して以来、社会からは５年以上も離れており、正直、絶望の淵にいました。社会的にも経済的にも弱者にはなりたくない、との思いで、自信のあった英語を生かし、女性でもキャリアを積んでいける職種を探していたところ、U.S.CPAにたどり着きました。とは言え、経験が何より重視される会計の世界で、経理の経験すらないのでは、資格を取得できたとしても、本当に役に立つのか疑問でした。そこで、まずは簿記２級を取得し、経理財務の職を手にしたところで、米国公認会計士試験の勉強をスタートさせることにしました。

Q TACの講座でよかったところは？

最初は、次々に送られてくるテキスト、DVDの山に、本当にやりこなせるのか、大変不安になりました。しかし、テキストは確かに分厚いのですが、内容が難しいのではなく、大変丁寧な日本語解説、および、演習問題が適度な分量盛りこんであるからで、また、ポイントとなる論点、フレーズ等は必ず英語の表記がなされていて、洋書を確認する手間も全く必要ないように編集されていました。米国公認会計士試験の学習者の間では、必ず、どこのレビューブック（洋書）が良い、悪い、との話題になりますが、私の経験では、TACのオリジナルテキストだけでも、十分100点に近い内容をカバーできていると思いました。また、先生方については、自分が女性ということもあってか、小森谷先生と、内田先生の講義は、とても明快でテンポが良く、学習意欲が掻き立てられる内容でした。一度もお会いしたことはありませんでしたが、個人的にとても親近感を持って、聴講させて頂き大変感謝しております。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学の時間がもったいなく、また、いつでも子供の相手ができるので通信DVDコースにて学習致しました。開始したのは、2006年7月ですので、正味1年11ヶ月で全科目合格しました。

Q 合格までの学習法は？

最初の1年では、全ての科目を一通り丁寧に読み込み、小さな疑問点も残さず完全に納得するまで、質問メールで問合せをし、自分の言葉で、まとめノートやカードを作成しました。2年目に入ると本試験の受験の順番に1科目ずつ、記憶を呼び起こし、定着に注力しました。その際、TACのテキスト、自分のまとめノートとカードをキーワードだけでポイントが説明できる程度にまで定着させる様にしました。私の場合、１度解いた問題は、2度目になると、答え方を覚えてしまっており、本当の意味で、理解を正しく測定できるものではなくなってしまいますので、Becker（※1）のMultiple Choice（四択問題）（※2）演習は最後の最後まで手をつけずに、試験2、3週間前に、スピード感をつける為に1度だけ取り組みました。本試験は、Beckerよりかなり文章も短く、平易な問題が多いと感じられたのでBeckerで70％ぐらいの回答率であれば、本試験では90点近くを狙えると思います。Written Communication（※3）では、TACのWC講義でテーマとなった問題が必ず1つは出題され、ほぼ暗記をしていた私はかなり優位に本試験で対応できたと思います。WCで出題される論点は限られていますので、WC講義や、Becker例題を確実に押さえていれば、高得点は間違いありません。

※1　Becker（ベッカー）とは米国最大手のU.S.CPA試験の受験指導校です。TACはBeckerと提携し、日本で唯一Beckerの教材を含む対策講座を運営しています。またTACはBeckerよりタイムリーな最新の試験情報を入手し、受講生の皆様に提供させていただいています。

※2　U.S.CPA試験全4科目中、FAR、REG、AUDについては70％、BECでは100％がこの四択問題形式で出題されています。

※3　クライアントに対するレターを作成するなど実務を想定した記述式問題。U.S.CPA試験全4科目のうち、BECを除く3科目で出題されています。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPAは、グローバル企業で働く人にとっては、とても魅力的な武器になると思います。日本の公認会計士試験と比較すると、会計専門性については、深さが劣ると評価されることもあります。しかし、U.S.CPAは、会計だけでなく、法務、税務、経済、IT、ファイナンス、内部統制など、ビジネス界の中心的話題を全て網羅している点が何よりも魅力です。私も、U.S.CPAの学習をしたことで、新聞、ニュース、職場での目線が確実に変わったことを実感しています。これまで、聞き流し、読み過ごしてきたトピックに、立ち止まり、自分の言葉で語れることの楽しさ。是非、その後に続く明るいキャリアパスを思い描き、楽しんで学習を進めて行って頂きたいと思います。

人間的な魅力もある TAC の講師陣

S.I さん

大学卒業後、10年以上会計関係の仕事に従事。

2008年2月　USCPA試験合格（デラウエア州）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

アメリカが会計基準において世界をリードしていること、英語での試験でチャレンジのしがいがあること、の２つです。

Q TACの講座でよかったところは？

講師の方々は、教室やメールでの質問に丁寧に答えてくださいました。なおかつ、激励のお言葉も頂き、人間的な魅力もある方ばかりで、とても励みになりました。教材は、試験に出そうなポイントを強調してくれるので、勉強の進め方を絞ることができましたし、Becker※1の「実践トレーニング集」は分離して持ち歩けるため、会社の行き帰りなどちょっとした時間にも練習ができて重宝しました。本試験の出願手続の際には、NASBA※2のデータ登録ミスで申込みが進まなかったところを、TAC事務局スタッフの方が一緒に調べて下さり、空いている試験枠を使わせて頂いたので助かりました。

※1　Becker(ベッカー)とは米国最大手の米国公認会計士講座の受験指導校です。TACはBeckerと提携し、日本で唯一Beckerの教材を含む対策講座を運営しています。

※2　NASBA（National Association of State Boards of Accountancy）はU.S.CPA試験の試験運営管理を行っている組織です。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

Web通信講座を利用し、講座受講開始から1年8ヶ月で合格しました。

（2007年8月FAR/初回～2008年2月AUD/最終）

Q 合格までの学習法は？

試験前2ヶ月くらいから、まず記憶を呼び起こすためにTACのテキストを通読し、その後BeckerのMultiple Choice（四択問題）※3を2回やりました。勉強に充てる時間が限られていたので、Simulation※4やFinal Exam※5にとりかかったのは、各科目とも本試験の１～2週間前でした。Written Communication※6については、BeckerのSimulationの練習問題と模範解答をWORDに貼り付けて印刷し、行きの飛行機や現地に着いてから丸暗記するという苦しい対策でした。（なかなか憶えられませんでしたが。）

※3　Multiple Choice（四択問題）U.S.CPA試験全4科目中FAR、REG、AUDについては70%、BECでは100%がこの四択問題形式で出題されています。

※4　Simulation（シミュレーション問題）初歩的な実務における状況設定をイメージした問題でU.S.CPA試験全4科目中FAR、REG、AUDについて30%の割合で出題されています。

※5　Beckerの教材に含まれる模擬試験問題。フルサイズの模擬試験問題が2回分が収録されていて、自動採点機能も付いています。

※6　クライアントに対するレターを作成するなど実務を想定した記述式問題。上述※4　Simulation問題の一部としてU.S.CPA試験全4科目のうち、BECを除く3科目で出題されています。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPA試験は、FARの計算問題は別として、一般的な日本の各種試験とは違い、すっきりと解答が「これ」と特定できるような設問が少なく、そのつど自分でベストと思われる選択をしていかなければならないのが難しいところだと感じました。対策としてはやはりBeckerの問題をなるたけ数多く解くということに尽きると思います。試験時間に関していえば、REGは問題数に比して時間が少ない（3時間）ため、一番きつかったという印象です。自分はMultiple Choice、Simulationそれぞれ1時間半ずつを割り当てましたが、やはりぎりぎりでした。難関と言われるAUDについては、時間は多めにありますので（4時間半）、Simulationに2時間～2時間半程度残すつもりで進めて、W.C.の文章構成などをじっくり考えるようにしました。とにかく試験は最後の1秒まであきらめずに頑張れば、ぎりぎりでなんとかなることもあると思います。皆様のご健闘をお祈りします。

本当に諦めず続けてきて良かった！と実感

野田　愛紗 さん

1983年生まれ
名古屋大学 経済学部経営学科 2006年卒業　　2007年12月　USCPA試験合格（アラスカ州）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

留学から帰って来て将来のことを考えた時、漠然と英語と大学で学んだ会計の知識の両方を生かした資格を取りたいと考え、U.S.CPAに挑戦することにしました。また、将来自分の可能性を広げられるきっかけになるのではないかと思ったからです。

Q TACの講座でよかったところ

テキストは英語と日本語を織り交ぜて構成されているのでとても分かりやすく、頭に入りやすかったです。Beckerも試験直前期に活用し、とても役に立ちました。特に英語の表現の言い回しなどネイティブでない日本人にとってはなかなか出てくるものではないので、こういう言い方をすればいいんだなと参考になりました。また、U.S.CPA講座専用TEL（通話無料）に電話すれば、どんな小さな疑問や相談にものっていただけたので受験仲間がいなかった私にはとても心強かったです。

あと、Written Communication対策講義ではビジネスレターの基本の言い回しや書き方も学べるので本当に助かりました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？

名古屋校は教室講座がなかったためDVD通学をしていました。

Q 合格までの学習法は？

講義である程度知識を定着させた後は、とにかく問題を繰り返し解きました。どの科目においてもまずはMultiple Choice(MC)を攻略し、間違えた問題は答えの部分になぜ間違えたのか書くようにし同じ間違いを繰り返さないように注意しました。

BECはSimulation問題がまだ導入されていないので、ひたすらPASS MASTERで問題を繰り返し解き、TACのテキストを何度も読み直しただけで合格できました。ただIT問題はテキストには載っていないようは専門的な問題が出る可能性も高く私もぎりぎりでの合格でした。IT問題については対策が難しいと思いました。

FARについては簿記論を持っていたので、Simulation問題もそこまで抵抗はなく勉強を進められました。ただやはり簿記の知識が全くない人は慣れるまで練習が必要だと思います。また、簿記は計算問題で電卓を使うことが多いのですが、私はPCの電卓にどうしても慣れず本番でもかなり苦労しました。事前にもっとBeckerで電卓に慣れておくべきだったと反省しました。Written Communication（WC）はREGやAUDに比べれば書きやすい問題なのである程度練習しておけば大丈夫だと思います。

REGに関してはMCの問題も１つ１つ長いのでSimulation問題にできるだけ時間を残せるように早く解くことが鍵になります。とにかく同じ問題を何度も何度も繰り返し回しました。またBeckerのSimulation問題でformにも慣れておくことで本番でも焦らず解くことができました。

AUDについては一番手こずり、２回受験しなければいけませんでした。１回目の受験の時はＷＣが難しすぎて完全にお手上げだったのですが、MCもかなり自信があり、Simulation問題も簡単だったのでいけたかな？と思っていました。しかし結果は74でfail･･･スコアレポートを見てもMCとSimulationはstrongerなのにWCがweakerだったために合格できませんでした。そこでWCがある程度できないと合格はないんだと改めて実感し、そこからはとにかくWC対策に集中しました。その際TACのWritten Communication対策講義はとても役に立ちました。

BEC以外の３科目においてやはりキーポイントとなるのはＷＣだと思います。WC対策をしっかりやっておくことが合格への近道になると思います。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPAの試験はよく、諦めなければ必ず合格できる試験と言われています。私も何度も何度もくじけそうになり、諦めようと思ったことがありました。でも今は、本当に諦めず続けてきてよかった！と実感しています。実は、Auditの試験の最中に地震が起き、かなり揺れも激しかったため、もう絶対にだめだ･･･と途中で恐怖と動揺により諦めそうになりました。でも、このまま終わったら今までの努力が水の泡になると自分を奮い立たせ、なんとか合格することができました。人間追い込まれるとパワーを発揮するものなのかもしれません。

どうかこれから合格を目指す方も最後の最後まで諦めず、合格を勝ち取ってください。

その喜びは何物にもかえがたいものだと思います。

TACのテキストで理解力をつけ、Beckerを繰り返し解くだけで合格力は十分身に付きます！

C.K さん

大学院卒業後、シンクタンク等にてコンサルタント・研究員
として働く
科目合格を契機に2007年3月に監査法人に転職
現在、同監査法人にて主に不動産関連の監査業務に従事

2007年12月　USCPA試験合格（アラスカ州）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

今後の更なるキャリアアップを図るために、U.S.CPAを取得しようと考えました。

Q TACの講座でよかったところは？（講師、教材、カリキュラムなど）

1．教材について

TACのテキストは非常にうまくポイントがまとまっているため、TACのテキストで理解力つけ、Beckerの問題集を繰り返し解くのみで合格するための力をつけることは十分だと思います。特にREGやAUDは理解とともに暗記しなければならない部分も多いですが、REGの直前対策まとめやBLやAUDのテキストは非常に勉強しやすく、かつ重要論点は本試験の内容をかなりカバーしていると思います。また、Beckerは問題数も多く、本番に近い形でコンピューター試験問題に慣れることができるので、問題集としてはBeckerのみで十分だと思います。

2．質問e-mail

また、普段教室に足を運んで先生に直接質問をすることが難しかったため、e-mailで質問できたことはとても役に立ちました。

3．再受講制度

REGは、他の科目と比較してある程度暗記していくことが重要だと思います。TAXのFormについては、直前対策まとめを使って暗記しました。BLについてはTACのテキストの重要論点を中心に暗記しました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？

通学です。

Q 合格までの学習法は？

1．会計知識ゼロからスタート

私は大学や大学院では会計学を専攻していなかったため、TACに通いはじめた当初、会計単位はゼロであり、かつ会計・簿記の知識もまったくありませんでした。授業の進捗にあわせてまずは提携大学でFARやMAの単位取得から始め、会計の基礎力を養いました。

2．FARとBECの学習法

FARとBECについては、授業の進捗とあわせてBeckerの問題集を繰り返し解きました。

これら２科目はBeckerの問題を繰り返し解くことでかなり合格レベルの力をつけることが可能だと思います。ただ、BECについては、私は２回目での合格となったのですが１回目も２回目もITやFinance, Economicsではじめてみるような問題が何問かでた記憶があります。そのため２回目の試験ではMAとBusiness Structure で確実に点がとれるように準備しました。

3．REGの学習法

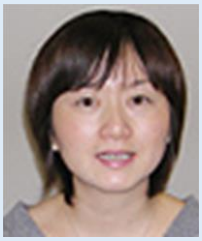
AUDは、2回目の受験を行う前に、1回目に受けたときから試験内容がかなり変更されてしまったため、受験2カ月前に5年間継続再受講制度を利用して週末AUDの授業に通い直したおかげで、試験内容の変更にも問題なく対応することができました。

4．AUDの学習法

AUDは、監査の実務経験がないとなかなか理解しにくい科目だと思うので、テキストを繰り返し読み込んだり、先生に質問するなどして監査の概念や流れについて理解するように努めました。AUDもREGのように暗記だけでなんとかなるのではと思い、最初の受験では、テーマごとに暗記して本試験に望みましたが不合格となり、やはり監査の概念や流れをしっかりつかむことが重要だと思いました。

5．WC（Written Communication）の学習法

また、WCについては完璧に書けるようになる必要はないと思いますが、まったく書けていないと合格点に届くことは難しいと感じました。WCについては様々なトピックが予想されるため、どのようなトピックがきても少しは書けるようにトピックごとの２、３行のまとめノートを作るなどして準備していくとよいと思います。



日本語でTACの講義を受けることは、母語が中国語である私にとっては“一石二鳥”だと思いました

Yang Weiwei（ヤン ウェイウェイ）さん

1978年8月生まれ（中国出身）
金沢星稜大学経済学部 2007年3月卒業
2007年4月～2008年1月：製造メーカで海外営業
2008年2月～：中国上海へ転勤する予定
（目標：米系会計事務所監査業務）

2007年11月　USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：83点（2007年11月）、BEC：82点（2007年11月）
REG：77点（2007年11月）、AUD：75点（2007年10月）

Q USCPA試験を目指されたきっかけは？

大学時代、同じゼミの仲間が日本の税理士試験に合格してから、私も将来への備えで、会計士になろうと真剣に考え始め、30歳前に必ず取ろうと決意しました。USCPAで学習する内容は大好きな英語と数学（代数）を合わせたものというイメージがあり、自分にとって最も取り組みやすい易い資格であろうと思っていました。

2003年3月に日本へ留学する前に、5年間ほど、中国の蘇州で通関士として、輸出入貿易関連の仕事していました。人生は一回しかありません。通関士の仕事は5年間やって飽きてきました。会計士であれば、15年間以上続くだろうと思いました。日本語でTACのU.S.C P A講義を受けることは、母語が中国語である私にとって、チャレンジというよりも、“一石二鳥”のような試みになるのではないか思いました。

Q 合格までの学習法は？

a)　Multiple choice（択一問題、以下MC）を速く解く訓練をしました。特にFARとREGは速くMCを解かないと、SIMは間に合わなくなります。

b)　私は朝五時前後に起きると一番効率よく勉強できるタイプです。脳の働きがよい時間帯で勉強したほうが良いと思います。

c)　受験前にAICPA release問題（最近2年間RELEASEした問題）を練習したほうが良いと思います。

Q TACを選んだ理由は？

a)　大学1年生のとき、TACが出版した簿記のテキストと問題集を大学の先生が紹介してくれて、簿記2級に合格し、TACに対する好印象を持ちました。また大学の図書館に、TACの杉浦先生が執筆したテキストが何冊かあり、TACで杉浦先生の講義を聞きたいと思うようになりました。

b)　ゼミの仲間がTACの税理士講座を受け合格したこと。

c)　TACは東証一部上場会社で、きちんとした組織で、安心感があったことも理由の１つでした。

Q TACでよかったところなど

a)　U.S.CPA試験の出願手続きなどに関する質問に対してTACのスタッフの方は親切且つ細かく教えていただきました。頼りになる存在でした。

b)　米国連邦税法は私にとって難しい科目だったのですが、内田先生の解説で、易しくなりました。内田先生は単に結果を述べるのではなく、結果に至る経緯を丁寧に解説して頂きました。まとめ資料も要点をほぼ網羅してあり、受験前日にも読みましたが、とてもよかったです。

内田先生の税法と公会計の講義は情熱があふれていて、私も必ずUSCPA試験に合格できる、という自信が増しました。

c)　TACの5年間継続教育制度はとてもよかったです。わたしの場合は合格まで2年8ヶ月かかりました。5年間継続制度を大いに活用しました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

私の成績変化

1）AUD：65 ⇒ 74 ⇒ 75
2）FAR：52 ⇒ 59 ⇒ 69 ⇒ 83
3）REG：62 ⇒ 67 ⇒ 74 ⇒ 77
4）BEC：59 ⇒ 50 ⇒ 69 ⇒ 70 ⇒ 82

2年8ヶ月の受験生活を振り向くと、私は真剣にUSCPAを取り組めば、誰でも合格できると思います。USCPA出題範囲は広いだけで、本試験内容はそんなに難しくなかったと思います。

就職が決まった大学4年生の4月から1年間でチャレンジできる資格としてU.S.CPAを選択！

青木 孝晋 さん

1984年2月生まれ
慶應大学 経済学部経済学科 2007年3月卒業
2007年4月より大手証券会社勤務

2007年8月　USCPA試験合格（モンタナ州）
2007年2月に3科目（FAR、BEC、REG）合格
2007年8月に残る1科目（AUD）を社会人1年目で合格

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

今勤めている先から内内定をもらったのが2006年の4月でした。大学4年生の4月に就職先が決まると卒業までの1年間、時間が取れましたので、この時間を使って何か身につくこと、形として残ることがやりたいなと思っていました。1年間でできることというと、私の中では留学か資格のどちらかだったんです。ただ留学は在学中に一年間していましたので、今度は資格、その中でも勤め先である金融業界で役に立つ資格の勉強をしようと思いました。この業界では何をするにしても、まず会計の知識は必要だろうという考えがありまして、1年間でやり遂げ得る、簿記とU.S.CPAに興味を持ちました。

両資格ともに魅力的でしたが、米国に留学をした経験が活かせるという点、また会計だけではなく法律も含めた総合的なビジネスの知識が身に付くという点が決め手となり、U.S.CPAに挑戦することにしました。

Q TACの講座でよかったところは？

私の場合、家での勉強は長続きしないと思い、DVD講座でもTACに通うコースを選びました。一番良かったのは通学ビデオ（DVD）講座では受講スケジュールの融通が利くということでしたね。私は2006年の4月から学習をはじめたのですが、2007年の2月、つまり10ヶ月後に受験することを目標としており、通常のコーススケジュールでは間に合いませんでした。そこで、2006年1月から既に始まっているコースに３ヵ月後に入る形をとり、そこまでの教室講義をDVD講義で埋め合わせていくことにしました。

DVD講座のお陰で、教室講義に比べ速いペースで勉強を進めることができ、目標とする受験時期までに勉強を間に合わせることができました。自分のスケジュールに合わせて受講ペースを調節できるということが、私のような環境にいた者にとっては一番助かりました。

Q 学習開始時点での簿記の知識や英語力は？

会計の知識は０でした。英語も留学していたといっても、受講開始した時から１年半前に帰国していて、それ以来英語を使っていませんでしたので、英語力も落ちていたと思います。どれくらいだったかというと外国人が言っている英語は分かるけれど、自分から流暢に話すことは出来なかったですし、ライティングに関しても、自信がありませんでした。

Q 合格までの学習を振り返ってみての感想は？

TACのテキストを使った講義でベースとなる会計の考え方を理解し、その後、ROUTE99（本科生）に含まれているBeckerの教材で、本試験同様の選択問題を解いていくという流れで進めました。この教材の選択問題は量が多いだけではなく難度の高い問題も収録されているため、科目によっては2回転目に入っても、6割程度の正答率しか取れなかったこともしばしばありました。ただ実際に本試験を受けてみるとBeckerの問題よりも簡単だったり、同じ出題形式だったりで、この試験は「Beckerを使って学習していればある程度の確率で受かる試験なんだな」という印象を持ちました。

Q 科目別には？

一番理解に苦しんだのはAUDですね。AUDの中で「どういう手順で欠陥が見つかってどう対処すべきか」というような問題がシミュレーションで出たんですがそれが私の中では理解できていない部分だったので、かなりてこずりました。それが2007年2月に受けたときも8月に受けたときも出題されました。恐らく両方の回ともこの問題に関してはあまり点は取れていなかったと思います。

Q 他の３科目は？

結果的には1回で受かったのですが、点数的にはFARが80点代後半、BECとREGが合格点の75点より少し上のギリギリ合格でしたので、楽勝だったということはないですね。

Q 合格できた要因として大きかったものは何だと思いますか？

2007年2月に４科目全て受験したのですが、そのうち3科目を1回で合格できたのは私が学生だったということが大きいと思います。社会人の方に比べ多くの時間を学習に割くことができました。特に本試験受験の１ヵ月半ほど前から勉強だけに専念できたことが、結果的に合格につながったと思います。

Q 本試験はどこで受験されましたか？　受験されてみての感想は？

最初の2007年2月はロサンジェルスで受験し、8月はグアムで受験しました。ロサンジェルスには、現地にいる友人を訪ねるという目的もあったため、卒業旅行を兼ねて行きました。ロサンジェルス、グアムの試験会場に大きな差異はありませんでした。本試験だけのために渡米するのであれば、グアムのように日本から近い試験会場が良いと思います。

Q 受験スケジュールは？

ロサンジェルスでは１日2科目ずつを2日に分けて受験しました。1科目あたりの試験時間がそれなりに長いので1日2科目受験というのは正直きつかったですね。

Q ところで青木さんはモンタナ州に出願されていますがその理由は？

私が学習を開始した当時、モンタナ州は合格後、実務経験なしでCertificateが取れる州でした。同じ勉強をするのであれば、試験合格後に名刺に肩書として書けない州を選択するよりも、書ける州に出願した方が良いとの思いがあり、モンタナ州を選びました。しかし2006年10月にモンタナ州の規定が変わってしまい、結局、Certificateの取得申請はできなくなってしまいました。

Q その他本試験に関しての感想は？

本試験の受験手続の時に日本の感覚とは違うなとつくづく思ったことがありました。

初回受験の時、願書を送って、受験料も支払ったのにNTS（受験票）が中々届かず催促のメールを何度も送ったり、電話をしたりしたことがありました。ようやく返事が返ってきたと思ったら「書類に不備があるというメールを前に送っただろう。」という返事。しかしそんなメールは届いていない。2006年11月に出願したにも関わらず、ようやくNTSが届いたのは2007年2月の中旬でした。急いで試験会場を押さえ、ホテル、飛行機の手配をし、NTS到着から10日後には渡米して受験という、あわただしいスケジュールになりました。

また、AUD再受験を出願するときも、なかなかNTSが届かず、電話で問い合わせると「メールアドレスが間違っていた」という返事。結局、2007年の4月～5月期に再受験をしたいと思っていたのですが間に合わず、8月の受験になりました。

8月の試験結果も、受験後3-4週間で届くと聞いていたのに4週間待っても、5週間待っても来ない。メールで問い合わせると、「担当者が10日ほど出張でメールが返せない」という返事で、「何百、何千人もの受験者相手に担当者が１人しかいないのか！」と憤ったこともありました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

まずは１つ１つのことにあまりこだわらないということですね。U.S.CPA試験の場合あまり細かいところは突いてきません。ざっくりと各科目の全体像を掴むことをまずは優先すべきだと思います。始めにTACの講義を受けて、受け終わったところでわからない部分を見返し、あとはBeckerの問題をひたすら解いていくのが良いと思います。学習の途中で詰まっても、あまり長い間そこで止まってしまわず、前に進んでしまったほうが良いと思います。頑張ってください。

ニューヨークとラスベガスで受験。 受験後は現地での周遊を満喫！

金井 猛 さん

1980年11月生まれ
2003年3月 早稲田大学教育学部英語英文学科学際コース地球環境システム卒業
2003年4月 外資系IT系企業入社 現在に至る
2003年11月 日商簿記2級取得

2007年8月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：82点、BEC：76点
（2006年10月ニューヨーク州マンハッタンで受験）
REG：79点、AUD：78点
（2007年8月ネバダ州ラスベガスで受験）
全科目初回受験で合格

Q まず簿記の勉強から始められましたがその理由は？

大学では英文科で英語を、サブ・カリキュラムで環境問題について学びましたが、財務・会計分野に関心があり、また、プロフェッショナルに対する憧れから、卒論を書いた後、簿記の勉強を開始しました。

2003年2月に3級、11月に簿記2級に合格し、2004年1月から6月までTACの簿記1級講座、同年7月からTAC 米国公認会計士講座の受講を開始し、簿記1級を11月に受験しました。

残念ながら簿記１級は不合格でした。１年間以上簿記1級の取得に時間を費やすことは避け、米国公認会計士の勉強を2004年11月から本格的に開始しました。

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

現在、外資系IT系企業で購買の仕事をしていますが、社内でどのような部署に配属され、どのような業務を任されたとしても、自分自身の基礎的な力（英語力、会計知識等）を継続して高めたいと考えUS CPAにチャレンジすることにしました。

Q 学習環境作り、学習時間の確保についてお聞かせください。

（1）学習環境づくり

少ない勉強時間でも効率良く学習できるよう、自宅での学習環境作りに工夫しました。 ボリュームのある学習教材を整理し利用できるよう本棚を購入した他、両足を十分伸ばせられ、教材の置き場所に困らない大きめの机と、長時間の学習でも座り疲れが少ない椅子を購入し、また部屋を広く使えるように収納家具も取り揃え、学習に集中できる環境を作りました。

また、常に空調を調節し、春夏秋冬最適な室温を保ち、熟睡を意識的に心掛けました。

（2）学習時間の確保

学習時間は１週間に約20時間強程度でした。 平日、月曜日から金曜日まで約1時間30分、 土曜日は6時間、そして日曜日は8時間勉強しました。 合計すると週20時間強になりますが、これはビジネスマンが十分に確保できる学習時間です。勉強時間を無理にそれ以上確保しようとはせず、コンスタントに、かつ少ない時間で集中して、学習に取り組めるように専念しました。

・例えば電車の中で無理に学習せずグリーン車（JRの有料車両）でアイマスクと耳栓をし熟睡していました。
・平日は夜10時頃に就寝し、朝は4時30分に起床し、最低1時間半の学習時間を確保できるように心掛けました。
・土曜日は平日の疲れを極力解消するために思う存分睡眠を取りました。

ですが土曜日は平日の疲れが解消しきれず、唯一日曜日のみ疲労感なく学習することができたと思います。

（3）読書習慣について

3年弱の受験期間中様々なジャンルの読書を行なっていました。受験期間中プチ浦島太郎的な生活を送る人もいますが、それは避けるようにしました。それができる人はいいのですが、私はそれでは学習意欲を維持できないと思ったからです。

『フラット化する社会』トーマス・フリードマン（著)、『夢を実現する戦略ノート』ジョン・C.マクスウェル（著)等の良書に出会えて、世界的な潮流と自分が進んでいく方向性について再確認することができ、学習意欲を維持することができました。

Q 朝4時半に起きられるというのはすごいですね？

自分が投資した時間量を必ず回収しなければならないという切迫感があったからだと思います。

Q 合格までに要した期間は？

私の場合、学習開始時に簿記１級の基礎的な知識を保有していたわけですが、TACの講義を受講して、受験資格を満たすための追加単位を取るまで1年弱、その後本試験向けの学習を本格的に開始して４科目合格までに1年半程度、合わせて約3年弱かかりました。

2004年7月　受講開始
2004年12月　ACC201（ATG157相当)、
　　ACC202（ATG158, ATG204相当）取得
2005年3月　ACC401（ATG301相当）取得
2005年6月　ACC402（ATG302相当）取得
2005年9月　ACC404（ATG401)、ACC410（ATG477）取得
2006年10月　ニューヨーク州、マンハッタンでFARとBEC受験し合格
2007年8月　ネバダ州、ラスベガスでREGとAUD受験し合格

※単位認定試験の科目名はすべて2007年6月まで提携していたネバダ州立大学リノ校のもの。現提携大学のブラッドリー大学の相当する科目名をカッコ内に表示。

Q 単位認定試験を振り返ってみていかがですか？

単位認定試験は毎回が真剣勝負でした。特に最後受験科目の404と410の学習期間が3ヶ月程度であり、試験の1週間前から夏期休暇を使い自宅に篭って勉強しました。

Q 本試験についてうかがいます。2005年9月に追加単位を取り終えて、約1年後の2006年10月にFARとBECを受験され、10ヶ月後の2007年8月にREGとAUDを受験されていますね。

単位を取り終えた後、本試験に向けての学習を本格化させましたが、私の場合まずFARとBECを集中して学習し、これら2科目を受験、次にREGとAUDを集中して学習し、これら2科目を受験するというパターンで臨みました。3科目あるいは4科目一度に受験することは、これまでの自分の学習ベースから考えるとかなりリスキーな選択であると判断していたからです。

Q 学習時に使用した教材とその利用方法について教えて下さい。

1. TACのテキスト、問題集
2. ワイリー（※）
3. Becker（ベッカー）
4. 会計用語辞典

TACの教材に関しては、テキストを主に理解に使用しました。問題演習はワイリー中心に進めました。Simulation対策はBeckerを利用しました。

会計用語辞典は学習開始から試験まで随時使用しておりました。教材ごとにTAC、ワイリー、Beckerの良い部分をフル活用できたと思います。

Q ワイリー（※）を使われた理由は？

はじめワイリーのFARの問題を解いてみてワイリーが全ての傾向の問題を網羅していると感じました。 ワイリーのMC（マルチプルチョイス）の解説が細かくかつ丁寧でして解説を省ける難易度の低い誤った選択肢であっても、詳細に解説してありますので、テキストを併読する必要性を抑えられました。

そのためワイリーの問題集を進めて、後にBeckerをやることにしました。ただ学習内容の全体像をつかむためにはTACのテキストが必要でした。

ワイリーで出題される内容についてはほぼTACのテキストに網羅されているので、最後AUDを受けるまでテキストはTAC、問題集はワイリーとベッカーを併用して学習しました。

※ワイリーは市販されている洋書の問題集ですが当校講座の教材には含まれておりません。金井さんの場合は，学習開始時点で簿記1級の基礎レベルの会計知識をお持ちであったことと、英語に抵抗がなかったことでTACのテキストとBeckerに加え、ワイリーも使って学習をされました。TACとBeckerの教材だけでもボリュームは充実していますので、TACとしてはTACのテキストとBeckerの教材を繰り返しこなすことをお薦めしています。

Q 学習開始時点での英語力は？抵抗はありませんでしたか？

学習開始時の英語力は、TOEIC730点程度あり、会社でも英語を使う環境にありました。会話は苦手ですが、メールで1日100～150通位処理をしていまして英語についてほとんど抵抗感はありませんでした。しかしACC201と202の受験前は日商簿記1級の受験を終えて正味1ヵ月くらいでした。会計知識としての内容はわかりましたが、英語で会計用語を学ぶことに手まどいました。

Q 科目別の感想をお聞かせください。

会社での業務内容との関係から、AUDへの学習負担を抑えることができました。率直な感想として、メーカーや商社に勤務されている方にとっては、実務と学習内容の関連性が強く、学習しやすい科目であると思います。

一方で最も苦労したのがREGとくにTAXでした。

私の勉強方法は教科書を一読した後に、問題集を開いて最初から最後まで問題をまんべんなく解いていくというかなりシンプルなものでしたが、TAXは構造的理解を要する科目のため、一律的な学習対策では全体像を捉えられない科目でした。

また、BECはワイリーの問題集をやり全分野について漏れなく得点する自信がありましたが、本試験でそれまで見たことがないような奇問がいくつも出題されていたので、試験受験中は“不合格”の3文字が頭をしばしばよぎりました。しかし、幸運にも解けなかったその問題が採点上の調整問題であったようで、76点で何とか合格することができました。

私の場合ワイリーとBeckerの両方を使いましたがワイリーは全範囲をカバー、Beckerはその中で出題頻度が高い問題に軸を置いているという印象を受けました。

私は2005年版のワイリーを利用し、2006年、2007年と受験しましたが、ワイリーでは見たことがないような問題も出ましたので2年位経つと出題傾向が変化していることを感じました。3年程度の期間で合格することができ幸いでした。

Q ところで米国本土で受験された理由は？

受験後に観光を存分に楽しもうと思ったためです。

ニューヨーク受験後の観光が非常に印象的で、今まで最も満喫した海外旅行になりました。

受験後に、ナイアガラ、ワシントン、ニューヨーク、ボストンを一日ずつ観光致しました。どの都市も思い出深い一日となりました。

試験結果は多少気にしていましたが、一日一日観光を経るうちに忘れて行きました。私のように会社の夏季休暇を利用して受験に望まれる方には、本土、特に東海岸での受験は大変お勧めです。

Q 試験会場の雰囲気について

ニューヨークの試験会場はマンハッタン島の中心部でしたが、プロメトリックのテストセンターは、大きなビル群の中にテナントを借りていて、辿り着くのに一苦労しました。試験施設について気になった点と言えば、受験生が不便を感じないよう、トイレを借り切っていた点です。同じ階の他のテナントが使えないように、鍵をかけていて、プロメトリックセンターが管理している鍵を用いてトイレへ入出することができました。

試験後、ホテルに帰るまで観光場所が目白押しでテストの2日間にかけテスト疲れはありませんでした。尚、試験会場から500m程度のところにニューヨーク公立図書館がありますので、そこで少し休んでから試験会場に行くのもいいと思います。

ラスベガスの試験会場はネオン街から2-3km離れたSouth Valley Viewという地域にありました。試験施設の雰囲気はどの会場もほとんど変わらないと思います。

ただ私が受験した時はクーラーが強くきいていて、事前に寒さ対策として長ズボンに長袖シャツを着て行ったのですが、試験時間中ずっと鳥肌が立っていました。

試験施設含め、周りの建物は、テナントのオフィスでして全て一階建ての建物でした。観光できる場所は近くにございません。

私の滞在期間、現地は丁度真夏でして、日中は40度を越えていました。乾燥しているため、体感温度はそれよりも随分低めでした（30度以下？）。

滞在中は、唇が荒れ、肌のつやも徐々に落ちて行き、私にとって今まで過ごしたことがない環境でして、自分の想像を超えた世界でした。

Q これから合格を目指す方へのアドバイスをお願いします。

忙しい社会人の方とって、この試験に合格するためには学習意欲、学習戦略、学習時間の確保が重要だと思います。

ビジネスパーソンとして基礎能力の高さをアピールするのにU.S.CPAは持って来い資格だと思います。 多くの方にこのU.S.CPA試験に挑んで頂き、自分自身の人生計画にこの資格を役立てて頂きたいと思います。

TACの一番の魅力はなんと言っても講師陣

林　伸次 さん

1973年5月生まれ
上智大学法学部法律学科　1996年卒業
1996年大手ビール会社に入社。入社後は新潟・名古屋で酒販店や飲食店に対する自社商品の開拓営業に従事。その後ヨーロッパにおける海外営業を経て、現在は横浜において飲食チェーン店の開拓営業を担当

2007年8月　USCPA試験合格（ワシントン州）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

ずばりヨーロッパに転勤をし、営業で大失敗をした事ですね。日本における今までの私の営業スタイルは元気良く何度も得意先を訪問して「いかに自分を売り込めるのか」という事に最大の焦点を当てていました。家では上手な笑顔も作り方なんかを鏡の前で研究したりしていましたから、もちろん会計監査とは全く無縁でしたし、USCPAの存在すら知りませんでした。

しかし、ヨーロッパに転勤し、MBA・USCPA取得者などのいわゆるビジネスの猛者達が商談相手になり、「このプロジェクトはビジネスとしてお互いの会社にとって非常にメリットがある。さあ、今すぐ判断を！」と非常に金額の大きい取引を笑顔で迫ってくるのです。でも「笑顔は世界共通だ！」なんて勝手な前提を立て、上司にも相談せずに「OK」と返答し、結果として会社に損失を出してしまうことが発生いたしました。

そこで二度とこんな失敗はしたくないので、「世界に通じるビジネスの原点を学んで商談における主導権と冷静な判断基準を築き上げよう」と考えたのです。そしてビジネスの基本である会計知識・また会社運営に不可欠な監査知識の習得のみならず、世界というフィールドで通じるUSCPAの取得を決意いたしました。

Q TACの講座でよかったところは？

TACの講座で一番の魅力はなんと言っても「講師陣」です。ほとんどの講師が授業終了時に「何でもいいから質問してください」と言ってくれます。初心者の私にとっては本当にわからない事だらけだったので、今思うと「よくあんな質問したよな」と思うくらい基本的な質問をしていました。でも嫌な顔ひとつせずにとことん説明してくれ、講師陣の中には授業内容以外の事でも相談に乗っていただくこともありました。それが「自分一人じゃなくて講師陣も頑張ってくれてるんだ！」と最後までやりきる気持ちに繋がったと感じています。

教材に関してはTACテキストにプラスしてBeckerという強い味方が付いている点が魅力ですBeckerの過去問題集は実際に出される問題形式と全く同じなので、本番でも「家のパソコンで試験を受けているような感覚」になれました。

フォロー制度も充実しているのでお奨めです。私の場合は土日に仕事が入ったり、また二日酔いでどうしても授業に参加できなかった時がありました。でもビデオ講座で欠席した授業を即座にカバーできるので、決して授業の流れに遅れることがありませんでした。また実際の受験を申し込む際、正直何の書類を提出していいのかわかりませんでしたが、TACの専用相談電話（しかも通話無料！）に何でも質問・相談させていただき、スムーズに申し込みできた所も良かった点です。

Q TACでは通学・通信どちらで学習されましたか？

通学講座にて学習しました。自分の性格上、家でビデオを好きな時に見ようとしても絶対に見ないと思った点と、本当の超初心者だったので講師陣にその場で質問をして疑問点を解決してゆきたかったからです。

Q 合格までの学習法は？

授業を受ける際、「予習よりも復習に時間を使うべきだ」とのアドバイスを受け、実際その通りにしました。予習は一切しませんでしたが、受講した内容はその日中に「まとめノート」に整理するように心掛けました。USCPA４科目ではありますが、内容は多岐に渡るため、「いかに内容を効率的に自分流にまとめるか」がポイントになると思います。私の場合は総じて「TACテキストの重要ポイントを自ら問題形式に作り変え、いつでも暗記反復作業に入れる準備」をまとめノートで実践してきましたが、科目の特長によって内容を変えたり、過去問を中心に学習したり、勉強場所を上手に選んだりしました。

[FAR]

基本は計算問題です。頻出されるトピックの例題を徹底的に反復できるようにノートをまとめました。計算問題は場合によって計算用紙や電卓が必要になるので、もっぱら家で勉強する科目とし、また反復作業が重要なので、「早い時期から継続的に学習」する事を心掛けました。理論問題に関しては重要項目を空欄にし、通勤時間等を利用して暗記するようにしました。ただし暗記科目なので「何を暗記すればよいのか」という整理さえしておけば直前に詰め込み式で対応しました。理論問題は不正解である選択肢にも目を慣らす必要があると感じ、過去問も合わせて学習しました。

[BEC]

科目が色々ありますが、７割が理論問題、３割が計算問題とまとめることができると思います。理論問題はIT・Business Structure・Economicが中心になりますが、特にITは本番でも出題量が多く、また話題の変遷が早いのでキーワードとその意味だけでも抑えておく必要があり、ネットで話題の言葉を絶えずチェックするようにいたしました。計算問題に関してはManagerial Accounting・Financial Managementが中心ですが、初級問題から超上級問題まで全てを網羅することは非効率なので、標準差異関連・原価計算問題を中心に確実に得点をし、それ以外の問題は諦める、というスタンスで学習しました。

[REG]

Taxは計算プラス理論問題、Business Lawを理論問題と位置づけ、FAR同様の手順でまとめました。Taxに関しては内田先生が事前にまとめていただいた「直前対策まとめ」が非常に簡潔で分かりやすい内容になっていましたので、ほとんどを活用いたしました。また、杉浦先生のBusiness Lawはテキスト各章の見出しが出題される論点一覧になっているので、ノートの左側に論点、右側に詳細をまとめる、というやり方をいたしました。結果として本当に時間を有効活用できたと思います。

[AUD]

ずばり理論問題ですが、単に暗記するだけでは対応ができない難関科目です。マルチプルチョイスの選択肢には大半にベストアンサーとベターアンサーがあり、問題によって「ベスト」の答えを選択しなくてはならないからです。そこで私は過去問を中心にノートをまとめ、トピック毎のベストアンサーとベターアンサーの両方が何であるかを徹底的に頭に叩き込みました。また、マルチプルチョイスだけの対策では不安であったので、シミュレーション攻略の鍵となるTransaction Cycle問題を極めるべく、単語帳の表側に問題となるシチュエーション、裏側にそれに対する監査手順を過去問等から全て抜き出して暗記しました。更にWritten Communication対策として主要30トピックに関して自分のスタイルで文章を作成しておき、類似問題に備えました。結果、Written Communicationが自分の予想問題と全く同じ問題が出題された事もあり、８５点という合格科目で一番良い点数を取ることができました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

多くの先生たちがおっしゃっている事ですが、資格を取ろう！と決断した時、終わりは「合格」か「諦める時」にしか訪れません。私は合計４回も受験するといういわゆる出来の良い合格者ではありません。しかも初回はNTSという受験票を忘れる、という大失態もしています。でも自分がヨーロッパで体験した悔しい思い、一から面倒を見ていただいた講師陣、また勉強に理解を示してくれた家族の為、そして何より自分の成長の為に「決して諦めずに酔っ払いながらでも勉強を続けた」事が合格の最大の要因であると思っています。

これから取得を目指される皆様方のきっかけは色々あると思いますが、USCPAの重要性がますます高くなってゆくことは間違いがありません。ですので「決して諦めない」でください。なぜならそれが合格への一番の近道ですから。

弱点を克服しつつ、丁寧に理解をしていけば暗記をしなくても十分通用します。

山口 誉 さん

1971年生まれ
1994年　国際基督教大学教養学部社会科学科卒業（在学中、交換留学生として米国マサチューセッツ大学アマースト校へ留学）。帰国後、新卒でTV関連へ就職
1996年　グアムの日系ホテルへマネージャーとして転職
1998年　シアトルへ移住。地元のホテル勤務を経て米国連邦政府機関に再転職
2005年　在京米国大使館に出向、現在に至る

2007年8月　USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：83点（2007年5月）
BEC：83点（2007年5月）
REG：85点（2007年8月）
AUD：77点（2007年8月）

Q USCPA試験にチャレンジしてみようと思ったきっかけは？

普段は米国ワシントン州に在住ですが、数年間の任期で東京に駐在しております。仕事が定時に上がれるので、帰宅後の時間を有効的に使う方法を思索しておりました。以前より漠然とですが興味のあったU.S. CPAをTACがオファーしている事を知り、2006年1月よりROUTE99を新宿校で受講開始しました。

Q 講座を受講した感想をお聞かせください。

TACの教材は全て使いました。テキストはぼろぼろになるまで使い込み、Beckerもほぼ一通り目を通しました。FINAL16（直前対策講座）はとても役に立ち、フラッシュカードは特にBECで役立ちました。内容は非常に秀逸で、会計知識のなかった自分にとってはとても助かりました。Beckerのテキストは初心者の自分にとっては勉強しづらいものでしたが、TACのテキストで大筋を理解してからは一応一通り読みました。BeckerのPASS MASTERの問題は秀逸です。初心者にとって最高の環境で勉強できたと思います。

Q 出願州の選択と追加単位取得についてお聞かせください。

大学では政治学専攻であったため、ビジネスと会計単位はほとんどありませんでした。そこで、当初は一番楽なアラスカ州の受験を考えておりましたが、どうせなら将来的にはライセンスも欲しいと思うようになり、2006年夏にワシントン州に切り替えました。

2006年3月から12月迄にネバダ州立大学リノ校（2007年6月までの提携大学、以下UNR）で36単位取得、2007年2月にワシントン州に出願しましたが、3単位足りないと言われ、止む無く見込み受験に（見込み受験制度とは、出願時に受験資格を満たしていなくても、出願後もしくは受験後一定期間内に取得可能な単位を取得単位数に暫定的に含めてもらえるという制度で、ワシントン州など一部の州に限り認められています。）に切り替え、本試験対策をしながら一番受けたくなかったACC404（UNRの上級財務会計科目。現提携大学ブラッドリー大学のATG401に相当）を3月に受験、UNRでは合計39単位取得しました。

Q 本試験(1)　FARとBEC（2007年5月受験）についてお聞かせください。

5月はFARとBECを受験。両科目ともTACのテキスト、PASS MASTER、オプション問題の順でそれぞれ二度やりました。残り1ヶ月は1日100問FARとBECを交互に解きました。BECに関してはフラッシュカードがかなり役立ちました。試験前2週間は1日100問に加えてFINAL16にも着手しました。

本試験は時差ボケ解消を考慮し、一週間前にはワシントン州に戻り、現地到着後はFINAL16を中心に総仕上げをしました。FARのマルチプルチョイス（四択問題　以下MC）は感触として80%位できたと思います。Simulation（シミュレーション問題　以下SIM）の手ごたえは全くわかりませんでしたが、とにかく埋めました。あまり得意ではなかったボンド関連だったせいか、出来るはずの問題なのに頭が真っ白になり、パニックを起こしそうでした。幸い１時間以上時間が残っていたので深呼吸をしてキーワードを使い、リサーチをして、やっと解法を思い出し、問題に取り組みなおしました。Written Communication（以下WC）はそれなりにできたと実感しました。リサーチ問題も正答に漕ぎ着けたと思います。残り２分ほど前に会場を後にしました。

BECはかなり自信を持って受験に臨めました。個人的にはITが好きな分野であったこと、大学時代には全く縁のなかった経済学ですが、TACの教材で興味を持ちつつ勉強できたのも手伝って、すらすら解けました。残り30分を残して会場を後にしました。

FARは試験後の感触としては駄目だと思いましたが、FARと自信のあったBECが共に83点だったのは意外でした。

Q 本試験(2)　AUDとREG（2007年8月受験）についてお聞かせください。

8月の受験は残りのAUDとREG。AUDはTACとBeckerのテキストを読み込み、職場に監査が入ったときの事を思い出しながら何とかイメージを掴もうとしました。定型分の暗記はしませんでしたが、ポイントポイントの表現を掴むようにしておりました。この年になると暗記はかなり辛いので理解を深める事に努めました。

REGは法律関係が好きなので、ビジネスローは楽しんで勉強できました。TAXについては米国でフォーム1040を使った申告を毎年行っているので、苦手意識はありませんでしたが、法人関係はやはり理解に時間が掛かりました。Basisはなかなか馴染めなくて苦労しました。

勉強法はFARとBECと同様、とにかくPASS　MASTERを解きました。交互に毎日100問解くなど、前回とほぼ同じようなペースとパターンで勉強しました。

２回目の試験も会場はワシントン州のピュアラップでした。幸い近所で土地勘はあるので環境に馴染むなどのストレスはありません。前回と同様、一週間前にシアトル入りし、時差ぼけ解消に努めました。その間はやはりFINAL16を中心に最後の追い上げをしました。

AUDのMCは、２つ目のテストレットから難易度が上がったのが実感できたので始めのはできたと思いました。MCは他の科目以上に丁寧に問題を読むように心掛けました。MCは結構すらすら解けましたが、SIMは思い切りコケました。SIMを始めたのが残り２時間というあたりでした。両方共ぼろぼろ。特に一つは問題の意味すら理解できない有様。（感触としてはこの問題に関しては同じ問題に当たった受験生は恐らく誰も解けないのではないかと思わせるくらいの悪問でした。）WCもかなり意地悪で、とにかく文法的な間違いはしないよう、文字を埋めたという感じでした。リサーチもかなり時間がかかり、途中で無性にトイレに行きたくなり、一旦休憩を入れました。Beckerの模試では２時間半くらいで全試験を終えたので本試験もそれくらいで終わるだろうと思っていたのが大間違い。残り１分まで掛かりました。タイムアップはなんだか悔しいので１分前に自分から終わらせましたが、ほぼ時間いっぱい使ったのは予想外でした。

REGはとにかく時間との戦い。MCはがんがん解いていきました。こちらも２つ目からは難易度が上がったのでそれなりにできていると実感。SIMには2時間掛けました。SIMの一つはぼろぼろ、もう一つは何とか埋めたという感じ。WCはそれなりに書けたと思いました。リサーチもOKだったと記憶しています。

受験後の感想としてAUDは駄目だったかも、REGはMCの出来具合に掛かっていると思いました。結果的にREGは85点、AUDは77点。AUDはSIMがぼろぼろだったので、想定していた通りの結果でした。

Q 本試験全体を振り返っていかがですか？

全科目受験して思ったことは、MCが75～80%ほどできていてWCに文法的なミスがなければ、SIMがある程度しかできなくても合格点には到達するだろうということです。

BeckerのPASS　MASTERの問題は本試験に比べてかなり意地悪な問題なので、PASS MASTERに慣れていると本試験の問題は本当に素直で基本的なコンセプトを問う問題が多かったです。Beckerの模試で65%くらい叩き出せればほぼ間違いなく合格できると思います。

個別科目で言えば、FARはNPAをしっかり理解しておくべきです。ここのマスター無くしてFARの合格はないと思います。いずれも基本を問う問題が多いので基礎的知識はしっかりとマスターしてください。

BECはIT関連でつまずく受験生が多いようです。Beckerは一般的にITが弱いようなので、ITが苦手な受験生はWileyなど他のテキストをアマゾンなどで購入して対策するのも手かもしれません。マクロやミクロ経済などのFinancial Management関連項目はTACから配布されるDVD講義とテキストで十分対応できます。

AUDは試験時間自体はかなり長くて余裕があると思うので、MC問題も他の科目よりも設問をしっかりと読み込むのが大事だと思います。恐らく４つの選択肢のうち２つまでは比較的簡単に絞り込めますが、残り２つのうちどちらが正しいか悩むケースが多いと思います。PASS MASTERでなるべく多くの問題を繰り返し解いて、表現の微妙な違いやひっかけのパターンに慣れるといいでしょう。SIMではレシオ問題が出る可能性が高いようなので、これもFARの教科書を引っ張り出して再度確認することをお勧めします。私は理解していたつもりで試験に臨みましたが、より踏み込んだ出題をされて、歯が立ちませんでした。AUDが他科目よりも点数が低くなってしまったのはこの失敗が大きいと思います。

REGはBasisを確実にマスターしてください。フォームもBeckerなどのシミュレーション問題で必ず一回は実際に記入して慣れておくことが大切です。

Q 出願から結果発表までのスケジュールは？

（1）受験出願からNTS入手まで

FAR＆BEC

2007/2/9　出願　2/13にメールにて3単位不足と伝えられる
2/16　COE（Certificate of Enrollment）を申請
2/21　見込み受験認可
2/28　NTS発行

REG＆AUD

2007/6/23　出願
6/28　NTS発行

（2）受験から、合格発表までの時間

科目名	FAR	BEC	AUD	REG
受験日	2007/5/29	2007/5/31	2007/8/21	2007/8/23
結果発表日	2007/6/22	2007/6/15	2007/10/15	2007/9/29

Q 受験勉強を振り返っていかがですか？

平日は帰宅後毎晩3～4時間、週末はTACの講義も含めて8時間前後勉強しました。会計知識が全くないまま始めた上に、数字にも強くなかったので当初はとても不安でした。特に今のキャリアには全く必要のない資格なので、モチベーションを維持するのも大変でした。UNRも一年間で39単位取得したのでかなり辛かったです。2006年12月の試験では会場試験の合間にプロメトリック試験を受験した日もありました。又、ワシントン州に申請後3単位足りないと指摘された時は挫折しかけました。結果的に必死になってUNRで39単位取得したことが知識の定着につながり、本試験で大いに役立ったとは思いますが、二度とあんな思いはしたくはありません。

本試験申請時の単位ですが、UNRの39単位に加えて、日本の大学で取得した単位を合わせてワシントン州の要求する48単位を満たしました。日本の大学の単位評価のためにWESを利用しましたが、国際機構論の単位をなぜか会計単位として評価するなど、とにかく素人目で判断しても誤りだと分かる酷いレポートでした。すぐにWESへ抗議し、日本の単位評価担当者に再評価してもらいましたが、こちらとしては高い金を払っているのにこんな酷いレポートをちゃんとチェックもしないで送ったことに憤りを感じたので、更なる抗議をしました。それでも「人的エラーでした。ごめんなさい。」とだけメールで返事が来て、肝心の具体的になぜこのようなミスをしたのかに関しては口をつぐんでいました。その後メールを送っても一切無視をされたのでこちらも頭に来てクレジットカード会社経由で支払いを凍結しました。その後カード会社を通じて向こうからの支払い催促が来て、再度チャージされましたが、こちらも徹底抗戦で最終的には全額返金させました。常識的に考えてあそこまで酷いミスをするのも稀有なケースだとは思いますが、レポートは受け取り後、熟読することをお勧めします。

ワシントン州は申請のプロセスが非常にスムーズ。ネットで全てやり取りが可能です。担当者も非常に返事が迅速で的確でした。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

ご存知かもしれませんが、

http://www.cpanet.com/cpa_forum/default.asp

という英語のCPA受験者のフォーラムサイトは非常に使えるサイトです。試験に関する情報はここで収集していました。情報交換をしたり、励ましあったりとモチベーションを維持するのにも役立ちました。

最後に、U.S.CPA試験は勉強のアプローチさえ間違えなければ確実に合格できると思います。Route99（本科生）はよく考えられたコースだと思います。私は幸い全て一発で合格できました。弱点を克服しつつ、丁寧に理解をしていけば暗記をしなくても十分通用します。

私の場合、TACでRoute99を受講開始から実際の受験まで19ヶ月間掛かりました。何よりの合格の秘訣は短期集中で諦めないことが肝心だと思います。

Q 今後の抱負は？

私自身は数年後に東京での赴任が終わり、アメリカに帰国する際には監査関連の政府機関に転職することもオプションの一つとして考えております。今のキャリアも十分楽しんでいるので、もしかしたらCPAとは縁のない仕事でずっと行くことも考えられますが、会計知識はどこの分野でも無駄にはならないのでがんばって合格できたことは有益であったと思います。転職に際して今後のオプションが広がったのも大きな成果であったと思います。

独立を機にチャレンジ

匿名希望 さん（男性）

慶應義塾大学経済学部 1997年卒業
2007年8月　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

2年前から独立して経理・財務関連のコンサルティングを行っておりますが、クライアントに対して社会的信用力を少しでも高めることができると考え、2年前の独立を機にこの試験にチャレンジしました。

Q TACの講座でよかったところは？

提携されているBecker Course CDが本試験の内容と非常に類似したものとなっており、本試験対策には本当に有効でした。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？

DVD通学で学習しました。

Q 合格までの学習法は？

各科目共にDVDでテキストを通読したら、あとはBeckerのPass Masterを2回ほど繰り返し解きました。その後、Simulated EXAMを10回（×100問＝1000問）とシミュレーション対策を2回終えた後、最後にFinal Examを1回解いて無事合格することができました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

外国の試験ということで、受験資格の要件を充たすことや手続き面など非常に複雑で大変ではありますが、最後まで諦めずに続ければ必ず合格する試験だと思います。途中でつまずきそうになったら、合格後の自分をイメージして諦めないで頑張ってください。

マラソンのつもりで、4年かけて合格

M.N さん

東京女子大学文理学部数理学科 1988年卒業

2007年8月　USCPA試験合格（デラウエア州）
FAR（2006年2月）、BEC（2007年5月）
REG（2007年5月）、AUD（2007年8月）

Q USCPA試験にチャレンジしてみようと思われたきっかけは？

金融機関に勤務しておりアメリカで生活していた頃、周りにU.S. CPA試験にチャレンジしている人がいました。私自身も資格を取るなら、難しい資格でないと評価にもつながらないと思っていたこともあり、帰国後友人の勧めもありU.S.CPAにチャレンジすることにしました。

Q 受講形態は？

通信ビデオ講座でした。すごい量のビデオが送られてきましたね。

Q 学習スタイルは？

平日は朝8：00～夜10：00くらいまで働いていましたのでほとんど週末しか学習できませんでした。試験の直前には平日も勉強しようと朝6：30くらいに会社に行ってみたこともあるのですが、会社に来てしまうとつい仕事をしてしまって結局駄目でした。実際週末だけの勉強をしていますと、間に一週間あけると先週までやってきたことを思い出すのに時間がかかることも実感しました。

Q 合格までに要した期間は？

結局合計4年かかりました。

私の場合は理系でまったく会計単位をもっていなかったため、まずTAC講義の受講を開始して、デラウエア州の受験資格を満たすための7科目21単位を取るまでに2年間、そして本試験向けの学習を開始して4科目受かるまでに2年かかりました。

FARは2006年2月、REGは苦手で何回か落ちてしまったのですが、2007年5月に受かり、同時にBECも2007年5月に受かりました。そして最後AUDは2007年8月に合格しました。

特に去年（2006年）は忙しく、しかもREGの試験に続けて失敗していたこともあり、勉強が先に進まない時期でした。

Q 学習法は？

後からわかったのですが、単位を取るまでの学習と試験を受けるまでの学習は別だと思ったほうがよいと思います。

単位を取るまでの学習はあくまでも基礎学力取得の部分でしかありませんでした。はじめは単位を取るための勉強をすれば本試験でも７～8割の点が取れる力がついているのかなと思っていたのですが、自分の評価では単位を取り終えた時点で本試験では50%強くらいの得点しか取れないと思いました。本試験に合格するための勉強に必要なものは、Beckerだったと思います。TACのテキストを使った講義は基礎力を養うためのもので、TACのテキスト・問題集だけでまず単位を取るまでが学習の第一段階だったと思います。その後、本試験に受かるための学習をBecker他で始めました（他の教材は無駄だった）。Beckerはすばらしい教材だと思いますが、ただBECについては非常に試験範囲が広く「経済」と「IT」の分野についてはBeckerだけでは弱いと思いますので、著名な経済書なども読んだ方がいいかもしれません。

Q ところで学習開始時点での会計知識と英語力は？

TOEICでは800点でした。業務の性質上経済の知識はありましたが、会計については理系出身のため単位はありませんでした。細かい会計知識はほぼゼロに近かったです。

Q TOEIC800点をお持ちだったということは英語については相当上級レベルだと思いますが、U.S.CPAの学習を始められて触れるようになった英語はどのようにお感じになられましたか？

それまで身に付けてきた英語とは違いました。知らない単語が多かったというのが印象です。特にREGの分野の単語ですね。ただ専門用語は数えても50語もいかないと思いましたので覚えるのに苦労したということはなかったです。TOEICで800点と申し上げましたが、どちらかといえばリスニングでスコアを稼いだほうなので文法力や英単語力はそうでもなかったです。TOEICで600-700点くらいある方なら英語に関してはさほど苦しまないのではと思います。

Q 学習期間が4年で、しかも通信受講ということで、モチベーションの維持に苦労されたのではと思いますが･･･

この勉強にかけられるお金はここまでという上限を設定した

この試験は何かとお金もかかる試験ですよね。１回グアムに受験に行くにしても、試験代のみならず飛行機代・ホテル代・滞在費などもかかり、20万と計算して予算から逆算して何回まで受験が可能か明確化しました。こうしたお金の制約を自分に課すことがネガティブな方法ではありますが、モチベーションの維持に効果的だったと思います。

また、受かれば自分でキャリアメイクしていきやすいという思いがありました。資格であれば第三者が見ても明快にわかるといったことを加味しながら･･･試験に受かりたい、という気持ちも持ち続けました。

はじめから長期戦を覚悟して臨んだ

TACの「5年間継続再受講制度」は必須の制度だと思います。あの制度がなかったら私は途中でやめていたと思います。この「5年間継続再受講制度」を活用することで、TACとの繋がりを保つことができましたし、困った時はTACのスタッフの皆さんに何かと相談にのってもらえました。通信で受講していますと受験仲間がいないので、TACが仲介役として情報の共有のデータベースになってくれ、たまっているノウハウをTACからもらうことができました。まさに「5年間継続再受講制度」様様です。

合格まで４年かかりましたと申し上げましたが、当初計画では3年でした。それでも長いかもしれませんが、理系で当初会計の知識がなく、しかも多忙な業務という二重苦を抱えているため、3年以上かかるのは普通だろうなとはじめから長期戦を覚悟していました。短期決戦だと思って臨まないほうがいいと私は思います。４科目一発合格とか2科目ずつ2回にわけて順調に合格などイメージされる方も多いと思いますが、会計の仕事ではない社会人がそれだけの準備時間を十分確保することはけっこう難しいのではと思います。この試験、マラソンだと思わないと続かないかもしれませんね。TACのパンフレット等で4科目の対策講義を受け終わるとすぐに本試験受験というパターンも紹介されていましたが、私の場合は４科目分の受講を終えた直後は、身に付いたのは基礎力だけというのが実感でした。

Q TACの講義の印象は？

学力をつけずに試験だけうかるような勉強法と、時間は多少かかっても合格後、あとで困らない勉強法とがあると思いますが、私はTACの講義は後者、つまり王道の講義内容ではないかと思います。

Q 印象に残っている先生は

TAXの内田先生ですね。英語の発音に聞きほれていました。

Q 学習内容とお仕事内容との関係は？

金融機関に勤めているため監査は受ける側なのですが、監査をする側の視点、やり方、意識が理解できるようになりましたので、監査を受ける側としても対応が取りやすくなり、監査という仕事を興味を持って見ることができるようになりました。会計の知識は全般的にどの業務でも必要な知識だと感じています。合格したことで、学んだ知識を活かしたプレゼンができるようになり、以前より説得力がより上がったと思います。

Q 応援メッセージをお願いします

今から振り返って考えてみると学習方法さえ間違えなければ確実に受かる試験だと思います。TACのテキストと講義でしっかりと基礎を作って、その後は、ひたすらBeckerのテキストをバイブルにするとよいと思います。BeckerのCD-ROMの演習もすばらしいのですが、私はBeckerのテキストがバイブルだと思っています。アウトプットとインプットは同じ比率で学習しないと効率が悪いとよく言われますがCD-ROMを使った演習を繰り返すというアウトプットのあとで「インプット」に戻るべき時があって、それがBeckerテキストだと思います。あのBeckerテキストには無駄がないので、隅から隅まで真っ黒になれば合格できると思いました。

私の場合、５年間継続再受講制度を利用して最新版のBeckerを購入して学習を続けました。

振り返ってみると、ダンボールにビデオがたくさん入ったものが一度に送られてきていて「うっとなる」こともありました。この講義ビデオをこなす必要があった前半が一番大変で、乗り越えることが大きな山でした。その後Beckerをこなしていく段階になるわけですが、Beckerのテキストは各科目ともさほど厚くはないし、各科目1冊ずつでいいし、気分的には楽になると思います。

また私は本試験向け学習を開始する前の段階で、質問コーナーに出向くなどして複数の先生に学習法についてアドバイスをもらいました。それぞれの先生方のベースやバックグランドが違うので先生によってお勧めされる学習方法が違いましたが、いろんなパターンの学習法を聞いて、自分に合う方法を探すことができましたので、この方法もお勧めです。

ご健闘をお祈りします。

直前対策講座とBeckerで全科目初回受験で合格！

匿名希望 さん（男性）

勤務先：日系上場メーカーで管理会計担当
2005年6月　日商簿記1級
2005年12月 ビジネス実務法務検定2級
TOEIC 800点取得経験あり

2007年7月　USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：93点（2006年11月）、BEC：88点（2006年11月）
REG：83点（2007年7月）、AUD：85点（2007年5月）
全科目初回受験で合格

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

私が社会人になった頃注目され始めた資格であり、当時から取得への憧れがありました。今後の日本は会計制度に限らず、法律及び監査制度においても米国基準の影響を大きく受けることになり、米国の商制度そのものを知っておくことが日本で働く上でも有用であると思ったからです。

Q TACの講座でよかったところは？

通信での “Final 16+Becker CD” と “Written communication 講座” を受講しました。

“Final 16”（※）は直前の総まとめに大変有効でした。“Written communication 講座” を受講したおかげで、試験で書くべきレターの内容を把握することができました。

講義が分かりやすかったのは内田先生（政府会計、NPO会計）です。

※現在はSimulation対策総まとめ講義（Simulation対策総まとめ講義のテキストはFinal 16のテキスト構成とほぼ同一です。）

Q 合格までの学習法は？

（1）4科目の相関について

BEC、FAR（2006年11月受験）→AUD（2007年5月受験）→REG（2007年7月受験）というスケジュールでしたが、この順序が一番効率良いと思います。

FARは全科目に関連します。FARの知識があるとREG、AUDの学習がスムーズになります。

同様の関係がBECとREGです。BECで扱う “Business entity” はREGのTaxation（特に “Partnership” や “S corporation”）と関連します。BECで制度上の実体を先に抑えたほうがREGでの税務上の扱いをスムーズに理解できます。また、同トピックで “negligence” や “good faith” 等の概念をしっかり抑えておけば、REGのBusiness lawもスムーズに対応できるかと思います。

AUDでの“Independence” や“Unqualified opinion”の考え方、及び “Attestation” の具体的内容はREGで20%の配点を占める “Professional and legal responsibility” に関連します。AUDをREGの前にこなせばこのトピックのアドバンテージになりますし、最難関と言われるAUDを先に合格しておいた方が精神的にも楽だと思います（私はそうでした）。

REGで60%占めるTaxは計算問題の割合も高く、FARの学習段階で計算センスを身に付けておけば、方法こそ違えどもREGの計算問題もスムーズに対応できると思います。

（2）全般（計算問題と理論問題への基本アプローチ）

「計算問題は手を動かす」

→計算問題は読むだけでは身につきません。間違えた問題は解説を見ながらでもいいので実際に正しい方法に基づいて手を動かして解き直してください。これを繰り返すのが王道です。

「理論問題は声を出す」

→理論問題は音読するに尽きます。これは問題を解くときも講義の復習時にテキストを読み返す際も同様です。音読することで集中できることは勿論、類似論点との相違等を効果的かつ効率的に認識することが可能となります。問題集を解く際に問題と解説を繰り返し音読することで速読力を高めることができます。

（3）問題演習を行うにあたって

“Becker CD” は本試験対策には最適の問題集です。PC画面上での問題演習を繰り返すことで、本試験へのスムーズな対応への準備をして下さい。

問題は一問一答形式で解き、間違えた問題は必ずテキストを参照して該当事項を再確認し（必要ならばテキストに解説を書き込む、ポストイットに英語でまとめ直してテキストに貼る等）、解説を何度も音読してください。解説を覚えることで後述する “Written Communication”（以下WCと略）対策にも役立ちます。Beckerの理論問題の解説は「一般ルール」と「当該問題での適用理由」という構成で記載されております。この「一般ルール」部分が上記WC対策において重要です。徹底的に音読して下さい。また、CDに含まれている “Simulated test（PCがランダムに選んだ100問を制限時間以内に解く）” は直前期～試験当日の問題演習には最適です。後述しますが、私は試験当日もこのテストを受けた上で本試験に臨みました。“Simulated test” はBecker CDでの一番お勧めの機能、内容です。（余談ですが、“Final Exam” は本試験よりかなり難しいので、出来が悪くても気にしないで下さい。）

（4）科目別

1) FAR：

「アカウンティングは慣れ」が重要です。計算問題は毎日解いてください。こればBECの原価計算も同じです。理論問題も含めほとんどの問題は仕訳で説明ができます。難解な理論問題も数値を当てはめ、仕訳で具体的に考えれば解けます。

2) BEC：

PBT時代からの出題事項である原価計算、Business entityは比較的点数が確保しやすい分野かと思います。また、新規分野である経済学も簡単な問題（日本の大学入試の政治経済レベル）しか出ません。これら3分野は満点が狙えますので、他の2分野が平均レベル程度できれば合格は十分可能かと思います。

3) AUD：

身につくまで、それなりの時間（2～3ヶ月）を要することを覚悟してください。初めは丸暗記してもいいので、何回もテキストを音読し問題集を繰り返して解き（問題と解説を音読）、講義DVDを観て下さい。何回も繰り返す中で、「監査ってこういうものか」、というイメージが浮かぶと思います。その段階に来た時点で「重点解説　監査（清文社）」を読むと各分野のつながりが見えてくるかと思います。その後で、再び問題集を解き、講義DVDを観て下さい。初めに勉強したときとは違ったかたちで知識が定着するかと思います。問題集を解く際も考えた上での回答ができるようになるはずです。他の科目でも合格には求められますが、とりわけ監査は「暗記→理解→暗記」というステップが重要です。初期時点から過去問を通じて暗記を始めるのをお勧めします。

4) REG：

Taxの計算問題は「何が問われているか？」に注意して下さい。問題演習時には問題文の最終文章を先に読むのがいいかと思います。特に“C Corporation” と “S Corporation” と “Partnership” の類似論点（設立、配当、清算、及びこれらに関連するBasisの計算等）には注意です。

Business law は事例問題なら「何の法理論の具体例か？」を意識して問題を読むようにして下さい。法理論問題は知っているか知らないかの話しなので、問題集に掲載されている問題は全て覚えてください。日本の法律（民法、商法、会社法等）の基礎的な知識がある方は法律の考え方が理解できている分有利です。日米で取り決めが異なっている事象も結構ありますが、違うからこそ覚えやすかったりもします。法律の勉強が初めてという方は、「善意、悪意、過失」の考え方をまず把握してください。この三要素はREGのBusiness lawでもBECのBusiness entityでも重要です。

REGは最終科目（受験時点で他の三科目は合格済み）でしたが、事態に備えるべく合格通知が届くまで勉強を続けて（1日1回は前述の “Simulated test” を受ける）おりました。特に、問題の速読力は全科目合格するまでキープしておくべきです。

5) Simulation：

「あまり勉強しすぎないこと」を勧めます。試験の1ヶ月前から対策開始でも間に合います。私自身の印象ですが、2007年以降のSimulation（以下SIMと略）はそれ以前と比べて問題が難化していると思います。2006年に受けたFARはあまり難しい印象はありませんでしたが、2007年に受けたAUD、REGは明らかに難化（要求される知識がよりマイナーな事項へ）しておりました。このことからも、SIMに力を注ぐよりもMultiに更に注力したほうがスコアに対するコストパフォーマンスは上がると言えますし、Multiの演習によって得た知識はSIMを解く上でも活きるかと思います。最低限、Beckerに出ている選択問題が完璧であれば合格レベルは確保できると思います。（後述しますが、Multi 70点 ＋ SIM and WC 5点 ＝ 75点が最短距離での合格です。）

6) WC (Written communication)：
　WC対策講座を受講された方は御承知の通り、出題への対応は「知識の羅列（2003年までのPBT時代）」から「レター形式による会計、監査、税務上の諸問題に対する回答」に変わっております。会計知識とともに基本的な英語力も試されており、冗長に知りうる限りの知識を並べればいいというわけではありません。つまり、要求されるスキルは「細かいことを知っているか？」から「基本的な知識を的確に文章で表現できるか？」へシフトしております。とはいえ、「テンプレート（＊）」を作成しそれを当てはめて書けば、最低でも10点中3点から4点は確保できるのではと思います。
※テンプレート（ひな型）について
　MBA留学等で受験が必要なTOEFL対策やGMAT対策でもよく使用される手法ですが、CPA試験でのWritingはこれらの試験ほどの完成度は要求されません（配点も全体の10%です）。私が全科目で使用したテンプレートは以下の通りです。テンプレート作成に当りましては、WC対策講座が非常に役立ちました。

・全体構成：３～４パラグラフ
　・各パラグラフの内容：
　　１パラ：Thank you for your inquiry regarding the subject.
　　As I explain below, ～（以下参照）
　　２パラ：以下参照
　　３パラ：以下参照
　　４パラ：I trust the above information will answer your question.
　　For further inquiry, please feel free to contact me.
　・各パラグラフの説明
　　１パラ→最初の一文は全科目共通
　　「～」にはSubject（クライアントからの質問事項）に関する「一般論」を記載
　　２パラ→１パラに記載した一般論を、クライアントの状況（個別事象）に当てはめ、具体的に記載
　　３パラ→１～２パラを踏まえ、解決策の提示等が必要ならば記載（記載不要ならば３パラは不要）
　　４パラ→最後の一文も全科目共通
　　（私見ですが、多分これでWCの全体スコアの半分は確保できると思います。）

　１パラの「一般論」を記載するのに、BeckerのMultiの解説（前述の「一般ルール」部分）が非常に役立ちました。WCは的中を狙い、FARとAUDの受験に当り予想問題を自分で作り暗記して試験に臨みましたが、実際の試験では予想が外れ、結局書いたことは頭の片隅で記憶していたBeckerの解説の一部でした。（REGは勉強期間が短かったので初めから対策は一切立てませんでしたが、FARやAUDと同様にBeckerの解説を下に対応しました。）SIMとWCに共通して言えることですが、これらはMultiと異なり出題が読めません。しかもこの２分野で高得点を狙うには収穫逓減に陥ります。だからこそ、出題が想定できトータルスコアに対するコストパフォーマンスが高いMultiをメインに勉強するべきです。Multiの70%満点は可能だと思います（パイロット問題もあるので各レット全問正解しなくても採点が満点というのはあり得ます）。合格への近道はこれにあるかと思います。Multiが完璧に解ける知識があれば、SIMとWCで合計5点は確保できるかと思います。なお、Researchは配点が低くスコアにつながるコストパフォーマンスが最も低いので力を入れないことです。私は全く対策をしませんでした。実際の試験もこれだけは適当でした。
7) Minor topic：
　各科目で配点の低い分野（10%以下）があります。スコア確保に当り、これらは「一定量勉強すれば得点源になる」分野と「得点源にするには時間を要する」分野の２つに分かれると思います。前者はメジャートピックと同じように勉強するべきですが、後者の分野は失点を最小限に抑えるべく、テキストに出ている最低限の内容だけを覚える程度に留めるべきです。マイナートピックを全く勉強しないのは危険です。
8) 英語力について：
　個人差はあるかと思います。私は最低限の英語力はありましたので特に英語対策はしませんでしたが問題演習時の気付きとして、「受動態、前置詞、関係代名詞、名詞の同格用法、否定語（“unless” や “prevent”, etc.）」等の表現を誤解なく解釈できるか？ が問題を速く解くカギになったりもしますので、英文法に自身のない方は最低限これらをざっと復習（大学受験の英文法レベル）するのも一法かと思います。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

（1）グアム ―受験地― について
　３回の試験は全てグアムで受験しました。１回目はパレスホテル（現　シェラトン）、２回目以降はホテルサンタフェを利用しました。グアムの繁華街から遠いですが試験場まで近いホテル（ホテルのサービスを優先する人はシェラトンやオンワードビーチリゾート、サービスを多少我慢しても宿泊費を抑えたいなら私が利用したサンタフェ）をお勧めします。また、万全を期すためにも前日の内にフロントにタクシーの予約手配をお願いしたほうが宜しいかと思います。（ちなみに、試験会場まで往復で30ドル前後でした。）また、グアムは日本のように空港にタクシーが常駐しているわけではありません。旅行代理店を通じて個人で予約される方は、往路はホテルまでの送迎を付けることをお勧めします。（余談ですが、初回受験時にグアムの空港に着いた際、タクシーが一台も止まってない状態で、やむを得ず旅行代理店のグアム現地スタッフに英語で交渉してパレスホテルまで送迎してもらいました。２回目以降は日本で事前に旅行代理店で送迎予約を手配してグアムに行きましたが、そのときもタクシーは止まってなかったです。）
（2）CBT試験対策について
　現行制度になったことで、メジャーな論点は全範囲満遍なく出題されるようになったと思います。逆に言えば、ヤマを張ってもあまり意味がないということです。また、勉強を進めている方ならお分かりの通り、実際の試験はBECを除きMulti 70%、SIM 20%、WC 10%という配点であり、Multiは全3レットの中で各レットの出来に応じて次のレットの難易度が変化（“Medium” と “Difficult”）します。合格される方は必ず “Difficult” のレットに至ると思いますが、“Difficult” とはいえいくつかの基本知識を組み合わせれば答えられる問題が多く、マイナートピック知識の有無が解答の可否になるような問題は比較的少なかった（但し、REGはFARやAUDと比べこれらの知識が必要な問題がやや多い）、というのが私の印象です。Mediumレットはどの科目も過去問の焼き直し（数字が変わっただけ等）が大半です。パイロット問題はそれと即断できました。Difficultレットのパイロットも大半はそれと判断できます。FAR、AUD、REGのMultiは是非70%満点を確保してください。くどいようですが勝負はMultiで決まります。
　また、FARとAUDは長丁場となります。最大限の集中力で4時間以上解くのは不可能です。集中力の最大値を10とすると、このレベルがずっと持つのはBEC（試験時間2時間半）位です。FARとAUDは適度にリラックスした状態で受験してください。8ぐらいの集中度なら4時間の試験でも対応できます。試験の1～2週間前ぐらいから実際の試験時間を意識した問題演習（2時間ぶっ通しでMultiを解く、5分休憩後、また2時間ぶっ通しでMultiを解く等）を行えば、本番も慌てることはないはずです。
　なお、試験当日も問題演習を行ったうえで本試験に臨まれた方が、試験へのとっかかりがスムーズになるかと思います。（私は、全科目とも試験当日の午前中は前述の “Simulated test” を受けた上で午後の試験に臨みました。このやり方は非常に良かったと思っています。）
（3）最後に
　日本の会計系難関資格合格には多少の運（ヤマが当る等）も必要かと思います。私が数年前に取得した日商簿記1級も社会人がトライするにはやや難関の部類に入りますが、この時も多少運がよかったおかげで一発合格できました。税理士や公認会計士試験でも同様なことが言えると思います。しかし、U.S.CPA試験は前述の出題構成からも分かって頂ける通り、運で合否は決まらないと思います。努力のみで社会人でも1年半で全科目一発合格できる試験です。また、最大年4回まで受験でき、受験日も主催者側から固定されておりませんので、自己管理のできる方には条件が非常に恵まれた試験と言えます。
　仕事をしながらの方は科目ごとの分割受験計画を取られると思います。御承知の通り、科目ごとの有効期限（期限のスタートは当該合格科目の「受験日」であり、合格が認められた日ではありません）があります。科目合格者は浮かれる立場ではなく追われる立場なのだと認識してください。全科目合格するまで気を抜かないことです。
　U.S.CPAを志す動機は人それぞれだと思います。とはいえ、志す方の根底にはみな「成功したい」という気持ちがあるのだと思います。動機が何であれ、毎日無意識のうちに机に向かい勉強に着手できているか？　動機がホンモノかどうか、つまり本気で成功したいかどうかはこれで試すことが出来ると思います。働きながらの人なら、平日は最低一日２時間、休日は最低８時間の勉強時間（１週間で最低25時間以上）を確保すべきです。
　一人でも多くの方がU.S.CPAに合格し、成功するきっかけをつかんで頂けることを願います。

教材はTACのテキストとBeckerだけで十分。

分部　真弓 さん

勤務先：大手監査法人金融部門にて秘書業務を担当
慶應義塾大学経済学部卒業　29歳。卒業後、現在の勤務先に就職、今に至る

2007年7月　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
（2007年1月にFARとAUD、7月にREGとBECに合格）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由、きっかけは？

専門的な知識を身に付けられ、かつ、英語を生かせる仕事に就きたいと思っていました。また、自分の職場が監査法人であることから、身近な資格であったU.S.CPAを目指すことにしました。

Q 合格までの私の学習法について教えていただけますか？

全科目に共通して言えることですが、私の場合テキストの内容をしっかり理解した上で、知識をインプット→Beckerで問題演習→重要ポイントの暗記・定着→Becker→重要ポイント暗記、の繰り返しでした。また、必要に応じてまとめのノートを作りました。TAXに関しては、内田先生の「直前対策まとめ」が非常に役に立ちました。

あと、できるだけ多くの過去問を解くことを心がけました。どの科目も出題数が多いので、問題を多く解くことで、あらゆる問われ方に対応できる力がついたと思います。Beckerを通じて、Computerの画面（機能）にも事前に十分慣れておくようにしました。

本試験では、細かい知識も問われる傾向にあるので、少なくともTACで教わる内容は、重要論点を中心に全範囲を理解・定着させることが重要だと思います。教材はTACのテキストとBeckerだけで十分であり、他に手を広げる必要はないと思います。

Q TACの講座でよかったところは？

無駄を省いた、合格するために必要な知識を分かりやすく教えてくれる質の高い講義だったと思います。また、グアム受験者向けに定期的に開催される説明会や本試験に関する最新情報の発信等、事務面でのフォローも充実していて、とても助かりました。

Q TACでは通学・通信どちらで学習されましたか？

主に通信でしたが、DVD通学の時期もありました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

一番大切なことは、「絶対に合格する」という強い気持ちと、協力してくれる周囲への感謝の気持ちを持ち続けることだと思います。短期集中的に勉強し、細切れ時間も決して無駄にせず有効活用することが、合格への近道になります。また、受験の時期は、そこそこ勉強が終わっていれば覚悟を決めて、試験の予約を入れてしまうことをおすすめします。試験日が決まることで目標が明確になり、集中力が高まるからです。教材については、Beckerは絶対にやってください。私の場合、本試験（FARのSimulationとREGのWritten Communication）でBeckerにあった問題とほぼ同じ問題が出題されました。また個人的な感想ですが、Beckerの問題のほうが本試験よりも若干レベルが高いと思いましたので、Beckerを解いていたことにより、自信を持って本試験に臨めたと思います。

受験を終えて今、実感することは、この試験は勉強方法を誤らずに一生懸命勉強すれば、合格できる試験である、ということです。よく言われていることですが、本当にその通りだと思います。仕事をお持ちの方は、仕事と勉強との両立は大変だと思いますが、諦めずに最後まで自分を信じてがんばってください。壁にぶつかったら、周囲の人に相談してみる等、早めに解決することが大切です。

粘りと体力で勝負

河合 雅哉 さん

1963年10月生まれ
大阪大学経済学部 卒業
大手商社勤務（現在は企業再生事業で出向中）　　2007年2月　USCPA試験合格

Q 合格までの道のりについてお聞かせいただけますか？

2006年11月にFARとREG、2007年2月にAUDとBECに合格しました。順調に合格したように思われるかもしれませんが、学習を開始したのは2002年の12月からです。大阪で受講していまして、1年くらいで受かりたいなあ、と思っていました。2004年から現行の試験制度に変わることを知らなくてスタートしました。2003年11月に旧試験最後の試験を受けましたが記念受験になってしまいました（笑）。2004年になって現行の試験制度がスタートしましたが、情報が少なかったこともあり、少し様子をみようと思い受験は見合わせていたんです。仕事のほうでも、担当業務が変わったりして２年くらい受けるチャンスがありませんでしたが、週末や早朝あるいは仕事後時間がある時は勉強するようにしていました。しかし間を空けてしまうと忘れてしまうんですよね。そんな感じの繰り返しが続いていました。2005年に現行の試験制度のもとで受験しました。FARとREGを受けたのですがあと少しのところで落ちてしまいました。しかし、ある程度点数が取れたことで、これをきっかけに勉強に勢いがついたように思います。

この時すでに学習を開始して、3年ほど経っていたわけですが、TACの講座には「5年間継続再受講制度」があり、受講期間終了後も5年にわたり必要な科目だけを選んで安価な受講料で再受講できるので、この制度が使えるうちに、ということでスパートをかけました。

Q 旧試験と現行の試験制度になってからとで勉強のスタイルは変わりましたか？

変えないとだめでしたね。マルチ（択一式問題）の問題はこれまでどおりの勉強方法で、なんとかなりましたが、シミュレーション問題は予め出題のパターンを理解しておかないと時間が足らなくなると思います。一方、旧試験の場合はエッセイなどかなり文章力を要求される部分がありましたが、現行の試験になってそのあたりの負担は少し軽くなったように思いますので、日本人の方は今の試験のほうが旧試験よりも取り組みやすくなったのではないでしょうか。とはいえ、Written Communicationに一抹の不安を抱えておられる受験生が多いというのも事実です。その点、TACではWritten Communication対策講義の中で書き方のポイントをしっかり教えてもらえたのでよかったと思います。あとは、現行の試験では一度先のtabletに進んでしまうと後で見直すことができませんので（旧試験ではわからない問題は飛ばして後で見直すことができた）、どの程度できたら次に進むかという点も注意が必要でしたね。

Q TACで良かったところは？

お世辞ではなく、本当にTACの講師、教材ともに良かったと思います。

私はビデオ生で直接授業には出られなかったのですが、例えば先生方については、FARの小森谷先生、清松先生が印象深いです。小森谷先生の講義のスピードが自分には合っていました。あとはREGの杉浦先生と内田先生、お二人とも丁寧に教えてくださいました。監査の帆足先生、当時、会社でJ-SOX法絡みの仕事を担当していましたので、仕事にも活かせるなあと実感しながら受講していました。どの先生も出るところ、補足的なところを指摘しながら、本試験レベルよりも深いところまで掘り下げて進めてくださったことが励みになりました。

教材については、特にBeckerのCD-ROMが良かったですね。PC上で問題を解いていくと得点結果が出るようになっていて、2回目、3回目と繰り返していくうちに得点があがっていくので、繰り返すたびに自信が深まったように思います。実際に本試験でもマルチはこのBeckerで解いたのと似た問題がかなり出ていましたし、シミュレーションも、フォーマットが似たものが出題されていました。

Q U.S.CPAの勉強をされたことは仕事に役立っていますか？

U.S.CPAの学習内容は仕事に直結している

私は半分営業、半分企画といった仕事をしています。具体的には、企業価値の評価、プロジェクトの事業計画などですが、そういったところはFAR（Accounting）やFinanceがまさに直結しています。またその企業の業務の効率性や遵法性、或いは継続性、将来性などについて評価をするといったこともしていますが、その為には、管理会計、監査、経済学、IT、或いは民法、商法、金融商品取引法などのlegal知識が必要です。U.S.CPAの勉強をしているとこうした日本の法律も米国の法律の影響を強く受けていることがよくわかりますし、逆に日米間の差もわかります。こんな風に私の場合、仕事にも活かしながら学習できたことが非常によかったと思います。現在の仕事は企業を再生することなんですが、この仕事もU.S.CPAで学んだことすべてが役立っていると言えますね。

U.S.CPA試験合格者はこれからますます求められるようになる

U.S.CPA試験に合格していることは会計、監査に関する最低限必要な知識を習得していることを証明することになります。日本では受かると先生、と言われたりする試験があったりするのとは違いますね。この分野のプロフェッショナルとしてスタートラインに立ったと考えるのがよいのではないでしょうか。U.S.CPA試験に受かっているということはUS GAAP(米国会計基準)についての一定の知識をもっている人であると評価されます。現在ビジネスの世界が国際会計基準を標準とする方向に動いている、そしてこの国際会計基準に最も影響力があるのが米国の会計基準だということでU.S.CPA有資格者は注目されているので、お勧めの資格だと思います。監査分野のみならず、商社、金融・証券、ファンドといった一般企業でもU.S.CPA合格者の需要は伸びていくと思います。

Q 受験を振り返っての感想は？

受験勉強をしている時、サポートしてくれた家族、応援してくれた両親に感謝しています。最後までやり遂げられたのは、気持ちよく勉強させてくれた家族のおかげだと思っています。うちには三人の小さな子供がいますが、これまで遊んでやれなかった分、今は毎週末思いっきり遊んでいますよ（笑）。

また職場の上司にも感謝しています。私が仕事を効率よく片付けて、時間を作り、U.S.CPAの受験勉強をしていることに理解を示してくれました。

Q ところで河合さんがU.S.CPAにチャレンジしたきっかけは？

実は、USCPA試験にチャレンジする前に中小企業診断士の試験に合格しました。中小企業診断士の受験勉強を通じてビジネス全般に関して広く学べた点は良かったのですが、同時に深さも欲しいなと思っていました。当時、予算の立案や決算分析、事業会社管理などの仕事を担当していましたので、深く勉強してみるなら会計だな、と思い立ちU.S.CPAへのチャレンジを決意したわけです。

Q 英語力についてはどれくらい必要だと思いますか？

英語力についてはバリバリでなくてもよいですがある程度持っておくほうがよいですね。

Q これから学習をはじめてみようかなとお考えの方へのメッセージをお願いします。

やはりその国の会計に関する資格の中では最高峰の資格である公認会計士の試験ですから米国公認会計士試験も一定レベル以上の知識が求められる試験であると覚悟を決めてからチャレンジされることをお勧めしたいですね。日本の公認会計士でもある清松先生も講義の中で「U.S.CPA試験は決して簡単ではない。」とおっしゃっていましたし、私も今、そのことを実感しています。学習をはじめてから4年余りかかりましたからね（笑）。

もちろんはじめから長期計画ではなく、1年くらいで受かるくらいの気持ちで学習されることをお勧めします。私もはじめは30代の内に取ろうと思っていました（笑）。

サラリーマンでこの試験の合格を目指している方は多いと思います。自分だけの都合で時間をコントロールできないのがサラリーマンの宿命です。忙しいとは思いますが、途中で苦しくなっても受験するところまで頑張って欲しいですね。実際に受験してみれば、もうちょっと頑張ればなんとかなると思えるものです。もし忙しくてどうしても時間が取れなくなっても、その時は焦らずにできるだけ学習した知識をキープしておき、時間に余裕ができた時に集中して仕上げることで対応できるのではないでしょうか。

またこの試験、体力勝負という面もあると思います。AUDの試験時間は4時間半もありますよね。こんなに長い時間、画面に向かって、しかも英語ばかりの問題で･･･私は2教科受けた時でも2日にわけて1日1教科ずつ受けました。あとは絶対あきらめない、という気合も必要だと思います。

U.S.CPA試験合格に向けての勉強を通じて身に付けた知識を、実際の仕事で活かせるチャンスは多いと思います。仕事を進める上での最大のメリットは、物事を言葉だけでなく、数字に落とし込んで考えられることでしょう。仕事をされながらの方でも、続けてコツコツ勉強していれば受かる試験だと思います。富士山の山頂に立てるのは、頂上を目指した人だけです。皆さんのご健闘をお祈りします。

50歳のチャレンジ

稲垣　耕一 さん

勤務先：東京スター銀行コーポレートファイナンスグループ
ヴァイスプレジデント
大学卒業後、住友銀行入行。国際業務、投資銀行業務に携わり、12年間の海外駐在経験も持ち、海外M&Aの案件なども手がける。2005年より東京スター銀行にて国内法人取引を統括している。

2007年3月　USCPA試験合格

稲垣さんは、FAR,BECの2科目は一発合格。このまま順調に残り2科目も合格できそうと思ったものの、残り2科目は不合格が続き、合格までの道のりは決して平坦ではなかったようです。そんな稲垣さんの合格までの体験談を伺いました。

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは何でしたか？

学習を開始したのは2005年1月でした。当時勤めていた三井住友銀行を退職し、4月から東京スター銀行への就職が決まっていたので、この3ヶ月間を有効に使える勉強をしようと思い立ちました。はじめは日本の公認会計士試験とも考えたのですが、4月からの再就職が決まっていましたので、4月以降、働きながらだと厳しいかなと思っていたところTACの米国公認会計士講座のパンフレットを見て、これならこれまでの銀行勤務で培ってきた財務知識や英語力を生かしてチャレンジできるのではと思い学習をはじめました。

当時、息子が司法試験、娘が大学受験にチャレンジしていたので、子供も頑張っている手前、親父としても子供に負けたくないという意地もありましたね。

また当時私は48歳でしたので、「50歳までに何かを成し遂げたい」という漠然とした気持ちも後押ししたように思います。

Q 受講形態は？

DVD通信講座を受講しました。これは1月から3月までの3ヶ月間である程度集中して学習したいと思ったからです。DVD１巻あたりの収録時間が約3時間、これが100巻近くもあるので、受講前にアドバイスいただいた先生からは、「一気に集中して学習するのは少し厳しいかもしれません。」と言われましたが、私は集中できるほうだと思いましたので、やってみることにしました。集中して全部学習するために、前の年の春からのコースのDVDをまとめて送ってもらい、1日12～13時間ずつDVDを見て、1ヶ月間でとりあえず全巻見ました。また受験に必要な単位を取得するため、TACで提携している米国の大学の単位認定試験の単位も3月までに取り終えました。

この間DVDは2回繰り返して見ました。4月以降は仕事が始まって、平日は忙しくなりましたが、毎朝丸の内線の始発の荻窪駅から座って通勤するようにして、この地下鉄に乗っている25分間集中して勉強するようにしました。土日にゴルフに行くのも我慢しましたね。私はお酒も好きなほうなので、飲みには行きましたが、いつも教材は持ち歩くようにしていました。

私はこうした移動中の時間などの「コマ切れ」の時間を使うようにしていました。この方法は効果的だったですね。と言いますのは、　問題を解いている時に「あっ、ここはあの時電車の中で勉強したところだ」、とか「ここは飲みに行ったときに覚えたところだ」というように、学習した時の周りの景色や状況とセットで思い出すことができ記憶が補強されたからです。

Q 合格までの道のりについてお話いただけますか？

はじめのうちは結構順調に学習が進み、FARとBEC2科目は2005年11月の試験1回で受かりました。特にFARはU.S.CPA試験全体の50%強のボリュームがあると先生から聞いていましたので、2科目合格した時は、内心「このまま順調に残り2科目も合格できるのでは」、と思ったのですが、実はそこから、今回（2007年２月）AUDに受かるまでの1年3ヶ月間が、はっきり言って苦しかったですね。

まずREGについてですが、ビジネスローについては、私は米国での仕事の経験があったので比較的取り組みやすかったのですが、税法は苦労しましたね。しかも毎年改正がありますし。米国の人は自分で確定申告している人がほとんどなので苦労しないのかもしれませんが、自分にはなじみがなかったので、とにかくDVDを何回も繰り返して見ました。そんな感じでREGは3回目の受験でようやく受かりました。

残りはAUDだけになりました。私は当初、この科目は暗記で乗り切ろうと思っていたのですが、実際は一番難物の科目でしたね。とくにWritten Communicationの文章問題で自分の意見を書くことが要求されているのですが、他のFARとREGのWritten Communicationは数式があって、この内容に沿ってまとめるといった感じで、部分点がもらえていたような気がしたのですが、AUDは公認会計士として正式な文章を書くことが求められていたように思います。私は英語で文書を作るのが苦手だったので、このAUDのWritten Communicationでは部分点ももらえていなかったような気がします。2006年8月に受けた1回目は74点で落ちてしまいました。

そこで、2回目（2006年11月に受験）はマルチ（＝マルチプルチョイス、択一式の問題）の正答率を上げてカバーする作戦で臨みました。1回目と同様にWritten Communicationは難しかったのですが解き終えてみての感触は良かったのです。そして2006年の12月のクリスマスイブの日、結果が届きました。しかし、またもや1回目と同じ74点で落ちてしまったのです。この時は相当ショックでしたね。ひょっとして日本人に対して偏見があるのではないか、とか採点方法に疑念を抱いて、米国CPA協会に質問しようかとも考えました。でも、もう3科目受かっているのだから、今さら、引くに引けないと気を取り直し、2007年の正月も返上して学習しました。最後は、SAS(監査基準書)の何条には何が書いてあるのか空で言えるようになりましたね。私はコンピュータの操作が苦手なほうで、ちょっとしたことでも慌ててしまうので、とにかくマルチで高得点が取れるように自分にプレッシャーをかけました。はっきり言って、試験でここまで苦労したことがこれまでなかったので、今回3度目（2007年2月）のチャレンジでAUDに受かった時は本当にうれしかったですね。

Q 受験勉強を振り返ってみての感想はいかがですか？

U.S.CPAの受験勉強を通じて学んだことは実際の仕事をしていく上でも参考になりますね。

例えば、FARやBECで学ぶ財務会計、管理会計について言えば、現在勤めている銀行のトップが米国人なので外国人の経営者などはこのFARやBECで学ぶ内容を身に付けていて、仕事の場面においてこれらの理論や考え方でアプローチしてきます。しかし日本の銀行員はこの内容を知らない人が多いですね。

学習を通じて、財務会計、管理会計の知識が整理できて、かつレベルアップできたこと、米国ビジネスローの考え方は遅かれ早かれ日本国内のビジネスの世界にも入ってくると思いますが、それを先取りして学習できたこと、そして監査の考え方はもともと米国から来ていますから、米国のオリジナルの内容で学べたことなど良かったことがたくさんあります。

試験では重箱の隅をつつくような問題は出ませんでした。もちろん、試験に受かることも大事でしたが、同時に仕事に役立つ知識と英語力も身につけられて、私にとっては一挙両得だったと思います。

その他合格したことで、良かったことは、もちろん話の種になるだけでなく、私にとって将来の選択肢も広がったことですね。今のところ転職は考えていませんが、外資系の企業などの求人を見ていますとCEOやCFOで “MBA or U.S.CPA Preferred”（MBAかU.S.CPAが望ましい）という条件があるものがあるみたいですね。

Q TACの講座で良かったところは？

内田先生、杉浦先生の講義が特によかったですね。杉浦先生が講義の中でおしゃっていた問題が本試験でも出て本当に感謝しています。通信受講でしたので質問は、質問カードを利用しましたが、質問にも丁寧に答えていただきありがたく思っています。あとは、Beckerのフラッシュカードも購入し、活用しました。これはよかったです。いつも持ち歩くようにしていました。

Q これからUSCPAにチャレンジしてみようかなと思っている方へのアドバイスがありましたらお願いします。

私の場合、きっかけはプラスアルファで何かやりたいと思って始めました。趣味的、自己啓発的な動機で学習を始めていただいてもよいと思いますが、この試験に合格してすぐに仕事、収入に結びつくかどうかは人によって状況が変わってくると思いますので、自分の価値観、職業観に照らし合わせて、取ったほうがよいか、合格した後この資格をどう生かすか、ということも考えてチャレンジされるとよいと思います。英語と財務会計の知識がどれくらいあって、合格までにどれくらい上乗せが必要かということも自分なりに分析してみるのも良いと思います。これからU.S.CPAの試験にチャレンジしてみようとお考えの方の中には英語が好きな方や会計の勉強をしてきた方、実務に携わっている方もいらっしゃると思います。どなたにとっても合格までの道のりは楽なものではないと思いますが、もし仮に「英語と会計、どちらが得意な人のほうがこの試験には有利ですか？」と聞かれたなら、私なら「英語が得意な方のほうが多少苦労が少なくて済むのではないでしょうか。」と答えると思いますね。

また、日本ではAUDの分野の知識がある人材が不足しています。そういった意味でU.S.CPA合格者は今後ますます必要とされる存在になると思いますね。

ご健闘をお祈りしています。

講義で学習したことをBeckerで復習し、知識を点に変えていけば必ず合格できます！

近藤　義裕 さん

1960年8月生まれ
早稲田大学法学部 卒業
勤務先：豊田通商株式会社

2007年11月　USCPA試験合格（デラウエア州）
FAR：85点、BEC：77点、REG：83点、AUD：79点

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

営業系の仕事に就いておりまして、勤務先の企業が出資している事業体管理の業務を、営業担当として担当しています。ただ営業といってもビジネスプランで財務諸表を作成したりすることもあるので、経理処理についてコメントする機会もあったのですが、「経理の事は、経理の専門家に任せたほうがいいのではないか」という事でなかなか自分の意見を取り上げてもらえなかったという悔しい経験をしまして、それならば、会計に関する資格を取ろうと決意し、U.S.CPA試験にチャレンジすることにしました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語については、日常業務を英語で行っていましたのでU.S.CPAの勉強（Written Communication対策を含む）もあまり苦労なく学習を進めることができました。

会計知識については、営業担当といっても海外出資事業体の内部監査を行ったり、事業計画を立てていたのでそれなりに知識はありましたが、経理処理（仕訳）については全く経験がありませんでした。

Q TACをお選びいただいた理由は？

インターネットでいろいろと調べましたが、通学しやすいということが決め手になり、TACで受講することにしました。

Q TACの講座でよかったところは？

テキスト、講義ともに説明が非常に分かり易かったです。講師や受付の方の対応もとても丁寧でよかったです。特に内田先生作成の対策本は、非常に有効で最後まで活用しました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？

通学で受講しました。

Q 合格までの学習スケジュールは？

仕事が忙しくてなかなかまとまった時間が取れなかったので、2科目ずつ勉強し、科目合格を積み上げました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

初めて受験したときにはBeckerの過去問などの演習をしないまま試験に臨んでしまい、失敗しました。戸惑っている間にどんどん試験時間がすぎてしまって結局不合格となってしまいました。Beckerを使って過去問などの演習をしておくことが大切だということを実感し、次からはBeckerを繰り返し解いてから受験するように心がけました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

講義で学習したことをBeckerで復習し、確実に知識を点に変えていけば必ず合格できる試験だと思います。

とにかく苦手なものから手を付けて、弱点克服！

古田　秀恭 さん

1966年10月生まれ
東京学芸大学（教育学部）卒業後、日本電信電話株式会社入社。交換機の設備建設等を経て、社内システムの開発に従事。1997年4月よりNTTコムウェアに転籍。システム開発に従事しながらU.S.CPAの学習を開始する。2006年4月より、ある組織の事業推進系の業務に従事。

2006年4月　USCPA試験合格

Q 受験しようと考えたきっかけ

与信管理システムの構築に携わったことがきっかけで、U.S.CPAの存在を知りました。システム構築のコンサルティングに役立ちそうだと思い、受験を決めました。

Q 受験勉強時代の学習方法、エピソード、苦労話など

・「TACの授業で一通り概要を理解したら、BECKER問題を解き、わからないところはテキストで理解を深める」を繰り返し実施。（問題はBECKERしかやっていません）
・AUDITに関しては、授業だけで理解ができなかったので、日本語で書かれた市販の本を購入して監査のイメージをつかむようにしました。
・とにかく苦手なものから手を付けるように心掛けました。（例えば、REGにおいてBusiness Law=45点　Tax=25点の実力があるとした場合、いくらBusiness Lawが得意でも45→50点は困難です。それよりTaxを25→30点に上げる方がずっと楽です。）
※性格上の問題かもしれませんが、受験も苦手科目から順に受験しました。
（AUD→REG→FARE→BECの順で受験　４科目とも一度でパス）
・DE州の事務処理上のミスが続き、NTSが到着するまでに４ヶ月近くかかり苦労しました。TACの方（柴田さん）には何度も助けていただき、感謝しております。（因みに、合格して２ヶ月以上になりますが、未だにCongratulation Letterが届かず、Ethicsも合格しているのですが、Certificateの申請ができません。最後までDE州の事務処理には泣かされます。。。）

Q 現在のお仕事とU.S.CPA資格との関係

10年以上もシステム開発に携わってきましたが、丁度U.S.CPA に合格できた今年の４月から、事業推進を担う部署に異動になりました。（特にU.S.CPAを取ったから異動したというわけではなく、たまたま前の開発が一段落し、組織整備の関係もあり異動になりました。）

現在の部署では事業計画の策定から、月次管理やBSCを使った業績評価を主に担当しています。月次管理やBSC評価は当然ながら収支面での管理がメインになりますので、勉強したことがとても役に立っています。

このように現在の仕事は、管理会計的な側面が中心ですが、システム構築にあたっては内部統制の重要度が高くなってきています。また、会社の方は連結ベースでは米国会計基準を採用しています。将来的には、このような観点から、監査や財務会計の知識を活かした職場にもチャレンジしていきたいと考えています。

Q これから学習しようとしている方へのメッセージ

学習を始めたころは、UNRの単位認定試験を一つ取るだけでも大変で、「本当にU.S.CPA なんて取れるのだろうか？」と不安になりました。学習を進めていくと、自分がどの辺りまで来ているのかわからず、皆さん不安になるようです。しかしながら、焦らずにじっくりとテキストを理解し、BECKERの問題がきちんとわかるようになれば、必ず合格できます。諦めずに最後までやり遂げて下さい。

過去問による問題演習が近道！

郡司　麻衣子 さん

1981年11月生まれ
シドニーのMacquarie University卒業、2006年6月に監査法人トーマツに入社。フォレンジック業務の担当部署に配属。大学選考時に、日本の大学で公認会計士を目指すか、海外で会計を選考するか迷ったが、英語を使って学びたいということでオーストラリアの大学での会計学専攻を決めた。会計を専攻するにあたって、当時、公認会計士の勉強をしていた兄や、その他周りの人たちからUSCPAを視野に入れておくことをアドバイスされ、卒業後、学習開始。

2006年6月　USCPA試験合格

Q 受験しようと考えたきっかけ

大学で真面目に勉強していたことをお金を払ってくれた親に証明するため。

会計を専攻したらCPAの資格をとるものとなんとなく思っていたから。

Q 受験勉強時代の学習方法、エピソード、苦労話など

・今思えば、テキストをさらっと読んだあとにすぐ、過去問に専念したほうがよかったと思う。
・過去問で解らないところをテキストに戻ったあと、ミニノートにまとめた。
・他人と競うことで受かるシステムでないことはわかっていたが、自分がいったい今どのレベルまで行っているのかがわからなく、あとどのくらい、いつまでに上達していなくてはならないのか不明だった。
・大学で真面目に勉強してきましたと証明する証拠がない上に、卒業後までも親に世話になっているということで、非常に肩身が狭かった。
・自宅学習だったので仲間がいなかったことがつらかった。

Q 現在のお仕事とU.S.CPA資格との関係

トーマツに入るきっかけにはなったと思います。

Q これから学習しようとしている方へのメッセージ

過去問での実践が一番大切だと思います。

大学在学中に合格！就職にも転職にも大変有利でした！

大橋　慶子 さん

1985年1月生まれ
慶應義塾大学商学部 2007年3月卒業
勤務先：外資系証券会社コントローラーズ
（経理・財務）

2006年8月　USCPA試験合格（アラスカ州）（大学在学中に合格）
FAR：89点、BEC：75点、REG：84点、AUD：84点（全科目2006年8月）
2007年11月　モンタナ州Certificate取得
（アラスカ州の合格実績をEthics Exam合格後、Transfer）
2010年3月　License取得（ワシントン州）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学に入学した時から何か資格が欲しいなと思っていたのですが、学生時代のアルバイト先で塾の講師をしていた女性の方が子育てしながらTACのU.S.CPA講座を受講し、合格したという方がいていいなと思ったのがきっかけです。女性は社会で仕事をしていく上で、結婚、子育てなど、仕事を続けにくい状況になりがちですが、そんな中で何か資格を持っていれば武器になるだろうという思いと、私は帰国子女で、大学では商学部でしたので英語と会計に関係した資格が取れればという思いもあり、U.S.CPAなら自分に合っているなと思いました。

Q U.S.CPAの学習を開始されたのはいつからですか？

大学1・2年の時は日商簿記を勉強し、2004年の12月、2年生の途中からU.S.CPA講座の受講を開始しました。

Q 通学、通信どちらで受講されましたか？

通学ビデオ(DVD)講座で受講していました。主に八重洲校に通っていました。ビデオ(DVD)講座だと、好きな時受講できましたので非常に効率が良く学習を進めることができましたし、内容も充実していて全く退屈する暇がありませんでした。講義DVDは時々視聴速度を上げて見たこともありましたがそれでも十分知識を吸収できていました。「やっぱりTACは教材とか情報とかがしっかりしているな」と感じながら受講していました。

Q 学習の進め方は？

講義DVD視聴してその後問題集を解くことを繰り返しました。問題を解く時間のほうが講義DVDを見ている時間よりもはるかに多かったですね。あと、本試験はコンピュータ試験ですので、自宅でのPCを使った演習が欠かせませんが、家で学習できる時間は限られていましたので紙ベースのテキストの問題集とかを必ず持ち歩いていつでも勉強できるようにしていました。

合格までにかかった期間は学習開始から1年8ヶ月とちょっとくらいです。講義の受講は多少苦労しながらも順調に進みましたのでできることなら早くから受験を開始したいという気持ちもあったのですが、私が出願したアラスカ州の受験資格を満たして受験するためには最も早く受験できるタイミングが大学4年生の時でした。アラスカ州の受験資格で要求される会計単位について、私の場合は大学で必要な単位をすべて取ることができましたのでTACの単位認定試験プログラムは利用しませんでした。

Q 苦手科目はありましたか？

FARの問題を解きはじめた時、英語はわかるのですが、何を聞かれている問題なのかが今ひとつピンと来ず、慣れるまでの間大変でした。そういう問題にあたった時は先に答えを見て問題の趣旨を理解するようにしました。またFARの公会計については馴染みがなかったことと、苦手意識もあって苦労しました。それと大学で、法律などの勉強はしていませんでしたので、REGも苦労しました。あとは全科目に共通して言えることとして、受講期間中は学生でしたので、社会的な常識と言いますかそういうものが社会人の方に比べ、結構限られていましたので、実務的な内容が問われるU.S.CPA試験のどの科目も本当にゼロからのスタートだったなと思います。その結果学習開始時に思い描いていたよりも学習に時間がかかってしまったように感じています。

Q 受験手続きについてはいかがでしたか？

受験手続きは何事も初めての経験でしたので大変でした。あたりまえですが、必要な書類は全部英語でしたし、最初の学歴審査で思っていたより時間がかかってしまったりとか、本当は勉強だけに専念したいけれど、願書を送るために郵便局に行ったり、マネーオーダーとかを作ったり、正直わずらわしいなと感じたこともたびたびありましたが、困った時はTACの受講生専用のe-mailでアドレスに問い合わせるとすぐに返事が来ましたので本当に支えになりました。

Q 学習中に就職活動をされたと思いますがいかがでしたか？

私が志望していた外資系の金融業界の会社はもちろん英語を使いますし、社内にU.S.CPAの有資格者を持っている人とかたくさんいる会社が多かったので、U.S.CPAを勉強していることは、就職活動ですごく役に立ちました。面接では必ず「U.S.CPAを勉強中です！」とか「絶対在学中に受かります！」とアピールしていましたので、相当評価はしてもらえたと思います。また勉強していたおかげで、面接で結構会計の込み入った話になっても十分ついていくことができました。

その後、会計知識も活かせるファイナンス部門の仕事をしたいと思い、現在勤めている外資系の証券会社に転職しました。この業界では「U.S.CPAは持っていてあたりまえ」で、今の会社はフロア中U.S.CPAか会計士か税理士か何らかの会計資格を持っている方ばかりですので、「U.S.CPA試験に合格していたこと」は非常に有利なアピールポイントになりました。

Q 現在のお仕事でU.S.CPA試験を通じて学習された知識を使うことはよくありますか？

試験を通じて身に付けた知識や英語はもうMUSTって感じですね。

仕事をしていてつくづく感じることなのですが、会計基準など、いろいろな規則がどんどん変っていきますが、その変化に対応するためには、ベースになる知識がなければ始まらないと思います。そしてその変化に対応するために必要なベースはTACで全部身に付けることができたと感じています。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

まずは、現在学生の方でU.S.CPAを勉強しようかどうしようか悩んでいる方には「絶対に早く始めた方がいい」と申し上げたいですね。私は資格の勉強が好きなので、社会人になった今も何か資格を取りたくてたまらないのですが、仕事をしているとまとまった勉強時間を取ることが難しく、なかなか勉強を始められずにいます。振り返ってみると学生時代って本当に恵まれていたと思います。学生時代にもっと勉強してたくさん資格を取っておけばよかったなと感じています。

次に、学生の方も社会人の方も皆さんに申し上げたいこととしては、U.S.CPAでもそれ以外でも、資格とか何か目指すものがあると毎日がすごく充実してくると思います。私はほとんどTACでしか勉強しなかったと言っていいくらいTACを利用しました。自習室に行けば、違う資格を目指している方も含め多くの受講生が朝から晩まで勉強していてそういう中に自分もいると自然と集中して勉強できました。受講期間中は毎日のようにTACに通う日が続きましたが、全然いやじゃありませんでした。

最後に、U.S.CPA試験はあきらめなければ受かる試験だと思います。ぜひあきらめないで勉強を続けていただきたいと思います。そして目指すものを手に入れた時の喜びを味わっていただきたいですね。

通信で受講。週2回は早送りしながらでも講義ビデオを視聴。

光永 健彦 さん

1972年2月生まれ
大阪大学経済学部経済学科 卒業
勤務先：日本ロレアル株式会社
コンシューマー プロダクツ事業本部
ディビジョン コントローラー

2005年11月　USCPA試験合格（デラウエア州）

Q U.S.CPA試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

コントローラーの仕事をしていまして、仕事の内容は主に管理会計です。U.S.CPAの試験科目が財務会計と監査という部分をカバーしていて普段の業務の範囲と直接重ならない部分があり、「普段の仕事に関連する新しい知識として身につけたいな」と思ったのが勉強を始めたきっかけでした。

Q 財務会計と監査の知識を身につけるためにU.S.CPA試験を選んだ理由は？

フランス企業なのでその会計基準に基づく会計なのですが、昨今French GAAP（フランス会計基準）もUSGAAP（米国会計基準）寄りになってきたと聞いています。USGAAPは今や世界共通語ですから最低限おさえておいたほうがいいのかなと思いました。

Q 光永さん自身がU.S.CPAを持っているということでの社内の評価はどうですか？

評価が良いかというのは別の話だと思いますが、「最低限のことはわかっているんだな」ということはマネジメント(経営陣)はわかってくれていますから、U.S.CPA試験に合格しているのとしていないのとでは少しは違うと思います。マネジメントの多くがMBAホルダーで、私はバチェラー（４大卒）なので、バチェラープラス何かを持っておきたいなという気持ちもありました。私の場合、MBAをとるのはお金も時間もかかるので、考えていませんでした。

特に外資系の企業に勤めるならU.S. CPAは最低限のQualification（資格）として持っておいたほうがベターな資格だと思いますね。

Q 学習期間は？

2003年の12月からはじめました。そして最後4科目が受かったのが2005年の11月です。

試験は2005年2月から受けはじめ1回目で4教科受けましたが2科目不合格、というところから始まり、2005年11月までに結局春夏秋冬と年4回受験しました。

２月に4科目受験してそのうちFARとBECが受かって、5月にREGが受かって8月にAUDを受けたのですがそれがだめで、11月AUD４回目の受験で合格しました。

Q 振り返ってみていかがでしたか？

自分ではFARが一番自信がなかったのですがあっさり受かってしまったという感じでした。その一方で、てこずったのがAUDでした。合格点まであと数点足らなかったということが続きました。3回目のAUDが1点差で不合格だったのですが、その時は、これからどうしたらよいのか？という思いがありましたが、気を取り直してもう1回基本に戻って、毎日同じ学習項目を繰り返して学習しどこまできちんと理解できているかを確認していきました。

Q 受験地は？

私の場合は、皆さんの参考にあまりならないかもしれませんが、アメリカのシンシナティーに友人が居たので1回目はそこに受けに行きました。それからあとはなるべく周りに日本人がいない環境で受けたいと思い、ジョージア州の田舎とかアリゾナ州の田舎とかに受けに行きまして、受けた日の翌日にちょっと旅行して帰ってくるということをしていました。試験を受けに行くのに片道16時間かけたこともありましたね。ただ会社をそんなに長く休むこともできないので、日本を出発してアメリカまで行って着いたその日の半分は時差ぼけ状態ですがその日の晩に無理やり寝て次の日の朝から受けていました。初めて受けに行った時は１日2教科、次の日も2教科受けていましたから結構ハードスケジュールだったと思います。

Q 学習スタイルは？

自宅でビデオを見る通信ビデオ講座でした。

Q 通信ですとスケジュールの管理も課題だと思いますが？

全部で講義ビデオが100巻くらいありましたが、ためてしまうと消化できなくなると思いましたので週2回はどんなことがあっても家に帰って早送りしながらでも見るというスタイルで学習しました。

私の場合、学習を開始したのは12月だったのですが早く講義ビデオを見るためにその年の春開講のコースを受講しました。いきなり50巻くらいビデオが送られてきましたので、始めからたまったビデオをいかに早く消化するかということで1週間２～3本ペースでビデオを見ていきました。

Q 会計や英語の事前知識は？

簿記は、十数年前になりますが学生の時に日商簿記の2級をとっていました。また英語については外資系の会社なので普段から日常的に使っていたので問題はなかったと思います。

Q こちらにはどのくらいお勤めですか？

6年半くらいですね。

Q お仕事の内容は？

フランス企業の日本支社で、損益計算書の管理をしています。売上、経費の予測・分析が主な仕事で、事業部が本社に約束した営業利益を達成するように、経営戦略や資源の配分の策定・変更といった経営判断に関わります。

Q お仕事とU.S.CPA試験で学習された内容との関わりは？

たとえば、資源配分を考えるときに会社の組織や機能を振り返ってみて、会社の決済書類の流れとか稟議の流れとかがうまく機能していないことってありますよね。そういう場合、たとえば「職務の分離」であるとか、どことどこの人間がどういう承認関係にあって誰と誰との責任が離れていなければならないというテーマを1回ステップバックして考えたときに勉強したことがとても役に立っていると思います。

私の担当している仕事は管理会計なので直接財務会計の知識が役に立つのかというとそうでもないのですが、むしろAUDで学んだことというのが多かれ少なかれ今やっている仕事の一部に関わってくると思います。

Q 今後の抱負は？

もしもチャンスがあったら仕事の中でＡＵＤがらみのことをしてみたいですね。Internal Control（内部統制）というか監査というのはポリスマン的な役割もあると思うんですが、組織としてうまく機能していないところをうまく変えるとか、もっと効率的に動けるように変えるという機会があると思うので今ある自分の知識を別の形でアウトプットできるチャンスがあればと思います。受験勉強を通じて身に付けた知識は仕事をしていく上で決して無駄な知識ではなかったと思っています。

Q 今後U.S.CPA試験にチャレンジされる方へのアドバイスをお願いします。

U.S.CPA試験の合格に向けての学習量は膨大にあると思うのですがコツコツやっていったらできる試験だと思います。必ずどこかで4教科とってやるという意思をもち続けること、そして何回目で取る！という目標も持つことが大切だと思います。御健闘をお祈りします。

しつこく続けること

内海 治三郎 さん

1955年生まれ
横浜国立大学経済学部 1978年卒業
勤務先：ネスレ日本株式会社

2005年　USCPA試験合格（デラウエア州）

Q 受験しようとしたきっかけは？

ここ10年前くらいから日本でも国際会計基準(IAS)もしくはUS GAAPの重要性がマスコミでも取り上げられるようになったのではないかと思います。私自身、スイス系外資系企業の管理畑に勤務しており、IASは理解する必要があるものでした。

ただIASについては通信教育の講座はあるものの、資格取得用の講座は特に見当たりませんでした。そこでIASとほぼ近いU.S.CPAの資格取得を目指すことにしました。

私は以前、税理士の資格もとりました。税理士試験にチャレンジしていた時も感じていたことですが、資格試験に挑むことは結構しんどいものです。ただ単なる通信教育の終了と異なり、合格後の達成感があり、何よりもその分野の専門家としての知識が実務にも生かせるレベルに到達できたと実感できる点が魅力で、U.S.CPA試験へのチャレンジを決意しました。

Q 現在のお仕事内容は？

営業管理の仕事をしています。財務諸表作成業務はありませんが、営業関係でGAAPに則った売上げ・費用計上を行い、かつInternal Controlを実効のあるものにするという業務も含み、このあたりはU.S. CPAの知識が役に立っていると思います。

Q TACの講座でよかったところは？

私はTACの通学ビデオ講座を受講しました。私の場合、教室講座は時間的に無理でした。しかし通信講座だと、教材だけがどんどんたまってしまうのではと心配だったので、それなら自分の都合にあわせて受講することができ、TACに通うことがペースメーカーにもなる通学ビデオ講座が自分には一番合っていると思いました。

大体、土日にTACのビデオブースでビデオを見ながら勉強していました。一日に２コマ、６時間見て、眠くなってしまうこともあったのですが、何とか頑張れたのは、杉浦先生、内田先生をはじめとするTACの先生方の熱心さです。先生方の熱心さはビデオからでも良く伝わってきました。

私の場合は2001年に受講開始し、合格したのは2005年で、なんと４年もかかってしまいましたが、TACの「５年間継続再受講制度」のおかげで勉強を続けることができました。又、この４年間の間に、受験制度、科目が大きく変わりましたが、こうした変更に対応しながら学習できたのもこの制度のおかげだったと思います。

それとTACが提携しているBeckerの教材ですが、勉強の後半期、問題をたくさんこなしていく時期に実際の試験に即した問題を数多く解くことができ、とても役に立ちました。

最後に、これは講座そのものではありませんが、U.S.CPAの受験手続は、事前知識がない方にとっては結構複雑でわかりにくいところも多いと思います。しかしTAC米国公認会計士講座の受講生専用サイトのおかげで、スムーズに受験手続をすすめることができ、大変助かりました。

Q 学習法は？

前半は内容を理解する為、講義の復習を何回もやりました。ただ、U.S.CPA試験は個々の問題で問われるレベルは比較的浅い反面、出題範囲がかなり広いので苦労しました。特に仕事で忙しい時期は勉強を中断せざるを得ず、再開したときは前に勉強したかなりの部分を忘れてしまっていた、ということもありました。そのような時はカセットダビングサービスでダビングした講義をもう一度聴きなおして補強しました。ただこの方法はかなり時間がかかり、その分受験勉強の期間が長くなってしまったと思います。

受験勉強の後半は問題を集中的にこなしていきました。最初は講義で使われた問題をやっていきました。ただ終盤はBeckerのCDで実際の試験形式の問題を何度も繰り返し解きました。これがとても効果的だったと思います。

後で反省したのですが、私の場合、前半の内容理解に少し時間をかけすぎたと思います。もう少し早く問題を集中的にやっていた方が効果的ではなかったかと思っています。

個々の科目では、多分他の方もそうだと思いますが、私は最初AUDとREGのTaxが苦手でした。ただAUDについては中身を理解していくうちにInternal Control等、実務との関連がわかり出し、わりと興味をもって勉強できるようになりました。Taxはなんといっても内田先生の講義が良かったです。これさえやっておけば大丈夫です。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

私と同じく、仕事をしながら受験勉強をされている方へアドバイスします。まず、なんといってもしつこく続けることが第一だと思います。夜11時からでも１時間程度なら勉強できると思います。それでも仕事が忙しくなって中断してしまうこともあると思いますが、気を取り直し再開してください。U.S. CPAは続けていれば合格できる試験だと思います。

それと社会人としてとても重要なことは、仕事にプライオリティをおくということです。仕事を人一倍してかつ受験勉強もするということがとても大事だと思います。さもないと上司・同僚から受験勉強をしているという事だけで浮いてしまうのではないかと思います。頑張ってください。

「絶対合格する」という強い気持ちが大切

豊田 純子 さん

1978年4月生まれ
南山大学卒業後、アメリカに4ヶ月の短期留学。帰国後、会計事務所に就職し、主に法人税・消費税等の申告業務に携わる。退職後、USCPA の学習を開始する。中央青山監査法人（現みすず監査法人）を経て、現在はあらた監査法人で監査業務に携わっている。

2005年10月　USCPA試験合格

Q 受験しようと考えたきっかけ

会計事務所に勤務している時に受験しようと考えた。資格保持者ではなく事務員として勤務していたため、専門知識を身につけて責任ある立場で仕事に従事したいと思った。

税理士ではなく、USCPAを選択した理由は英語が好きで、大学時代から英語に携わる仕事をしたいと思っていたから。

Q 受験勉強時代の学習方法、エピソード、苦労話など

（学習方法）

・1ヶ月単位で目標を立て、常に進捗状況を把握するようにした。
　⇒　勉強の遅れは次月に取り戻すようにした。（受験時期をずらしたくなかったため）
・とにかく問題をたくさん解く。（受験直前期には本試験と同量の問題を毎日解いた。）
　⇒　間違えた箇所は印を付けて、解けるようになるまで何回も挑戦した。本番前には間違え続けた問題を中心に見直した。
・暗記より理解することに重点を置いた。
　⇒　理解できないところは、自分でNoteを作成。図や表にすると分かりやすいし、作成していくことによりにだんだん理解も深まっていく。

（苦労話）

・勉強のモチベーションを保つこと
　⇒　通信教育であったため。
　　勉強開始から受験要件を満たすまでに1年ほどかかったため。
・4科目同時に学習をしていたため、何の科目をやっているのか分からなくなる事が頻繁にあった。
・特にBECは出題範囲が広く、経済学など予備知識すらない分野は一から勉強する必要があった。（英語では理解できないため、日本語で勉強をした。）
・字の書きすぎで、手がしびれてしまった。しばらく勉強を止めて通院した。

Q 現在のお仕事とU.S.CPA資格との関係

USCPAの合格をきっかけに、監査法人に就職した。現在、国際部に所属しており日本に子会社のある外資系企業の監査に携わっている。仕事内容はUSCPA科目のAUDITそのもの。

ただ、今日まで監査を行ったのはUSGAAP適用会社でなく、IFRS適用の会社の監査だけ。

Q これから学習しようとしている方へのメッセージ

どれだけ勉強が辛くても、絶対にあきらめないで下さい。努力すれば必ず報われます。そのためにも、「絶対に合格する」という強い気持ちを最後まで持ち続けることが大切です。

たまには、頑張った自分にご褒美をあげてください。

目指したのは、英語と会計が好きだったから。 就職活動で勝ち抜ける資格を取りたかった！

愛川 智士 さん

早稲田大学卒業
2004年　USCPA試験合格（バーモント州）（大学在学中合格）

Q なぜU.S.CPAを目指そうと思ったのでしょうか？

漠然とですが、中学の時から英語を使って海外で仕事をしたいと思っていました。高校で簿記に興味を持ち日商簿記3級レベルまで勉強しました。大学2年の時に、会計と英語を両方勉強できる資格としてMBAも考えたのですが、取得するのに時間がかかりそうなので、それよりももっと短期で合格を狙えるU.S.CPAを目指そうと思いました。

Q 実際にU.S.CPAの試験の受験勉強をはじめてみていかがでしたか？

U.S.CPA試験に出る英語は会計用語がほとんどなので、書いたり話したりできる必要はありません。ですから大学受験レベルの文法がわかっていれば十分対応できます。

Q 学習開始時点での簿記の知識や英語力は？

会計の知識は０でした。英語も留学していたといっても、受講開始した時から１年半前に帰国していて、それ以来英語を使っていませんでしたので、英語力も落ちていたと思います。どれくらいだったかというと外国人が言っている英語は分かるけれど、自分から流暢に話すことは出来なかったですし、ライティングに関しても、自信がありませんでした。

Q 初学者でも勉強についていけますか？

私は大学1年の時には日商2級は独学で取得していましたので、スムーズに勉強ができましたが、簿記の初学者の方でも対応できるカリキュラムがTACにはありますので安心してもらってもよいと思います。

Q 勉強とプライベートの両立はできましたか？

2年生の時にはテニスサークルに入っていましたし、バイトもやりつつ、U.S.CPAの勉強もこなしていましたが、3年生になってからは短期で時間の短いバイトに切り替え、自分を追い込んで勉強に集中しました。

Q U.S.CPA試験はどこで受験されましたか？

3年の11月に2週間ハワイに滞在し、U.S.CPA試験を受けました。ハワイで受験しようと思ったのは唯一、海外で行ったことがあるからです（笑）。U.S.CPA試験は年間で4階受験できるチャンスがありますので、他の資格より受験しやすいのがよいところだと思います。

Q 合格できた要因として大きかったものは何だと思いますか？

書類選考はすべて通りました。最終選考では大手電機メーカー2社がまだ残っていましたが、大手自動車メーカーから先に内定をいただきましたのでその会社に決めました。面接ではU.S.CPAのことは必ず聞かれました。留学経験があって英語ができる人はたくさん受けに来ていましたが、英語とプラスアルファで会計の知識がある人はあまりいないので、面接ではかなりのアピールポイントになったと思います。また面接試験を通じ、グローバルな企業ほどU.S.CPAという資格に魅力を感じてもらっていると実感しました。

Q 将来のビジョンは？

U.S.CPAで身に付けた会計と英語の知識を使いこなして、世界をまたにかけるような仕事をしていきたいです。

Q 最後に後輩の皆さんへ一言。

U.S.CPAは最近になって、大学生に広く知られるようになりましたが、まだ実際に資格を持っている人は少ないので、希少価値が高く、就職試験では他の学生と差別化が図れます。またU.S.CPA試験は比較的取り組みやすい資格なので会計を勉強してみたい人や英語の好きな人は気軽な気持ちで勉強をはじめてもいいと思います。ご健闘をお祈りしています。

U.S.CPAは世界中で通用する資格、新しい世界への道が開かれる資格

木村　亜希子 さん

1977年2月生まれ
法政大学経営学部 1999年卒業
勤務先：シェリング・プラウ アニマルヘルス株式会社
経理グループ所属

2004年　USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
（旧試験制度で2科目、現行の試験制度で2科目合格）

大学卒業後、財務会計用コンピューターメーカー、大手物流企業にて企業経理に携わる。御主人の留学を機に渡米し、米国でTAC米国公認会計士講座を通信で受講。合格後、現在の会社に再就職。

Q こちらにお勤めになってどれくらいですか？

2年が経ちました。振り返ってみれば、まさにU.S.CPAの資格を持っていたお陰で、現在の会社に入ることができたという感じです。現在は、シェリング・プラウ　アニマルヘルス（株）という動物用医薬品の製造・販売を行っている外資系企業で経理を担当しています。

この会社に就職する前は、主人の留学先の米国に同行し、2年間を海外で過ごしました。その2年間のブランクがあったことで、果たして日本に戻ってきて就職できるのだろうかという心配もあったのですが、実際にはU.S.CPA試験に受かっていたことの効果は絶大でしたね。

私が就職活動をしていた時、現在の会社にいた米国人のファイナンスマネージャーが、私の履歴書に「U.S.CPA試験合格」と書いてあるのを見て、「すぐに会いたい」と言ってくれたようです。早速面接に呼ばれてトントン拍子に話が進み、すぐに採用が決まりました。U.S.CPAの資格を取得して本当に良かったと実感した瞬間でしたね。

Q こちらの会社に就職しようと思われた決め手は何でしたか？

U.S.CPA試験の受験勉強を通じて得た知識を活かして働きたい、という強い思いがありました。ただ、規模が大きい会社だと、任せてもらえる仕事が限られてしまうのでは、と思っていたところ、この会社の面接で「やる気次第でどんどん仕事を任せますよ」と言われたことが決め手になりました。

Q 担当されているお仕事について教えていただけますか？

現在の会社は、世界各国に支社を持つグローバルな企業であり、親会社が米国の上場企業であることから、経理担当として要求されることが厳しくかつ多岐に渡る一方、所属しているグループは人数が限られているので、一人で様々な仕事を担当しています。まさに何でもやるという感じです。主な業務は、米国本社へのレポーティング（報告）ですが、ソックスSOX（内部統制）監査も担当しています。毎月次の米国本社へのレポーティングでは、会社独自の会計規則に沿った調整を行い、財務諸表を作成します。また、その財務諸表についてのコメンタリーも担当しています。社内の会計規則自体がUS（ユーエス）GAAP（ギャップ）（米国会計基準）に基づいたものになっているので、その内容を理解する上でもUS GAAPの知識が非常に役立っています。また、US GAAPの変更の都度、社内の会計規則も変更となる為、その度に、次のレポーティングまでに対応するための必要な調整を考えなくてはなりません。この変更に対応するのは大変ですが、同時にUS GAAPにおける変更もタイムリーに知ることができるので、まさに日々勉強ですね。

現在の会社では、U.S.CPA試験合格者は私だけということもあり、上司からUS GAAPについての質問を受けることがあります。即座に答えられなかった内容については、家に帰ってTACのテキストなど受験時に使用した教材まで遡り、調べたりもしています。こうした復習を繰り返しているうちに次第に自分の知識として定着していくのだろうと思います。

SOX監査については、毎年、業務サイクルごとに様々なテストプロシージャー（監査手続きのテスト項目）が送られてきます。まずは、それぞれのテストが何を目的としているのかを理解しなくてはなりません。そして、実際の業務フローを頭に思い浮かべながら、最も効率的にインターナルコントロール（内部統制）の効果を測ることができる手続きを、１から構築する仕事もしています。まさにAUDITの学習を通じて身に付けた知識をフル活用しています。同じ仕事をするにしてもAUDITの知識がなければ、「なぜ、こんなに細かいことをこれほどの時間と労力をかけてテストしないといけないのだろう」と疑問に思ってしまうでしょうね。しかし、AUDITの学習で得た知識があれば、このテストではどのリスクを考慮しようとか、コンプリートネス（完全性）とエグジステンス（実在性）を目的としているから、この方向性でテストしようといった感じで、理解と納得をした上で仕事を進めることができます。この点でもU.S.CPAの学習が役立っていると思います。

一般的に、U.S.CPAを取得したら、監査法人に勤めなければ資格を生かすことが難しいのでは、といったイメージがありますが、一般企業の経理部門でも十分に資格を生かすことは可能だと思います。監査をする側でなくても、監査される立場として、しっかりとした専門的な知識がなくては対応しきれないからです。例えば、サンプリングされた内容について会計士に説明する際に、自信をもって根拠を示せないようでは納得してもらえません。

Q ところで木村さんがU.S.CPAを目指したきっかけは何でしたか？

大学の卒論のテーマに、アメリカと日本の監査基準の比較を選んだことや、英文経理の仕事をしていた経験から、何となくアメリカの会計に対して憧れを抱いていましたが、主人の留学の為ニューヨーク州に滞在することになり、それを機に一念発起し、U.S.CPAの受験を決意しました。英語が話せるだけの人は日本人でもたくさんいるので、英語で専門的な知識を習得しよう、そうすれば、英語は自ずと上達するし、専門性も身につけられると考え、U.S.CPAの受験をしてみようと決めたのです。

Q 出願州は？

ニューハンプシャー州に出願しました。当時ニューヨーク州に滞在していたので近くで受けることができ、かつ、受験資格を満たしているところということで選びました。（注：旧試験制度では出願した州で受験することになっていました。現在は出願州と受験地は一致していなくてもよいので、日本から受験される方で人気が高い受験地はグアムです）

Q 合格までの道のりについて教えていただけますか？

私は試験がコンピュータ化される前に2科目合格し、残りの2科目はコンピュータ形式（現在）の試験で受験しなければならなかったので、果たして今の勉強方法で新試験形式に対応できるのだろうかと最初は正直不安でした。そんな時、TACの「5年間継続再受講制度」の存在が大きかったですね。受講期間終了後最長5年間に渡り、TACの本科生の講義の中で必要なものだけを安価な受講料で継続して受講できる、という制度で、この制度があったからこそ、試験制度が変わっても安心して学習を続けることができました。

受講スタイルは通信で、米国で勉強していましたので、周りに勉強仲間のいない、孤独との戦いでもありました。TACの講義ビデオ主体で勉強を進め、各科目ごとにまとめノートを作成することで基礎固めをし、試験直前には問題演習を繰り返しました。

また、身近に受験仲間がいなかった為、TACのメーリングリストを通じて試験の情報交換をしていました。

一番辛かったことは、AUDITが一点差で落ちていた時でしたね。手ごたえを感じていただけにショックでした。結果が分かるまでは気を抜かず、勉強を続けることが大切だと思い知らされました。

Q 今後の抱負についてお聞かせいただけますか？

現在の会社に入って２年以上が経ち、米国の会計基準に沿った経理業務の多くを経験することができたと思います。今後は、ルーティンな仕事を効率的にこなすことはもちろん、会社の発展に貢献できるようなアイディアを考えたり、米国の本社に提案をして改善を働きかけるような仕事ができるようになりたいですね。

また、個人的にも、業務経験を生かして、サーティフィケイトやライセンスの取得を目指したいと考えています。そのためには、まだまだ勉強が必要なので、仕事と同様に、USCPAの勉強も続けていきたいと思います。

Q 最後に、受験生の方への応援メッセージをお願いできますか？

会計の知識は、世界中のすべての企業が必要としているものであり、その世界標準と言えるU.S.CPAの資格は、どの国のどのような業種の企業にも通用するものです。ですから、合格すれば、必ず新しい世界への道が開ける資格だと言うことができると思います。受験生の皆さんにとって、合格までの期間は非常に辛いものだと思います。私もくじけそうになったことが何度もありました。でも、最後まで諦めずに努力することが大事です。合格すれば、新しい世界が待っています。決して諦めずに、頑張ってください。特に、仕事や家事・育児と両立しながら勉強されている女性の受験生の方々には、頑張って合格して、新しい世界へチャレンジして欲しいと思っています。

受験勉強を通じて身に付けた会計、法律の知識を駆使し、管理職として「変化球」に対して回答を出す仕事をしています。

岡野　正典 さん

1962年1月生まれ
慶応義塾大学経済学部 1984年卒業
外資系運用会社にて投資信託の計理を担当
日商簿記2級、証券アナリスト、公認内部監査人（CIA）

2003年11月　USCPA試験合格（ハワイ州）

Q 受験しようとしたきっかけは？

外資系の運用会社に転職したのですが、外資系企業は終身雇用ではないと聞いていたので、将来万一職を失っても自分をアピールできる武器が欲しいと思って、その当時も話題になっていたU.S.CPAにチャレンジすることにしました。2000年5月、38歳の時から受講を開始しました。しかし仕事が忙しかったりして、途中何度か学習を中断した時期がありまして、はじめて受験したのが2003年の5月でした。結果は不合格で続く2003年11月、2回目の受験で合格しました。TACの再受講制度を最大限活用しました。

Q 苦労したところ

他の社会人の方と共通だと思いますが、仕事と家庭もある中で、学習時間を捻出することに苦労しましたね。協力してくれた妻に感謝しています。

Q 学習時間は

仕事が忙しく頓挫した時期を除いて約２年半、平日夜に週2日と土日どちらか1日、合計週３～４コマのペースで受講しました。はじめは通信で受講しました。しかし私の場合、家に帰るとついついくつろいでしまって、「勉強するぞ」という「戦闘モード」に切り替えるのが難しかったです。そこで再受講の時は教室ビデオ講座で学習しました。

Q 受験を振り返ってみての感想は？

1回目の試験はハワイ、2回目はグアムで受験しました。特に大変だったという思いはないですね。受験前には、TACの講義のおかげでやれば手が届くところまで来ていると実感できていましたし、受験しに行った時も現地の人たちも親切にしてくれました。

グアムの時にはホテルから試験会場まで、行きはバスで行きました。帰りもバスでと思ったのですが、私がバス停に着いた時、ちょうどバスが出たところで次のバスまで1時間あったんです。暗くなった中、私がバス停で1人で待っていたら、試験会場で見かけた試験監督の人が私を見つけて、車に乗せてホテルまで連れていってくれました。その試験監督の人は、「グアムではバスを利用するのはよっぽどお金を節約をしようとする人だけよ」と言っていました。今となっては楽しい思い出です。

Q 印象に残っている講師は？

どの先生も印象に残っていますが、特にLAWの杉浦先生、とても面白く、今でも先生の講義の名調子ごとよみがえってきます。後はTAXの内田先生、一生懸命さが伝わってくる講義で励みになりました。

Q 教材について

TACのテキストと問題集だけをこなせば、合格に十分な力がつくと思います。とはいえ、社会人にとってはTACの講義を受講してテキストと問題集を一通り終わらせるだけでも大変ですし、TACの本科生のカリキュラムにしっかりついていくことが必要かつ十分だと思いますね。

実は今年の春まで会計専門職大学院にも通っていました。大学院の講義でも財務会計、管理会計があり、監査論や公会計もあって、U.S. CPAの勉強と重なることが多くありました。同時に、U.S.CPA試験の合格を目標にするなら、TACのようなスクールを利用して出題範囲を意識した演習を多くこなすことが必要だと感じました。

Q 今のお仕事の内容は？

運用会社のバックオフィス（事務部門）におりまして、株や債券の売買の事務処理、投資家向けの報告書の作成を行っています。また、ファンドの監査（AUDIT）を受ける際の監査法人への対応もしています。

Q USCPAで学習したことはお仕事の中で活かされていますか？

日本のお客様向けの仕事をしておりますので、米国の会計基準が直接役立つ場面は残念ながら多くはありません。ただ投資信託の場合、運用会社はQualified Intermediary（適格仲介人）としてアメリカの源泉徴収の申告書を作成することが求められています。この申告書を作成する時には米国税法の知識が必要です。以前の勤務先では、リミテッド・パートナーシップ(Limited Partnership)という仕組みを使って投資を行っていたことがありますが、その際には、パートナーシップの設立、解散など、LAWの知識が役に立ちました。また、運用会社はSAS70（Service Organizations）や、国際投資パフォーマンス基準(Investment Performance Standard)といった独特の基準を元に監査を受けることがあり、そのような場合には監査で勉強したことが役立ちます。いろいろな場面でバックグランドとして勉強したことが役に立っています。

仕事をするうえで必要とされるスキルにはOJTで身に付けることができるものと、座学で身につけることができる知識があり、重複する部分もありますが、OJTだけでは身に付けることが難しい部分もあると思います。経験を積んで仕事を任されるようになりますと、日々の仕事の中で、「変化球」に対して会計や法律についての知識も使いながら、回答を出すことが求められます。こうした知識を私の場合U.S.CPAの学習を通じて身に付けることができたことがよかったと感じています。

Q ところで岡野さんは日商簿記とCIAの資格もお持ちですね。

2000年2月に日商簿記2級をTACで講座を受講して合格しました。その後、引き続きTACで米国公認会計士講座を受講してU.S.CPA試験に合格しました。公認内部監査人（CIA）は2005年に取得しました。

Q 日商簿記とU.S.CPAは比べてみていかがですか？

日商簿記で学んだことはU.S.CPAの受験勉強でも役に立ちました。U.S.CPAの試験は日商簿記の延長線上という感じで、日商簿記の内容が英語になって、出題範囲が広くなり、監査論など簿記以外の科目が加わった試験だともいえると思いますね。

Q 英語と言う話が出ましたがUSCPA試験に合格するために英語力についてはどれくらい必要だと思われますか？

言葉のハードルはあると思います。個人的な感触ですが、学習開始時点で英検2級プラスアルファくらいの英語力があるとよいと思います。ですから英語を母国語とする人達のレベルの英語力まではなくても合格できると思いますよ。

Q U.S. CPA試験合格者が最近注目されている理由の一つに「内部統制」に関する知識を有していることがあげられ、TACではこの内部統制に関する唯一の国際資格であるこのCIA(公認内部監査人)の対策講座を2007年秋から開講します。岡野さんはU.S.CPA試験に合格されてからCIAに合格されたわけですが、CIA試験とU.S. CPA試験の出題範囲を比べてみての感想をお聞かせいただけますか？

重複しているところがかなり多いと思います。CIAの試験を受けたときは、ここはU.S.CPAでも学習したところだな、と感じる問題が結構ありました。またU.S.CPA試験で学べる外部監査の知識があると、CIA試験で問われる内部監査についても理解しやすいと思います。

Q 最後に現在学習中の方、これからU.S. CPA試験を目指そうと思っている方へアドバイスをお願いします。

U.S.CPAは努力すれば必ず合格できる試験だと思います。初志貫徹であきらめずに頑張っていただきたいと思います。また勉強した内容は必ず仕事に役立つ場面がありますし、身に付けた知識は自信につながります。そういった意味でU.S.CPA試験はチャレンジする価値が十分にある試験だと思います。皆様のご健闘をお祈りしています。

今後の転職におけるキャリア・アップを一番に考えた選択

古舘 光平 さん

年　齢：29歳
学　歴：青山学院大学　国際政治経済学部
就職先：日系証券会社　職種：引受審査（IPO上場審査）
職　歴：国内都市銀行勤務　融資、不動産ローン担当

2003年8月　USCPA試験合格

Q U.S.CPAの知識をどのようにアピールしましたか？

財務会計の知識、商法、監査論等の内部統制についての知識を有すること、一度に4科目取得の集中力、そして新しいビジネス知識習得の意欲をアピールしました。企業側の評価はまちまちですが、知識、行動力、取組姿勢については一定の評価をいただいたと思います。

Q U.S.CPA以外にも資格をお持ちですか？

TOEFL®TESTスコア 540
TOEIC®TESTスコア 830

Q 今後、U.S.CPAの知識をどのように活かしていきたいですか？

U.S.CPAの知識は、間接的に仕事に役立っています。U.S.CPAの学習を通して修得した知識が、会社のあるべき姿を考えるにあたってのベースになっているからです。日本の会計は、上場企業であれば、商法決算、財務諸表等規則、証券取引法等が関わってきます。これらの法律や規則は、U.S.GAAP※が規範となっていることが多いので、この学習はとても有効です。今後は日米の会計制度の違いを説明できるよう、時価会計、連結会計等を現場でアップデイトしながら学んでいきたいと思っています。今後、海外案件を取り扱うようになれば、修得した知識が直接的に役に立ってくると思っています。

Q 求人案件のリソース

人材紹介会社等も大いに活用しましたが、短期間で決定したかったため、最終的にはインターネットで企業ホームページから人材募集を検索していくという方法を取りました。

私は銀行退職から2年半以上、正社員として働いていませんでした。そのため、このブランクがネックとなることが多かったことも事実です。

Q 面接時、特にどのような事をアピールしましたか？

書類審査に通過したあとの面接では、アメリカのビジネスクラス（MBAではありません）で学習した知識、経験、行動力や一度でU.S.CPA試験4科目取得の集中力、ビジネス知識の習得意欲等をアピールしました。数10社の人材紹介会社の面接・紹介を受けましたが、内定までは至りませんでした。しかしこの経験を通して、職務経歴書、レジュメの書き方、自己分析のテクニックとそのアピール方法などを大まかにつかむことが出来ました。日系、外資に関わり無く、日本経済新聞、ホームページより検索し、とにかく履歴書、レジュメを送りました。結果、反応が返ってきたのは1／3ぐらいでした。

面談では、キャリアの中でなぜU.S.CPAが必要なのか、どのような職種に取り組んでいき、どのようなキャリアを積んでいきたいのか、といったような基本的な質問が多かったと記憶しています。面接が進んだ段階で、外資系証券会社、英国系コンサルティング会社と現在の会社とを比較しました。給料面である程度の格差があるため迷いましたが、最終的に日系証券会社の引受審査部に決めました。私個人としては、今後の転職におけるキャリアアップを一番に考えた選択でした。

Q 最後にこれから学習を始める方へのアドバイスをお願いします。

合格発表を受け取ったのは2003年8月でした。一度に4科目合格するつもりで受験したものの、感触的にはAUDITがやや厳しいと感じていました。6：4ぐらいの可能性だと思っていましたので、11月受験も心構えだけはしていました。だから、受かっていたときはかなり嬉しかったです。この思いは、試験勉強に取り組み、わざわざアメリカまで向かい受験しようとする皆さんにも是非味わっていただきたいものです。

この資格は努力してあきらめなければ必ず受かる資格ですが、世間で言われるほど容易に取れるものではなく、ある程度の努力は当然必要です。

最後になりますが、この資格は取って終わりではありません。試験勉強中はなかなか余裕はないかもしれませんが、自分なりのプラン、目的を持つことは学習の励みとなるはずです。日本の公認会計士第二次試験の合格者増に伴う供給が監査法人の採用枠を上回ったことによって、監査法人は、U.S.CPA合格者に対して金融の専門分野での経験が求めることもあるようです。監査法人への就職を希望する場合には、金融未経験（もしくは経験未熟）で仕事を退職して、この資格に取り組むのはやや危険性があると私は感じました。

しかし、最近では四半期開示、内部監査の定着やM&Aに関連した資産査定業務などによる人材需要から大手監査法人の募集も出始めています。

また少なくとも私はこの資格に取り組んだことによって、前職では経験できなかった仕事や知識を得ることができました。先を見据えた自分なりのキャリアプランをもっていれば、この資格と修得した知識は必ず活きてくるはずだと思います。

※GAAP
Generally Accepted Accounting Principlesの略。一般的に認められた会計原則のこと。

U.S.CPAの資格と社会人としての実務経験を武器に監査法人に転職

相京　俊信 さん

1981年12月生まれ
勤務先：大手監査法人

慶應義塾大学在学中に米国公認会計士試験の学習をはじめ、2002年に合格。卒業後大手電器メーカーに就職し経理業務に携わる。2006年に大手監査法人に転職。2007年に日本の公認会計士試験に合格。

Q 相京さんが在学中に米国公認会計士試験にチャレンジしようと思われたきっかけは？

1年生の時にみんなバイト、遊んだり、体育会系、あるいは日本の会計士の学習を始める同級生がいるなかで、私には何ができるか、何かやりたいということはずっと考えていたのですが、ずっと見つからなくて、そう思っていたところ、英語は昔から好きだったということと、あまり話せないですけど（笑）、商学部だったということと、大学の講義で簿記を受けたら案外楽しいなと思えたことと、この３つを活かせたらな、と思ってU.S.CPAを目指しました。

Q 大学で簿記の講義を取られたということ以外事前に簿記は学習されていましたか？

いやまったくないですね。

Q U.S.CPA試験の学習期間は？

大学2年になってこれから履修科目を決めようかというところからTACに問い合わせをしていて、学習の開始は2年の5月頃からでした。そして3年生の11月に合格しました。

Q 就職活動をされてみていかがでしたか？

そうですね。やっぱり資格欄に書けるというのは大きかったですね。
必ず面接でU.S.CPAのことは聞かれましたね。

Q 大手電機メーカーでのお仕事内容は？

連結決算というもので、数百社をまとめて、それを英文の財務諸表でSEC（Securities and Exchange Commission）証券取引委員会、米国における株式などの証券取引を監督、監視する連邦政府の機関）に発行するという仕事だったんですけど、まさにU.S.CPA試験を通じて学んだ内容に直結する仕事でした。

Q 配属された部署には他にもU.S.CPAの方はいらっしゃったんですか？

U.S.CPAはいなかったんですけど途中から日本の公認会計士の方も加わりましたし、税理士の方もいました。

Q 日本の公認会計士の学習はいつから始められましたか？

大学３年生の１２月（2002年）、U.S.CPA試験の結果発表前でしたが、受かったと思ったので、始めました。その後2004年の４月に大手電機メーカーに就職して、５月に短答式試験を受験、８月に論文試験を受験しました。これが１回目の受験でした。翌2005年は社会人生活に慣れることを優先したため、受験を考えませんでした。2006年の５月、８月に試験制度が変わったこともあり、再度受けようと思ったのですが、2006年の４月に心が折れ、受験を断念しました。当時、グループ連結決算の早期化及び改善化という重大な任務を任され、日々が充実していました。任務を達成するためにはもっともっと会社のことを学ばなければならない。私は日々の業務に打ち込みました。そうしているうちに、今、資格の勉強をするのと、会社のことを勉強するのとどちらが自分にとって大切なのか、そして自分は将来何をやりたいのかが分からなくなり、モチベーションがプツンと切れてしまったんです。今だからこそ笑い話ですが、TACの模試を途中で抜け出してしまいました。そして、業務が落ち着いた頃、社会人３年目になったこともあり、自分は将来、何がしたいんだろう、そして何を強みにして生きていくのかを考えなおし、考え抜いた結果、私の強みは会計だし、ここまで勉強してきた日本の公認会計士試験になんとかして合格したい。そして会計のプロフェッショナルになるために、会計を専門的に扱う監査法人で働きたい。そう決意しました。

2006年の11月に現在在職している大手監査法人への転職が決まり、再決意してから一度目の、翌2007年の5月と8月の公認会計士試験に合格することができました。

Q 監査法人では公認会計士試験に向けて学習していることに対して配慮してもらえましたか？

配慮したアサインメントを組んでいただきました。
非常に感謝しております。たくさんの応援、激励そして祝福のメッセージをいただきました。

Q お仕事との両立は大変ではなかったですか？

大変でしたね。2006年11月から監査法人での勤務が始まりましたが、翌日にはいきなり東北出張が決まっていました。（笑）でも仕事のほうは結構中心メンバーの中に入れていただいたので、公認会計士の勉強面でも役立ちましたし、うれしかったですね。

Q 日米の会計士試験の受験を経験されたわけですが、受験勉強のキツさの度合いはちがいましたか？

私の場合、睡眠時間を削ってまではやりませんでした。学生の時、U.S.CPAを勉強していた時も、バレーボールのサークル活動と勉強を両立させていましたので、日本の会計士の勉強の時と大変さはさほど変わらなかったと思います。日本の会計士試験にチャレンジしている時のほうが、実務をやりながらの勉強でしたので、内容が直結するんです。「あっこれは勉強でやったところだなとか、これは仕事でやったところだな」という具合にマッチするんです。これは効果的でしたね。

Q 監査法人でお仕事をされる中で、USで身に付けた知識と日本の会計士で身につけた知識の両方が必要と思われますか？

思いますね。

Q 現在のお仕事の内容は？

SECに登録している会社の監査と海外に本社がある日本子会社の監査、大会社（だいがいしゃ　資本金５億円以上、負債200億円以上）の会社法決算、大きくはこの３つですが、あとはSOX法関連の仕事もしています。

Q 監査のお仕事の仕方について教えていただけますか？チームを組んで監査をされるんですよね？

面白いんですけど、芸者さんに例えられるんですよ。マネージャー（監督者）がいて、会議机で若いスタッフが集まって座っています。スタッフの席はだれがどの席という具合には決まっていなくて、例えばTAC株式会社の監査にいくとなると、マネージャーAさんが担当することになって、じゃあ若いのを連れて行こうということになって、スタッフの中から２、3人（(1)、(2)、(3)）を連れて行くんですよ。またこんどは別の会社に監査に行くとなると、Bというマネージャーがスタッフ(1)が人気があるとなるとじゃあ(1)を連れて行く、(2)は微妙かなということになると(4)を連れて行く、こうなってしまうんです。非常に面白いところですね。一般企業だと〇〇課というように部署に分かれていてその部署に固定されるわけですが、監査法人の場合はマネージャーからの引き抜きによってどんどん仕事が増えていく感じですね。

Q スタッフのほうはマネージャーから声がかかるのを待っている感じですか？

大体１～２ヶ月先までの予定が組まれていて、今回はこのマネージャーのとこの会社の監査、その次は別のマネージャーと別の会社の監査という具合に予定が組まれています。

Q いろんな会社にいけるというのはいいですね。

そうですね。大体３人単位で仕事をすることが多いのですが、２～３人で２～３週間ずつというペースでどんどん交代していくという感じなので、複数の方々と仕事が出来るという点も非常に面白いですね。

Q 今後の目標は？

２～３年後には海外に行きたいですね。駐在か、トレーニー（研修生）という形で行ければ、と思っています。

Q 今お勤めの監査法人で海外勤務の可能性は結構ありますか？

ありますね。今年に私は「現場責任者」になります。会社の会議室のようなところで監査をするのですが、その監査の責任者として会社の方と直接やりとりをするようになるんです。この年次になりますとトレーニーという形で海外に行けるチャンスが出てきます。またさらに上の年次になると駐在という形で現地のマネージャーとして現地の若いスタッフを連れて例えば日系企業等に監査に行くといった形になります。その他にも多数の交換制度等が用意されており、自分しだいでチャンスは非常に多いと思います。

Q ところで英語は今日本国内でお仕事をされる中でも使われることは結構ありますか？

ええ。日々の仕事の中で見るのはほとんど英語ですね。レポートを発行するのはほとんど英語になります。

Q 話すほうはいかがですか？

最近マネージャーの1人が外国人の人になって、２社ほど監査で一緒に仕事をする機会がありました。そのマネージャーも日本語を覚えたいようで、お互いに教えあったりしています。そのマネージャーが私のことを “You are my Japanese teacher.” といってくれたりして、仲良くさせてもらっています。

Q 周りにはU.S.CPAの方もいらっしゃいますか？

ええU.S.CPAだけのかたも結構いますね。U.S.CPAの人は社会人経験を積んで、日本企業とかの現状を知りつつ入社する人が多いので、そういう意味では面白い方が多いですね。

Q 将来の夢は？

監査という仕事は複数の会社の実態を第３者的な視点で見ることができ、非常に勉強になります。さらに、経営に関する視点を忘れずに持ち続けることによって、将来は会社の経営に携わりたいと思っています。今までの仕事内容と勉強は非常に役に立つと思います。会社法の知識が必要になりますし、会計はどこにいってもありますしね。日米の会計士試験を学習してきたことはこれからも役に立つと思っています。

TACを信じて、焦らずマイペースで

T.O さん

USCPA試験合格（メイン州）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

海外にある子会社の事業体管理を担当していた際に、現地からのレポートを英語で読む必要性があったため、英語で会計が学べるという利点からチャレンジしてみようと思いました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

TOEIC：990点
会計知識は、学習スタート時は全く無い状態でした。

Q TACをお選びいただいた理由は？

初学習者でも丁寧に教えてくれるプログラムであった為。

Q TACの講座でよかったところ

講師は全員プロフェッショナルで、非常に良かったですが、その中でも特に内田講師が良かったです。合格するためのポイントを無駄なく教えてくれたので、忙しい中でも効率的に学習できました。教科書は、BECKERのエッセンスが日本語＆英語で記載されているので、忙しい中でも効果的に学べましたし、段階的に理解を深めていくカリキュラム構成になっているので、講義が進む度に、自身の成長を感じる事ができました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信DVD。合格までの学習期間は3年程です。

Q 合格までの学習法

■全般的な事

科目別でもいいので、まずはすべての講義を一度通して聞き、全体感を捉える事をお勧めします。私は、まず通常再生ですべての講義で聞き、その後倍速で2回目の講義を聞いた後に、全体の中でどこの部分が弱いのか？をTAC問題集を通して知り、その部分を集中的にBECKERの問題で補足しました。その後は、教科書の内容を徹底的に理解することに努め、試験直前（1か月前）からは毎日100問程BECKERの問題を解く＆シミュレーション対策をしました。

■科目別

FAR：

本番の試験で一番時間が足りなくなる科目だと思います。Window毎に難易度が上がってくると、見たこともない問題や複雑な問題が出てくる可能性があるので、対策としては、1問：1分~1分半で解く練習を普段から繰り返してすることをお勧めします。

私は、普段はじっくりと問題を解いて理解に努めていたので、本番中に時間が無くなり、シミュレーションの最後１問分を白紙で出す羽目になってしまいました。（テスト終了後にかなり後悔しました）

BEC：

ITが苦手でしたので、ITは代表的に繰り返される問題のみを暗記し、その他で補う作戦にしました。管理会計等、計算問題は必ずできるようにしました。

REG：

出題範囲がとても広いので、一見難しく感じるかもしれませんが、素直な問題が多い（引っかけ問題が少ない）ので、講義内容の理解に努めました。（あまり細かな内容に捕らわれないで、全体として大きく捉えました）他の合格者の皆様からもコメントがあるように、TACのREG講師陣は本当に素晴らしいので、彼らを信じて講義に集中しました。

AUD：

AUDは教科書の内容を理解するのと同時に、「自分が悪い人間だったらこうするだろう。そしてそれを防ぐ、或いは発見するにはこうすれば良い」と想像することが、合格への近道だと思います。田中先生も仰ってましたが、この科目は教科書を100%暗記しても必ず合格するとは言えないと思います。論理的に考えて、深く理解することが重要だと思います。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は問題なく進みました。

受験地は観光も兼ねてハワイで受験しました。試験の緊張感を和らげる為、夕方にジョギングをしたり、試験終了後には、美味しいものを食べたり、母親をハワイに一緒に連れて行き観光したりしました。（親孝行になったと思います）

また、受験時には、各WINDOW毎に必ず休憩をとり、チョコレートを食べるなどリラックスするようにしました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験は努力をすれば必ず通る試験だと思いますが、決して「楽な」試験ではないと思います。コツコツと真面目に努力する人が勝利を手にする事ができると思います。友達が遊んでいる時間に勉強するのは、本当に辛いものがありますが、この資格を取る目的や初心を忘れずに頑張ってください。あと、自分を支えてくれる仲間や職場の方々に感謝する気持ちも忘れないで勉強して下さい。勉強ができるということは、ある意味、本当に幸せな事です。そう考えれば、辛い受験勉強もきっと乗り越えられると思います。

努力しても、すぐには結果が伴わず、挫けそうになる人もいるかもしれませんが、この試験は努力が報われるフェアな試験です。もし、勉強法等に困れば、事務局に相談するなど、適宜周りアドバイスを求めて下さい。それでは、合格される事を心より応援しております。

合格のキーワードは『最後まで続けること』だと思う

鈴木　章世 さん

Q USCPA試験にチャレンジした理由・動機をお聞かせください。

・自分の専門分野がほしかった
・英語で何か勉強したかった

学生時代には外国語学部にて語学そのものを学んでいたため、経済学部や法学部と異なり自分の専門と呼べる分野を作ることができなかった。大学卒業後メーカーに就職し、海外営業部で主に北米、欧州地域の販売活動支援を行ううちに現地法人の経営に興味を持つようになったが、まず何より財務諸表の読み方がわからなかった。会社の経営状況を数字で表した財務諸表を理解できるようになれば今後の仕事にもプラスになる、また会計だけではなく商法、税法などを総合的に学習したいと考え、会計士の資格の勉強を考え始めた。この資格を選んだ理由は、会計士になることが目的ではなく、あくまでも勉強することを主体としていたこと、また英語のスキルアップにもつながり、今後の仕事でも自分の武器になると考えたことがあげられる。

Q 学習で苦労した点または学習して良かった点はありますか？

仕事をしながらの合格が理想であったが、勉強時間を確保することができなかった。勉強が進まないまま半年が経過したところで、だらだらしてしまうよりも集中型が自分に適していると考え、勉強に専念するため会社を退職した。生活費は貯金があったので金銭的な面での苦労はなかったが、いつ合格するのかわからない、職があるかどうかわからないといった不安は常にあった。合格したらその時点で就職活動を行おうと考えていたが、勉強をしながらもどんな求職があるのか常に情報収集を行っていた。私の場合は前職を退社してから5ヵ月後、試験前約4ヵ月前に情報収集を目的として参加した会社説明会がきっかけで内定をいただいたので、試験後の就職を決めた。採用はU.S.CPAの取得が決め手ではなかったので、大切なのは熱意とやる気であると感じる。結果的に8ヵ月で初回受験ができたのでよい選択だったと思う。

Q これから学習を始める方へのアドバイスをお願いします。

資格を生かして仕事につきたい、現在の仕事の上でスキルアップを図りたい、と勉強の目的は様々だと思うが、私はどちらでもなく、自分の知識を増やしたいというのが目的であった。特に前者の場合で、さらに仕事を辞める場合には、その前に本当にこの資格が強みとなる分野で求職があるのか、今までの経験と絡めて資格が生かせるのかを十分に考える必要がある。私の場合は経理部門での経験もなく、当初U.S.CPAを取得しても就職は難しいと考えられていた。仕事を辞める場合には市場のニーズと自分の経験、年齢を照らし合わせ、就職が難しい場合には、仕事をしながらの資格取得と就職活動を行うことを勧めたい。

また、この資格は勉強を続けていれば必ず合格できる試験であると思う。試験結果をあけるまで合否はわからないので、合格するまで気を抜かずに学習しけることが合格の決め手であると思う。旧試験を経験したことはないが、私の感想では旧試験制度より合格しやすい試験になったのではないかと思う。理由は、筆記ではなくすべてコンピューターの選択式の試験になったこと。SimulationのWritten Communication（短文記述問題）で多少文章を書く問題が出題されたが、私は検索機能で問題に関連する分野を調べて、それを多少問題に合うようアレンジして解答した。これで十分解答できるし、1からすべて自分で記述するほうが時間もかかるし効率も悪い。

また、受験日と受験地を自由に選択できるのは思っていた以上にメリットがあった。仕事の都合に合わせて休みのとれる時期に、行きやすい場所で少しずつ受験ができるのは、受験者の負担を軽減してくれると思う。

ちなみに私は、一番手ごたえのあったAuditを落とし、その他の自信のなかった教科(特にFAR)が合格していた。試験結果をあけてみるまで結果はわからないので、出来が悪くても落ち込まずに次の教科に向けて気分を切り替えるべき！

合格のキーワードは「最後まで続けること」だと思う。

誰に教えてもらうかが一番のキーポイントだと思います

五十木　浩之（イカルギ　ヒロユキ）さん

Q USCPA試験にチャレンジした理由・動機をお聞かせください。

今持っている知識を、形のあるものに具体化したかったからです。高校時代は商業高校で、簿記・会計の勉強を突き詰めてきました。当時日商簿記1級取得の際も、TACの教材や直前講座を活用させていただいておりました。高校生にも分かるように、教材・講座とも非常に分かりやすくまとまっていた記憶があります。大学時代は、簿記・会計とは土壌の違う国際関係学部で、英語を中心に勉強していました。就職を機会に、これまでやってきた簿記・会計と英語の延長線上にある米国公認会計士を目指そうと決め、高校時代にお世話になったTACにて再度勉強させていただきました。

Q 学習で苦労した点または学習して良かった点はありますか？

●苦労した点

やはり勉強時間の捻出です。毎日遅くまで仕事がある中で勉強をするというのは、想像以上に大変でした。しかし、平日は電車の中や昼休みを有効活用し、週末はTACに通い勉強するという生活リズムを創る事により、勉強時間を捻出できました。

●良かった点

なにより考える力が身についたことです。米国公認会計士試験では、理論の暗記だけにとどまらず、理論を実際の問題に当てはめ、どのように解決するのかという実践的な能力が問われると思います。 一般的に暗記傾向になりがちな資格試験の勉強ですが、考える力を習得できたことは、今後の実務に大いに役立つと思います。

Q 本試験受験手続で何か苦労されましたか？

特にありません。TACで実施している新試験制度についての説明会※に参加し、旧試験制度からの変更点や、受験手続に関する留意事項等、わかりやすく説明していただいたので、安心して受験手続を進めることができました。

Q 新試験制度で受験した感想をお聞かせください。

旧試験制度と比較して、新試験制度では大幅に受験しやすくなったと思います。特に、受験日時を自由に選べるようになったのは、働きながら資格を目指す私にとっては、仕事の忙しい時期とバランスをとりながら受験できるため、大きなプラスになりました。

Q これから学習を始める方へのアドバイスをお願いします。

誰に教えてもらうかが、合格の一番のキーポイントだと思います。TACには実務・教育ともに経験豊富な講師陣がいらっしゃいますので、安心して勉強できました。

※新試験制度についての説明会

TACが受講生を対象に行っている、受験手続に関するセミナー（「新試験制度説明会」という名称であったが現在は「受験手続セミナー」で実施している）。

自分のモチベーションを受験当日まで維持できたことが一発合格につながったと思う

今井 和幸 さん

Q USCPA試験にチャレンジした理由・動機をお聞かせください。

就職以来、顧客等と接する中で自分の知識不足を痛感したため、財務・会計系の勉強を開始。私の職場では海外向けの融資を主な業務としており、顧客の中には米国で株式や債券を発行する企業もあることから、米国の商慣行に大きな影響を受けている国際ビジネス環境や顧客の財務諸表への理解を深めるために米国公認会計士試験に挑戦。また、米国では会計士が日本よりも幅広い分野で活躍しており、それを反映して、試験合格やライセンス取得までの要件が多様であること等も大きな魅力だった。

Q 学習で苦労した点または学習して良かった点はありますか？

大学時代には会計科目をほとんど選択しておらず、会計科目で必要な単位を揃えるのに時間がかかったが、簿記1級や証券アナリストの資格を取得した後だったので、それらの延長線上に学習を位置づけることができた。自分は米国公認会計士の資格を取得しても日本で仕事をしたいと考えていたので、会計基準のみならず法制度（商法、税法、監査基準等）についても日米の比較を常に意識した学習を心掛け、様々な分野への興味を深めながら学習を進めることが出来た。監査の学習については、実務のイメージがない自分にとっては多くの時間を要したが、日本における監査基準が平成14年度に改正されて米国基準に近いものになったので、日本の参考書も活用することができた。学習開始から1年経ったところで、TACの5年間継続再受講制度※1を利用してテキストと問題集を全て購入し直したところ、テキストの内容・構成が大幅に改善されていたので、より一層理解を深めることができた。学習開始当初は平日に学習時間を確保することがほとんど出来ませんでした。しかし、週末や受験直前、集中的に大学の図書館に行って学生に囲まれて勉強をしたことで、自分のモチベーションを受験当日まで維持できたことが一発合格につながったと思う。

Q 本試験受験手続で何か苦労されましたか？

＜その1＞受験願書を郵便局の国際ビジネス宅急便（EMS）で送付し、願書がワシントン州の受験手続事務を受託しているCASTLE社に到着したことをインターネット上で確認。その後2週間ほど経ってもNTS（Notice to Schedule）※2が届かないのでCASTLE社に照会したところ、UNR※3からの成績証明がCASTLE社に到着していないことが判明。UNR側の記録では、UNRからCASTLE社には成績証明が確かに送付されていた模様であったが、結局CASTLE社が受領していないと主張するならば再度成績証明を送付するほか手立てはなく、止む無くTAC経由で再度手続きをした（追加費用負担はなかったが）。

＜その2＞NTSを受領した際、受験願書に記入した住所が誤っていたことに気付き、CASTLE社にメールで連絡。それに対して、「住所変更手続はNASBAの担当」との回答があったので、NASBAに電話したところ「住所変更手続（The National Association of State Boards of Accountancy）はCASTLEの担当」と突き返されたため、その旨をCASTLE社にメールで再度連絡。すると今度は、何事もなかったかのように「住所変更完了」という回答が届いた。ヤレヤレと、住所変更が無事に完了したと思っていたところ、試験結果を受け取った際には住所が誤ったままの状態で･･･。結局、試験結果をインターネットで閲覧するためのユーザーIDとパスワードが別途メールで届いた後、住所を含む個人情報一覧画面にアクセスできるようになったので、自分で住所を修正。住所そのものは受験の有効性には無関係な情報なので大事に至ることはなかったものの、これから受験する方には、氏名・パスポート番号・メールアドレス等の重要情報だけは絶対に間違えないよう、受験願書提出前の入念な見直しをお勧めする次第。

＜その3＞受験前日に会場の下見をした際に、会場受付にあるパソコンに自分の受験情報が登録されているか確認したところ、4日目に受験予定のAudit & Attestationが登録されていないことが判明。会場の担当者だけでは解決できず、PrometricのCandidate Care（照会窓口）へ連絡するなど手を尽くしたものの、結局受験前日まで会場受付にあるパソコンには反映されず、受験3日目までは不安な状態が続いた。一般的な印象として、米国の制度は簡素で透明性が高いものの、その運用には（良くも悪くも）バラつきというか適当な部分があることを改めて思い知らされた。

仕事の関係上、平成16年は4～5月のウィンドウが受験の唯一のチャンスであり、また1週間以上連続して有給休暇を取得することが困難であったため、「5月最終週に4日間連続受験」という日程を前提にして受験地を選択。当初ハワイの会場の予約を試みたものの都合が合わず、サンフランシスコの金融街の会場を予約。5月のサンフランシスコの気候は日本よりは涼しいものの総じて快適で（1日だけ小雨の日あり）、受験会場はホテル（Sutter St.の安宿）から徒歩20分、受験後にはカリフォルニアワインを堪能できたことなど、快適に滞在できたので結果的には良い選択だったと思う。

Q 最後にこれから学習を始める方へのアドバイスをお願いします。

米国の会計士資格は、弁護士資格も同様と言われるが志願者への門戸が広く開かれ、資格取得後は幅広い分野において活躍の機会があり、実力・実績次第で評価される資格。近年は国際会計基準も注目されてきているものの、米国の経済及び市場の国際的地位を背景に、実務の蓄積と学問的批判によって長い間鍛えられてきた米国会計基準は、グローバリゼーションの流れの中で、その国際的な影響力を引続き保持するものと思われる。最近では、自分の学習開始時と比較して、市販の参考書でも良書が増えているように感じる。「日本」の枠にとらわれずに実務界で活躍したいと考える人にとって、学生時代の専攻を問わず学習する価値のある資格だと思うので、合格後にやりたいことをイメージしながら、気長に自分のペースで学習を進められたらよろしいかと思う。

※1：5年間継続再受講制度
U.S.CPA本科生コース終了後に利用可能なフォロー制度。コース終了時から合格まで最長5年間の間に「U.S.CPA本科生」コースの講義を教材費のみ（ビデオ通信講座・Web通信講座の場合は教材費と発送費）で受講できる。

※2：NTS（Notice to Schedule）
NASBA（50の州と4つの地域の会計士委員会の連合）が該当受験者に受験票に相当する証明として発行される。

※3：UNR
TACが提携しているアメリカはネバダ州にある「ネバダ州立大学リノ校」。UNRが実施する「単位認定試験」に合格することで受験に必要な単位を取得できる。

U.S.CPAはあきらめなければ絶対に取れる資格

服部　里花 さん

USCPA試験合格（デラウェア州）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

仕事に行き詰まりを感じていたことと、U.S.CPAがPCになり受験しやすくなったため。

Q TACの講座でよかったところは？

内田先生の熱くて楽しくて分かりやすくて引き寄せられるような授業とまとめノートは最高でした。小森谷先生のテンポよく分かりやすい的確な説明は、短時間で効率よくマスターするのにとても役立ちました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学ビデオをメインに、通学クラス、通信（直前対策など）を併用しました。合格までの学習時間はざっとBEC100時間、FAR200時間、REG300時間、AUD400時間くらいだと思います。

Q 合格までの学習法は？

自作のノートなどは作りませんでした。分からなかったところはポストイットに書いてテキストに貼っていました。パソコンの調子が悪く、CDでの対策はあまりしませんでした。

BEC･･･ベッカーの英語テキストをさっと読んで、問題を解きました。

REG･･･内田先生のまとめノートと杉浦先生のAランクとおっしゃったところをひたすら覚え、あとはベッカーの問題を解きました。

FAR･･･TACの日本語テキストを読んで、あとはベッカーを解きました。内田先生のNPAまとめノートはもれなく覚えるようにしました。

AUD･･･TACの講義、ベッカーのテキストも一通りこなしましたが、さらにワイリーの本も購入しひたすら暗記しました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAはあきらめなければ絶対取れる資格です。気長に取り組んでください。

U.S.GAAPの実務経験はなくても受験経験とやる気で合格。

但野　和博 さん

年　齢：34歳（転職時33歳）
学　歴：早稲田大学 商学部
就職先：株式会社ダヴィンチ･アドバイザーズ
ファンドオペレーションズ　アシスタントマネージャー
（投資ファンドレポート作成のアカウンティング業務）

職　歴：大手デベロッパーの子会社でSC運営受託会社（アセットマネージメント）で、経理として単体・連結の決算を始め金融機関との折衝がメインの財務に7年間従事。その後、ITコンサルタントのベンチャー企業にて財務・経理を始めとした管理部門全体に1年9ヶ月従事した後、2004年初めより左記の会社に就業。

Q U.S.CPAを目指したきっかけをお聞かせください。

学習を始めたのは、最初の会社を辞めようかと迷っていた頃に、経理としてプロフェッショナリズムを持ってやりたいと決心したことが契機です。折から、国際会計基準も取り沙汰されていましたので、その先行指標となっている米国基準の会計を身につけることが一番近道だと考えたからです。それから２回の受験をしてはいますが、実はまだ合格を手にしたわけではありません。最初は単に知識武装をして自信を深めたい、監査法人に就職して、将来の可能性を広げたいなどしか考えていませんでした。

ところが、この学習を通じて気付いたことがあります。合格はもちろん大切ですが、長い学習期間中にあってもその間の仕事に対する姿勢こそがより重要であるということです。

面接時に、U.S.CPAの学習のことをアピールしたことは一度もなく、経歴書に受験経験を記載したにすぎません。この資格があるから大抵のことは分かります。ではなく、「あくまで実務に携わってきた中でこういうことができ、U.S.GAAP※もCPAの学習を通じてある程度分かりますが、U.S.GAAPでの実務経験はありません」と素直に答えたことが大きく評価されたと思います。

ですから、私にとってのU.S.CPAの合格は目標には違いありませんが、あくまで実務を補助する位置づけのものだと思っています。

Q U.S.CPA以外にも資格をお持ちですか？

職種柄、簿記２級は社会人になった早い段階で取得していました。また、英語はTOEIC 625点です。そこそこの程度にすぎません。宅建を持っておりますが、これは取得しておいて良かったです。ビジネス上基礎的な法律の知識も得られる上、不動産に関する新聞記事が分かるくらいにはなりますので、不動産業界に従事していない人にもお薦めだと思います。

今回の転職においては、宅建について聞かれはしませんでしたが、評価されたのではないでしょうか。取っておいて決して損はしない資格です。

Q 今後の展望についてお聞かせください。

不動産投資ファンド発祥の地は、米国です。日本での歴史はまだ浅く、投資家の多くは、非居住の外国人というのがここ数年のトレンドでした。

したがって必然的に、U.S.GAAPが中心の世界となります。

ようやくU.S.CPAの学習の真価が試され、実際に活用していくのだと実感しているところです。

また、国内企業なので、日本の商法や税務との兼ね合いがやっかいなところですが、それがこの仕事の醍醐味だと思っています。まだまだ成熟していない成長業種なので自分の成長と重ね合わせることができます。こう考えると楽しくてしようがありません。

Q 求人案件のリソース

今の会社へは日本経済新聞の日曜日の求人広告を見てアプローチしました。

他にもWEB上で展開している紹介会社にも登録し、実際に応募もしました。また人材紹介会社を通して何件か面接を受けたこともあります。自分が行きたい業種や職種がはっきりしてきた後は、可能な限りの手段を使いました。

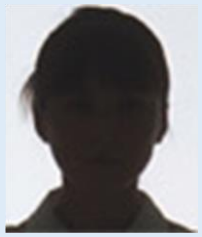
もし、行きたい会社や業種が絞れているのなら、その会社や業種のホームページから直接問い合わせることが一番有効で効率もいいのではないでしょうか。たとえ、現在は求人がなくてもアピールとして印象づけることができるかもしれませんし、その会社や業種の背景が多少なりとも見えてくるという副産物も期待できるからです。

Q 面接時、特に気をつけたことはありますか？

私は同業種の不動産投資ファンド業界はおろか、金融業界の経験すらありませんでした。金融業界出身者の多いこの業界に入れた理由は、実務経験に加えて、不動産業界へ関わりたいという前向きな姿勢をしっかりアピールできたからだと思います。最初の会社がデベロッパー傘下のアセットマネージメントをしていたこともプラス材料だったのでしょう。おかげで面接時のアピールは一貫したものがあったのだと思います。

また面接時に５年後ぐらいにどういう自分になっていたいかと質問が数社からありました。私はずっとひとつの会社に就業するということは考えてもいなかったので、次のようなことを言いました「…人との出会いを今までもこれからも広げていきたい。20代は経験をメインに、30代はその経験を活かした人脈の構築をメインにしていきたい。結局人との関わり方次第で自分も大きくなれるし、自分が大きくなれば会社も大きくなれます…」と。

ここまでお読みいただきありがとうございます。多少なりとも参考になればと思いますが、私もまだCPAは学習中の身なので一緒にがんばりましょう！



米国企業は内部統制の監査も必要。U.S.CPAの学習が役に立っています。

越智　公美子 さん

年　齢：35歳
学　歴：（大学）明治大学農学部
（大学院）ケースウエスタンリザーブ大学　MBAスクール
就職先：大手監査法人　　職種：内部監査

職　歴：
1. 外資系消費財メーカー　マーケティング部4年（正社員）
2. 外資系半導体メーカー　経理部1年（正社員）

Q U.S.CPAの知識をどのようにアピールしましたか？

私は、U.S.CPAの資格取得の意味を、これまでの実務経験と将来の姿に関連させてアピールしました。やはり「資格と実務経験と将来の姿」は１つのセットとして売り込むべきではないでしょうか。U.S.CPAの資格を取得したということは、ある程度の英語力もあると評価されると思いますので、会計の知識と英語力、そして一般企業でのビジネス経験もあるということがトータル的に評価されたと思います。

Q U.S.CPA以外にも資格をお持ちですか？

MBA
TOEIC930

Q 今後、U.S.CPAの知識をどのように活かしていきたいですか？

日本にある海外の子会社・支社の内部監査に関わる仕事では、U.S.CPA試験であるAuditの内部統制の知識をそのままフルに活かしています。監査というと外部監査を思い浮かべがちですが、米国のエンロンの破綻※などにより外部監査だけでは企業の実態を把握するのには不十分であるということから、米国では「The Sarbanes-Oxley Act of 2002」という法律が制定され、米国企業は内部統制の監査も受ける必要がでてきたのです。クライアントは海外の子会社・支社ですから、Auditだけでなく、米国基準の財務諸表、アメリカのビジネスロー、TAXを英語で体系的に勉強したことによって、実務をやる上にいても１つ１つの仕事にとても深みがでるのではないかと思います。

Q 求人案件のリソース

日本経済新聞

Q 転職において何か不利と感じることはありましたか？その場合、どのように対処しましたか？

私が監査法人に転職するにおいて不利であるだろうと考えていたことは、転職する時の年齢と監査の実務経験がないということです。一般的に、監査法人で仕事をする場合は、若ければ若いうちに監査法人に入り実務経験を積むのがいいと言われています。確かに外部監査ではそのように思いますが、内部監査の仕事では、監査経験と同じぐらいに一般企業でのこれまでの実務経験も評価されたような気がします。ですから、自分ではハンデと思われることでも、ハンデではなく強みにもなり得ると発想を切り替えること、そして将来の自分の姿を明確にしておくことの方が大事だと思います。

Q 面接時、特に気をつけたことはありますか？

正直なところ、面接では相手との相性、そして縁というものがどうしてもあるのではないかと私は思います。ですから、自分の能力が100とすれば、それを200にも300にも過大に見せようとする必要は全くありませんが、面接を受ける時は、相手も忙しい時間をさいてくれているわけですから、最低限の準備はしておく必要があります。それは、自分のこれまでの職務経験を自分なりの言葉で無駄なく話せること、その業界について自分なりの考えを述べられること、そして将来の自分のありたい姿を明確にしておくことです。将来の自分のありたい姿というものは、面接を受ける受けないに関係なく、常日頃考えておくべきことだと思います。きちんと事前に準備をして、程よい緊張感を持って面接に臨み、質問に的確に答え、そして自分らしさを出すことができればいいのではないでしょうか。

※米国のエンロンの破綻
当時のBig5（5大会計事務所）の1つだったアーサーアンダーセンがエネルギー関連企業であるエンロンの監査の手心を加え、粉飾を助長するような働きをしていた不正事件。アーサーアンダーセンはエンロンに対して「監査」業務と「コンサルティング」業務の双方を提供していた。コンサルティングで得ていた収入は、監査収入よりもはるかに巨額であり、長年、監査で虚偽の意見表明をしていたが、エンロンが倒産したことによって表面化した。アーサーアンダーセンは、続いて発覚したワールドコム事件の後、廃業に追い込まれた。

U.S.CPAの合格により高い経理知識と英語力を証明できたと思います。

志賀　則久 さん

年　齢：34歳
学　歴：中央大学 法学部法律学科 卒業
勤務先：国内外食（東証2部）
職　種：経理
役　職：部長

職　歴：丸井にて店舗における接客、販売業務を3年間経験。その間に日商簿記2級を取得し、希望で経理部経理課へ異動。経理部経理課には2003年6月まで約7年間在籍。その間は、売掛金や買掛金管理等の日常業務から、有価証券報告書、決算短信、アニュアルレポート等の作成や監査法人との対応といった経理業務、法人税等の申告納税や税務調査の対応といった税務業務、及び、都度発生する個別案件等の対応等の業務に従事。退職時の役職は主任。

Q U.S.CPAの知識をどのようにアピールしましたか？

U.S.CPAに合格しているということで、説明することなく高度なレベルの経理知識と、海外出張や海外転勤に対応できる英語力があるということが証明されました。私は資格としてではなく、経理や監査について全体的な幅広い知識を有している点、ビジネスに関する法律に関しても明るいこと、また、同時にU.S.CPAに合格するだけの能力を自分が有しているということを、U.S.CPA合格の実績からアピールしました。その結果、面接において経理の専門性について問われることはあまりありませんでした。

Q U.S.CPA以外にどのような学習をされましたか？

U.S. CPAに合格後、カリフォルニア大学のバークレイ校でファイナンスを４ヵ月間勉強してきました。将来CFO（最高財務責任者）を目指す上で上位職での転職を希望していたので、幅広い知識を身につけることが必要であると考え、また、会計に関連性の高いファイナンスを学ぶことが有意義だと感じたからです。

授業は実務との関連性が高かったので、まずは会計的な側面から事象を把握し、ファイナンスの側面に落としていくという形式がとられました。

結果としてU.S.CPAで見につけた知識を生かす良い機会になると同時に、上位職を目指す転職活動の中で自分自身のポテンシャルをアピールする良い材料になりました。

Q 今後、U.S.CPAの知識をどのように活かしていきたいですか？

現在在籍している会社はフランスにのみ現地法人を有しているため、直接的にはU.S.CPAの知識は生かせませんが、ヨーロッパで導入されるIASがU.S.CPAと互換性がある点、また将来的には外国人投資家向けに米国基準のアニュアルレポートの作成等も提案していきたいと考えていますので、そのような中でU.S.CPAの知識を活かしていきたいと考えています。

Q 求人案件のリソース

人材紹介会社は３社利用しました。その中でもっとも対応がすばらしかったのが、TACキャリアサポートです。TACキャリア・サポート※は手元にある求人情報を紹介するだけではなく、求職者の希望を聞いて、それからその人の希望に添った会社に対し営業を行って転職活動をフォローしてくれました。いつでも転職者の側にたった思いやりのある対応をしていただき、本当に信頼できますし、感謝しています。

Q 転職において何か不利と感じることはありましたか？その場合、どのように対処しましたか？

今回の転職活動においてハンデになったのは、上位職を目指すには一般的に経験が浅くまた、年齢的に若いということでした。このことをカバーできたのは人材紹介会社の方が自分の知識、経験、ポテンシャルを求人側にうまく伝えていただいき、結果、面接の機会を得ることができたということです。もちろん、面接から先は自分で自分自身を売り込むわけですが、少なくとも自分一人の力では面接の機会を得ることができなかったと感じています。

Q 面接時、特にどのような事をアピールしましたか？

やはりU.S.CPAに合格していたということが大きいと思います。特に自分の場合は１部上場企業の経理に勤めながら、U.S.CPAに１年半という短期間で合格したということが、会社側から大きく評価されたと感じています。つまり、それだけ目標に対し自分をコントロールする能力があるという点です。ですが、やはり最後に重要なのは自分の考えを明確にし、そのことの実現に向けてあきらめずに最後までがんばることです。

※ＴＡＣキャリア・サポート
求人情報・人材派遣・人材紹介など、就職・転職をサポートしている。
詳しくは下記「キャリアナビ」にて。
http://tacnavi.com/

米国公認会計士を活かしてキャリアアップ

風間 浩一 さん

勤務先：税理士法人中央青山
職　歴：日系のメーカーで7年間働いた後、米国公認会計士の勉強をして現在は税理士法人中央青山に勤務。移転価格に関するコンサルティングを行っている。

Q 米国公認会計士の資格を取ろうと思ったきっかけは何ですか？

私はもともと日本のメーカーで働いていました。初めの3年間は販社で働き、その後北京支店で販売部長をしていました。北京支店は立ち上がったばかりで、部下の管理から販売ルートの開拓・整備、関連会社のオーディットのような仕事まで行い、実務も行いながら経営に近い仕事も行っていました。当然のことながら数字を扱うことが非常に多くあり、そのような中で会計関連の資格に興味を持ったことがきっかけです。

Q 資格試験の勉強、転職活動はどのように行いましたか？

米国公認会計士の勉強は仕事をやめてからはじめました。会計関連資格の中でもこの資格を目指したのは、日本でも認知されていることや、米国の会計基準が世界の会計の中心的役割を果たしていることからです。

昨年ユタ州で4科目受験をしたあと、すぐに就職活動をはじめました。TAC校舎内でチラシなどを見ていてTACプロフェッションバンクにホームページから登録したところ、メールで面談のお誘いをいただき早速お話をしたのを覚えています。

Q どんなことを相談しましたか？

人材コンサルタントの方は、ジョブマーケットについて非常に詳しいし、この企業なら狙えるだろう、なんていう話もできました。具体的に仕事を紹介していただくときにも、前の会社を辞めた理由、職歴、これからどういう働き方をしていきたいのかということなどを率直にお話し、相談した上で紹介してもらえます。

また、職務経歴書や面接での表現方法やテクニック的な部分も聞けましたし、自分にとって未知の業界にチャレンジする上でひとりよがりにならず、客観的に強み・弱みなどを把握できたのは、本当にいい経験になりましたね。

Q 仕事と資格知識はどのようにつながっていますか？

資格知識はコンサルティングで非常に有効に働いています。また、ドキュメンテーションは英語を使ってすることが多いのですが、専門用語が頻繁に出てきます。そのような用語にも勉強時に触れていたので抵抗があまりありませんでした。そして、経験を積む中でもっと日本の会計基準にも詳しくなりたいと思うようになってきました。会計業界で力を付けていきたいと考えていますので、そのためにも日本の会計についても勉強を進め、将来的には日本の公認会計士試験にもチャレンジしたいと思います。